

科目名	科目担当代表教員	ページ数
文章表現	佐々木 雅哉	4
心理学概論	小塚 美由記	13
食生活論	荒井 三津子	22
生活と社会環境	辻 幸美	31
総合教養講座	白戸 力弥	40
日本国憲法	池田 杏奈	49
現代医療と福祉・介護	高岡 哲子	58
キャリア入門	木村 悠里菜	67
キャリア形成	木村 悠里菜	74
生命科学	有賀 早苗	81
情報処理リテラシー	松岡 審爾	90
統計の基礎	武田 裕康	97
数理・データサイエンス・AI入門	松岡 審爾	106
数理・データサイエンス・AI実践	松岡 審爾	113
物理学	松岡 審爾	120
基礎化学	藤井 駿吾	129
英語Ⅰ	Patrick Hall	138
英語Ⅱ	Walzem Allen George	147
英語Ⅲ	Joseph S Tomasine	156
中国語Ⅰ	玉 珍	165
中国語Ⅱ	玉 珍	174
韓国語Ⅰ	金 京室	183
韓国語Ⅱ	金 京室	192
生涯スポーツⅠ	平岡 英樹	201
生涯スポーツⅡ	平岡 英樹	210
人間発達学	横井 裕一郎	219
解剖学Ⅰ	木村 一志	228
解剖学Ⅱ	池野 秀則	237
生理学Ⅰ	木村 一志	246
生理学Ⅱ	木村 一志	253
生理学Ⅲ	木村 一志	260
生理学演習	木村 一志	269
運動学Ⅰ	高田 雄一	278
運動学Ⅱ	大森 圭	287
運動学実習	大森 圭	296
リハビリテーション工学	金谷 匡紘	304
病理学	瀧山 晃弘	311
微生物・免疫学	木村 一志	320
終末期医療	佐藤 明紀	327
内科学	水越 常德	334
整形外科	鈴木 信	343

脳神経内科学	松谷 学		352
小児科学	加藤 静恵		361
精神医学Ⅰ	瀧山 晃弘		368
リハビリテーション医学	鈴木 信		377
老年医学	瀧山 晃弘		384
臨床心理学	松岡 紘史		391
リハビリテーション栄養学	佐々木 将太		398
臨床薬理学	續 佳代		405
救急医学	沢本 圭悟		412
言語障害治療学	金浜 悦子		419
医学概論	鈴木 信		426
リハビリテーション概論	白戸 力弥		433
公衆衛生学	佐々木 幸子		440
地域包括ケアシステム論	水本 淳		447
統計と社会調査法	小田 史郎		454
チーム医療概論	坂東 奈穂美		463
解剖学Ⅲ	金子 翔拓		470
解剖学実習	金子 翔拓		477
精神医学Ⅱ(作業療法)	瀧山 晃弘		486
作業療法概論	金子 翔拓		495
基礎作業学	白戸 力弥		504
コミュニケーション技法	金 京室		513
作業分析学実習Ⅰ	金 京室		522
作業分析学実習Ⅱ	大坂 隆介		530
作業療法研究法	大川 浩子		538
作業療法研究法演習Ⅰ	金子 翔拓		547
作業療法管理運営・法規	大川 浩子		556
作業療法評価学	金子 翔拓		565
作業療法評価学演習	金子 翔拓		574
作業療法評価学実習Ⅰ	金子 翔拓		583
作業療法評価学実習Ⅱ	金 京室		591
機能活動代償学Ⅰ	金 京室		599
機能活動代償学Ⅱ	白戸 力弥		606
中枢神経障害作業療法学	金谷 匡紘		613
運動器障害作業療法学	白戸 力弥		620
内部障害作業療法学	金谷 匡紘		627
身体障害作業療法治療学特論Ⅰ(運動器)	金子 翔拓		636
身体障害作業療法治療学特論Ⅱ(中枢系)	金 京室		643
身体障害作業療法治療学実習	白戸 力弥		650
高次脳機能障害作業療法治療学	大坂 隆介		659
高次脳機能障害作業療法治療学演習	大坂 隆介		666
発達障害作業療法治療学	小玉 武志		675

発達障害作業療法治療学演習	小玉 武志		684
高齢期作業療法治療学	玉 珍		693
高齢期作業療法治療学演習	玉 珍		700
高齢期作業療法治療学特論	玉 珍		709
精神障害作業療法治療学	大川 浩子		716
精神障害作業療法治療学演習	大川 浩子		725
精神障害作業療法治療学特論	大川 浩子		734
生活行為向上作業療法学	金谷 匡紘		741
日常生活適応学演習	玉 珍		748
地域作業療法学Ⅰ	玉 珍		757
地域作業療法学実習	玉 珍		766
地域作業療法学Ⅱ	佐藤 和彦		775
産業作業療法学	白戸 力弥		782
見学実習	金谷 匡紘		789
訪問・通所実習	玉 珍		798
評価実習	大川 浩子		807

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		文章表現				ナンバリング	1102
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 雅哉						
授業の位置づけ							
初年次教育科目である。 幅広い教養を身につけるために、社会で必要となる文章作成能力、プレゼンテーション能力を修得する科目である。							

- ・社会に存在する様々な文章について、分類することができるようになる。
- ・各講義の目標とする文章表現技術を習得し、実的な文章作成ができるようになる。
- ・文の正誤・適否・美醜等が区別できるようになる。

授業の方法

- 1.講義形式で、文章作成の要素を中心に説明を行う。
- 2.説明に基づいて実際に各自文章作成や相互評価を行う。
- 3.インタビュー・ドキュメンテーション・投稿・観察等を実際に行い、その結果を文章作成に反映させる。
- 4.完成させた文章を、担当教員の指示により提出する。

ICT活用

必要に応じてパワーポイント等を用いた授業を実施し、ICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校での担任、管理職経験や研究団体での研究歴があり、学校教育や国語科教育に幅広い知識と経験を有する。これらを生かし、多面的な視野に基づく文章表現の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

作成した課題は、提出後の講義において適宜紹介したり、例示したりして評価内容を可視化していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】 講義内容を概観し、到達目標や評価について理解する。 「文章の書き方」の基本について学ぶ。 ・学生時代に書く文章には何がある? ・タイトルの意図 ・「作文」と「小論文」	これまでに書いた文章について、どんなものがあつたかを想起する。	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員	佐々木 雅哉		
第2回	ゲスト講師による講義①【新聞って何だろう】 当日の新聞を教材に、「テレビとネットの違い」、「信頼できる情報源」などを学ぶ。	新聞の入手方法を調べたり、実際に紙面を観察したりする。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第3回	【会話表現から学ぶ①】 聞き取りやすさ／あいさつ／敬語の使い方	新書などから好きな本を選び、通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第4回	ゲスト講師による講義②【新聞を呼んでみよう】 当日の新聞を教材に、「新聞製作の仕組み」、「面建て」、「読者参加(投稿)面」などについて学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第5回	ゲスト講師による講義③【新聞の作り方】 新聞製作における、「5W1H」、「取材・執筆法」、「レイアウト」などを学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第6回	ゲスト講師による講義④【友だち新聞を作ろう】 ペアをつくり、前回までの講義を参考に、取材一記事執筆を体験する。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第7回	ゲスト講師による講義⑤【オールドメディアとSNSの功罪】 SNSやオールドメディアの功罪を学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第8回	【会話表現から学ぶ②】 発声／自己紹介文／先方を意識した話し方／声かけ／電話／面接	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第9回	ゲスト講師による講義【表現・基礎① 教科書づくりの現場から】 「教科書をつくる」ということ／教科書の出版事情／教育と文章・文字／文字を正しく書く	小、中学校で使用した教科書について、体裁や学んだ教材について想起する。	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第10回	【表現・基礎②】 文章を書くときの留意点／書き方の基本／正しい表記	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第11回	【表現・応用①】 実習日誌／札状・手紙／メール	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第12回	【表現・応用②】 履歴書／エントリーシート／送付状／送り方	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第13回	【表現・応用③】 小論文の基本的な書き方を学ぶ ・テーマ設定の仕方、具体例と問題意識 ・様式の復習	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時 の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第14回	【表現・応用④】 効果的な(広告)宣伝フレーズを考える。 イベントポスターや新聞広告などのキャッチコピーに注目 する。	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時 の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第15回	【まとめ】 これまで学んできた文章表現の技法を反芻しながら、再確 認していく。 得た知見をまとめる。	これまで授業で使用した資料類 をまとめ、復習しておく。(90分)	指定された提出課題の完成・提 出。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	作成した文章のうち指定されたもののみを提出する。 提出の指示があった課題は、すべて評価の対象とする。 出席率を評価の対象とする。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

必要に応じて提示する。
必要に応じて教材配信システムを活用する。

履修条件・留意事項等

状況により、講義内容の変更や順序が変わる場合がある。(第9回)
出席率を評価対象とする。
連絡はGoogle classroomで行う。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		心理学概論				ナンバリング	1110
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小塚 美由記						
授業の位置づけ							
本科目は、リハビリテーション学科理学療法専攻と作業療法専攻のディプロマポリシーでは「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」に位置付けられ、2年前期の「臨床心理学」と連携している。看護学科のディプロマポリシーでは、「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」に位置付けられており、1年次後期の「メンタルヘルス」と連携している。地域未来学科のディプロマポリシーでは「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」に位置付けられている。健康栄養学科では、「幅広い教養を身につける」「教養人文系」に位置付けられている。							
授業の概要							
本科目では、人格論に焦点を合わせながら現代心理学の概観を試みる。まず学習、動機づけ、知覚等の心理学的概念を用いて人格の形成過程を説明する。さらに摂食障害、薬物依存、多重人格等、広く人格障害に関与する異常行動の病理に言及する。履修者は、心理学を通して、人間が、外側からは知ることのできない人間のこころの内側とそのしきみをどのように解き明かしてきたのかを知ると同時に、その方法を自分自身にも適用し、自分を客観的に見つめ、いまの自分がどのように形成されてきたのか、また、今の自分をどのように変えていくことができるのかという問題に答えられることを期待する。							
到達目標							

- ①心理学が辿った歴史的研究の過程と特徴を理解できる。(知識・技能)
 ②心理学概論の研究の変遷を適切にとらえ表現することができる。(思考・判断・表現)
 ③心理学概論の学習を他のメンバーと協力し、学習課題を解決することができる。(関心・意欲・態度)

授業の方法

パワーポイントと教科書により講義形式で行う。
 アクティブラーニングとして題材を提示し、グループワークも行う。

ICT活用

Googleフォームを使用する

実務経験のある教員の教育内容

課題に対するフィードバックの方法

質問は授業中、Googleフォームで質問を受け付け、都度回答を行う。学習課題への回答を評価しコメントを添え返却する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、基礎心理学の進化心理学による行動的形質であるヒューマン・ユニバーサルズの意味、教科書1の自己発見、教科書2のヒポクラテスの単純元素、教科書3のプラトンの自己概念、教科書5のイスラムと精神医学について理解できる。	シラバスにより学習の見通しを持ち、教科書の「はじめに」の内容を熟読する。(90分)	ヒューマン・ユニバーサルズの教科書1の自己発見、教科書の2のヒポクラテスの単純元素、教科書3のプラトンの自己概念、教科書5のイスラムと精神医学を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	教科書6の古代心理学における共通感覚の意味から教科書10のデカルトの思考機械と松果体とその役割、教科書11のウィリスの脳解剖とウィリス動脈輪、さらに教科書12のジョン・ロックの知性の本性としての自己の記録内容について理解できる。	教科書の6の共通感覚から12の知識の本性を熟読し学習内容の把握をする。(90分)	教科書6のデカルトの思考機械、ウィリスの脳解剖、ウィリス動脈輪、教科書12の知識の本性を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	教科書13のバークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、教科書17のキルケゴールの自己の選択、教科書18のフィニアス・ゲージの記憶による前頭前野・大脳皮質の実行機能を中心に学習内容を理解できる。	教科書13のバークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、教科書17のキルケゴールの自己の選択、教科書18のフィニアス・ゲージの記憶による前頭前野・大脳皮質の実行機能を中心に学習内容を理解する。	教科書13のバークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、教科書17のキルケゴールの自己の選択、特に教科書18のフィニアス・ゲージの記憶の研究内容を中心に整理する。(90分)
担当教員			

第4回	教科書19のモーズリーの気分障害から教科書20のダーウィンの情動、教科書19のフランシス・ゴールドンの優生学、教科22のシャルコーのヒステリー法則、教科書24の情動のジェームス・ランゲ説及び感情心理学と情動の2要因理論について理解できる。	教科書19のモーズリーの気分障害から教科書20のダーウィンの情動、教科書19のフランシス・ゴールドンの優生学、教科22のシャルコーのヒステリー法則、教科書24の情動のジェームス・ランゲ説についての範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書19のモーズリーの気分障害から教科書20のダーウィンの情動、教科書19のフランシス・ゴールドンの優生学、教科22のシャルコーのヒステリー法則、教科書24の情動のジェームス・ランゲ説及び感情心理学と情動の2要因理論について整理する。(90分)
担当教員			
第5回	教科書25の脳半球優位性、特に教科書26のフロイトの精神分析理論を中心に教科書27の心理学の原理、28の自立神経系の研究を理解できる。	教科書25の脳半球優位性、教科書26のフロイトの精神分析、教科書27の心理学の原理、28の自立神経系の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書25の脳半球優位性、教科書26のフロイトの精神分析を中心に、教科書27の心理学の原理、28の自立神経系の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	教科書29の双極性障害から教科書35の劣等コンプレックスを中心に教科書36サイコドラマの研究について理解できる。	教科書29の双極性障害から、教科書36のサイコドラマの研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書29の双極性障害から、教科書35の劣等コンプレックスを中心に、教科書36のサイコドラマの研究を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	教科書37の知能指数から教科書42の発達心理学を中心に、教科書45の心理学の場理論の研究について理解できる。	教科書37の知能指数、教科書42の発達心理学、教科書45の心理学の場理論の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書37の知能指数、教科書42の発達心理学を中心に教科書45の心理学の場理論の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	教科書46の自閉症(自閉症スペクトラム・ASD)から教科書50の知能の心理学、教科書52のアルバート・エリスの認知行動の研究を中心に理解できる。	教科書46の自閉症、教科書50の知能の心理学、教科書52のアルバート・エリスの認知行動の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書46の自閉症、教科書50の偏見の学習、教科書52のアルバート・エリスの認知行動の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	教科書53の人生の八つの段階と教科書59の欲求の段階構造の研究を中心に理解できる。	教科書53の人生の八つの段階、教科書59の欲求の段階構造の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書53の人生の八つの段階、教科書59の欲求の段階構造の研究の範囲の学習内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	教科書60の言語の獲得から教科書63のフェスティンガーの認知的不協和、66のモデリング行動を中心に学習内容を理解できる。	教科書60の言語の獲得、教科書63のフェスティンガーの認知的不協和、67の「スイッチを入れて、波長を合わせ、社会に背を向けよ」の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書60の言語の獲得から教科書63のフェスティンガーの認知的不協和、66のモデリング行動を中心に学習内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	教科書68のフーコーの人間観から教科書70の抑うつテスト、学習の中心課題である教科書72のボウルビィの愛着理論、教科書74の家族療法の研究を理解できる。	教科書68のフーコーの人間観、教科書70の抑うつテスト、教科書72のボウルビィの愛着理論、教科書74の家族療法の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書68のフーコーの人間観から教科書70の抑うつテスト、学習の中心課題である教科書72のボウルビィの愛着理論、教科書74の家族療法の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	学習の中心となる教科書75の記憶地図からヒューリスティックス、教科書80のアイデンティティ、教科書81の衝動性と脅迫性の研究について理解できる。	教科書75の記憶地図、ヒューリスティックス、教科書80のアイデンティティ、教科書81の衝動性と脅迫性の研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	学習の中心となる教科書75の記憶地図からヒューリスティックス、教科書80のアイデンティティ、教科書81の衝動性と脅迫性の研究について整理する。(90分)
担当教員			

第13回	教科書82の感覚データから、学習の中心である教科書83の自己肯定感、教科書85のフロー体験、教科書87の機能的MRIの研究までを理解できる。	教科書82の感覚データ、教科書85のフロー体験、教科書87の機能的MRIの研究の範囲を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書82の感覚データから、学習の中心である教科書83の自己肯定感、教科書85のフロー体験、教科書87の機能的MRIの研究までを整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学習のまとめとしての小テストを実施し、教科書88の六つの基本感情、教科書91の心的外傷後ストレス、教科書93の意識に関する難問について理解できる。	学習のまとめである小テストに向けての準備をし、教科書88の六つの基本感情、教科書91の心的外傷後ストレス、教科書93の意識に関する難問を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書88の六つの基本感情、教科書91の心的外傷後ストレス、教科書93の意識に関する難問の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	教科書94のミラーニューロン、教科書95の社会的調和、教科書100の再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論について理解でき、本科のまとめを行う。	教科書94のミラーニューロン、教科書95の社会的調和、教科書100の再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論を熟読し授業準備をする。(90分)	教科書94のミラーニューロン、教科書95の社会的調和、教科書100の再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論を整理し、本科目のまとめを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	各授業で理解度確認問題(1回1点～5点を14回・70点)
その他	30	まとめテスト(1回)
教科書		
図鑑心理学～歴史を変えた100の話～(トム・ジャクソン＝著 清水・井上智義＝監訳・訳(NEWTON PRESS 2020発行)を各自購入し教科書とする。また自作の補助資料を授業ごとに提供する。		
参考文献		

心理学概論・学びと知のイノベーション(小野寺孝義 磯崎三喜年(編)小川俊樹 ナカニシヤ出版 2011発行)

履修条件・留意事項等

学習内容の理解と定着を図るため準備学習、事後学習を重視し学習規律を守り提出物は期限を厳守する。授業中は自ら意見表明するなど能動的な参加態度を必須とする協同的な学びにより、「心理学概論」への理解を深めて頂きたい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		食生活論				ナンバリング	1164
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	荒井 三津子						
授業の位置づけ							
ヒトが食べるモノ、食べるコト、食べる理由を広く学び、食生活全般を扱う学習に必要な基礎知識を身につける教養科目である。また、人間の文化を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。リハビリテーション学科理学療法専攻と作業療法学学科のディプロマ・ポリシーでは、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。（関心・意欲・態度）」に位置付けられ、「リハビリテーション栄養学」と連携している科目である。看護学科ではのディプロマポリシーでは「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。（思考・判断・表現）」に位置付けられられている。地域未来学科のディプロマポリシーでは「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。（思考・判断・表現）」に位置付けられ、「北海道の食文化」と連携した科目である。健康栄養学科では、「幅広い教養を身につける」「教養人文系」に位置付けられ、「栄養学入門」「応用栄養学」と特に連携した科目となる。さらに、栄養学系教科、調理学および調理科学系教科、食品学系教科の学習の理解に役立つだけでなく、生物学や食文化に視野を広げることで、さまざまな領域の指導者、教育者に必要な教養と実践力を身につけることができる科目である。							
授業の概要							
ヒトはなぜ食べるのか。なぜダイエットするのか。なぜ食卓に花を飾るのか。人間にとって「食」は単に栄養補給のための餌ではなく「食事」である。生命を維持するための「食事」の機能と重要性を確認し、国内外の食事の歴史、文化、食器、食の様式や食事作法、食に関する広告や現在の食事情、将来予測される問題点等について多角的に学習する。							
到達目標							

医療現場や教育機関で食事に関する指導を行う上で必要な食器、食具の歴史や種類、使い方、食空間の演出方法に関して説明できる。

○ 国内外の食事様式の歴史を学ぶことで、食べることの文化的な意味を説明できる。

○ 食に関する情報や広告、外食産業などの仕組みや戦略を理解し、多様化する食事の未来を予測できる。

○ インターネット時代の食事やキャラクター弁当、遺伝子組み換えや環境問題など、食事に関する幅広いテーマについて、将来、医療や教育の現場で問題を提起し議論を展開できる。

授業の方法

- ①必要に応じて板書とパワーポイントを利用し、視覚的な理解を深める。
- ②内容に合わせ、学生たちの調査報告をとりいれ、活発な議論により、食生活への関心を深める。
- ③中間テストとレポート提出により理解度をはかり指導する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

北海道立の高等学校と歯科衛生士専門学校で生物学、調理師学校食文化等の教育経験がある。また長く生活文化研究所を運営しており、人間の生活と食文化、食生活に関する幅広い知識と指導経験がある。この経験を生かし、卒業後の実務に活かせる知識と技術、指導者になるための心構えも指導する。

課題に対するフィードバックの方法

調査レポートと確認試験を採点評価後返却し、講義時間内に解説を行う。提出してもらったレポートと確認試験に質問欄を設け、質問があった場合は直接コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	「食」は生理的、文化人類学的、社会学的、生物学的、環境学的など様々な方向からアプローチできる興味深いテーマである。初回は自分たちが食べる理由や目的について真摯に考察し、15回の講義内容を俯瞰して学習の意味を確認する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	生き物とはなにか、たべるとはなにかをまとめる 90分程度。
担当教員			
第2回	私たちが食べなければならない理由について、イキモノとはなにかという生物学的視野から学び直す。動物に共通する食べる仕組みの精巧さを確認し、同時に他の動物と人間の「食べる」理由の違いについて考察する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	生き物とはなにか、たべるとはなにかをまとめる 90分程度。
担当教員			
第3回	＜食べるヒト・食べる仕組みと最新の「腸内」事情＞ ヒトの消化の仕組みを概観し、食べモノと健康、腸内細菌および消化器官系医療の最新事情について学ぶ。	ヒトが食べない理由を考えてくる 90分程度。	食べる理由と食べない理由をまとめる。90分程度。
担当教員			

第4回	＜ヒトが食べない理由・ダイエットと肥満＞ ダイエットの起源とその変遷、現状と背景を学習する。過食の原因と効果的なダイエット法、機能性食品についての知識も確認し、栄養や健康の指導者としての姿勢を考える。	ヒトが食べない理由を考えてくる。90分程度。	食べる理由と食べない理由をまとめる。90分程度。
担当教員			
第5回	＜ヒトが食べない理由・ベジタリアン事情とフードファディズム＞ 世界にひろがるベジタリアンの実状とその思想の背景、および、特定の食品に過剰な健康効果を期待したり否定するフードファディズムについて学習する。	マスコミが話題にする食を調べる。90分程度。	食事作法の学習の意義をまとめる。90分程度。
担当教員			
第6回	＜「食べ方」を学ぶ理由＞ 学校における栄養教育と家庭と社会における「食べ方」の学びについて学習する。国内外のさまざまな食事作法が誕生した背景と食事作法の意味、さらに継承されつづける理由について考察する。	マスコミが話題にする食を調べる。90分程度。	食事作法の学習の意義をまとめる。90分程度。
担当教員			

第7回	<ヒトから人間へ・食べるモノの変遷> 私たちの「食」の過去と現在を概観する。日本の食事様式の歴史や、外食と中食の歴史と現状についても学習する。そのプロセスで「餌」から「食事」へとその意味を変えてきた人間の「食」の複雑さについて考察する。 アクティブラーニングとして、周囲と自分たちの食事について話し合いをし、発表してもらう。	動物の餌と人間の食事の違いを考える。90分程度。	カラダに良いとはどういうことか、まとめる。90分程度。
担当教員			
第8回	<おいしさとはなにか> 「からだにいい」とはなにか。「栄養がある」とはどういうことか。「おいしい」とはどのようなものか。普段なにげなく口にする表現の意味するところを科学的に学び、食事の機能と意味を理解する。	動物の餌と人間の食事の違いを考える。90分程度。	カラダに良いとはどういうことか、まとめる。90分程度。
担当教員			
第9回	<ヒトはなぜ食べるのか> 講義の前半の総まとめを行い、人間が食べる理由、食べない理由について多方面から考察する。	前半のノートを整理してくる。90分程度。	最新のバイオテクノロジーについて整理する。90分程度。
担当教員			

第10回	<「食」の未来> 染色体操作や遺伝子組み換えなど、最新の品種改良や魚介類の養殖について、その手法や課題、可能性について詳しく学習する。同時に食をめぐる地球規模の環境問題についても学び、未来の「食」に関する課題を考察する。	前半のノートを整理してくる。90分程度。	最新のバイオテクノロジーについて整理する。90分程度。
担当教員			
第11回	<食事空間を学ぶ> 火と水、道具の利用がなければ私たちの「食」の発展はなかった。火と水がどのように扱われ、「台所」はどのように進化してきたか、その変化の社会的文化的意味も合わせて学習する。配膳や食事様式についても学び、食空間の機能についての知識を深める。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			
第12回	<「食」をめぐる仕掛け・外食の歴史と広告> 外食の歴史を概観し、現代の外食産業を支える広告の機能と種類を学習する。そのことから私たちの食行動の変化や時代の流れ、加えて食の未来と問題点を広く考察する。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			

第13回	＜「食」の演出＞ 料理・食器・盛り付け・食卓・食空間のインテリアなど、人間はなぜ「食」の場面を飾るのか。なぜ演出が必要なのか。色彩学やデザインの基礎を学び、食卓装飾の歴史をたどりながら、食べることの意味を広く考察する。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			
第14回	＜餌場から食事の場へ・テーブルコーディネートの機能＞ 食欲やコミュニケーションに大きく作法する食卓の演出について、具体的に学習する。色彩学やテーブルコーディネートの基礎知識を確認し、「食」の場面に必要な知識や技術の深さと広さについて学ぶ。	食の未来と教育について考察する。90分程度。	食の未来と教育について考察する。90分程度。
担当教員			
第15回	＜年中行事と祭り・儀礼の食・縁起について＞ 食の場面における「ハレ」と「ケ」、および日本の冠婚葬祭や年中行事の食の多様性と意味について幅広く学習する。「食」がもつコミュニケーションツールとしての機能や、人間のこころの「よりどころ」や「やすらぎ」としての役割についても考察する。 試験	試験範囲復習。90分程度。	試験の見直し。90分程度。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	確認テスト2回
その他	30	調査レポートの評価
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

私語厳禁。
毎回必ず教科書を持参すること。

備考欄

特になし

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		生活と社会環境				ナンバリング	1128
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	辻 幸美、金子 翔拓						
授業の位置づけ							
各該当学科のディプロマ・ポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを鑑み、現代日本の社会環境を高齢者や代表的な疾患による身体障害を持つ人を通して理解するとともに科学的思考力と創造的思考力を活用して看護の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につける共通重要科目であり、更に人の生活全般と関連し、地域医療や社会環境を考える基礎となると共に、将来医療職種専門職を希望される学生においては、必要と考える。また「人間の文化を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。」特に看護科においては、看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を会得する重要科目である。（思考・判断・表現）							

- ① 現代日本の地域医療の現状を説明できる。
- ② 代表的な疾患に適合した生活環境の整備について説明できる。
- ③ 今後の日本における生活環境のあるべき姿を考え、説明することができる。

授業の方法

パワーポイントを用い講義形式ですすめる。また、講義後に課題を提示し講義内容の確認を行う。

ICT活用

授業中の課題の一部にグーグルクラスルームを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として勤務した経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

辻幸美:22年間、脳神経外科病院で看護師として務めた経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

前回授業の最後に提出された課題に関して、次回の授業で補足説明や解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 医療保険制度の現状を理解する(診療報酬制度等も含む)	自身を取り巻く生活環境について考えてくること。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第2回	高齢者の生活と社会環境① 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)と生活について理解を深める。	高齢者と生活について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第3回	高齢者の生活と社会環境② 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)に適する生活環境の整備について理解を深める。	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第4回	高齢者の生活と社会環境③高齢者(虚弱老人・認知症を含む)が生活するうえでの「リスク」について理解を深める。	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第5回	障害者の生活と社会環境① 筋ジストロフィー疾患患者の生活環境の整備について考える。	筋ジストロフィー疾患患者の生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第6回	障害者の生活と社会環境②重症心身障害児(者)の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	重症心身障害児(者)はどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第7回	障害者の生活と社会環境③ 精神疾患患者の生活環境の整備について考える。	精神疾患患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	ハンセン病とハンセン病療養施設の生活と社会環境について、過去の日本における偏見と差別を鑑み考える。	ハンセン氏病を取り巻く社会の歴史を調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第9回	介護保険制度の現状を理解し、地域社会で在宅サービスを受ける対象者について理解する。	介護保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第10回	障害者の生活と社会環境④ 脳卒中患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脳卒中とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第11回	障害者の生活と社会環境④ 脳卒中患者の生活環境の整備について考える。	脳卒中患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	障害者の生活と社会環境⑤ パーキンソン病患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	パーキンソン病とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第13回	障害者の生活と社会環境⑤パーキンソン病患者の生活環境の整備について考える。	パーキンソン病患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	障害者の生活と社会環境⑥脊髄損傷患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	障害者の生活と社会環境⑥脊髄損傷患者の生活環境の整備について考える。 まとめ 1～14回までの内容について総復習を行い、障害を持つ人の生活環境について理解する。	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。 1～14回の内容について、これまでに作成したノートを確認しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題、授業への参加態度 なお、レポート課題等の提出期限を厳守についても評価の対象である。
その他	0	・授業への参加態度 ・レポート課題等の提出期限を厳守すること
教科書		
なし(プリントにて対応)		
参考文献		

特に指定しない

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		総合教養講座				ナンバリング	1100
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、松岡 審爾、大森 圭、小塚 美由記、渡部 俊弘						

授業の位置づけ

初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。

国際教養学科のディプロマ・ポリシー（DP）の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。」と関連する。国際コミュニケーション学科のDPの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や柔軟で前向きなコミュニケーション能力を備えている。」と関連する。地域未来学科のDPの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している」と関連する。看護学科のDPの「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。」と関連する。リハビリテーション学科理学療法学専攻のDPの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。」、「幅広く教養を深め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会をさせることができる。」と特に関連する。また作業療法学専攻のDPの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。」、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関連する。

授業の概要

この科目は、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすかを意識化してもらうためのものである。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とした科目である。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能について考え、地域創生の視点で行動できるグローバルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。

到達目標

- ・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsやカーボンニュートラルの取り組みの重要性を理解できること。
- ・4年間を通して、しっかりとした履修計画を立てられること。
- ・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。
- ・Google Classroomの利用ができること。
- ・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。
- ・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。
- ・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。

授業の方法

パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。

ICT活用

一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する

実務経験のある教員の教育内容

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く 正しく 雄々しく進め」に込められた、真理を探究する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第2回	この時代、君はどう生きるか これからの社会、不確実な時代を自分らしく生きるための、本質的な物の見方、捉え方を学ぶ。	これまで読んだ本の中から、自分の生き方に影響を与えたと思える本をもう一度読んでおく。(90分)	これからの自分の進路を見据えながら、事前学習で読んだ本を精読する。授業の感想を提出する。(90分)
担当教員	渡部 俊弘		
第3回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。また、履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、ユニバーサルパスポートを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第4回	授業を受講するには② Google Classroomの使い方について	本学から付与されるGoogleアカウントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。(図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。(90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第7回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物(あるいは食べることが許されている食べ物)について調べておく。(90分)	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。(90分)
担当教員	小塚 美由記		
第8回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 (NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部)	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。(90分)	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。(90分)
担当教員	松岡 審爾		
第9回	学友会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。(学友会) 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。(各団体)	学生便覧で、学友会に関する項目に目を通しておく。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。(90分)	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉学時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。(90分)
担当教員	大森 圭		

第10回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森 圭		
第11回	本学のカーボンニュートラルの取り組みの紹介 カーボンニュートラル推進センター	本学のカーボンニュートラルの取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	自ら実践できるカーボンニュートラルの取り組みを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほとんどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから、恵庭市の概要、特長について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市の未来に貢献する施策を考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第13回	未来のために、今この一瞬を大切に ゲスト講師：青木さやかさん	ゲスト講師のこれまでの活動について、インターネット等で調べておく。(90分)	講義内容を振り返り、自ら実践できることを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	UHB北海道文化放送制作のドキュメンタリー映画『無理しないケガしない明日も仕事！新根室プロレス物語』の上映	上映映画について予習をする。(90分)	上映映画について復習をする。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修 えこりん村の取り組みを研修し、持続可能な社会の在り方について学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の感想等の提出および授業参加の積極性から総合的に判断する。
その他	0	なし。
教科書		
なし。		
参考文献		

渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年一恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット
 渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会

履修条件・留意事項等

ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別途連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。日程は別途、連絡する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		日本国憲法				ナンバリング	1120
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	池田 杏奈						
授業の位置づけ							
教養科目のカリキュラムマップにおいて、「人間の社会を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。」に位置づけられる。国際教養学科のディプロマ・ポリシーの「北海道、日本及び世界諸地域の課題とその分析や解決を考えることのできる、世界諸地域の言語、政治、経済、社会、文化等の国際教養を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。また、国際教養コミュニケーション学科の「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と主に関連する。さらに、看護学科のディプロマ・ポリシーの「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」と関連する科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」、「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。さらに、地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域の歴史や文化、多様な資源の価値を深く理解し、新たな価値を創造することにより、持続可能な社会を実現し、次代へ発信・継承することができる(知識・技能)」と関連する。							
授業の概要							
民主主義(国民主義)と基本的人権の相関関係を明確にするとともに、なぜ「憲法」が国家の最高法規とされるかを理解することを目指す。次いで、日常生活の場面で生じる様々な紛争解決する手段としての裁判の意義、システムを学び、同時に法解釈の手法を考察する。以上の基本的な知識を修得した上で、日本国憲法の精神と構造を(明治憲法との比較を含め)大枠で理解するよう努める。							
到達目標							

1. 日本国憲法を最高法規とする我が国の法体系について説明できる。
2. 様々な基本的人権について概要を述べるができる。
3. 法というルールを介して、社会人としての関係形成、問題解決の方法、変化する社会への対応など、我が国において生きていく上で生じ得る問題について自ら考え、論じることができる。

授業の方法

パワーポイント及び配布印刷物を活用しながら講義形式で進める。
各講義中に毎回コメント(授業についての振り返り、思ったこと、疑問等を記述したもの)をGoogleフォーム、クラスルーム等に提出する。
確認テストをGoogleフォーム等を利用して時間内に行う(全15回)。

ICT活用

Google フォームのテスト作成機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ガイダンス・裁判制度】 担当教員の自己紹介、授業の概要、予習と復習の方法、成績評価についての説明を行う。 日本の裁判制度の概要、法の基礎知識について学ぶ。	事前に教科書を購入し、「読者のみなさんへ」の部分を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第2回	【子どもの人権】 校則を題材にして「子どもの人権」について解説する。	授業前に教科書を購入し、「Theme1 ブラック校則——子どもの人権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、コメントシートで記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第3回	【外国人の権利】 法律上「国民」とは誰を指すのかを知り、「外国人」との権利の違いについて学ぶ。	「Theme2 欲しいのはまず選挙権——外国人の権利」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第4回	【プライバシー権】 プライバシーとはどういうものとして、法律上どのように保護されているかを学ぶ。	「Theme3 わたしの秘密——プライバシー権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第5回	【自己決定権】 自己決定権は憲法によってどのように保障されているのかを学ぶ。	「Theme4 何の自己決定か？——自己決定権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第6回	【法の下での平等】 以前の民法や刑法の条文等を題材に、「法の下での平等」について学ぶ。	「Theme5 再婚は100日後——法の下での平等(1)」「Theme6 むかし親殺しありき——法の下での平等(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第7回	【信教の自由】 「信教の自由」を保障している条文の構造を理解し、保障の限界について判例を基に学ぶ。	「Theme7 法廷の宗教戦争——信教の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第8回	【表現の自由】 「表現の自由」が日本国憲法の保障する人権の中でもとりわけ重要度の高いものといわれる理由を考察し、どのような表現の自由であっても保障されるのかということについて考える。	「Theme8 ポルノの権利——表現の自由(1)」 「Theme9 人殺し教えます——表現の自由(2)」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第9回	【営業の自由】 営業の自由はどのように保障されているかを学び、どのような場合に制限されるかについて考える。	「Theme10 銭湯の楽しみ——営業の自由」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第10回	【生存権】 憲法25条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活を指すのかについて考える。	「Theme11 クーラーのない生活——生存権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第11回	【教育権】 学校で子どもたちに教えられる教育の内容を決定できるのは誰であるかについて、判例を基に学ぶ。	「Theme12 教科書はつらいよ——教育権」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第12回	【死刑制度】 死刑制度の是非について憲法の視点から考える。	「Theme13 罪と罰のはて——死刑制度」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			

第13回	【国会・内閣・裁判所】 日本国憲法が採用する「二院制」について学び、「国会」の役割について考える。 内閣総理大臣はどのようにして選ばれるのかについて学ぶ。 裁判に関する諸権利について学び、裁判員裁判について考える。	「Theme16 両院は車の両輪——国会(1)」 「Theme17 民の声 vox Dei? ——国会(2)」 「Theme18 首相の選び方——内閣」 「Theme19 裁判はだれのために——裁判所」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第14回	【天皇・平和主義】 明治憲法下での天皇と現行憲法の天皇の違いについて学ぶ。 憲法9条と自衛隊の関係について考える。	「Theme14 皇室外交? ——天皇」 「Theme15 人権の条件——平和主義」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
第15回	【地方自治・憲法改正・まとめ】 地方自治とは何かについて学ぶ。 憲法改正の手続きと憲法改正の限界について学ぶ。	「Theme21 住民投票で決着を! ——地方自治」 「Theme22 憲法の変身——改憲の可能性」を読んでおく(90分)。	講義内容について復習し、フォーム等に記入した内容について改めて考える(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト、授業への参加態度、授業後に提出するコメントやレポート等により評価する。
その他	0	なし。
教科書		
いちばんやさしい憲法入門〔第6版〕／初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行／有斐閣		
参考文献		

講義中に適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

特になし。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		現代医療と福祉・介護				ナンバリング	1122
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高岡 哲子						
授業の位置づけ							
各該当学科のディプロマポリシーを鑑み、地域包括ケアシステムにおいて高齢者障害者等が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、[住まい][医療][介護][看護][予防][生活支援]が切れ目なく一体的に提供ができ、「[心/意 欲/態度]」が養われる重要な科目である。更に日本の社会事情を広く理解するうえで必要な知識としての[医療/福祉/介護]に焦点をあて、近未来 の社会制度を思考し、構築するための基礎的能力の向上を目指す。							

- ・現代医療・福祉・介護の実態を理解し、日本と世界の課題を比較し説明できる。
- ・現場で役立つ知識やスキルを学び、今後の医療・福祉の未来について考えることができる。
- ・ディスカッションやワークショップを通じて主体的に学ぶ姿勢を身につけることができる。
- ・多職種連携やICTの活用を理解し、実際の現場に適応できる。

授業の方法

講義:教員による解説を中心に、最新のデータや事例を交えながら、医療・福祉・介護の制度や現場の課題について学ぶ。
 グループワーク:学生同士でディスカッションし、現場の課題を分析し、解決策を考える。
 発表:各グループの成果を発表し、全体で学びを共有する。

ICT活用

本授業では、Googleフォームを活用した授業内リアクションペーパーや課題レポートの収集を通じて、学習の効率化を図る。また、電子カルテやAI、遠隔医療など、医療・福祉分野でのICT活用事例を授業内で紹介し、現場での実践的な活用方法を学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

総合病院において看護師として約7年間勤務し、多職種と連携しながら高齢者のケアに携わった経験を活かし、本授業を実施する。現場で直面した医療・福祉・介護の課題や、チーム医療の重要性を具体的な事例を交えて伝えることで、制度や理論だけでなく、実践的な視点での学びを深める。

課題に対するフィードバックの方法

本授業では提出された課題に対し、共通フィードバックを中心に実施し、全体の理解を深める。具体的には、授業内で優れた回答やよくある誤解を共有し、解説を行うことで全体の学習効果を高める。また、個別のフィードバックは、単位取得が危うい場合や、課題の理解が大きくずれている場合に実施する。該当する学生には、具体的な改善点を提示し、学習の方向性を修正できるよう支援する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンスと現代医療・福祉・介護の全体像(講義・GW) 内容:本科目の奥的や方法を理解する。現代の医療・福祉・介護の役割を概観し、様々な課題をグループディスカッションする。 行動目標:・本科目の目的と方法を理解し、学習計画を立てることができる。 ・現代の医療・福祉・介護の全体像を理解し、様々な課題を考察できる。	・シラバスを確認し、授業の進め方を理解する(約90分)。 ・ノートを一冊用意する。	医療と福祉・介護の関係について、新たに気づいたことをノートにまとめる(90分)。
担当教員			
第2回	地域包括ケアと在宅医療の未来(講義・GW) 内容:地域包括ケアシステムの概要と在宅医療・訪問介護の役割を理解する。医療・介護の人材不足や地域格差、多職種連携の課題を理解し、ICT活用など今後の展望について考える。 行動目標:・地域包括ケアシステムの概要を理解し、その役割を説明できる。 ・在宅医療における多職種連携の課題を考えることができる。	地域包括ケアの基本概念を調べ、概要をノートにまとめる(約90分)。	在宅医療について新たに気づいたことをノートにまとめる(約90分)。
担当教員			
第3回	未来の社会課題と対策を考える(GW)。 内容:2040年の日本の医療・福祉・介護を想定し、人口減少や高齢化、医療・介護人材不足などの社会課題を整理する。グループで議論し、政策・制度改革、テクノロジー活用などの視点から解決策を検討する。 行動目標:・2040年における医療・福祉・介護の課題を予測し、整理できる。 ・課題に対する具体的な解決策を考え、グループで議論できる。 ワークシート提出①	Classroomにアップされている第3回ワークシートの1を記載する(90分)。	未来の社会課題について新たに気づいたことをノートにまとめる(90分)。
担当教員			

第4回	未来の社会課題と対策の提案(発表) 内容:第3回のグループワークでまとめた2040年の医療・福祉・介護の課題と解決策を発表し、全体でディスカッションを行う。 行動目標:・2040年の医療・福祉・介護の課題に対する解決策を多角的に考察し、議論できる。 ・発表やディスカッションを通じて、新たな視点を得て、未来の社会に向けた理解を深める。 ① ノート提出	第3回のグループワークを振り返り、他グループの発表に備えて質問や意見を考える(90分)。	講義内容を整理し、2040年に向けた医療・福祉・介護の課題と解決策をノートにまとめる(90分)。
担当教員			
第5回	医療・介護現場のリアルと職種間連携(講義・GW) 内容:医療・介護現場の課題を学び、職種間連携(チーム医療)の重要性を理解する。多職種が協力することで得られるメリットや、連携の成功・失敗事例を通じて、現場での課題と解決策を考察する。 行動目標:・医療・介護現場の現状と職種間連携の重要性を説明できる。 ・チーム医療のメリットと課題を理解し、多職種連携のポイントを考察できる。	・医療・介護分野の職種と役割を調べ、ノートにまとめる(約90分)。	・講義内容を整理し、多職種連携の重要性と課題についてまとめる。 ・現場でのより良い連携のために必要なことを考え、200～300字で記述する(約90分)。
担当教員			
第6回	テクノロジーと医療・福祉の未来(講義・GW) 内容:AI・ロボット・ICT・遠隔医療の最新事例を学び、医療・福祉現場への導入によるメリットと課題を考察する。テクノロジーの発展がもたらす未来の医療・福祉の変化について理解を深める。 行動目標:・医療・福祉分野における最新のテクノロジーの活用事例を説明できる。 ・テクノロジーが医療・福祉の未来に与える影響と今後の展望を考察できる。	医療・福祉分野で導入されている最新のAI・ロボット技術や遠隔医療の事例を調べ、概要をまとめる(90分)。	講義内容を整理し、テクノロジーが医療・福祉に与える影響と2040年の展望について考察し、200～300字で記述する(90分)。
担当教員			

第7回	医療・福祉現場の課題解決(GW) 内容:医療・福祉現場で発生する課題をケーススタディとして取り上げ、グループで分析し、解決策を検討する。多職種連携やテクノロジー活用などの視点を取り入れながら、現場の実践的な対応策を考える。 行動目標:・医療・福祉現場で発生する具体的な課題を分析し、整理できる。 ・課題に対する実践的な解決策を考え、グループで議論できる。	医療・福祉現場の課題事例を調べ、自分なりの考えをまとめる。(90分)	グループで議論した内容を整理し、課題解決のポイントを200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
第8回	現場の課題解決アイデア(発表) 内容:第7回のグループワークで検討した医療・福祉現場の課題と解決策を代表グループが発表し、全体でディスカッションを行う。講義では、現場の成功事例を紹介し、多職種連携やICT活用を含めた課題解決のポイントを学ぶ。 行動目標:・医療・福祉現場の課題と解決策を多角的に考察し、議論できる。 ・発表やフィードバックを通じて、新たな視点や実践的な学びを得る。 ② ノート提出	第7回のグループワークを振り返り、発表に備えて質問や意見を考える(90分)。	講義内容とディスカッションで得た学びを整理し、医療・福祉の課題解決のポイントを200～300字でまとめる。(90分)。
担当教員			
第9回	世界の医療・福祉制度と日本の違い(講義) 内容:北欧、アメリカ、アジアの医療・福祉制度の特徴を比較し、日本の制度との違いを学ぶ。各国の成功例や課題を踏まえ、日本の医療・福祉制度の強みや改善の可能性を考察する。 行動目標:・各国の医療・福祉制度の特徴を理解し、日本との違いを説明できる。 日本の医療・福祉制度の課題と改善策を考察できる。 リアクションシート①	北欧・アメリカ・アジアの医療・福祉制度について調べ、特徴をまとめる。(60分)	講義内容を整理し、日本の医療・福祉制度の強みと課題について200～300字で記述する(90分)
担当教員			

第10回	認知症・精神疾患とケアの最前線(講義・GW) 内容:認知症と精神疾患の基礎知識を学び、最新のケアや支援のアプローチを理解する。地域支援や介護者の負担軽減策に注目し、認知症・精神疾患を持つ人が安心して暮らせる社会のあり方を考察する。 行動目標:・認知症・精神疾患の基本的な知識と最新のケア・支援方法を理解できる。 ・認知症・精神疾患を持つ人を支える社会的な仕組みや課題を考察できる。	認知症や主要な精神疾患の特徴を調べ、簡単にまとめる(90分)。	講義内容を整理し、認知症や精神疾患のケア・支援の重要なポイントを200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
第11回	「もし自分が利用者だったら？」視点で考える(GW) 内容:高齢者・障害者・患者が直面する日常の課題の事例を基に利用者の立場で考える。 行動目標:・高齢者・障害者・患者の立場を想像し、利用者視点での課題を理解できる。 ・利用者のニーズを踏まえた適切な支援策を考え、議論できる。 ワークシート②	第11回のグループワークを振り返り、発表に備えて質問や意見を考える(約90分)。	グループで話し合った内容を整理し、「利用者視点の支援のあり方」について200～300字で記述する。(約90分)。
担当教員			
第12回	利用者視点の支援アイデア(発表) 内容:第11回のグループワークで検討した「利用者視点の支援アイデア」について、代表グループが発表し、全体でディスカッションを行う。 行動目標:・利用者の立場に立った支援アイデアを多角的に考察し、議論できる。 ・発表やフィードバックを通じて、利用者中心の支援のあり方の理解を深める。 ① ノート提出	第11回のグループワークで検討した支援アイデアを振り返り、発表に備えて質問や意見を考える(90分)。	講義内容とディスカッションの振り返りを整理し、「利用者視点の支援とは何か？」について200～300字で記述する(90分)。
担当教員			

第13回	医療事故・倫理と法制度(講義・GW) 内容:医療事故の原因と予防策を学び、医療・介護の安全対策を考察する。医療倫理の基本原則やコンプライアンスの重要性を理解し、法制度との関係を踏まえた適切な対応を学ぶ。 行動目標:・医療事故の原因と予防策を理解し、安全な医療・介護のための対策を説明できる。 ・医療倫理やコンプライアンスの基本を理解し、現場での実践の重要性を考察できる。	過去の医療事故の事例を調べ、その原因と対策を簡単にまとめる(90分)。	講義内容とディスカッションの振り返りを整理し、「利用者視点の支援とは何か?」について200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
第14回	これからの働き方とキャリア形成(講義・GW) 内容:医療・福祉分野のキャリアパスを学び、資格取得やスキル向上の重要性を理解し、未来のキャリア形成について検討する。 行動目標:・医療・福祉分野のキャリアパスを理解し、自身の将来の選択肢を考えられる。 ・多職種連携の重要性を理解し、協働のあり方を考察できる。 ④ ノート提出	医療・福祉分野の職種と役割、資格取得の方法について調べる(90分)。	講義内容を整理し、将来のキャリア形成について200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
第15回	授業のまとめと学びのふりかえり(講義・GW) 内容:これまでの講義をふりかえり、医療・福祉分野における学びを整理する。 行動目標:・これまでの授業内容を整理し、自身の学びを言語化できる。 ・医療・福祉の未来や自身のキャリアの考えを深め、表現できる。 ① リアクションシート	授業全体をふりかえり、印象に残ったテーマを整理する(90分)。	講義のまとめを整理し、医療・福祉の未来や自身の今後の学びについて200～300字で記述する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	ワークシート:2回×30点=60点 リアクション:2回×10点=20点
その他	20	ノート提出:4回×5点=20点
教科書		
なし		
参考文献		

必要時講義中に提示する。

履修条件・留意事項等

私語、指示時以外の携帯電話の使用を禁止する。
学習は主体的に行う。
欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。
遅刻早退する、もしくはした場合は、必ず、教員へ申し出る。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア入門				ナンバリング	1132
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						
授業の位置づけ							
本科目は、初年次教育の一貫として、大学生活の充実や社会で活躍するために、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解するための科目である。なお本科目は、「キャリア形成」と連携している教養科目である。							
授業の概要							
グローバル化と高度情報化が益々進展する現代社会においては、自己のアイデンティティを確立することが重要である。そのために、我々を取りまく文化、環境を再認識しながら自らの生き方や生活、仕事について考えることを目指す。							
到達目標							

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」を説明できる。
- ・自己理解の方法(「人生曲線」、「ジョハリの窓」等)、「計画的偶発性」について述べることができる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」を説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」などを理解する。	これまで「キャリア」という言葉を使ったり聞いたりした事があれば、その場面はどのようなものだったかを具体的に思い出す。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	働くことの意味などを考えた上で、我々を取り巻く市場環境や「社会人基礎力」などを学ぶ。	高校生と大学生の違いと、働くことの意味について、調べ、考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	自己理解の方法の全体像を理解した上で、テストの実施を通して学ぶ。「計画的偶発性」などを学ぶ。	「私は…」から始まる文で、自己紹介の内容を考える。(10個以上)(90分) 例:私は、北海道文教大学の学生です。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などの概要を理解する。	生まれてから現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理する。(90分) 例:高校に合格した。失恋した。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などの概要を理解する。	自分自身の日頃のコミュニケーション方法を振り返る。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などの概要を理解する。	これまでの人生において苦痛や怒り、悩み・不快・不安のあった出来事と、その出来事をどうしてほしかったのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などの概要を理解する。	自分自身の興味・性格・能力・動機を整理する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	これまでの講義の総括を実施した上で、大学4年間の目標などを考える。	大学4年間で成し遂げたいことを考えた上で、そのための方法を調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲など
教科書		
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房		
参考文献		
授業内で順次紹介する。		
履修条件・留意事項等		

- ・各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、各自印刷し持参する。
- ・出欠管理は、講義内で実施する予定である。
- ・授業態度が不適切である場合(例:私語、授業内容と関係のない行為)、欠席扱いとなることがある。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア形成				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						

授業の位置づけ

本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。

授業の概要

これからの人生を、職業を通じて社会に貢献し、生計を立て、また職業人として日々充実感を持つことのできるよう、自らの職業観・勤労観を培うとともに、自らの生き方や生活デザインについて基本的な展望を身につける。

到達目標

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」、「計画的偶発性」を説明できる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」について論じることができ、活用することができる。
- ・キャリアに関する具体的な事例に対し、「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」から説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくまに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきつづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲・グループワークなどの状況など
教科書		
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房		
参考文献		
授業内で順次紹介する。		
履修条件・留意事項等		

- ・講義資料はGoogle Classroomにアップロードするため、各自印刷し持参
- ・出欠管理は、講義内で実施予定
- ・グループワークが中心となるため、積極的参加が必須
- ・授業態度が不適切な場合(例:私語、授業と関係のない行為)、欠席扱いとなることがある
- ・本科目は、キャリア入門の振返りを含む

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		生命科学				ナンバリング	1150
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	有賀 早苗						
授業の位置づけ							
科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。 「解剖学」、「生理学」、「生化学」(健康栄養)、「解剖学I」、「解剖学II」、「生理学I」、「生理学II」(看護、リハビリ)、「免疫学」(看護)、「教科教育法 理科」(こども発達)と連携する教養科目である。							

- ・生物が物質から成る細胞を単位に構成されることを理解する
- ・遺伝情報に基づく生物に共通した流れであるセントラルドグマを理解する
- ・細胞・分子レベルから癌等の疾患の原因を理解する
- ・遺伝子操作・再生医療等の基本的な仕組みを理解する

授業の方法

本授業で学ぶべき内容をわかりやすく解説したパワーポイントスライドの映写により講義を進め、指定した教科書も参照しながら学ぶ。授業終わりに各回の授業の要点をまとめたスライドを示す。授業への出席確認はGoogleクラスルームを活用して行う。
アクティブラーニングとして、学期末の講義において、小グループでのディスカッションに基づく課題研究発表を行う。

ICT活用

実習等との日時重複、その他不可避の状況により授業が対面実施できない場合には、Googleクラスルームよりオンデマンドビデオ配信授業を実施する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業後、復習教材として、Googleクラスルームに各回の授業で用いたパワーポイントスライドから抜粋してPDFにした授業資料、および各回の授業内容の理解・定着度をチェックする確認小テスト(自己採点、解答解説もGoogleクラスルームに掲載、成績評価には含めない)を掲載するので、筆記試験に向けた準備・復習に活用されたい。
2回実施する筆記試験後には、解答解説を授業内で行うとともにGoogleクラスルームに掲載する。
授業内容等に関する質問は、授業の前後に直接対面で、あるいはGoogleクラスルームへのメールで受け付ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	物質から成る生物：科目ガイダンスとして、本科目の位置づけ、概要、到達目標、授業方法・進め方、成績評価等について、シラバスに基づき説明する。アンケート等により、履修学生の高等学校までの生物学学習状況を確認する。授業内容としては、非生物と異なる生物の特性、分子・細胞レベルで生物を捉える共通原理(分子生物学のセントラルドグマ)、生物が物質から成ることを理解する。	シラバスをよく読んで、この科目で学ぶこと、学習目標等を把握しておく。また教科書のp.2～6、p.14～16を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、生物を構成する分子で最も多い水分子の意義を説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答してしこ採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第2回	タンパク質：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、タンパク質について、基本構造と性質、生物・生命現象における機能・重要性について学ぶ。	教科書p.7～8, p.116, p.175を読み、疑問点・不明点を整理しておく。また、アミノ酸について簡単に調べておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、タンパク質の変性について説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第3回	核酸①(DNA)：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、核酸(DNA、RNA)について、共通する構造を学び、さらにDNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。DNA、遺伝子、ゲノム、染色体を正しく区別して認識できるよう解説する。	教科書p.11～16, p.18～19を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、DNA、遺伝子、ゲノム、染色体を正しく区別して、それぞれ説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第4回	核酸②(RNA)：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、RNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。	教科書 p.14～17を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整りし、遺伝暗号コードがなぜ3文字(3塩基)配列なのか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第5回	細胞の基本構造：生物の最小構成単位である細胞について、基本構造を学び、原核生物・真核生物の違いを学ぶ。真核生物を構成する真核細胞がもつ細胞内小器官、特に細胞膜、核、ミトコンドリアについて、構造・機能を学ぶ。現代生物学では生物とはみなされないウイルスについても概要を学ぶ。	教科書p.3～12を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整りし、なぜウイルスは現代生物学では生物とみなされないのか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第6回	遺伝情報の複製と細胞周期：遺伝情報の複製について、2本鎖DNAの半保存的複製の分子機構の基礎を学ぶ。細胞の生活環である細胞周期の中で、細胞分裂に先立つ特定の時期においてのみ遺伝情報の複製が行われること、また真核生物のDNA末端の繰り返し配列テロメアについても学ぶ。	教科書p.62～71を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、真核生物のDNA末端複製問題とはどのようなことか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テスト、第6回分の回答・自己採点とともに、筆記試験Aに向けて、第1回から第5回の講義内容、出題された確認小テストの問題も復習する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第7回	筆記試験A：第1回から第6回までの授業内容に関する筆記試験(60分程度)を実施する。試験答案回収の後、試験問題と解答の解説を行う。	授業ノートを整理して、第1回から第6回の講義内容、出題された確認小テストの問題を復習する。(120分程度)	筆記試験Aの確認・復習をして、理解・定着の不足していたところを拡充する。(60分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第8回	進化の概要：生物の進化について、生物の歴史、ダーウィンの『進化論』から木村資生の『中立説』、分子時計、RNAワールド仮説などを通して、進化が進歩ではなく多様性の増加であることを学ぶ。人類の進化についても、ミトコンドリア・イヴ説や鎌状赤血球症の分布などから学ぶ。	木村資生の『中立説』について簡単に調べ、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ミトコンドリア・イヴ説はどのようにして考えられたか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第9回	遺伝情報の発現：セントラルドグマに沿った遺伝情報の発現の流れについて、転写・翻訳の分子機構の基礎、発現のしくみから見た原核生物・真核生物の違いを学ぶ。遺伝情報発現調節の分子機構について、大腸菌オペロンの例から仕組みの基礎を学ぶ。また、従来の遺伝学だけでは説明のできないエピジェネティクスについても概要を学ぶ。	教科書p.14～17, p.24～26, p.172を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、原核生物・真核生物の遺伝情報発現の仕組みの違いを説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第10回	発現調節と細胞分化: 多細胞生物を構成する細胞は生殖細胞と体細胞物とに大別されることを学び、生殖細胞から多様な体細胞が生じる細胞分化の過程は遺伝情報発現調節によって実現されていることを学ぶ。多細胞生物1個体に属するすべての細胞は同一ゲノムをもつことに基づいたクローン動物、iPS細胞の作製原理について学ぶ。一方、限られた遺伝子数で多様性を実現する遺伝子の再構成、および動く遺伝子トランスポゾンについて学ぶ。	教科書p.18～22, p.30～34, p.47～48を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、エビジェネティクスとはどのようなことか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第11回	細胞死・細胞癌化: 細胞の増殖・分化・死・癌化の相関性について学び、多細胞生物の宿命である癌の発症について、原因・分子機構の概略を学ぶ。多細胞生物の発生・個体維持に不可欠な細胞増殖・細胞分化・細胞死の制御機構が破綻した場合に細胞が癌化することを学ぶ。細胞癌化に関わる遺伝子群(原癌遺伝子群)は細胞増殖・分化・死の調節・制御に必須な遺伝子群であることを学ぶ。	教科書p.62～71を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、iPS細胞とはどのようなものか説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第12回	遺伝子操作: 遺伝子そのものや発現調節を人工的に操作する遺伝子操作・バイオテクノロジーについて、方法の基礎を成す技術と、新たな展開を生んだPCR、ゲノム編集などの技術革新について学ぶ。翌週授業で実施する筆記試験Bについて、および翌々週授業で実施のグループ発表の解説も行い、グループ編成等を伝える。	教科書p.26～29, p.34～39を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、原癌遺伝子群とはどのような遺伝子群か説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テスト、第12回分の回答・自己採点とともに、筆記試験Bに向けて、第1回から第11回の講義内容、出題された確認小テストの問題、筆記試験Aも復習する。(120分程度)
担当教員	有賀 早苗		

第13回	筆記試験B: これまでの全授業内容に関する筆記試験 (60分程度)を実施する。試験答案回収後、試験問題と解答の解説を行う。 翌週の第14回, 第15回授業で実施するグループ発表に向け、グループに分かれて準備作業を開始する。	授業ノートを整理して、第1回から第6回、第8回から第12回までの講義内容、出題された確認小テストの問題、筆記試験Aの復習をする。(120分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、PCRとは何を利用したどのような技術か説明できるようにする。グループ発表の準備を始める。(60分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第14回	グループ発表: 設定された課題テーマについて、グループごとにパワーポイントスライドを使った発表を行い、参加者全員でディスカッションする。	グループごとに課題テーマに関するディスカッション、パワーポイントスライド作成、発表練習などを行う。(90分程度)	グループ発表に向けた準備作業を行う。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
第15回	グループ発表: 前回授業に引き続いて、設定された課題テーマについて、グループごとにパワーポイントスライドを使った発表を行い、参加者全員でディスカッションする。課題レポートについて解説する。	グループごとに課題テーマに関するディスカッション、パワーポイントスライド作成、発表練習などを行う。(90分程度)	自身のグループだけでなく他のグループの発表も踏まえ、課題レポートを作成・提出する。(90分程度)
担当教員	有賀 早苗		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	出席：15回の授業のうち第7, 13, 14, 15回を含む12回以上の出席を単位取得要件とする 筆記試験：第7回、第13回の授業内に実施する2回の筆記試験の得点を成績評価対象とする(筆記試験A 30点、筆記試験B 50点)
その他	20	グループ発表：第14, 15回の授業時に実施する、予めグループで準備した発表について成績評価対象とする(10点) 課題レポート：第15回の授業で提示する決められた書式で作成し、Googleクラスルームを通じて期日までに提出するレポートを成績評価対象とする(10点)
教科書		
みんなの生命科学 第2版 北口哲也・塚原伸次・坪井貴司・前川文彦 化学同人 ISBN 9784759820997		
参考文献		

授業において適宜紹介する

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		情報処理リテラシー				ナンバリング	1160
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学の学修や社会で必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目であり、数理・データサイエンス・AIへの関心を高めそれを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科の「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。							
授業の概要							
コンピュータを用いた表計算、プレゼンテーションの基本操作を学ぶことにより、情報の分析方法およびプレゼンテーション方法を習得する。							
到達目標							

1. 表計算ソフトExcelを用いた基本的な計算やグラフ作成を行うことができる。
2. Excelによりデータの加工、可視化を行いデータの特徴を抽出することができる。
3. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。

授業の方法

Excelを用いた分析、Powerpointを用いた表現は各人がパソコンを操作して習得する。補足的な説明が必要な事項についてはパワーポイントを用いて講義形式で行う。特に第8回目はパワーポイントのプレゼンテーション資料を主体的に作成する。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ活用のプロセス】データ活用の概略についての知識を得る。 【情報の分析:Excelの基本1 データと数式の入力】データ入力および効率的な数値入力(オートフィル)を習得する。数式の入力方法・コピーを習得する。相対参照と絶対参照の使い分けを習得する。	シラバスを読み、教科書のp20～p26とp91～p95を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報の分析:Excelの基本2 関数の使用法】ホームタブの合計ボタンから呼び出す関数の使用法、数式バーの関数挿入ボタンからの関数の使用法を習得する。数値分析に必要な関数の探し方を理解する。統計関数、数学／三角関数の使い方を習得する。	教科書のp96～p100を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報の分析:Excelの基本3 検索関数、条件分岐、データベース】あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する。条件に応じて処理を変えるIF関数の使い方を習得する。リスト形式のデータベースの基本的な操作である並べ替え、抽出を修得する。	教科書のp99～p105を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【情報の分析:Excelの基本4:ピボットテーブル、グラフ作成】 データベースから集計表を作成できるピボットテーブル機能を修得する。Excelを用いた棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、棒グラフ、散布図などのグラフの特徴を学びそれらの作成方法を習得する。	教科書のp37～p41,p44～p48とp106～p116を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【情報の分析:データ分析演習】 教科書記載の顧客分析に関するダミーデータを使用して、データ分析に必要な手順を学ぶ。インターネットの普及に関連した実データをもとにしてデータ分析の実際を学ぶ。	教科書のp42～p43とp52～p63とp127～p129を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【情報の分析結果の表現:PowerPointの基本1～スライドの作成、ビジュアル表現】スライドの作成、コピーや移動方法、スライドの編集方法を習得する。ビジュアルな表現を実現するワードアート、SmartArtの作成法、Excelの表やグラフを挿入する方法を習得する。	教科書のp168～p174を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【情報の分析結果の表現:PowerPointの基本2-効果の設定と実行操作】スライドへのテキストボックス、画像および図形の挿入方法を習得する。スライドショーにおける画面切り替え効果とアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作、リハーサル機能を習得する。	教科書のp165～p167を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析および結果の表現演習】データ分析からそれをもとにしたスライド作成までの演習を行う。	教科書のp34とp164を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし
教科書		
はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス／ノア出版		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		統計の基礎				ナンバリング	1156
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田 裕康						
授業の位置づけ							
教養科目のカリキュラムマップの「科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である」および、「数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。」と関連する。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。また作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。さらに地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」と関連する科目である。							
授業の概要							
主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。							
到達目標							

1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。
2. 統計的推定の考え方を説明することができる。
3. 統計的検定の考え方を説明することができる。
4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。
5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す(全15回)。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。
フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度(比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)に分類されることを学ぶ。	教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標(散布度)である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	教科書1のp84～p89、p96～p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	教科書1のp94、p133～136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	【推測統計③】統計的検定の基本的手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り(第1種の過誤、第2種の過誤)を学ぶ。	教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	教科書1のp74～p76、p167～p170 教科書2のp81～99を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群(3群以上)の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ウォリス検定」、多群の等分散性の検定である「バートレット検定」を学ぶ。	教科書1のp192～p206 教科書2のp111～p124 を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複(または反復)測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	教科書1のp207～p213 教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	教科書1のp218～p226 教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変量の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	教科書1のp34～p40、p172～p184 教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)
その他	50	各回ごとの宿題の提出(15回)
教科書		
1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社 2. 4steps エクセル統計(第5版)／柳井久江／オーエムエス出版		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
特になし
備考欄
特になし

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI入門				ナンバリング	1166
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。また、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。							
授業の概要							
ICT(情報通信技術)の進歩によってビッグデータをはじめとする様々なデータから、統計、科学的手法、人口知能(AI)を駆使して価値を引き出すデータサイエンスが求められている。この授業ではデータサイエンスの概略や代表的な数理的手法、なかでもAIのさまざまな手法や活用事例を学ぶ。さらに、データやAIの利活用において留意すべき事項も学習する。							
到達目標							

数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。
 数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。
 数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。
 数理・データサイエンス・AIを活用するにあたって留意すべき事(ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理)について説明できる。
 実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化するための手法を説明することができる。

授業の方法

パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ・AI利活用により社会で起きている変化および最新動向】ICT(情報通信技術)の進歩によるビッグデータの集積やIoTの登場、およびAI ((Artificial Intelligence: 人工知能)の技術の発達、それらがもたらすSociety 5.0の社会をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。【データ・AIの活用領域】AIとはなにか、AIの社会における利活用事例を学ぶ。【生成AIの活用の留意点】近年急速に発展した生成AIの特徴、弱点、利用にあたって留意すべき点を概説する。	ビッグデータ、IoT、Society 5.0、生成AIについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【実データの取得とデータ分析のプロセス】データ分析のプロセスを概説したのち、外部団体(e-Stat等)の実データをインターネットから取得する方法、実データの加工解析の概要を学ぶ。【データの特徴を表す方法】データの分布(ヒストグラム)と代表値、データのばらつきについて概説する。2変数の関係を調べるための方法として、散布図からわかること、および相関と因果関係について学ぶ。データのグラフによる表現について学ぶ。	データの特徴を表す方法および2変数の関係を調べる方法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【機械学習における学習方法】AIの分析で用いられる機械学習の3つの学習方法(教師あり、教師なし、強化学習)を理解する。【AIの手法1: 教師あり機械学習(回帰)】このうち教師あり機械学習の手法には回帰と分類があることを学ぶ。この中でまず回帰分析とそれらの応用事例を学ぶ。	機械学習とその学習方法について調べておく。また、このうち教師あり機械学習の回帰について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【AIの手法2:教師あり学習(分類)】 教師あり機械学習の分類を行う手法のひとつとしてよく用いられるロジスティック回帰分析および決定木分析の概略を理解する。機械学習の分類における結果の検証方法を学ぶ。AIで問題となる過学習について理解する。	教師あり機械学習の分類、特にロジスティック回帰分析および決定木分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【AIの手法3 :教師なし学習】 教師なし機械学習の手法のうち、クラスティング、アソシエーション分析(=連関分析)について学ぶ。クラスティングはデータを似たもの同士にグループ分けする手法であり、ここではk-means法を紹介する。アソシエーション分析は同時に購入される商品セットやその確率を算出してマーケティング施策に活かすことができる手法である。 【AIの手法4 :ニューラルネットワーク】 ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。ディープラーニングによる画像認識の概略を理解する。	教師なし機械学習のクラスティング、アソシエーション分析およびニューラルネットワークについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【社会におけるAIの利活用の現場】 ロボティクス、生成AI、データサイエンスの3つの視点から社会におけるAI利活用の現場レベルの事例を紹介する。その中で共通の重要事項である【データの有用性×人の価値観】のアプローチについて学ぶ。 【実データを用いた解析と結果の共有・伝達方法】 データの共有・伝達に関して、ある企業のクラウドデータプラットフォームの活用事例を用いてデータ解析、共有、伝達の流れを紹介する。 【データ・AI利活用の最新動向】 国内・国外それぞれの最新のAI利活用事例を解説する中で、これからの社会の変化についての予測視点の提供を行う。 (ゲスト講師:山本光喜EZOAI代表)	AIが社会において利活用されている例を調べておく。また、クラウドデータプラットフォームとはなにかを調べておく(90分)	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【データを守るうえでの留意事項ー情報セキュリティ・情報倫理】情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する 【データ・AIを扱う上での留意事項1ーELSI、AIの公平性・平等性】すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI (Ethical: 倫理的、Legal: 法的、Social Issues: 社会的課題)について学ぶ。公平性、平等性を疎外するバイアスとはなにか、どのようなバイアスがありどのような問題が生じているのかについて学ぶ。	科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI、AI利用における公平性、平等性を疎外するバイアスについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【データ・AIを扱う上での留意事項2ーAIの透明性・説明可能性、AIに関する社会的課題】AIの透明性・説明可能性がなぜ必要なのか、それを実現するための技術などについて学ぶ。また、AIに関する様々な社会的課題 (AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権)について学ぶ。	AI技術の発展がもたらすであろう様々な社会的課題について調べておく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI実践				ナンバリング	1167
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」と特に関係がある科目である。国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。							
授業の概要							
表計算ソフトやプログラミング言語であるPythonを用いて、インターネットから情報を取得してその特徴をとらえる方法、およびデータサイエンスで用いられるAIの手法を駆使してデータを分析する方法を習得する。							
到達目標							

インターネットから取得したデータを分析できる形に整えることができる。
 データを分析できる形に整えることができる。
 データの基本統計量の計算や可視化を行うことによりデータを読みとることができる。
 データの特徴を説明することができる。
 任意のデータファイルを読み込み、機械学習の教師あり学習の回帰、分類の手法でデータを分析することができる。

授業の方法

各人がパソコンを操作してExcelやPythonを実際に動かしながら学習してゆく(全8回)。説明部分はパワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データを扱う方法】インターネットから取得されたデータを分析できる形に整える方法を習得する。 【データを読む方法】データの特徴を得るために表計算ソフトの分析ツールを用いて基本統計量(代表値の計算、データのばらつき(分散、標準偏差))を実際に計算する。データの分布を表すヒストグラムの作成法を習得する。	Excelで基本統計量を求める方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	【表計算ソフトを用いたデータの可視化による説明】グラフによるデータの表現を概観する。特に2変数のデータの間の関係を調べるために、表計算ソフトを用いた散布図の作成、相関係数の計算、および散布図から単回帰式を求める方法を習得する。また、分類の様子を概観するための層別散布図の作成方法を習得する。 【クロス集計】ピボットテーブルを活用してクロス集計を行う方法を習得する。	Excelによる散布図の作成、ピボットテーブルの作成方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。 【プログラミングの基本1】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち順次処理、条件分岐を体験する。	プログラミングの基本のうち順次処理、条件分岐について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	【プログラミングの基本2】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち反復処理を体験する。 【Google Colaboratory上でのファイル読み込み】Google ColaboratoryにExcel形式やcsv形式のファイルを読み込みデータを使用できるようにする方法を習得する。 【Pythonを用いてデータを読み説明する方法】Pythonを用いた代表値の計算、データの分布やばらつき、2変数の相関を調べる方法を習得する。Python用のMatplotlibというライブラリーを用いてデータの可視化の方法を習得する。	プログラミングの基本のうち反復処理について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	【機械学習 教師あり学習(回帰)】回帰分析の概要を復習したのち重回帰において説明変数が量的変数の場合に限らず説明変数にダミー変数を含む場合の意味について学習する。表計算ソフトの分析ツールやPythonを用いて実際に回帰分析(単回帰、重回帰)を行う方法を習得するとともに、その活用法を学習する。	回帰分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	【機械学習 教師あり学習(分類)】Pythonのscikit-learnというライブラリーを用いて、分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどの特徴を理解し、それらの実装を体験する。	機械学習における分類の手法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	【機械学習 教師なし学習】多くの変数を少数の合成変数にまとめる手法である主成分分析について理解し、Pythonのscikit-learnを用いて主成分分析後の分類(ロジスティック回帰など)を体験する。また、k-means法によるクラスターリングを体験する。 【ニューラルネットワークを体験する】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概要を復習したのち、さらに詳細な理解をするためにA Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。	主成分分析およびクラスターリング手法であるk-means法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	【Pythonによるニューラルネットワークの実装】PythonのKerasというライブラリーを用いてニューラルネットワークを実装する方法を習得する。 【データの分析実習】これまでに習得した機械学習の手法を用いてデータを分析する実習を行う。	教師あり学習における分類の各手法の特徴およびニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについてこれまで習ったことを復習しておく。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	宿題の提出と授業内における提出ファイルにより評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

CL教室にてGoogleアカウントでログインができるようにID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		物理学				ナンバリング	1152
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。 「運動学Ⅰ」(理学、作業)、「運動学Ⅱ」(理学、作業)、「物理療法学Ⅰ」(理学)、「物理療法学Ⅱ」(理学)、「物理療法学演習」(理学)と連携している教養科目である。 看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。 理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・理解)」と特に関係がある科目である。 作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関係がある科目である。							
授業の概要							
物理学は広範な自然現象を統一的に理解しようとするものであり、全ての自然科学の基礎をなしている。ここでは、生体力学や運動学の基礎となるニュートン力学および熱力学の基本的な考えや電磁気学の基礎法則を理解し、剛体の力学、変形体の力学および生体組織の力学的性質および電気、電磁波、超音波の性質や生体作用について学習する。							
到達目標							

1. ニュートンの法則にもとづいて運動方程式を記述し、物体の運動を求めることができる。
2. 力のモーメントを用いて剛体のつりあいの式を記述できる。
3. 変形する物体の力学的性質や波動の性質について説明できる。
4. 仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存の法則、熱エネルギーについて説明できる。
5. 電磁現象の概略(電気力や磁力の原因、電磁誘導、電磁波の性質)を説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、コメントを書かせる(全15回)。
毎回の内容について宿題を課す(1回目～14回目)。
9回目と15回目に試験を実施する。
フィードバックとして理解度確認テストと宿題の解説を行う。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、確認テストと宿題として練習問題を提供し自主学習を促す。
授業の動画(パワーポイントの説明に音声を入力したもの)をGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストおよび宿題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	はじめに 物理学で用いられる単位系について学ぶ。 力学1 【運動の記述】直線上を運動する物体の速度、加速度の計算方法を習得する。また、平面上の運動における物体の位置の表しかた、速度と速さの違いを理解する。	教科書のp5、p9～p10、p12、p14、p19、p25～p28を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	力学2 【運動の記述】平面上の運動における物体の加速度の向きを知る方法を理解する。【ニュートンの運動の法則】ニュートンの運動の3法則である慣性の法則、運動の法則($F=ma$)および作用反作用の法則を理解する。 ・物体に働く力の矢印の書き方を習得する。 ・等速円運動する物体に働く力の向きを理解する。	教科書のp29、p34～p37、p39～p40、p73～p75を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	力学3 【ニュートンの運動の法則の応用】・地球上の物体に働く重力と落下運動について理解する。・床等に置かれた物体が静止するために垂直抗力が働くことが必要なことを理解する。物体の運動方程式を立てることによって、物体に働く力や加速度を求める方法を習得する。・平面における運動式を理解する。	教科書のp41,p43, p46～p47を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	力学4【ニュートンの運動の法則の応用】・力の合成と分解を理解する。・静止摩擦力、最大摩擦力、動摩擦力のちがいを理解する。・垂直抗力と摩擦係数から最大摩擦力、動摩擦力を計算する方法を習得する。斜面上の物体の運動方程式を立てる方法を習得する。	教科書のp42～p43、p45下半分、p48～p50を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	力学5【剛体の力学】・大きさがあるが変形しないというモデルである「剛体」の概念を理解する。物体の回転状態を変化させる作用である力のモーメントの計算方法を習得する。力のモーメントをもとにして重心という概念を理解できること、また重心の位置を計算する方法を習得する。	教科書のp42、p51を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	力学6【剛体の力学】・剛体の力学—剛体が回転せずにつりあうための条件を理解し、これに基づいて剛体に働く力を求める方法を習得する。 【仕事とエネルギー】仕事と仕事率の定義を理解する。	教科書のp44～p45、p52～p53、p59～p62を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	力学7【仕事とエネルギー】・重力の位置エネルギー、運動エネルギーの計算方法を習得する。・仕事と運動エネルギーとの関係から力学的エネルギー保存則が導かれることを理解する。・力学的エネルギー保存の法則を用いて運動する物体の速さを求める方法を習得する。・より広い意味のエネルギー保存則を理解する。 【慣性力】・非慣性系における、みかけの力(慣性力)を学び、遠心力が慣性力であることを理解する。	教科書のp62～p66、p93を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	力学8【変形する物体の静力学】・力を加えると変形するが、力を取り除くと元に戻る性質をもつ物体を弾性体という。弾性体のひずみが小さいとき、弾性体の変形のもととなる応力はひずみに比例する。このときの比例定数が弾性定数であり、これを用いて物体の変形量を計算する方法を習得する。また、いくつかの弾性率(ヤング率、剛性率)の違いを知る。	教科書のp101～p104を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第9回	力学9【流体の力学】・流体の力学—流体とはなにか、またその圧力の特徴を理解する。流体の密度や、ある深さにおける流体の圧力の計算方法を習得する。粘性がずれ応力であることを理解する。 ★授業の1回目から7回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp95～p101、p104～p108を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第10回	【波動】・波の表し方および波の基本式を理解する。・正弦波が波の基本的な形であることを理解する。・波の干渉と回折について理解する。・弦に生じる定在波の固有振動の計算を修得する。・超音波の性質を学ぶ。	教科書のp114～p124を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第11回	電磁気学1【電気力】・電気現象を引き起こす電荷について理解する。・真空中の電荷の間に働く力である電気力(クーロン力)の性質を学ぶ。電気力を働かせる空間である電場の概念を理解する。電位の定義を理解し電位差と電気量から電気力がした仕事量を計算する方法を習得する。・電場によって物体表面に電荷が現れる現象である静電誘導について理解する。	教科書のp158～p161、p162～p171を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第12回	電磁気学2【電流・電気回路】・電流、電圧と電気抵抗との間の関係であるオームの法則を理解する。・電力およびジュール熱の計算し、抵抗の発熱量を計算する方法を習得する。・交流による電力と実効値を理解する。・電荷を蓄える装置であるキャパシタの性質を理解する。・比誘電率について理解する。	教科書のp161～p162、p164～p165、p173～p175、p177～p179、p182～p184、p206～p208を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第13回	電磁気学3【磁場】・磁場の性質を理解する。・電流が磁場を発生されることを知り、定常電流がどのような向きの磁場を生じるかを理解する。・磁場中で運動する荷電粒子に働くローレンツ力の向き、また磁場中で電流が流れている導線に働く力を理解する。	教科書のp191～p199を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第14回	電磁気学4【電磁誘導】・電磁誘導(ファラデーの法則)、磁場が時間変化することにより電場が発生することを理解する。・磁場中でコイルを動かすと、磁場が時間変化していなくてもコイルに電流が流れることを理解する。・電場の変化によって磁場の発生することを理解する。・電磁波の発生機序を理解する。	教科書のp199～p203、p212～p214を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第15回	【熱力学】・熱の移動方法は主に熱伝導、対流、熱輻射の3つがある。このうち熱伝導の性質、熱輻射の性質を理解する。 ★授業の8回目から14回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp136～p144、p147、p149～p150を読んでおく。(90分)。	授業で行った全範囲について復習しておく(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各講義中に提出する理解度確認テストの提出(15回)、各回ごとの宿題の提出(14回)および授業内(9回目と15回目)に実施する試験により評価する。
その他	0	なし
教科書		
第3版 物理学入門 新装版 Web動画付／原康夫／学術出版図書		
参考文献		

医療系のための物理／佐藤幸一他／東京教学社

履修条件・留意事項等

理学療法学専攻の学生は、運動学、物理療法学の基本となるので、高校で物理基礎のみ履修の学生,それすら未履修の学生は必ず履修すること。作業療法学専攻の学生は、運動学の基本となるので履修するとよい。看護学科、健康栄養学科の学生は専門に直結するわけではないので数理分野が得意で興味があれば履修してもよい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		基礎化学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	藤井 駿吾、佐々木 将太						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として化学的知識を学ぶことによって、幅広い教養を身に付けるための科目である。生化学、基礎栄養学などの科目に必要とされる基礎的知識を学ぶ科目である。理学療法学科ではディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」と、作業療法学科では「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている」と特に関連がある科目である。							
授業の概要							
私たちの身近に存在する物質や身の回りで起こる現象が、どのように化学と結びついているのかを理解するために、化学の基礎知識を習得する。 今後専門科目を履修していく上で、化学に関する基礎学力の不足によって支障が生じないように化学の基礎知識を習得する。特に、モル概念、化学反応式の量的関係、濃度等の計算問題をしっかり理解する。							
到達目標							

1. 原子の構造から、イオン、原子価を理解し、化学結合について説明できる。
2. 化学反応式の表す意味を理解し、反応式の量的関係の計算ができる。
3. 濃度計算ができる。(パーセント濃度、モル濃度)
4. 酸・塩基の定義を理解し、水素イオン濃度とpHの値を求めることができる。
5. 飽和炭化水素、特にアルカンの分子式、示性式、構造式を書くことができる。

授業の方法

パワーポイントによる講義形式で、必要に応じてプリント配布する。
理解度を確認するため、確認テストを実施する。

ICT活用

確認テストや、授業資料の配布にGoogleフォームやGoogle Classroomなどを使用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

Googleフォームによる確認テスト時は、回答送信後、得点および誤答に対する解説を返信する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(佐々木) ・オリエンテーション ・原子の構造について学習する ・電子配置について学習する。	「原子核」、「電子」、「陽子」、「中性子」、「質量数」などの化学用語及び電子配置図について調べておく。(90分)	講義中に出題された問題を、自分の力で再度解答する。電子配置図を正確に書けるようにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第2回	(佐々木) ・イオンについて学習する。 ・電子式の書き方について学習する。(有機化学の分野でも使用) ・化学結合について学習する。 (1) イオン結合 (2) 共有結合(同種原子)	イオン結合、共有結合について調べておく。 「電子式」「構造式」の書き方について調べておく。(90分)	「電子式」「構造式」を確実に書くことができる。 化学式の表記の仕方を確実なものにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第3回	(佐々木) ・化学結合について学習する。 (3)共有結合(異種原子) ・化学式の読み方について、別紙プリントを配布して学習する。 ・分子量の求め方を学習する。	「共有結合」特に単結合、二重結合について、調べておく。 分子量の求め方を調べておく。(90分)	「共有結合」について、説明できるようにする。化学式が確実に読め、かつ書くことができ、分子量を求めることができる。(90分)
担当教員	佐々木 将太		

第4回	(佐々木) ・物質質量(モル)の概念について学習する。 ・物質質量(モル)の求め方について学習する。	「アボガドロ数」と「モル」の計算上での関係を調べておく。(90分)	講義で出題された問題を復習することで、考え方、求め方を確実なものにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第5回	(佐々木) ・化学反応式の量的関係について学習する。 (化学反応式を使った計算問題を解く)	化学反応式の係数が持つ意味について、計算にどのような使い方をするか確認しておく。(90分)	「モル」「体積」「アボガドロ数」「分子量」の相互関係を確実に理解し、計算で求めることができる。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第6回	(藤井) ・質量パーセント濃度についてしっかり学習する。	質量パーセント濃度の求め方について、高校時の教科書、参考書等で事前に確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第7回	(藤井) ・モル濃度についてしっかり学習する。 (1) 固体 (2) 液体	モル濃度の求め方について、高校時の教科書、参考書等で事前に確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第8回	(藤井) ・酸と塩基について学習する。 ・中和反応について学習する。	中和滴定を利用して、濃度の求め方を確認しておく。 特に、食酢中の酢酸の定量について確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第9回	(藤井) ・水素イオン濃度について学習する。 ・酸化・還元について学習する。	水素イオン濃度とpHの関係について調べておく。 酸化か還元かの判定方法について事前に調べておく。(90分)	講義中に出題された問題を復習し、pHと水素イオン濃度の関係を理解する。 酸化・還元の判断も確実にできる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第10回	(藤井) ・有機化合物の歴史について学習する。 ・有機化合物(炭化水素化合物)の分類について学習する。 ・有機化合物の表し方(分子式、示性式、構造式)について学習する。	「分子式」「示性式」「構造式」の表し方の違いについて事前に調べておく。(90分)	簡単な有機化合物の「示性式」「構造式」を書くことにより、違いを確認し分類できる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第11回	(藤井) ・飽和炭化水素のアルカンについて学習する。 (1)アルカンの性質 (2)アルカンの反応 (3)構造異性体	身近に存在する有機化合物である「アルカン」の性質、特徴及び用途について調べておく。(90分)	講義の内容を復習し、特に構造異性体の構造式を確実に書くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第12回	(藤井) ・IUPAC命名法について学習する。 ・不飽和炭化水素(アルケン)について学習する。 (1)アルケンの性質 (2)アルケンの反応	IUPAC命名法、アルケンの性質、特徴及び付加反応について事前に調べておく。(90分)	IUPAC命名法を用いて確実に物質名を答えることができる。付加反応について理解する。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第13回	(藤井) ・アルコールについて学習する。 (1)アルコールの利用方法 (2)アルコールの分類 (3)アルコールの命名法 (4)線描構造式	基本的なアルコールである「メタノール」「エタノール」「プロパノール」について調べておく。(90分)	講義内容を復習し、「アルコールの酸化」「アルコールの命名法」等自分の言葉で説明することができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第14回	(藤井) ・芳香族炭化水素について学習する。 (1)歴史 (2)構造異性体・命名法 (3)置換反応	「芳香族炭化水素」の構造の特徴や構造異性体について調べておく。(90分)	講義の中で出題された問題をしっかりと復習し、構造異性体、置換反応について、説明することができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第15回	(藤井) ・身の回りに存在する芳香族炭化水素について学習する。	身の回りに存在する代表的な芳香族炭化水素について調べておく。(90分)	生活環境の中に多くの有機化合物が存在することを知ることにより、今後の生活での意識改革に繋がるとよい。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中のランダムな回で行う確認テストの合計で評価する。
その他	0	特になし。
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

高校で使用した「教科書」または「参考書」があれば良い。

履修条件・留意事項等

特になし。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語 I				ナンバリング	1170
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Patrick Hall						
授業の位置づけ							
地域未来学科のディプロマポリシーの「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」ことと関係がある科目である。							

Students will practice everyday English skills needed for basic interpersonal communication. Focus will be on speaking, listening, and reading, and being able to describe basic things, ask and answer questions, explain and react appropriately, using good, clear, basic grammar constructions. Although the broad focus is general skills, attention will also be given to interacting with patients in a medical setting. (i.e. greeting patients, asking about their condition, giving instructions, etc.)

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

If needed, this class may utilize Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not Applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Class intro, syllabus, Unit 0	Go over syllabus and Unit 0 vocab (25 minutes)	Prepare Unit 1 p.12-16, p.I (20minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1 Part I p. 12-16: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review Unit 1 part I p. 2-16 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit I part II p. 17-19 (20 Min)
担当教員			
第3回	Unit 1 Part II p.17-19: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review unit 1 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2, p.20-24 (20 Min)
担当教員			

第4回	Unit 2, Part I p.20-24: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 p.20-24 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2 Part II (p.25-27) (20 Min)
担当教員			
第5回	Unit 2, Part II p.25-27: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 (p28-32) (20 Min)
担当教員			
第6回	Unit 3, Part I p28-32: Schedules and routines. Making appointments with patients	Review unit 3 (p28-32) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 Part II (p33-35) (20 Min)
担当教員			

第7回	Unit 3, Part II p33-35: Schedules and routines. Test Prep.	Prepare for Test!! (25minutes)	Review vocabulary and concepts (20 Min)
担当教員			
第8回	Midterm	Review concepts you had trouble with on test (25Min)	Prepare for Unit 4 Part I, p. 36-40 (20 Min)
担当教員			
第9回	Unit 4, Part I, p36-40: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 (p36-40) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare p41-43 (20 Min)
担当教員			

第10回	Unit 4 Part II, p41-43: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5, p.44-48 (20 Min)
担当教員			
第11回	Unit 5 Part I, p.44-48: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 p. 44-48 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5 Part II (p.49-51) (20 Min)
担当教員			
第12回	Unit 5 Part II, p.49-51: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 (p.49-51) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 6 (p.52-56) (20 Min)
担当教員			

第13回	Unit 6, Part I, p52-56: Describing past actions.	Review Unit 6 (p.52-56) (25 Min)	Please read and prepare Unit 6 Part II (p57-59) (20 Min)
担当教員			
第14回	Unit 6, Part II, p57-59: Describing past actions. Side by Side activity: Explaining a visit to a doctor's office in present and past tense. Test prep.	Review Units 4-6 thoroughly!! (as much time as you need, 1 hour mininum!)	Prepare for final exam!! (please study hard)
担当教員			
第15回	Final exam	Be sure all assignments have been completed and given to the teacher (perhaps 25 minutes to assess)	If you have any makeup work or late assignments, complete them and send to Professor (20 minutes, if necessary)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance and participation, quizzes 30
その他	0	
教科書		
English Firsthand, Fifth Edition Written by March Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown Published by Pearson		
参考文献		

Handouts will be given in class

履修条件・留意事項等

please bring textbook, paper, pen or pencil, and previous handouts to each class

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅱ				ナンバリング	1171
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

本科目は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。前期に配置されている「英語Ⅰ」はネイティブ・スピーカー教員によるすべて英語で行われる会話の授業であるが、この後期に配置されている「英語Ⅱ」は日本人教員による専門用語等の説明において、必要に応じて日本語を使用する授業である。こうしたことを通じて、英語圏の国で日常生活に不便を感じないレベルの英語力を身に付けるための科目である。

授業の概要

本授業では、高等学校での学習を基に比較的まとまりのある英文を正しく、丁寧に読み取ることを目的に、発音、語彙、語法、慣用的表現の解説と訓練を行うとともに、具体的な場面を設定して英語で自己表現することができるようになることを目的とする。

到達目標

- 基礎的語彙に慣れ親しむことができる。
- 日本語に訳することなしに英文の意味を理解するとともに、パラグラフ単位で意味が把握できる。
- 具体的な場面における英会話の基礎を身に付け、発話できる。

授業の方法

教科書を中心に、プレゼン資料や板書と配布印刷物を用いた演習形式で行う。
ほぼ毎回、単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

ICT活用

プレゼンテーションソフトによる教材提示やリスニングを行うとともに、グーグルクラスルームを活用して、課題提出などを行う。

実務経験のある教員の教育内容

特になし

課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	◎オリエンテーション ・授業の進め方や評価方法を理解する。 ◎Unit1 For here, or to go? ・ファストフード店での注文に関する表現を学ぶ。	・Unit1 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit1 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	◎Unit2 How many are in your party? ・レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。	・Unit2 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit2 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	◎Unit3 I'll be right back. ・レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit3 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit3 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第4回	◎Unit4 Would you like me to heat this up? ・コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit4 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit4 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第5回	◎Unit5 Your total comes to 3,240 yen. ・買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。	・Unit5 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit5 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第6回	◎Unit6 I'm truly sorry for the trouble ・商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。	・Unit6 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit6 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第7回	◎Review1 (Unit1-6) ・Unit1からUnit6までの復習をする。	・Review1 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review1に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第8回	◎Unit7 Do you have a reservation? ・ホテルや旅館での宿泊受付に関する表現を学ぶ。	・Unit7を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit7 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第9回	◎Unit8 Wi-Fi is available in this area. ・客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。	・Unit8 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit8 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第10回	◎Unit9 I highly recommend Sakura Restaurant. ・旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。	・Unit9 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit9 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第11回	◎Unit10 Turn right at the first intersection. ・道案内に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第12回	◎Unit11 Take the subway to Hommachi. ・交通案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第13回	◎Unit12 First, put the money in the machine. ・券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。	・Unit12 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit12 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第14回	◎Review2 (Unit7-12) ・Unit7からUnit12までの復習をする。	・Review2 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review2に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第15回	◎まとめ ・この授業のまとめを行う。	・総復習して、課題に取り組むこと。(35分)	・学んだ内容のポイントを整理しておくこと。(10分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、授業内小テスト(60%)、課題(20%)
その他	0	
教科書		
You're welcome! / Tae Kudo / センゲージラーニング		
参考文献		

履修条件・留意事項等
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅲ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Joseph S Tomasine						
授業の位置づけ							
学生の「関心・意欲・態度」の形成を図り、グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる人を育てる科目として位置付けられる。							

By the end of this course, students will be able to plan future English language learning using authentic written material from their specialty area.

授業の方法

This course utilizes a variety of learning structures, including teacher-directed instruction, task-based group work and individualized work.

ICT活用

The course utilizes the learning management system Google Classroom as well as the associated multimedia tools for creating documents (Google Docs), presentations (Google Slides), and synchronous online meetings (Google Meets).

実務経験のある教員の教育内容

The instructor has a Masters of Arts in Teaching with a speciality in Teaching English to Speakers of Other Languages, as well as 15 years of teaching experience in the classroom.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be given on each individual assignment, at the end of each group work task and in response to each test; it will be given orally to groups and in writing to individuals.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(1) Students will learn about the course, its methods and its assessments. (2) Students will learn about the systems of language: phonetics, vocabulary, grammar, discourse	Students will read the syllabus, consider their goals for the course and prepare questions to ask the teacher. (45 minutes)	Students will re-read the syllabus, revise their goals for the course and review their notes from the lecture. (45 minutes)
担当教員			
第2回	Students will experience a range of English language learning structures which they will rate and indicate their preferences for during the rest of the course.	(1) Students will reflect on their language learning history, their learning style and the learning structures they prefer. (2) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will respond to a survey about their preferences in learning structures. (2) Students will review their notes from the lecture. (3) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			
第3回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on presentation skills (PT, OT or N) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			

第4回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on presentation skills (OT) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			
第5回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on presentation skills (PT, OT or N) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			
第6回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on presentation skills (PT, OT or N) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			

第7回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on report writing skills (paragraph structure). (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			
第8回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will participate in direct instruction on report writing skills (essay structure). (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			
第9回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 1: get ideas) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will prepare their report by getting ideas. (45 minutes)
担当教員			

第10回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 2: rough draft) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will prepare their report by completing a rough draft. (45 minutes)
担当教員			
第11回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 3: revise) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will prepare their report by revising their rough draft (45 minutes)
担当教員			
第12回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 4: edit) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will prepare their report by editing their revised draft. (45 minutes)
担当教員			

第13回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) Students will practice report writing (step 5: polish) (3) As necessary, students will take part in a student-led presentation (4) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will select a news article in their specialty area, write a reflection and take notes on language systems. (45 minutes)	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (3) Students will complete their report by polishing their edited draft. (45 minutes)
担当教員			
第14回	(1) Students will engage in fluency and meaning-focused learning activities (2) As necessary, students will take part in a student-led presentation (3) Students will share their issue-logs with other students and the teacher	(1) Students will submit their report. (45 minutes) *Students will NOT prepare an issue log	(1) Students will review their notes from the lecture. (2) Students will study vocabulary from their issue log. (45 minutes)
担当教員			
第15回	(1) Students will take their test. (2) Students will receive feedback on their report.	(1) Students will prepare for their test. (2) Students will self-assess their report. (45 minutes) *Students will NOT prepare an issue log.	(1) Students will reflect on their performance on the test. (2) Students will reflect on their performance on the report. (45 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Issue Log: 25% Presentation: 25% Report: 25% Test: 25%
その他	0	
教科書		
This class does not use a textbook.		
参考文献		

All materials will be distributed by the instructor.

履修条件・留意事項等

Not applicable.

備考欄

Not applicable.

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		中国語 I				ナンバリング	1178
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	玉 珍						
授業の位置づけ							
外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。 履修者が中国語を初めて学ぶことを前提として、入門中国語にとって最も大切な発音の練習から、中国語がどういう言語なのかを基礎的につかめるようにする。							

中国語の発音と基本文型を理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う表現を習得できるようになる。

授業の方法

授業時間を半分ずつ、前回の内容の復習と今回の新しい内容にあてる。

ICT活用

中国語学習にとって有用なホームページ、ネット教材を紹介し、独学において役立てることができるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

(なし)

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業開始時に配られるノート兼ねたプリントの答えを記入して授業終了後に提出し、次回に返却されたものを見ながら重要点を復習する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション(授業の進め方・参考図書について) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる。	中国語に関する知識の探索。(90分)	中国語学習の方向性認識。(90分)
担当教員	玉 珍		
第2回	発音 プロローグA 声調、日本人にとって難しい発音 日本人にとって難しい中国語の発音が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第3回	発音 プロローグB -n:-ng、そり舌音、iの特別な発音、iu 中国語の発音の中でも、特に注意を要すべきものについて理解できるようになる①。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		

第4回	発音 プロローグC 日本語にない子音の発音 日本語にない子音の発音について理解できるようになる②。 。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第5回	発音 プロローグD 書き換え規則、二重母音・三重母音、隠れるローマ字 中国語の発音の中でも、特に注意を要すべきものについて理解できるようになる③。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第6回	第1課 1. 指示代名詞 2. 形容詞述語文と“很” 3. “嗎”疑問文 4. “不” 5. “不”の変調 指示代名詞と形容詞述語文と“很”と“嗎”疑問文と“不”と“不”の変調が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		

第7回	第2課 1. 正反疑問文 2. 選択疑問文 3. “的”が省略できる場合 4. 動詞句+“的”→名詞句 正反疑問文と選択疑問文と“的”が省略できる場合と動詞句+“的”→名詞句親族名称が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第8回	第3課 1. 親族名称 2. “両” 3. “有”と“没有” 4. 年齢の聞き方 5. “一”の変調 6. 21から99までの“十”の発音 親族名称と“両”と“有”と“没有”と年齢の聞き方と“一”の変調と21から99までの“十”の発音が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第9回	第4課 1. 助動詞“想” 2. 日付と曜日 3. 動詞の重ね型 4. 前置詞“給” 5. 積極的な気持ちを表す“来” 助動詞“想”と日付と曜日と動詞の重ね型と前置詞“給”と積極的な気持ちを表す“来”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		

第10回	第5課 1. 月 2. 時刻 月と時刻の言い方が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第11回	第6課 1. お金の言い方 2. 100以上の数 3. 数量補語 4. “児化” お金の言い方と100以上の数と数量補語と“児化”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第12回	第7課 1. 助動詞“在” 2. 助動詞“要” 3. 前置詞“離” 助動詞“在”“要”と前置詞“離”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		

第13回	第8課 1. 助動詞“在” 2. 助動詞“能” 3. 二重目的語 4. “多一点兒” 助動詞“在”“能”と二重目的語と“多一点兒”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第14回	第9課 1. 助動詞“会” 2. 連動文 3. “別”“不要” 助動詞“可以”と連動文と“別”“不要”が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
第15回	第10課 1. 助動詞“可以” 2. 比較の言い方 助動詞“可以”と比較の言い方が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	返却された前回授業後の提出物により、重点を復習する。(90分)
担当教員	玉 珍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	授業中に小テスト、グループワークを行い、総合評価する。
その他	10	授業態度が積極的な場合は加点する。
教科書		
いま始めよう！アクティブラーニングー初級中国語ー/陳淑梅 /朝日出版社		
参考文献		

授業中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

遅刻は減点の対象になるので注意すること。

備考欄

なし。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		中国語Ⅱ				ナンバリング	1179
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	玉 珍						
授業の位置づけ							
初年度教育の一環として、これから専門領域を学習する心構えを養うための科目である。 外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。							

中国語の発音と基本文型をさらによく理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う表現を習得できるようになる。

授業の方法

- ・パワーポイントと配布印刷物を用いた方法で説明し、グループ学習を行う。
- ・小テストを行い、理解度を確認する。

ICT活用

Google Classroomを用いる双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション(授業の進め方・参考図書について) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる。	前期で学んだの中国語の発音・ 文法・語彙を復習すること。(90 分)	講義で学んだ発音、文法、語彙 のまとめをすること(90分)
担当教員	玉 珍		
第2回	中国の医療保健制度や病院、西洋医学と中医学について 理解する 中国語の発音(声調、母音)習得できる	教科書p.7-15を予習する(90分)	教科書p.9, 12, 16の練習問題 を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		
第3回	第4課:自我介绍 第5課:医院指南 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.17-23を予習する(90 分)	教科書p.20, 24の練習問題を完 成する(90分)
担当教員	玉 珍		

第4回	第6 課: 门诊确认 第7 課: 既往病史 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.25-31を予習する(90分)	教科書p.28, 32の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		
第5回	第8 課: 诊断治疗 第9 課: 骨折疗养 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.33-39を予習する(90分)	教科書p.36, 40の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		
第6回	第10 課: 对症下药 第11 課: 答疑解惑 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.41-47を予習する(90分)	教科書p.44, 48の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		

第7回	第12 課:予約就诊 第13 課:外科急診 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.49-55を予習する(90分)	教科書p.52, 56の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		
第8回	第14 課:住院生活 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.57-59を予習する(90分)	教科書p.60の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		
第9回	第15課:日常交际 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.61-63を予習する(90分)	教科書p.64の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		

第10回	第16課: 康復 出院 必要な常用単語、会話、文法をマスターする	教科書p.65-67を予習する(90分)	教科書p.68の練習問題を完成する(90分)
担当教員	玉 珍		
第11回	常用表現 (1) 日常寒暄 (2) 院内施設 必要な単語をマスターし、発音できるようになる	教科書p.69-72を予習する(90分)	授業中学んだ単語を記憶し、会話を練習する(90分)
担当教員	玉 珍		
第12回	常用表現 (3) 挂号候診 (4) 身体部位 必要な単語をマスターし、発音できるようになる	教科書p.73-76を予習する(90分)	授業中学んだ単語を記憶し、会話を練習する(90分)
担当教員	玉 珍		

第13回	常用表現 〈5〉病名症状 〈6〉 <u>问诊治疗</u> 〈7〉注射点滴 必要な単語をマスターし、発音できるようになる	教科書p.77-82を予習する(90分)	講義内容を復習し、p.77の振り返りシートを完成すること。(90分)。
担当教員	玉 珍		
第14回	常用表現 〈8〉 <u>常规検査</u> 〈9〉 <u>特殊検査</u> 〈10〉住院出院 必要な単語をマスターし、発音できるようになる	教科書p.83-88を予習する(90分)	授業中学んだ単語を記憶し、会話を練習する(90分)
担当教員	玉 珍		
第15回	常用表現 〈11〉付款窓口 〈12〉 <u>药房指南</u> 必要な単語をマスターし、発音できるようになる 小テスト	教科書p.89-92を予習する 1－14回の授業で学んだことを復習すること(90分)	授業で学んだ単語を使って簡単な会話ができるように復習を行う(90分)
担当教員	玉 珍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験の実施はない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中に書き込んだプリントや小テストを総合評価する。
その他	0	授業に関係のない作業をしている場合(スマホ操作など)欠席と見なす。
教科書		
看護・保健・医療スタッフの基礎中国語 著者:劉建		
参考文献		

指定しない

履修条件・留意事項等

遅刻は減点の対象になるので注意すること。
前期の中国語Ⅰを履修しているか、中国語の基礎をマスターしていることを前提とする。

備考欄

遅刻は減点の対象になるので注意すること。

- ・韓国語の基礎的な読み・書きができる。
- ・韓国語で簡単な自己紹介ができる。

授業の方法

- ・基本的には、パワーポイントと教科書を用いた方法で説明したのち、グループ学習を行う。

ICT活用

- ・Google formを用いた課題提出を行ってもらう。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・ハングルについて ・ハングルの特徴について理解する	ハングル文字について確認しておくこと(90分)	講義で配布した資料および教科書を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	第1課 おはようございますー出会い I ・韓国語で挨拶ができる ・韓国語の母音を発音・書くことができる	教科書p1-4を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p1-4を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	第2課 おはようー出会い II ・韓国語で挨拶ができる ・韓国語の子音を発音・書くことができる	教科書p5-8を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p5-8を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第4回	第3課 さようなら一別れⅠ ・韓国語で挨拶ができる ・濁り音の理解・発音・書くことができる	教科書p9-12を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p9-12を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第5回	第4課 明日またね一別れⅡ ・韓国語で挨拶ができる ・激音の理解・発音・書くことができる	教科書p13-16を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p13-16を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第6回	第1-4課のまとめと復習 ・韓国語で挨拶ができる ・韓国語を発音・書くことができる ・小テスト①	教科書p1-16を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-16を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第7回	第5課 これ、どうですか ・韓国語で尋ねる・答えることができる ・濃音を理解・発音・書くことができる	教科書p17-20を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p17-20を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第8回	第6課 ありがとう ・韓国語で感謝を表現することができる ・半母音を理解・発音・書くことができる	教科書p21-24を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p21-24を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第9回	第7課 ありがとうございます ・韓国語で丁寧に感謝を表現することができる ・パッチムを理解・発音・書くことができる	教科書p25-28を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p25-28を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第10回	第8課 何ですか ・韓国語で質問することができる ・連音を理解・発音することができる ・数字を読むことができる	教科書p32-38を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p32-38を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第11回	第5-8課のまとめと復習 ・韓国語で質問や答えができる ・韓国語を発音・書くことができる ・小テスト②	教科書p17-38を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p17-38を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第12回	第9課 申し訳ありません ・韓国語で謝罪することができる ・弱音化・鼻音化 I を理解・発音することができる	教科書p39-41を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p39-41を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第13回	第10課 私は山崎未来です ・韓国語で自己紹介することができる ・助詞・疑問詞を理解・発音することができる	教科書p42-47を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p42-47を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第14回	第11課 誕生日はいつですか？ ・韓国語で日付を理解・発音することができる ・韓国の記念日を発音することができる	教科書p48-51を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p48-51を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第15回	第1－11課のまとめと復習 ・韓国語を発音・書くことができる ・簡単な会話ができる ・小テスト③	教科書p1-51を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-51を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	筆記・口頭による復習テストで評価する(80%)・授業参加度(20%)
その他	0	なし
教科書		
コミュニケーション韓国語聞いて話そうⅠ 長谷川由起子 白帝社		
参考文献		

指定なし

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

- ・韓国語の基礎的な読み・書きができる。
- ・韓国語で簡単な会話ができる。

授業の方法

- ・基本的には、パワーポイントと配布印刷物を用いた方法で説明したのち、グループ学習を行う。
- ・小テストを行い、理解度を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・第1～11課の復習 ・第1～11課の復習を行う	第1～11課の復習しておくこと (90分)	講義で配布した資料および教科書 を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	第12課 なに学科ですか一所属と学年 ・疑問詞を使うことができる ・助詞の表現ができる	教科書p52-55を読んでおく(90 分)	講義の資料および教科書p52- 55を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	第13課 僕は音楽が好きです ・好みの表現ができる ・助詞の表現ができる	教科書p56-59を読んでおく(90 分)	講義の資料および教科書p56- 59を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第4回	第14課 未来さんの携帯じゃありませんか ・指し示す言葉や所有・所属の表現ができる ・否定文が理解できる	教科書p60-63を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p60-63を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第5回	第15課 彼女いますか？ ・存在表現ができる ・丁寧語・助詞の表現ができる	教科書p64-67を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p64-67を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第6回	第16課 満では19です ・年齢を言うことができる ・助詞の表現ができる	教科書p68-73を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p68-73を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第7回	第12-16課 まとめと復習 ・小テスト①	教科書p52-67を読んでおく、 発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p52-67を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第8回	第17課 K-POPに大いに興味があります ・流音化・2重パッチムが理解できる ・助詞が表現できる	教科書p74-79を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p74-79を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第9回	第18課 大学で習っています① ・否定表現ができる ・助詞が表現できる	教科書p80-87を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p80-87を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第10回	第18課 大学で習っています② ・否定表現ができる ・助詞が表現できる ・逆接の接続語尾が表現できる	教科書p80-87を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p80-87を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第11回	第19課 先週末何をしましたか ・過去形が理解できる ・行き来の目的を表す表現ができる	教科書p88-93を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p88-93を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第12回	第20課 ソウルに旅行しようと思っています ・予定・つもりの表現ができる ・希望表現ができる	教科書p94-99を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p94-99を復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第13回	第17-20課 復習およびまとめ 小テスト②	教科書p74-99を読んでおく、発 音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p74- 99を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第14回	韓国に行くならどこに行く？そこで何を食べる？ グループ 学習 ・韓国の旅行先についてグループで話し合い、予定を計画 する ・計画を発表する	韓国の地理について予習する(90分)	講義の資料や発表資料を復習 する(90分)
担当教員	金 京室		
第15回	第1-20課のまとめと復習 小テスト③	教科書p1-99を読んでおく、発 音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-99 を復習する(90分)
担当教員	金 京室		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	筆記・口頭による復習テストで評価する(80%)・授業参加度(20%)
その他	0	なし
教科書		
コミュニケーション韓国語聞いて話そうⅠ 長谷川由起子 白帝社		
参考文献		

指定なし

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツ I				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール② ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール③ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	アウトドアスポーツ(1) ソフトボール基本練習(キャッチ・スロー・バッティング)を行う。 テニス基本練習(フォアハンド・バックハンド)を行う。	屋外スポーツの重要性・注意事項を考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	アウトドアスポーツ(2) ソフトボールゲーム(キャッチ・スロー・バッティング技術を活用)を行う。 テニスラリー(フォアハンド・バックハンド技術を活用)を行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツⅡ				ナンバリング	1197
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する。 (20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			

第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第6回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第7回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー) 一個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第8回	フットサル(1) ゲーム(技術の応用) ルールを理解し、個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第9回	フットサル(2) ゲーム(技術の応用) 一個人技術を活用し、2人・3人のプレーを生かし、5人でゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。(25分)
担当教員			

第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第14回	モルック(1) ルールを理解しゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめる。 (25分)
担当教員			
第15回	モルック(2) ルールを理解し、戦術を考えながらゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
 天候その他状況により種目が変更となる場合がある
 積極的にプレーに参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		人間発達学				ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	横井 裕一郎						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、専門領域の学習のための基礎を学び、専門用語の読み書きを獲得する科目である。本科目は理学療法学専攻では「小児科学」「子どもの理学療法学」「子どもの理学療法学演習」、作業療法学専攻では「発達障害作業療法治療学」、「発達障害作業療法学演習」の基礎となる科目である。本科目は理学療法学専攻のディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技能を身につけている(知識・技能)」と関連しており、特に「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と強く関連している。また「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」と関連している。また作業療法学専攻では「作業療法を実践するために必要な基本的な知識を身につけている(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と関連している。特に「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」と強く関連している。本科目は正常運動発達、認知機能発達、日常生活動作の発達など、年齢ごとに変化していく機能について基本的知識を修得する科目である。							
授業の概要							
この科目では人間発達がいかなるものであるか、それにどのような要因が影響するのかという事を通して、人間は発達するものとしての理解を深める。胎生期から成人するまでの運動、認知能力、社会性、摂食嚥下、家族関係等の発達から、発達上の課題を学ぶ。発達概念、発達理論、発達検査、運動発達など様々な発達を学習し、発達に影響を及ぼす要因を理解し、人間の発達がどのように起こり得るかについて理解を深める。さらに成人・老人までを生涯発達と捉え、各ライフステージの課題を理解することで、障害学や疾患との結びつきを考える基礎を学習する。							
到達目標							

1. 人間の発達とは何か説明できる
2. 発達検査・評価の種類を学習して必要に応じた選択ができる
3. 運動発達と姿勢反射の関係を説明できる
4. 子どもの発達には環境が影響することを説明できる

授業の方法

教科書、教科書の内容をわかりやすく説明するためにパワーポイント、動画、配付資料を使用して講義形式ですすめる。理解度を確認するために、講義中にまとめレポート、15回目の講義の中でまとめテストを行う。

ICT活用

Google classroomを使用した事前の資料配付、必要に応じて動画配信を行う。

実務経験のある教員の教育内容

小児理学療法士の34年の実務経験があり、現在でも地域の発達支援センターにて、保護者を含めた子どもの発達支援を行っている。新生児・乳幼児から学齢児、大人まで成長した人の支援の経験を元に、発達の遅れの児、発達性協調運動障害などの発達支援に必要な内容を教育する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内のレポート作成は、授業時間内に課題を提示する。レポートについては授業時間に回収して、確認後、必要に応じて紙面に記載してフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	発達概念について 発達の定義、発達の原則などについて学習する	教科書第1章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第2回	発達の理論 ライフサイクルに沿った心理、精神的な発達について学習する	教科書第2章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第3回	発達検査 子どもを理解するために必要な発達検査を学習する。また障害に応じた発達検査についても学習する	教科書第3章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			

第4回	姿勢反射・反応 子どもの発達の背景、基盤となる反射・反応を学習する	教科書第4章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第5回	発達① 0～6ヵ月までの知覚運動発達などを学習する。	教科書5章・6章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第6回	発達② 7～12ヵ月までの知覚運動発達などを学習する。	教科書7章・8章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			

第7回	発達③ 6歳までの知覚運動発達などを学習する	教科書9章・10章を読んでおく (90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第8回	発達④胎児期 胎児期からすでに発達が始まっていることを学習する	教科書第11章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第9回	発達⑤上肢の発達 上肢は支持機能から操作機能へ発達する。その過程について学習する。	配布資料を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			

第10回	発達⑥言語の発達 言葉の発達の基礎となる心の発達、構音の発達について学習する	配布資料を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第11回	発達⑦摂食嚥下の発達 食べる発達の基礎は口腔運動が重要である。また構音の発達とも密接に関係していることを学習する	配布資料を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第12回	発達⑧ 遊び・ADL(食事・排泄・更衣動作)の発達について学習する	教科書第12章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			

第13回	発達⑨ 感覚・知覚・視覚認知・社会性の発達について学習する	教科書第13章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第14回	発達⑩ 学童・青年・成人・老年期の発達について学習する	教科書第14章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第15回	人間発達学のまとめ学習 不足している講義とまとめテストを行う	1回目から14回目までの教科書、資料を学習する(180分)	まとめテスト内容の再確認(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	まとめテスト(100点)、授業中の参加態度
その他	50	授業前・中のレポート作製は1回5点で14回(合計70点)行います。
教科書		
人間発達学/上杉雅之監修/医歯薬出版		
参考文献		

人間発達学/浅野大喜/メディカルビュー

履修条件・留意事項等

遅刻3回を1回の欠席として計算する。理解度を確認するために予習・復習すること。
授業前・中のレポート作成、まとめテストを合わせて6割に達しない場合は、不可保留とし、再テストを行う

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		解剖学Ⅰ				ナンバリング	2202
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 一志、池野 秀則						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。(関心・意欲・態度)」と「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」こととも関係する。 生理学Ⅰ,Ⅱ、運動学Ⅰ,Ⅱと関連し、基礎解剖学実習(理学療法学専攻)、解剖学実習(作業療法学専攻)の基礎となる。							
授業の概要							
人体の基本構造を細胞・組織・器官・器官系(循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚系)レベルで、系統的に学ぶ。また、構造に基づいた機能との関連を学び、理学・作業療法士としての人体の基本的構造とその機能、ならびに器官の相互作用を理解する。							
到達目標							

1. 骨格全体の成り立ち, 個々の骨と筋との関連を説明できる.
2. 関節と靭帯の構造と機能・作用を説明できる.
3. 骨格筋の構造(起始・停止, 走行, 神経支配)とその作用を説明できる.
4. 脊髄・脳の構造と機能を説明できる.
5. 脊髄神経, 脳神経, 自律神経の走行と機能・作用を説明できる.

授業の方法

教科書および配布資料を基にした講義形式で進める。
適宜パワーポイントを用いる。
毎回、講義内容確認のため、小テストを行う。

ICT活用

適宜Webにて講義資料や演習問題、補助教材などを配布し、予習と自主学習を促す。
必要に応じてWebアプリのvisible body 等を活用し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

池野: 老健併設の総合病院に理学療法士としてまた、専門学校で理学療法学科教員として勤務した経験を活かして筋骨格系についての授業を行う。
木村: 該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。
フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	解剖学総論 解剖学の歴史 骨学総論 骨の種類・形態・構造・骨の成長・骨の機能・滑膜性連結(関節)の形態による分類について学ぶ。	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第2回	運動器の解剖学 脊柱 脊柱の形・構成、椎骨の一般的特徴、個々の椎骨(頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨)について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	頭蓋(脳頭蓋・顔面頭蓋)について学ぶ 新生児の頭蓋について学ぶ 胸郭(肋骨・胸椎・胸骨)の連結について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		

第4回	上肢帯骨(鎖骨・肩甲骨)、自由上肢骨について学ぶ。 手根管について学ぶ。 上肢の靱帯について学ぶ 手指の関節の呼び方について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		
第5回	下肢帯骨(寛骨)について学ぶ 骨盤(寛骨・仙骨・尾骨)について学ぶ 自由下肢骨について学ぶ ショパール関節・リスフラン関節について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		
第6回	筋学総論 筋の種類、筋の付着、随意筋・不随意筋,平滑筋・横紋筋について学ぶ 起始・停止(停止が起始に近づく回転運動)について学ぶ 筋膜・筋間隔について学ぶ 肘関節に働く筋・支配神経について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		

第7回	前腕(回内・回外)に働く筋と支配神経について学ぶ 肩関節に働く筋と支配神経について学ぶ 上肢帯骨(肩甲骨)挙上・下制に働く筋・支配神経について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		
第8回	上肢帯骨(肩甲骨)内転・外転・上方回旋・下方回旋,上肢帯骨(鎖骨)下制に働く筋・支配神経について学ぶ 手関節に働く筋と支配神経について学ぶ 腱板について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		
第9回	膝関節,股関節に働く筋・支配神経について学ぶ 骨盤挙上に働く筋と神経について学ぶ 股関節の複合運動について学ぶ 下肢の靱帯および鵞足、スカルパ三角について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		

第10回	足関節及び足部に働く筋・支配神経について学ぶ 体幹に働く筋・支配神経について学ぶ 吸気運動(吸気・強制呼気)に働く筋・支配神経について学ぶ 頸部(屈曲・伸展)の筋について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		
第11回	神経系1 神経組織の構成, 神経細胞の構造、神経組織の発生について学ぶ.	事前に配布する講義資料と教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと.(90分)
担当教員	木村 一志		
第12回	神経系2 脳の構造・機能 ― 大脳, 小脳, 脳幹, 脳神経について学ぶ.	事前に配布する講義資料と教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと.(90分)
担当教員	木村 一志		

第13回	神経系3 脊髄の構造・機能, 脊髄神経, 脊髄反射, 脳脊髄液, 脳と脊髄の血管について学ぶ.	事前に配布する講義資料と教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと.(90分)
担当教員	木村 一志		
第14回	感覚器 体性感覚, 視覚, 聴覚・平衡覚, 嗅覚, 味覚の感覚受容器とその神経伝導路について学ぶ.	事前に配布する講義資料と教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと.(90分)
担当教員	木村 一志		
第15回	まとめと試験 これまでに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1～14回の講義内容を復習しておくこと。(150分)	まとめの試験の出題内容について確認しておくこと。(30分)
担当教員	池野 秀則		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験、講義ごと的小テスト、授業への参加態度。
その他	0	
教科書		
1.PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 2.イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社 3.ネッター解剖学アトラス 相磯貞和・今西宣品監訳 南江堂 4.ネッター解剖学カラーリングテキスト 相磯貞和監訳 南江堂		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

生理学との関連で理解を深めること。
 6回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)
 授業を欠席する場合は事前に連絡すること。
 欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。
 欠席した授業や試験の補習や追試験を希望する場合は申し出ること。
 欠席理由が病院受診・忌引きなどやむを得ない事由の場合に限り、補習の受講・追試験の受験を認める。
 また、欠席届の提出が無い場合は再試験の受験を認めない。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		解剖学Ⅱ				ナンバリング	2203
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	池野 秀則						
授業の位置づけ							
理学療法学科のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことに特に関係のある科目である。 作業療法学科のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことに特に関係がある科目である。 解剖学Ⅰでは筋骨格系と神経系を中心に扱い、続く解剖学Ⅱでは内臓について扱う。生理学とともに身体の構造と機能を理解することを目的とし、内科学・病理学などを学ぶ際の基礎となる。							
授業の概要							
解剖学Iで学習した基礎知識を基に、筋骨格系(骨学、関節・靱帯学、筋学)と神経系を系統的に学ぶ。また、構造に基づいた機能との関連を学び、理学・作業療法士としての人体の運動の機構とその制御機構、障害を理解する。それらを基盤とし、応用するための基礎知識を深める。							
到達目標							

1. 細胞・組織の構造と機能を説明できる.
2. 循環器系の構造と機能を説明できる.
3. 消化器系, 呼吸器系の構造と機能を説明できる.
4. 泌尿器系, 生殖器の構造と機能を説明できる.
5. 内分泌系, 人体発生の基礎について説明できる.

授業の方法

教科書および配布資料を基にした講義形式で進める.
適宜パワーポイントを用いる.
毎回講義の初めに確認小テストを行う.

ICT活用

適宜Webにて学習の補助教材の配布などを予定.

実務経験のある教員の教育内容

老健施設併設総合病院勤務等の経験から理学療法及び作業療法の臨床に即した情報を加えながら講義を進めていく.

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義開始時に準備学習欄に記載された内容の小テストを行い, 適宜フィードバックとして解説を行う.
この小テストは出席票を兼ねる.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	循環器系1 血液血管の役割 胸大動脈・腹大動脈・頸動脈について学ぶ 上腕動脈～手の動脈について学ぶ	第IV章循環器系の血液・血管系の役割、血管の構造についてあらかじめよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、とくに血液・血管の役割について確認しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	循環器系2 腹腔動脈・上腸間膜動脈・下腸間膜動脈について学ぶ 骨盤の動脈・腹壁動脈について学ぶ 大腿～足の動脈について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	循環器系3 静脈系 上大静脈・上肢の静脈・皮静脈について学ぶ 肝門脈・奇静脈・下肢の静脈について学ぶ リンパ系 一次リンパ組織・二次リンパ組織について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	循環器系4 心臓の形態と機能について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	呼吸器系 気管・気管支・気道の組織について学ぶ 肺の形態と機能について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	消化器系1 消化器系の機能と支配神経について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	消化器系2 口腔について学ぶ 唾液腺・咽頭・リンパ性咽頭輪について学ぶ 食道について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	消化器系3 胃・小腸(十二指腸)について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	消化器系4 小腸(空腸・回腸)・大腸について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	消化器系5 肝臓・胆嚢・膵臓について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	泌尿器系1 腎臓・尿管について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	泌尿器系2 膀胱・尿道について学ぶ 生殖器系 男女の生殖器について学ぶ 乳房と乳腺について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	細胞 核・細胞骨格・器官・組織について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の 当該部分をよく読んでおくこと (90分)	重要事項をノートにまとめ、確認 しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	内分泌系 下垂体(前葉・後葉)・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎に ついて学ぶ 人体発生の基礎について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の 当該部分をよく読んでおくこと (90分)	重要事項をノートにまとめ、確認 しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	まとめの試験 これまで学んだ内容について確認を行う	これまで学んだ授業内容につい てまとめ、復習しておくこと(90分)	わからなかった試験問題につい て調べ、復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認小テスト10% まとめの試験90%で60%以上を単位取得とする
その他	0	
教科書		
PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村謙児著 中外医学社 ネッター解剖学アトラス 相磯貞和訳 南江堂 ネッター解剖学カラーリングテキスト 第3版		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
なし
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学 I				ナンバリング	2210
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 一志						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係する。 生命科学、生理学II、解剖学Iと関連し、生理学III、解剖学II、病理学、生理学演習の基礎となる。							
授業の概要							
医療系分野の必須基礎知識である人体の生理機能を学習する。複雑な人体の生理機能のうち、まずは生体の生命活動を維持するために必要な体液・血液と循環・呼吸、消化と吸収・排泄、ホルモンなどの機能について、解剖学の知識を活用しながら学習する。							
到達目標							

細胞、組織、骨・軟骨、筋、体液・血液、循環に関する基本用語を説明することができる。
骨代謝、筋収縮、循環の仕組みと体液成分の機能を説明することができる。
関連する医学専門書が読解できる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で進める。
毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。
最終回にまとめの試験を行う。

ICT活用

Webにて講義資料や演習問題、補助教材などを配布し、予習と自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。
フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	細胞:生命の基本単位である細胞の構成要素と機能について理解する。 細胞内小器官の機能について理解する。細胞が行う生命活動について理解する。	事前配布資料と教科書のp2-6を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第2回	組織:人体を構成する組織について理解する。上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の構造と機能について理解する。 骨・軟骨組織:骨・軟骨・関節の構造と機能について理解する。 骨のリモデリングについて理解する。	事前配布資料と教科書のp133～141を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第3回	筋組織:骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能について理解する。	事前配布資料と教科書のp118-132,p320を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第4回	血液、体液1:体液の組成とその働きを理解する。 血液、血球の役割について理解する。	事前配布資料と教科書のp188-193を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第5回	血液、体液2:血液凝固と血栓線溶の仕組みについて理解する。	事前配布資料と教科書のp194-197を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第6回	循環1:血液循環について理解する。心臓の働きと刺激伝導系について理解する。心電図と心周期について理解する。	事前配布資料と教科書のp156-162、p287-294を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第7回	循環2:血管と血圧について理解する。血圧調節の仕組みを理解する。リンパ管とリンパ液の循環について理解する。	事前配布資料と教科書のp163-169、p280-286を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第8回	まとめと試験 これまでに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1～7回の講義内容を復習しておくこと。(150分)	まとめの試験の出題内容について確認しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験、講義ごとの小テスト、授業への参加態度。60%以上の得点を合格とする。
その他	0	
教科書		
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学、角田亘・後藤純信編集、メジカルビュー社		
参考文献		
PTOT生理学、岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範著、医学書院 標準生理学、本間研一監修、医学書院 生理学テキスト、大地陸男 著、文光堂 シンプル生理学、貴邑富久子・根来英雄著、南江堂 カラーイラストで学ぶ集中講義 生理学、岡田隆夫、メジカルビュー社 細胞の分子生物学、中村桂子・松原健一監訳、ニュートンプレス		
履修条件・留意事項等		

解剖学や生命科学との関連で理解を深めること。
 3回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)
 授業を欠席する場合は事前に連絡すること。
 欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。
 欠席した授業や試験の補習や追試験を希望する場合は申し出ること。
 欠席理由が病院受診・忌引きなどやむを得ない事由の場合に限り、補習の受講・追試験の受験を認める。
 また、欠席届の提出が無い場合は再試験の受験を認めない。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学Ⅱ				ナンバリング	2211
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 一志						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係がする。 生命科学、生理学I、解剖学Iと関連し、生理学III、解剖学II、病理学、生理学演習の基礎となる。							
授業の概要							
脳機能を始めとする神経機能と情報伝達、脳血流の維持と血流調節メカニズムについて、細胞レベルから臓器器官まで幅広く理解し、神経・循環障害とリハビリテーションの機能回復について生理科学的観点から学習する。							
到達目標							

呼吸、消化と吸収、代謝、排泄に関する基本用語を説明することができる。
呼吸、消化と吸収、排泄、体液成分調節、代謝の仕組みと体液成分の機能を説明することができる。
関連する医学専門書が読解できる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で進める。
毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。
最終回にまとめの試験を行う。

ICT活用

Webにて講義資料や演習問題、補助教材などを配布し、予習と自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。
フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	呼吸1:呼吸器の構造と機能を理解する。 呼吸運動について理解する。	事前配布資料と教科書のp178-181を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第2回	呼吸2:ガス交換、呼吸の調節について理解する。 肺気量曲線と換気障害について理解する。	事前配布資料と教科書のp171-177、p182-187、p298、p304-311を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第3回	消化と吸収1:消化管の基本構造を理解する。唾液の役割とその分泌の仕組みを理解する。 嚥下の仕組みを理解する。 胃、小腸、大腸の働きについて理解する。 排便の仕組みを理解する。	事前配布資料と教科書のp214-218、p222-228を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第4回	消化と吸収2:肝臓、膵臓の機能を理解する。 各栄養素の消化と吸収の仕組みについて理解する。	事前配布資料と教科書のp218-222を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第5回	栄養と代謝、体温調節:エネルギー代謝について理解する。 体温調節の仕組みについて理解する。	事前配布資料と教科書のp261-269を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第6回	体液の調節と尿の生成1:腎臓の基本的構造と機能について理解する。 尿の生成過程と体液量調節について理解する。	事前配布資料と教科書のp204-211を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第7回	体液の調節と尿の生成2:膀胱と畜尿・排尿の仕組みについて理解する。 体液の酸塩基平衡の仕組みについて理解する。	事前配布資料と教科書のp211-213、p270-277を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第8回	まとめと試験 これまでに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1～7回の講義内容を復習しておくこと。(150分)	まとめの試験の出題内容について確認しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験、講義ごとの小テスト、授業への参加態度。60%以上の得点を合格とする。
その他	0	
教科書		
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学、角田亘・後藤純信編集、メジカルビュー社		
参考文献		
PTOT生理学、岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範著、医学書院 標準生理学、本間研一監修、医学書院 生理学テキスト、大地陸男 著、文光堂 シンプル生理学、貴邑富久子・根来英雄著、南江堂 カラーイラストで学ぶ集中講義 生理学、岡田隆夫、メジカルビュー社 細胞の分子生物学、中村桂子・松原健一監訳、ニュートンプレス		
履修条件・留意事項等		

解剖学や生命科学との関連で理解を深めること。
 3回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)
 授業を欠席する場合は事前に連絡すること。
 欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。
 欠席した授業や試験の補習や追試験を希望する場合は申し出ること。
 欠席理由が病院受診・忌引きなどやむを得ない事由の場合に限り、補習の受講・追試験の受験を認める。
 また、欠席届の提出が無い場合は再試験の受験を認めない。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学Ⅲ				ナンバリング	2212
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 一志						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係する。 生理学Ⅰ、Ⅱ、解剖学Ⅰ、Ⅱと関連し、生理学演習、応用解剖学演習(理学療法学専攻)、解剖学実習(作業療法学専攻)、高次脳機能障害学の基礎となる。							
授業の概要							
脳機能を始めとする神経機能と情報伝達のメカニズムについて、分子・細胞レベルから臓器に至るまで幅広く学習する。感覚受容、運動調節、自律神経系、内分泌、生殖・発生、脳の可塑性や高次機能の仕組みを生理学的観点から学び、リハビリテーションによる機能回復について理解する。							
到達目標							

神経細胞の活動を理解し、説明することができる。
 神経細胞による情報伝達の仕組みを理解し、説明することができる。
 感覚受容の仕組みを理解し、説明することができる。
 中枢神経系による運動調節の仕組みを理解し、説明することができる。
 自律神経・内分泌や生殖の仕組みを理解し、説明することができる。
 その他の脳の働きを理解し、説明することができる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で進める。
 毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。
 まとめの試験を2回行う。

ICT活用

Webにて講義資料や演習問題、補助教材などを配布し、予習と自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。
 フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	神経科学概論 神経系の成り立ちについて理解する。脳・脊髄の構造と機能について理解する。	教科書のp19-26を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第2回	神経の情報伝達機構 神経情報の伝達メカニズムについて理解する。 イオンチャネルと活動電位、シナプスの構造と機能、神経筋接合部、神経伝達物質について理解する。	事前配布資料や教科書のp7-18を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第3回	感覚の受容と脳における情報処理1 視覚、聴覚の受容機構とその神経伝導路を理解する。	事前配布資料や教科書のp98-102、104、105を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			

第4回	感覚の受容と脳における情報処理2 平衡覚、嗅覚、味覚の受容機構とその神経伝導路を理解する。	事前配布資料や教科書のp93、97、98、102、103を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第5回	感覚の受容と脳における情報処理3 体性感覚と内臓感覚の受容機構とその神経伝導路を理解する。	事前配布資料や教科書のp87-96を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第6回	脳と脊髄による運動制御1 運動野―皮質脊髄路による運動制御の仕組みを理解する。 脊髄反射による運動制御の仕組みを理解する。	事前配布資料や教科書のp34、57-62、79-86を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			

第7回	脳と脊髄による運動制御2 大脳基底核による運動制御の仕組みを理解する。小脳による運動制御の仕組みを理解する。	事前配布資料や教科書のp36-44、52-56を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第8回	ゲスト講師(北海道大学医学研究科神谷温之教授)による特別講義 シナプスの可塑性、記憶と学習のメカニズムについて理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(30分)
担当教員			
第9回	視床下部と内分泌、自律神経1 視床下部による下垂体の内分泌制御、交感神経と副交感神経による各臓器の機能調節について理解する。	事前配布資料や教科書のp107-117、229-235を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			

第10回	視床下部と内分泌、自律神経2 松果体、副腎、甲状腺、副甲状腺、膵臓が分泌するホルモンの機能とその調節機構について理解する。	事前配布資料や教科書のp235-243を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第11回	生殖と発生 女性生殖器の構造と機能を理解する。男性生殖器の構造と機能を理解する。ヒトの発生と老化について理解する。	事前配布資料や教科書のp244-260、p255-260を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第12回	神経発生と脳の可塑性 神経系発生のメカニズムについて理解する。 神経回路形成の仕組みを理解する。 脳の可塑性について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			

第13回	脳と行動、脳の高次機能 脳と行動の関係について理解する。摂食行動、動機づけ、情動、脳波と睡眠について理解する。脳の言語処理機能について理解する。	事前配布資料や教科書のp30-31、p322-325を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第14回	成長と老化 成長と老化の過程を理解する。老化により起こる人体生理機能の変化を理解する。	事前配布資料や教科書のp255-260を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第15回	まとめと試験2 第1-14回までに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1-14回までの講義内容を復習しておくこと。(40分)	試験の出題内容について確認しておくこと。(5分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験、講義ごとの小テスト、授業への参加態度。60%以上の得点を合格とする。
その他	0	
教科書		
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学、角田亘・後藤純信編集、メジカルビュー社		
参考文献		

PTOT生理学、岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範著、医学書院
 標準生理学、本間研一監修、医学書院
 神経科学ー脳の探求ー、藤井聡監訳、西村書店
 エッセンシャル神経科学、前田正信 監訳、丸善
 カールソン神経科学テキスト、中村克樹監訳、丸善
 カンデル神経科学、宮下保司 監訳、メディカルサイエンスインターナショナル
 もっとよくわかる！脳神経科学、工藤佳久著、羊土社

履修条件・留意事項等

解剖学や運動学との関連で理解を深めること。
 6回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)
 授業を欠席する場合は事前に連絡すること。
 欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。
 欠席した授業や試験の補習や追試験を希望する場合は申し出ること。
 欠席理由が病院受診・忌引きなどやむを得ない事由の場合に限り、補習の受講・追試験の受験を認める。
 また、欠席届の提出が無い場合は再試験の受験を認めない。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学演習				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 一志、大川 浩子、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係する。生理学I、II、IIIと関連し、作業療法研究法演習I、IIの基礎となる。							

実験を行うことにより人体の生理機能を実感できる。
 実験を通じて人体の構造と機能をより深く理解し、その説明ができる。
 演習ガイドをもとに実験を正確に遂行し、実験結果を適切に解析し、妥当なレポートを作成できる。

授業の方法

実験の目的・方法については演習ガイドによる説明を行い、実験手技についてはデモンストレーションを行う。毎回、異なるテーマの実験を行う。毎回、実験後に実験目的、内容、実験結果および実験結果の解析・解釈をまとめたレポートを作成する。全員が授業計画通り全ての実験を行うが、グループごとに行う実験の順番は異なる。詳細は生理学演習ガイドに記載する。

ICT活用

一部の実験項目については、演習で使用した資料をWebで公開し、レポート作成への活用を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしてレポートにコメントを付して返却します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 実験項目と内容の説明を行う(生理学演習ガイド配布)。 レポートの作成法や評価のポイントについて説明する。 グループ分け、実習室使用のルール、注意事項などについてガイダンスを行う。	なし	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第2回	筋電図1:上肢筋電図 等張性・等尺性運動時の筋電図を記録する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第3回	筋電図1のデータ整理とレポート作成 筋電図記録から屈筋と伸筋の働きを解析する。 解析結果をもとにレポートを作成する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		

第4回	筋電図2:運動神経伝導速度 上肢筋支配の神経を電気刺激し、神経伝導速度を記録する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第5回	筋電図2のデータ整理とレポート作成 誘発筋電図から運動神経の伝導速度を求める。 解析結果をもとにレポートを作成する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第6回	感覚1:視覚 網膜上の盲点の位置測定を行う。 錯視図を参考に視覚のあいまいさを実感する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		

第7回	感覚1のデータ整理とレポート作成 網膜の中心(中心窩)から盲点までの距離を推定する。 左目について盲点の存在を確認し、盲点補完作用の意義を考える。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第8回	感覚2:聴覚 気導・骨導聴力を測定する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第9回	感覚2のデータ整理とレポート作成 気導聴力と骨導聴力の聴覚伝導路の違いを確認する。 聴力レベルと周波数及び年齢との関係を考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		

第10回	心電図:正常心電図の導出記録 肢導出と胸部導出による心電図の記録を行う。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第11回	心電図のデータ整理とレポート作成 心電図の解析を行い、アイントーベン三角形から心臓の電気軸を求める。 心電図をP、QRS、T波について潜時振幅を測定する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第12回	血圧測定:触診法と聴診法により血圧を測定する。 姿勢変化による血圧の変動を測定する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		

第13回	血圧測定 of データ整理とレポート作成 男女別に血圧の平均値を求め、グラフにする。 姿勢変化による血圧変動の機序を考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第14回	呼吸機能: スパイロメータによる呼吸機能の測定 スパイロメータを用い呼吸機能を測定する。 呼吸基本値の測定と運動・体位変換による呼吸機能の変化を測定する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
第15回	呼吸機能 of データ整理とレポート作成 スパイロメータによる測定結果の解析を行う。 呼吸機能に影響を与える因子について考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(180分)
担当教員	大川 浩子、木村 一志、柴田 恵理子、神谷 温之、南部 路治		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポートと実習参加態度で評価する。 全ての授業に参加し、レポートを全て提出しないと単位を認定しない。
その他	0	
教科書		
生理学演習ガイドを配布する。		
参考文献		

新訂生理学実習書、日本生理学会編、南江堂
 コメディカルのための生理学実習ノート、杉春夫著、南江堂
 生理学実習NAVI、大橋敦子監修、医歯薬出版
 生理学I、II、IIIの授業で使用した教科書

履修条件・留意事項等

全ての授業に出席すること。
 全てのレポートを期限内に提出すること。
 遅刻・欠席は厳禁。
 白衣、ネームプレート、実習靴を必ず着用すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学 I				ナンバリング	2226
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高田 雄一、金子 翔拓						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関係がある科目である。 解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、人体の運動・動作における関節運動機能を学ぶ。特に運動器(筋骨格系)の機能解剖を中心に身体運動の特徴を理解する。また、姿勢や動作の分析および解析の基礎を学び、理学療法学、作業療法学の基礎を理解する。							

1. 力学の基礎、運動器の基本構造と機能について理解できる
2. 身体各関節の構造と機能について理解できる
3. 姿勢、歩行の基礎について理解できる

授業の方法

パワーポイントもしくは教科書、その両方を用いた講義形式にて説明する。
各回にテストを実施して理解度を確認する。

ICT活用

Google classroomを用いて課題を提出する。

実務経験のある教員の教育内容

高田、金子ともに整形外科領域のリハビリテーションに従事しており、その経験を踏まえて授業を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

1～14回に確認テストを実施して理解度を確認した後に解説を行う。
15回目には1～14回の内容についてテストを行い、それまでに学んだ内容について知識の整理と理解を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 運動器の基本構造と機能① 骨・関節と筋の基本構造と機能について学習する	運動学P12-19, 運動学(羊土社) P27-43を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第2回	運動器の基本構造と機能② 骨・関節と筋の基本構造と機能について学習する	運動学P12-19, 運動学(羊土社) P27-43を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第3回	股関節の運動学について学習する	運動学P55-62, 運動学(羊土社) P118-124を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		

第4回	膝関節の運動学について学習する	運動学P63-72, 運動学(羊土社)P125-134を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第5回	足関節の運動学について学習する	運動学P73-82, 運動学(羊土社)P135-147を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第6回	脊柱・体幹の運動学① 頸椎・胸椎・胸郭について学習する	運動学P83-90, 運動学(羊土社)P95-110を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		

第7回	脊柱・体幹の運動学② 腰椎・骨盤 顔面および頭部の運動学について学習する	運動学P91-99, 運動学(羊土社) P111-117を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまと めておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	生体力学 力と運動、姿勢と姿勢制御について学習する	運動学P2-10, 運動学(羊土社) P10-26, 運動学P111-119, 運 動学(羊土社)P148-152を読ん で予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまと めておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第9回	歩行について学習する	運動学P121-130, 運動学(羊土 社)P153-165を読んで予習して おくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまと めておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		

第10回	正常歩行、異常歩行について学習する	運動学P121-130, 運動学(羊土社)P153-165を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第11回	肩複合体の運動学について学習する	運動学P21-32, 運動学(羊土社)P63-70を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	肘関節・前腕の運動学について学習する	運動学P33-42, 基運動学(羊土社)P71-75を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第13回	手関節・手指関節の運動学について学習する①	運動学P43-54, 運動学(羊土社)P76-87を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	手関節・手指関節の運動学について学習する②	運動学P43-54, 運動学(羊土社)P76-87を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	全体のまとめとテスト	1-14回までの内容を整理しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1-14回に実施する確認テスト、出席態度等(30%) 15回に実施するテスト:6割以上合格(70%)
その他	0	なし
教科書		
運動学/石川朗、種村留美/株式会社 中山書店 運動学第2版 (PT・OTビジュアルテキスト専門基礎)/山崎敦 /羊土社		
参考文献		

基礎運動学第6版/中村隆一著/医歯薬出版

履修条件・留意事項等

解剖学や生理学との関連で理解を深めること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	大森 圭、橋田 浩、金子 翔拓、鈴木 信						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」に関連し「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」に関係する。「運動学Ⅰ」と関連し「運動学実習」の基礎となる。							

- ・デコおよび重心について説明できる。
- ・床反力、床反力作用点について説明できる。
- ・関節モーメントと筋活動について説明できる。
- ・歩行のバイオメカニクスを説明できる。
- ・四肢の運動学各論を説明できる。
- ・脊柱の運動学各論を説明できる。

授業の方法

パワーポイント、印刷資料を活用しながら講義形式で行う。
確認テストを行い、フィードバックとして確認テストの解説を行う。

ICT活用

講義は状況に応じてオンライン授業で行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

出席と理解度確認を兼ねて小テストを行い、回収後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	身体運動のバイオメカニクス①(大森):力の合成と分解および生体におけるデコについて理解する	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	身体運動のバイオメカニクス②(大森):重心の求め方および速度、加速度について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第3回	身体運動のバイオメカニクス③(大森):床反力と重心加速度について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		

第4回	身体運動のバイオメカニクス④(大森):床反力作用点(COP)とは何か理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第5回	身体運動のバイオメカニクス⑤(大森):関節モーメントのパワーと筋活動について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第6回	身体運動のバイオメカニクス⑥(大森):立ち上がりのバイオメカニクスについて理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		

第7回	身体運動のバイオメカニクス⑦(大森):歩き始めのバイオメカニクスについて理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第8回	身体運動のバイオメカニクス⑧(大森):歩行のバイオメカニクス1 重心と床反力作用点について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	身体運動のバイオメカニクス⑨(大森):歩行のバイオメカニクス2 重心の動きを滑らかにする機能について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		

第10回	身体運動のバイオメカニクス⑩(大森):歩行のバイオメカニクス3 歩行の観察-OGIGの方法について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第11回	運動学各論①(橋田):下肢の運動学(股関節、膝関節、足関節)について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第12回	運動学各論②(橋田):脊柱の運動学(顎関節、頸椎、胸椎)について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第13回	運動学各論③(橋田):脊柱の運動学(腰椎、骨盤)について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	運動学各論④(金子):上肢の運動学(肘関節)について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	鈴木 信		
第15回	運動学各論⑤(金子):上肢の運動学(手および手指)について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	鈴木 信		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	復習小テスト、授業参加態度
その他	0	なし
教科書		
基礎バイオメカニクス第2版/山本澄子 他 著/医歯薬出版株式会社 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版/Donald A. Neumann/医歯薬出版株式会社		
参考文献		

基礎運動学 第6版/中村隆一 他 著/医歯薬出版株式会社
 観察による歩行分析/Kristen Gotz-Neumann著 月城慶一 他 訳/医学書院

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学実習				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	大森 圭、橋田 浩、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係する。							

- ・運動器(筋・骨格)系の体表解剖を理解し触診ができる
- ・観察による姿勢、歩行、動作の分析ができる
- ・機器を使用した動作分析を理解できる
- ・上肢、手指の運動・動作解析ができる

授業の方法

各授業はじめに配布物やパワーポイント等にて実習の説明と講義を行う。その後、少人数グループに分かれて課題の観察記録や計測を行う。グループごとでディスカッションとまとめを行い、レポート作成し提出する。

ICT活用

原則使用しない。(必要に応じてグーグルクラスルームを活用する。)

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業内あるいはオンラインやメール等での質疑応答やディスカッションおよび課題レポートや次回授業時などでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・運動器(筋・骨格)と関節運動 下肢下肢二関節筋の運動学的影響について	下肢二関節筋について解剖学 と運動学の復習と知識の整理 (90分)	下肢二関節筋の運動学的影響 についての整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第2回	・歩き始めの動作解析 歩きはじめのCOPの変化について	歩きはじめの運動学的特徴の復 習と知識の整理 (90分)	歩きはじめのCOPについての整 理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第3回	・定常歩行と応用歩行 歩行中のCOPの変化について	歩行中のCOPについての復習と 知識の整理 (90分)	歩行中のCOPの変化について の整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		

第4回	・姿勢観察 座位・立位の姿勢観察について	座位および立位の運動学的特徴の復習と知識の整理 (90分)	座位・立位の姿勢観察の整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第5回	・動作観察と解析 寝返りおよび立ち上がり動作の観察と運動学的解析	寝返り・立ち上がり動作の運動学的特徴の復習と知識の整理 (90分)	寝返り・立ち上がり動作の整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第6回	・歩行観察と解析 正常歩行観察と解析について	正常歩行についての復習と知識の整理(90分)	正常歩行観察と解析の整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		

第7回	運動器(筋・骨格)と関節運動1・頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖と触診について	頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖の知識の整理(90分)	頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖と触診の確認(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第8回	運動器(筋・骨格)と関節運動2・体幹、下肢帯と下肢の体表解剖と触診について	体幹、下肢帯と下肢の体表解剖の知識の整理(90分)	体幹、下肢帯と下肢の体表解剖と触診の確認(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第9回	上肢の運動学実習1・手指・手関節・前腕・肘関節の運動学実習	手指・手関節運動の整理(90分)	手指・手関節運動の確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		

第10回	上肢の運動学実習2・上肢の運動・動作解析実習	手指・手関節運動の整理(90分)	手指・手関節運動の確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第11回	上肢の運動学実習3 ・ 肩関節・肩甲上腕リズムについて	肩関節・肩甲上腕リズムの知識の整理(90分)	肩関節・肩甲上腕リズムの確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第12回	上肢の応用的動作・物品操作に関わる運動学と動作分析	上肢の応用的動作の知識の整理(90分)	物品操作に関わる運動学と動作分析の確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席、参加態度、課題レポート、理解度等により総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
・観察による歩行分析 訳 月城慶一ら 医学書院 ・基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版株式会社		
参考文献		

・筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A.Neumann 医歯薬出版株式会社

履修条件・留意事項等

必要資料は随時配布します。
実習科目につき、白衣、Tシャツ、短パンを用意してください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		リハビリテーション工学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘、田中 栄一、梅田 信吾						
授業の位置づけ							
リハビリテーションにおける身体機能および能力の補助的な手段に多様な機器等が開発されており、医療から福祉、介護までその領域は広く、その特性を工学的な視点から実用性に至るまでの視点を身につけるための科目である。作業療法および理学療法を実践するために必要な基本的知識および技能を身につけるための科目である。ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」 「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」 「幅広く教養を高め、豊かな人間性が高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」 「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」 「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」 と関連している。							

リハビリテーション工学の概要を理解し、説明できる。
車いすの種類や構造、その適応について理解し説明できる。
自助具、医療・福祉機器等を用いた生活の支援方法について理解し、説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で進める。また、最新のトピックス等の情報も適宜、提供する。
理解度についてまとめのテストを用いて確認する。

ICT活用

Google classroom等を用いた資料提供やフィードバック等を実施する予定である。

実務経験のある教員の教育内容

全ての教員がリハビリテーション工学に携わる実務経験を有する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜、質問を受けます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	リハ工学総論。リハビリテーション工学の歴史をはじめ福祉機器の開発や医学と工学の連携などリハビリテーション工学の概要を学習する。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	梅田 信吾		
第2回	車椅子の種類、構造など身体機能に合わせた車椅子の知識や技術について学習する	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	梅田 信吾		
第3回	コミュニケーションとリハ工学 ・コミュニケーション障害とその支援技術について理解する ・コミュニケーション支援が特別な介入ではなく、日常生活の一部であることに気づく	コミュニケーションに関連する解剖学生理学について復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		

第4回	自助具とリハ工学・3Dプリンタを用いた自助具製作の可能性を知る。 ・自助具の役割と、利用者ごとのニーズに合わせた支援のあり方を理解する ・自助具が個々の日常生活の質を向上させる具体的手段であることを実感する	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第5回	パラスポーツとリハ工学 ・障害者スポーツを体験し、障害を持つ方がスポーツに参加する際の課題や工夫を理解する	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第6回	eスポーツとリハ工学 ・eスポーツにおけるデジタル技術が、リハビリテーションや障害者支援にどのように応用できるかを探る	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		

第7回	フィールドワーク: 多様な障害の視点で探るバリアフリー環境～ ・多様な障害の視点からバリアや課題を発見し、具体的な改善策を検討する	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第8回	リハビリテーションに関わるテクノロジーの最新トピックスとこれまでの学習のまとめ リハビリテーションに関わるテクノロジーの最新トピックスについて紹介するとともに、その臨床応用についてこれまでの講義内容で得られた知識についてのまとめと、テストを用いて復習し、理解を深める。	これまでの授業で学んだことを復習しておくこと(90分)	全体の授業を通して復習をしておくこと(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外テスト(40%)、講義内課題(30%)、出席態度・参加度等(30%)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
都度紹介する		
履修条件・留意事項等		

8回中3回の欠席で単位の認定が不可

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		病理学				ナンバリング	2300
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
理学療法・作業療法に必要な病理学の基礎的知識・技能を身につけるための科目である。 理学療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」と特に関係がある科目である。作業療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」及び「【知識・技能】高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。」と関係する科目である。また、その他の全てのディプロマ・ポリシーと関係している。両専攻ともに、「微生物・免疫学」「人間発達学」「医学概論」「解剖学I」「解剖学II」「生理学I」「生理学II」「基礎解剖学実習/解剖学実習」と関連し、「内科学」「脳神経内科学」「整形外科学」「小児科学」「老年医学」「救急医学」の基礎となる。							
授業の概要							
病気の原因やその発症のメカニズムについて、細胞・組織傷害、細胞死と老化、先天異常と遺伝病、代謝障害、循環障害、炎症と感染症、免疫疾患、腫瘍など原因や機序別に分けて学習する。また、それぞれの代表的な疾患に加え、リハビリテーションが介入する代表的な内部障害疾患についての病因・病態について具体的に学ぶ。							
到達目標							

1. 病院病理の役割や病理診断の意義、加えて病理解剖の意義を説明できる。
2. 細胞傷害および細胞死の分類や機序、その形態的特徴を述べることができる。
3. 先天異常や遺伝性疾患、代謝異常、循環障害、腫瘍について、それぞれの病態や種類、発症機序を説明できる。また、それぞれの代表的疾患を挙げ説明できる。
4. 各臓器の代表的疾患について、それぞれの発症機序や病態を説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
必要に応じてオンライン授業を実施する。

ICT活用

Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

病理専門医として病理診断や病理解剖などに従事した経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、練習問題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【病理学総論1.「病理学とは」「細胞傷害」】 病理学の概念と医学における位置付け、医療における病理診断の役割について学ぶ。また、細胞傷害の種類やその機序、及び傷害を受けた細胞組織の形態変化やその修復について学習する。	参考書のpp.14～52を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第2回	【病理学総論2.「先天異常」】 先天異常の種類と代表的な疾患、先天奇形について学ぶ。染色体異常とその代表的疾患として、常染色体の異常によるダウン症候群や、性染色体の異常によるクラインフェルター症候群、ターナー症候群などを学ぶ。	参考書のpp.53～64を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第3回	【病理学総論3.「循環障害」】 体液循環の機構や、局所の循環障害として、血栓、塞栓、梗塞の関係、出血、うっ血と浮腫、ショックについて、また全身循環障害について学ぶ。	参考書のpp.65～75を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第4回	【病理学総論4.「炎症」】 炎症に関わる細胞の種類や液性因子、炎症の分類やその転帰について学ぶ。急性炎症の結果としての膿瘍や蜂窩織炎、肉芽組織など、及び慢性非特異性炎症と肉芽腫を形成する特異性炎症との違いについて学ぶ。	参考書のpp.76～87を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第5回	【病理学総論5.「免疫異常とアレルギー」】 免疫と免疫系の細胞、I型からV型までの各種のアレルギー反応、臓器移植と拒絶反応、先天性免疫不全症と後天性免疫不全症候群(AIDS)、臓器特異的自己免疫疾患や膠原病などについて学ぶ。	参考書のpp.88～102を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第6回	【病理学総論6.「感染症」】 感染の原因となる病原体の種類や感染の成立、病原体に対する宿主の反応、病原性と増殖速度、日和見感染、病原体の感染経路、内因性感染症と外因性感染症、劇症型感染症などについて学ぶ。	参考書のpp.103～117を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第7回	【病理学総論7.「腫瘍」】 腫瘍の概念や分類、良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いとその形態的特徴、発生機序、がんの浸潤・転移や病期、宿主への影響や予後の違い、がんの診断、治療法などについて学ぶ。	参考書のpp.118～134を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第8回	【病理学各論1.「心臓の疾患」「脈管系の疾患」】 狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、心筋炎と心筋症、リウマチ熱と感染性心内膜炎、心弁膜症、心房中隔欠損症や心室中隔欠損症などの先天性心疾患、心不全、動脈瘤、動脈硬化症、血管炎などについて学ぶ。	参考書のpp.136～166を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第9回	【病理学各論2.「造血系・リンパ系の疾患」】 巨赤芽球性貧血など各種の貧血、血液凝固因子や血小板の異常による出血性疾患、白血病、多発性骨髄腫などの形質細胞性腫瘍、各種の悪性リンパ腫、リンパ節炎などその他の造血系・リンパ系疾患について学ぶ。	参考書のpp.167～185を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第10回	【病理学各論3.「呼吸器系の疾患」】 扁桃炎やアデノイド肥大、鼻咽頭腫瘍、喉頭腫瘍など上気道の疾患、慢性閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、肺塞栓症などの肺血管疾患、肺炎、抗酸菌感染症、肺癌とその主な組織型、その他の肺疾患について学ぶ。	参考書のpp.186～212を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第11回	【病理学各論4.「消化管の疾患」】 白板症や口腔癌、歯源性腫瘍などの口腔・顎部の疾患、胃食道逆流症、食道静脈瘤、食道癌などの食道の疾患、慢性胃炎や胃潰瘍、胃癌、胃の悪性リンパ腫など胃の疾患、炎症性腸疾患や大腸癌など小腸・大腸の疾患について学ぶ。	参考書のpp.213～237を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第12回	【病理学各論5.「肝臓、胆嚢、膵臓の疾患」】 各種ウイルス性肝炎、アルコール性肝疾患、代謝機能障害関連脂肪肝炎、肝硬変、肝細胞癌などの肝臓の疾患、胆石症と慢性胆嚢炎、胆道癌などの胆嚢・胆道の疾患、急性膵炎と慢性膵炎、膵癌などの膵臓の疾患について学ぶ。	参考書のpp.238～254を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第13回	【病理学各論6.「泌尿器系、男性生殖器系、女性生殖器系と乳腺、内分泌系の疾患」】 糸球体疾患、腎細胞癌などの泌尿器系の疾患、精巣腫瘍や前立腺過形成、前立腺癌などの男性生殖器系の疾患、子宮頸癌、子宮体癌、乳癌などの女性生殖器系と乳腺の疾患、下垂体腺腫、甲状腺癌など内分泌系の疾患について学ぶ。	参考書のpp.255～323を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第14回	【病理学各論7.「筋・骨格系、皮膚、脳・神経系、眼と耳、全身性疾患」】 筋ジストロフィー、重症筋無力症、骨肉腫などの筋・骨格系の疾患、炎症性皮膚疾患や皮膚の腫瘍、脳血管疾患、頭蓋内感染症、脱髄疾患、主な神経系腫瘍、膠原病やアミロイドーシスなどの全身性疾患について学ぶ。	参考書のpp.324～398を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第15回	【まとめと修了テスト】 第1回から第14回までの総括、及び修了テストを実施する。	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回で実施する小テスト、第15回の修了テストなど。詳細は授業中に伝える。
その他	0	なし
教科書		
教科書は指定しないが、参考文献に挙げた『クイックマスター病理学第2版／堤寛著／サイオ出版』を教科書に準ずる参考書として使用する。		
参考文献		

クイックマスター病理学第2版／堤寛著／サイオ出版
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版／梶原博毅監修／医学書院

履修条件・留意事項等

特記事項なし。

備考欄

特記事項なし。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		微生物・免疫学				ナンバリング	2262
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 一志						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」ことや「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」とも関係する。 作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」こととも関係する。 医学概論、解剖学Ⅰ、Ⅱ、生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと関連し、病理学、内科学、神経内科学、整形外科学、小児科学、老年医学、救急医学を学ぶ基礎となる。							
授業の概要							
感染症の原因となる病原微生物についてウイルスや細菌、真菌、原虫、寄生虫に分類して、それぞれの生物学的特徴などを学ぶほか、それらの感染症の基本や感染に対する生体防御機構として機能する免疫の基本システムについて、自然免疫と適応(獲得)免疫に分けて学習する。							
到達目標							

1. 細菌・ウイルス・真菌・原虫・蠕虫の種類やそれぞれの特性を説明できる。
2. 微生物感染やそれに対する生体防御機構の種類を説明できる。
3. 生体防御機構の中で重要な免疫に係る細胞や液性因子についてそれぞれの機能を説明できる。
4. 自然免疫の仕組みを説明できる。
5. 獲得(適応)免疫の仕組みを説明できる。
6. 感染症の制御、予防方法について説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で進める。
 毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。
 最終回にまとめの試験を行う。

ICT活用

Webにて講義資料や演習問題、補助教材などを配布し、予習と自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。
 フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	微生物学1 微生物の分類について理解する。細菌と細菌による感染症を理解する。抗菌薬について理解する。	教科書のp22-25、28-37、97-99を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第2回	微生物学2 ウイルス・プリオンとその感染症を理解する。抗ウイルス薬について理解する。	事前配布資料と教科書のp37-41、p106-110を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第3回	微生物学3 真菌、原虫、蠕虫とその感染症を理解する。抗真菌薬について理解する。	事前配布資料と教科書のp26-28、p110-112を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第4回	免疫学1 免疫担当細胞・組織とその機能について理解する。	事前配布資料と教科書のp53-59を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第5回	免疫学2 自然免疫と獲得免疫(適応免疫)の仕組みを理解する。	事前配布資料と教科書のp59-66を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第6回	免疫学3 免疫寛容の仕組みを理解する。 免疫系の疾患を理解する。	事前配布資料と教科書のp66-73を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第7回	感染症の制御 社会的に感染症を防ぐ方法を理解する。 滅菌・消毒など感染経路別の予防対策を理解する。	事前配布資料と教科書のp75-96を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第8回	まとめと試験 これまでに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1～7回の講義内容を復習しておくこと。(150分)	まとめの試験の出題内容について確認しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験、講義ごとの小テスト、授業への参加態度。60%以上の得点を合格とする。
その他	0	
教科書		
感染制御の基本がわかる微生物学・免疫学、増澤俊幸著、羊土社		
参考文献		
よく分かる微生物学の基本としくみ/高麗紀寛著/秀和システム シンプル微生物学/小熊恵二・堀田博・若宮伸隆編集/南江堂 新クイックマスター微生物学/西條政幸著/医学芸術社 好きになる免疫学第2版/萩原清文著・山本一彦監/講談社サイエンティフィック わかる！身につく！病原体・感染・免疫、藤本秀士編著、南山堂		
履修条件・留意事項等		

高校の生物基礎の教科書にある免疫の項目について復習してくること。
 3回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)
 授業を欠席する場合は事前に連絡すること。
 欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。
 欠席した授業や試験の補習や追試験を希望する場合は申し出ること。
 欠席理由が病院受診・忌引きなどやむを得ない事由の場合に限り、補習の受講・追試験の受験を認める。
 また、欠席届の提出が無い場合は再試験の受験を認めない。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		終末期医療				ナンバリング	2312
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 明紀						

授業の位置づけ

理学療法のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」および「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」

作業療法のディプロマ・ポリシーの「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。(関心・意欲・態度)」に対応する科目である。

- ・終末期の患者と家族の精神、身体的特徴を修得する。
- ・医療従事者としての基本的な考え方や種々の臨床医学を学ぶ基礎となり、社会人としての知識を修得する。
- ・「理学療法概論」、「作業療法概論」と関連し、「内部障害理学療法学」、「内部障害作業療法学」、「臨床実習」の基礎となる科目である。

授業の概要

- ・超高齢社会の日本は、がんをはじめ難病等で終末期を在宅および施設で迎えることが増える多死の時代となってきた。医療・福祉専門職として、寄り添う医療により、患者の死やそれを取り巻く家族等、終末期医療に対する医療の現状や倫理感を学生の修学早期に理解する。
- ・理学療法士・作業療法士として生や死を考え、倫理観を学習する。

到達目標

- ・終末期の概念を理解できる。
- ・終末期を支える理学療法士、作業療法士が役割を理解できる。
- ・終末期を支える医療者の役割を理解し、チームとしての取り組みが理解できる。

授業の方法

医療の各分野の専門家の講義も含め、講義形式ですすめる。
必要に応じて課題やグループワークを実施する。

ICT活用

Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。
必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業を展開する。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤は理学療法士として、これまでの臨床・研究の経験を基に授業を展開する。
加えて、臨床経験豊富な医療者をゲスト講師として迎え、チームとして終末期を支える授業を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で課題に対してコメントし、補足説明が必要な場合は随時説明する。
レポート内容によっては次回以降の講義で紹介、コメントを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	終末期医療の概念と、現状と課題を学習する	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	医療現場における終末期医療の実際を学習する	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	医療現場や在宅における終末期リハビリテーションについて学習する	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第4回	「生と死」について、グループワークを通して学習する	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第5回	終末期を支えるⅠ - 緩和ケア(1)総論 緩和ケアとは何かについて理解する(ゲスト講師:前野)	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第6回	終末期を支えるⅡ 緩和ケア(2)コメディカルの役割:看護師の立場を理解する(ゲスト講師:山崎)	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第7回	終末期を支える-Ⅲ 緩和ケア(3)コメディカルの役割:ソーシャルワーカーの立場を理解する(ゲスト講師:高木)	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第8回	終末期を支える-Ⅳ 緩和ケア(4)終末期を支えるための医療人として、何ができるかを考える(ゲスト講師:前野)	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席・態度(20%) レポート課題(80%)
その他	0	出席態度、授業内の課題、その他のレポートなどを総合的に評価する。レポートは自分の考えを論理的に展開すること。
教科書		
なし。 必要に応じてパワーポイントなどの資料を配布する。		
参考文献		
DEATH「死」とは何か/文響社 /Shelly Kagan ソフトランディング/BFP/柴田岳三 終末期リハビリテーション臨床アプローチ/MEDUICAL VEIW/安部能成		
履修条件・留意事項等		

授業中は指定された席に座ること。
欠席の際は必ず届けを提出すること。

備考欄

医療者に必要な「考える力」を身に付ける。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		内科学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	水越 常德、明石 浩史、永洞 明典、安丸 卓磨						
授業の位置づけ							
理学療法／作業療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係する科目である。「解剖学Ⅰ・Ⅱ」「生理学Ⅰ～Ⅲ」「病理学」を基礎に主な内科疾患とその治療について理解し、「臨床実習」に繋げるための科目である。							

- ・各内科疾患について 教科書にある Point を理解したうえで説明できる。
- ・各内科疾患の概念、臨床症状、検査所見、治療を説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントと配布印刷物を用いて、講義形式で行う。
- ・確認テストを行い、自身の理解度を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

確認テストについては、解答後に解説を含めたフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	循環器・腎泌尿器① 循環器の主な疾患である、心不全、虚血性心疾患、心筋疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈硬化、動脈疾患、静脈疾患について学ぶ。	教科書の p95～p176を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	永洞 明典		
第2回	循環器・腎泌尿器② 循環器の主な疾患である、心不全、虚血性心疾患、心筋疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈硬化、動脈疾患、静脈疾患について学ぶ。また、腎泌尿器の代表疾患である、慢性腎臓病、糸球体腎炎(原発性腎疾患)、続発性腎疾患、腎・泌尿器感染症、泌尿器科疾患、腎不全について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書のp95～p176、p375～p438を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	永洞 明典		
第3回	循環器・腎泌尿器③と確認テスト 腎泌尿器の代表疾患である、慢性腎臓病、糸球体腎炎(原発性腎疾患)、続発性腎疾患、腎・泌尿器感染症、泌尿器科疾患、腎不全について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p385～p421を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	永洞 明典		

第4回	消化器① 食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患について学ぶ。	教科書の p177～p240を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		
第5回	消化器② 食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p177～p240を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		
第6回	肝胆膵① 肝臓疾患、胆道疾患、膵疾患について学ぶ。	教科書の p241～p294を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		

第7回	肝胆膵②と確認テスト 肝臓疾患、胆道疾患、膵疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p241～p294を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		
第8回	呼吸器① 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。	教科書の p25～p84を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常德		
第9回	呼吸器② 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p25～p84を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常德		

第10回	呼吸器③と確認テスト 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p25～p84を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常德		
第11回	内分泌・代謝① 内分泌疾患である、視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患について学ぶ。また、代謝疾患である、糖尿病、低血糖症、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症(高脂血症)、痛風／高尿酸血症、ビタミン欠乏症・過剰症について学ぶ。	教科書の p295～p374を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
第12回	内分泌・代謝②、感染症① 代謝疾患である、糖尿病、低血糖症、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症(高脂血症)、痛風／高尿酸血症、ビタミン欠乏症・過剰症について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p295～p374、p595～p636を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		

第13回	感染症②と確認テスト 感染症である、細菌性疾患、真菌性疾患、ウイルス性疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p595～p636を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
第14回	血液・膠原病① 血液疾患である、赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患について学ぶ。また、膠原病、膠原病と同様の全身性炎症性疾患、膠原病に関連した疾患、アレルギー性疾患について学ぶ。	教科書の p511～p594を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
第15回	血液・膠原病②と確認テスト 血液疾患である、赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患について学ぶ。また、膠原病、膠原病と同様の全身性炎症性疾患、膠原病に関連した疾患、アレルギー性疾患について学ぶ。到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p511～p594を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	安丸 卓磨		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト及び授業の取り組み状況によって総合的に判断
その他	0	
教科書		
なるほどなっとく！ 内科学 改訂3版／浅野嘉延／南山堂		
参考文献		

随時紹介する。

履修条件・留意事項等

感染症等により授業の形態が変わる場合は別途説明する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		整形外科科学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木 信、橋田 浩						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」に特に対応する科目である。理学療法および作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目であり、臨床医学である整形外科科学を学ぶ。これまでに学習した「解剖学」「生理学」「運動学」「リハビリテーション医学」などと関連し、「運動器障害理学療法学」「運動器障害作業療法学」「臨床実習」の基礎となる。							

- 1.一般的な整形外科疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査所見、画像所見、診断、治療について説明できる。
- 2.一般的な整形外科疾患について、医学的リハビリテーションとの関連性を説明できる。

授業の方法

- 1.教科書を中心に授業を行い、講義形式ですすめる。
- 2.整形外科学領域の一般的疾患の症状に関しては、画像をスライドで示しながら講義をすすめる。
- 3.授業の終わりには質問の時間を設ける。
- 4.理解度の確認として単元毎に小テストを実施する。

ICT活用

Google Classroom、Google Form、Slido Adminを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

担当者は、整形外科専門の医療機関において勤務経験がある。この経験を活かして整形外科学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説を行う。また、小テストや総まとめテストの結果、合格点に達しなかった場合は、合格点に達するまで繰り返し再テストやレポート課題を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・オリエンテーション ・運動器の生理(骨、関節、筋、神経)を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(2～38ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第2回	・整形外科の治療(保存療法、手術療法)を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(76～95ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第3回	・上肢の疾患を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(96～143ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		

第4回	・外傷を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(300～345ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第5回	・小テスト1:第1回目～4回目を試験範囲とする ・スポーツ外傷、障害を理解する	小テスト1の試験範囲について教科書の関連する部分およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について教科書の関連する部分(346～355ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第6回	・下肢の疾患を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(144～205ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		

第7回	・小テスト1の解説を行う ・末梢神経損傷を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(276～299ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第8回	・リウマチ性疾患を理解する ・変形性関節症を理解する ・骨系統疾患を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(378～433ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第9回	・小テスト2:第5回目～8回目を試験範囲とする ・代謝性骨疾患を理解する	小テスト2の試験範囲について教科書の関連する部分およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について教科書の関連する部分(434～449ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		

第10回	・体幹の疾患を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(206～275ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第11回	・小テスト2の解説を行う ・老年症候群を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(466～473ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第12回	・切断、熱傷を理解する	授業内容に関して文献やインターネット等を用いて事前に調べておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		

第13回	・小テスト3:第9回目～12回目を試験範囲とする ・小テスト3の解説を行う	小テスト3の試験範囲について教科書の関連する部分およびノートを確認しておくこと。	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第14回	・整形外科疾患の画像評価を理解する	授業内容に関して文献やインターネット等を用いて事前に調べておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第15回	・本講義の総まとめテスト	本講義のノートや小テストを全て見直しておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席態度、小テスト、総まとめテストの結果を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
病気が見える vol.11 運動器・整形外科 第2版 医療情報科学研究所編集 メディックメディア 2024年		
参考文献		

標準整形外科学 第14版 井樋栄二・他編集 医学書院 2020年
リハで読むべき運動器画像 塩野寛大監修 MEDICAL VIEW 2018年

履修条件・留意事項等

聴講に際しては、すでに学んだ運動器の解剖や生理学を十分に復習して臨むこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		脳神経内科学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	松谷 学、林 貴士						
授業の位置づけ							
理学療法/作業療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている」と特に関係がある科目である「生理学」「運動学」「リハビリテーション医学」「内科学」と関連する。							

- ・神経学的症候を神経系の解剖、機能と関連付けて述べることができる。
- ・神経学的検査および補助検査を理解し、その臨床的意義を述べることができる。
- ・主な脳神経内科疾患について、その特徴や臨床経過、治療法等について述べることができる。

授業の方法

- ・教科書とパワーポイントを併用して、講義形式で進める。
- ・脳神経内科疾患について、症候や病態の考え方、必要な検査法について、演習でディスカッションを行い、理解を深める。
- ・まとめの講義と質疑応答、および確認テストを2回行い、理解の定着を図る。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

松谷、林ともに脳神経内科診療と脳神経内科疾患のリハビリテーションに長年携わってきた。日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医の資格を有する。医科大学神経内科領域の非常勤講師、臨床教授として、学生指導に関わってきた幅広い経験を活かし、脳神経内科学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、質疑応答の時間を設け、確認テスト終了後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	序論： 神経系の基本構造、情報伝達機能、脳神経内科疾患の 大まかな全体像を学習する。	教科書の第1章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第2回	中枢神経系の構造と機能： 中枢神経系を構成する各部位の構造と機能、求心性/遠心性伝導路を学習する。	教科書の第2章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第3回	末梢神経系の構造と機能： 末梢神経の構造と機能を、脳神経、脊髄神経、神経叢、自律神経を含めて学習する。	教科書の第3章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		

第4回	症候学1(運動・感覚系): 神経系の障害された際の症候を学習し、先に学んだ神経解剖や機能と関連付けて述べるができるようにする。神経学的診察法について学ぶ。	教科書の第4章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第5回	症候学2(高次脳機能): 神経系の障害された際の症候を学習し、先に学んだ神経解剖や機能と関連付けて述べるができるようにする。とくに意識と高次脳機能障害について焦点を当てる。	教科書の第5章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第6回	神経学的診断と補助検査法: 近年のリハビリテーション臨床で重要な画像検査や各職協働に必要な生理学的検査の基本を学習する。 確認テストとその解説(1回目) これまでの講義内容とのまとめと質疑応答。	教科書の第6章を予習する。(90分) これまでの講義内容を教科書を中心として復習、確認する。 各章の章末テスト、並びに総論確認テスト(教科書第6章にあり)を各自予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)確認テストの内容を教科書等で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		

第7回	脳血管障害1: 患者数の多い疾患分野である。脳血管の解剖とその血管障害より生じる症候を学ぶ。 種々の脳血管障害を学ぶ。	教科書の第7章、第8章を予習する。(100分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第8回	脳血管障害2: 患者数の多い疾患分野である。脳血管の解剖とその血管障害より生じる症候を学ぶ。 種々の脳血管障害を学ぶ。	教科書の第7章、第8章を予習する。(100分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第9回	感染症・自己免疫疾患(脱髄疾患含む): 炎症を基盤とした疾患群を学習する。	教科書の第9章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		

第10回	末梢神経障害・筋疾患： 末梢神経系、筋、神経筋接合部の疾患について学ぶ。	教科書の第10章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第11回	脳腫瘍・頭部外傷： 脳神経外科で扱う手術が必要になることが多い疾患について学習する。	教科書の第11章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第12回	水頭症・代謝性疾患(遺伝形式含む)・脊髄疾患： 水頭症、代謝性疾患(先天代謝疾患、代謝性脳症)、脊髄疾患について学習する。	教科書の第12章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		

第13回	神経変性疾患1(運動障害を中心に): 代表的な神経系の疾患群である運動障害を中心とする神経変性疾患を学ぶ。	教科書の第13章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第14回	神経変性疾患2(認知症を中心に)、頭痛、てんかん: 認知症を主体とする神経変性疾患、ならびに発作性の疾患を学習する。	教科書の第14章、第15章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第15回	確認テストとその解説(2回目) これまでの講義内容とのまとめと質疑応答。	これまでの講義内容を教科書を中心として復習、確認する。 各章の章末テスト、並びに総論確認テスト(教科書第15章にあり)を各自予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。 確認テストの内容を教科書等で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・確認テスト2回 ・出席回数が3分の2に達しない場合は不合格
その他	0	なし
教科書		
永井知代子/ビジュアル臨床神経学/医歯薬出版株式会社		
参考文献		

・川平和美 編集/標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学/医学書院
 ・他 随時紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		小児科学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	加藤 静恵						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」および「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」に対応する科目である。 小児科学は、小児の各種疾患の成因や病態および治療を科学的根拠の上に立って理解し、また小児の健康的な発育・発達を支援するための基礎的な知識を獲得するための授業であり、理学療法士や作業療法士となるために、必ず修めておかなければならない授業である。							

1. 小児の成長や発達に伴う正常な運動および精神発達の評価ができる。
2. 種々の疾患に関する知識を取得，理解し，それらの説明ができる。

授業の方法

対面講義を予定しているが、学習効果を考慮しWebによる講義も検討する

ICT活用

web講義を行う場合には、ICT(Information and Communication Technology)機能を活用する。

実務経験のある教員の教育内容

小児科診療経験を活かした授業を進める。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて講義のなかで説明する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	新型コロナウイルス感染症:SARS-CoV-2, 疾患の概要, 検査所見, 治療, 感染対策, 学生生活を送る上での注意事項について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			
第2回	新生児・未熟児疾患: 新生児特有の問題, 新生児・周産期異常症, 中枢神経障害と疾患などの症状・診断・治療などについて学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			
第3回	先天異常と遺伝病: 染色体異常, 先天奇形, 先天代謝異常症などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて, 該当部分を予習する(90分)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			

第4回	神経・筋・骨系疾患：中枢神経疾患，てんかん，発達遅滞を伴う疾患，脊髄疾患，末梢神経疾患，筋疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて，該当部分を予習する(90分)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			
第5回	循環器疾患，呼吸器疾患および感染症：種々の先天性心疾患および呼吸器疾患，感染症などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて，該当部分を予習する(90分)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			
第6回	消化器疾患，内分泌・代謝疾患および血液疾患：種々の消化器疾患，内分泌・代謝疾患および血液疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。 腎・泌尿器疾患，眼科・耳鼻科的疾患：種々の腎・泌尿器疾患，眼科・耳鼻科的疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて，該当部分を予習する(90分)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			

第7回	免疫・アレルギー疾患および腫瘍性疾患：種々の免疫・アレルギー疾患および腫瘍性疾患などの症状・診断・治療について学ぶ。	指定した教科書を用いて，該当部分を予習する(90分)。	授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			
第8回	まとめ(筆記試験もしくは課題を検討する)。	指定した教科書を用いて，これまでの該当部分を予習する(90分)。	試験の内容について復習しておく(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	80% 筆記試験(もしくは課題)を実施する。 20% 授業への参加度や授業態度から判断する。
その他	0	なし
教科書		
医学書院 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第6版		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		精神医学Ⅰ				ナンバリング	2310
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
理学療法・作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目である。 理学療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」と特に関係がある科目である。作業療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」及び「【知識・技能】高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。」と関係している。両専攻ともに「精神医学Ⅱ」、作業療法学専攻においては「精神障害作業療法治療学」の基礎となる。							
授業の概要							
精神疾患患者のリハビリテーション計画を立案する上で必要となる、主要な精神科疾患についての知識を学ぶ。精神障害の分類についての考え方、精神科疾患の概念、疫学的事項、症状、診断、経過、成因と治療の概要について学習する。							
到達目標							

1. 精神医学に関する基本的な知識を理解し、説明できる。
2. 理学療法士・作業療法士としてリハビリテーションを実践していくときに、精神科疾患を持つ患者をよく理解し適切に対応できるようになる。
3. 国家試験「精神医学」範囲の出題を確実に得点できるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
必要に応じGoogle Classroomでオンライン授業を行う。
第1回から第14回まで、Google ClassroomのGoogleフォームを用いた理解度確認テストを行う。

ICT活用

Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

医師としての臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストのフィードバックとして解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【精神医学総論1.「精神医学とは」】 精神医学の特色を身体医学との比較で学び、かつ協働領域との連携の重要性について学ぶ。また、古代ギリシアから中世のアニミズム的な考え方を経て現代にいたる精神医学の歴史について学ぶ。	参考書のpp.1～10を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第2回	【精神医学総論2.「精神障害の成因と分類」・「精神機能の障害と精神症状」①】 精神障害の3つの成因とその概念、精神障害の分類について学ぶ。また、意識とその障害、注意と見当識の障害、精神遅滞や認知症など知能とその障害、性格の分類とその障害について学ぶ。	参考書のpp.10～22を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第3回	【精神医学総論3.「精神機能の障害と精神症状」②】 記憶の概念と分類、記憶障害とその分類、感情の概念と不安や抑うつなど感情の障害の種類、欲動と意志の概念とその障害、自我意識の概念と離人体験やさせられ体験など自我意識の障害について学ぶ。	参考書のpp.22～28を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第4回	【精神医学総論4.「精神機能の障害と精神症状」③】 知覚とその障害としての錯覚、既視感・未視感、幻覚、思考とその障害としての思路の障害、思考体験様式の障害、思考内容の障害としての妄想、病識とその障害、及び主な精神状態像について学ぶ。	参考書のpp.28～38を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第5回	【精神医学総論5.「精神機能の障害と精神症状」④】 失語、失行、失認など神経心理学的症状について学ぶ。 Wernicke-Lichtheimの失語図式に基づき運動失語、感覚失語、伝導失語、超皮質運動失語、超皮質感覚失語などの臨床像の分類を学ぶ。	参考書のpp.38～45を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第6回	【病理学総論6.「精神障害の診断と評価」①】 精神障害の診断や評価の基本となる精神医学的診察法、病歴の聴取について学ぶ。また、頭部CTやMRI、SPECT、脳波などの身体的検査法の概略について学ぶ。	参考書のpp.46～53を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第7回	【精神医学総論7.「精神障害の診断と評価」②】 各種知能検査、記銘力検査、Kohs立方体テスト、HDS-R、MMSE、MMPI、ロールシャッハテスト、P-Fスタディなどの各種心理検査法の概要、精神症状や社会生活、主観的QOLの評価法の概略について学ぶ。	参考書のpp.53～67を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第8回	【精神医学各論1.「脳器質性精神障害」①】 脳器質性精神障害の経過による症状の特徴、原因となる主な疾患について学ぶ。主な老年期の認知症疾患であるアルツハイマー型認知症、前頭側頭型認知症、レビー小体型認知症、血管性認知症の特徴やリハビリテーションについて学ぶ。	参考書のpp.68～81を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第9回	【精神医学各論2.「脳器質性精神障害」②】 パーキンソン病やハンチントン舞蹈病など大脳基底核の変性疾患、進行麻痺や単純ヘルペス脳炎などの脳の感染症、頭部外傷と外傷性脳損傷、中毒、脳腫瘍、脱髄性疾患、代謝障害、正常圧水頭症などについて学ぶ。また、てんかんの概念、発作型と病型の分類、発作症状や精神症状の特徴、経過と予後、治療の一般的原則と主な抗てんかん薬、抗てんかん薬の対象となる発作型と主な副作用、ケアとリハビリテーションについて学ぶ。	参考書のpp.81～93, 115～126を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第10回	【精神医学各論3.「症状性精神障害」・「精神作用物質による精神および行動の障害」】 症状性精神障害の概念と症状の特徴について学ぶ。低血糖、ペラグラ、Wernicke脳症、電解質異常、全身性エリテマトーデスなどの膠原病、甲状腺機能障害など基礎となる主な疾患、治療および経過について学ぶ。また、アルコールや依存性薬物による精神的・社会的障害を理解し、特にアルコール依存症候群に見られるアルコール離脱症候群、アルコール幻覚症、Korsakoff精神病などについて、またAAなどの自助グループについて学ぶ。	参考書のpp.94～114を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第11回	【精神医学各論6.「統合失調症およびその関連障害」①】 統合失調症がどのような病気か、病型や診断基準、経過と予後、急性期・慢性期における精神症状の特徴、社会生活における制限の特徴などについて学ぶ。	参考書のpp.127～148を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第12回	【精神医学各論6.「統合失調症およびその関連障害」②】 統合失調症の治療とリハビリテーションの基本について学ぶ。	参考書のpp.127～148を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第13回	【精神医学各論7.「気分(感情)障害」①】 気分(感情)障害の概念および病型の分類について学ぶ。 概念の歴史的変遷、うつ病と双極症の主な病型とその経過などに関して学ぶ。	参考書のpp.149～163を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第14回	【精神医学各論7.「気分(感情)障害」②】 うつ病と双極症について、症状や経過の特徴、誘因・病因と発症の機制、治療と援助、リハビリテーションのあり方などに関して学ぶ。	参考書のpp.149～163を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第15回	【まとめと修了テスト】 第1回から第14回までの総括、及び修了テストを実施する。	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テストの提出状況、および最終回の修了テスト。詳細は授業中に伝える。
その他	0	なし
教科書		
教科書は指定しないが、参考文献に挙げた『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版／上野武治 編集／医学書院』を教科書に準ずる参考書として使用する。		
参考文献		

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版／上野武治 編集／医学書院
標準精神医学第9版／尾崎紀夫・三村將監修、水野雅文・村井俊哉・明智龍男 編集／医学書院

履修条件・留意事項等

特記事項なし。

備考欄

特記事項なし。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		リハビリテーション医学				ナンバリング	2314
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	鈴木 信						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻では、ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。さらに、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」とも関係する。 作業療法学専攻では、ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。さらに、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」とも関係する。 「リハビリテーション概論」「理学療法概論」「作業療法概論」と関連し、理学療法学専攻および作業療法学専攻の各専門科目の基礎となる。							
授業の概要							
リハビリテーション医学の実践であるリハビリテーション医療は障害を最小化し、残存能力を最大化するための治療と予防である。本講義ではリハビリテーション治療について、代表的な疾患を通して基本的な考え方を学ぶ。また、リハビリテーション医学とは何かについて学び、あるべき理学療法士像や作業療法士像について考察する。							
到達目標							

1. リハビリテーション医学における障害の捉え方を説明できる.
2. 代表的な疾患に関して, リハビリテーション医学の治療目的を説明できる.
3. リハビリテーション医学の中の理学療法や作業療法の役割を説明できる.

授業の方法

- ・教科書および配布資料に沿って授業を行い, 講義形式ですすめる
- ・授業内において質問の時間を設ける
- ・各回の授業の終わりにGoogle Formを用いて小テストを行い, 授業の振り返りを行う

ICT活用

自主学習支援のため, 講義資料を Google Classroom で配布する.
Google Form を用いた双方向型授業を取り入れる.

実務経験のある教員の教育内容

担当者は医療機関において勤務経験があり, その経験を活かして具体的・実践的な内容を盛り込んで授業を行う.

課題に対するフィードバックの方法

Google Form による小テストで出席者の理解度を確認した上で, 必要な解説を行う.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション リハビリテーション医療の内容やチームアプローチについて学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第2回	リハビリテーション医療を実施するための国際生活機能分類について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	代表的な運動器疾患の臨床症状と理学療法および作業療法の治療手技について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			

第4回	高齢者に対するリハビリテーション医療の現状について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第5回	脳血管障害の臨床症状と理学療法および作業療法の治療手技について, 神経学的な視点から学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	リハビリテーションの対象となる神経筋疾患の臨床症状について理解し, 理学療法および作業療法の介入目的とその方法について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			

第7回	認知症について, その分類と臨床症状について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	内部疾患(呼吸器・循環器疾患)により発生する様々な障害について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の授業内で行う小テストの結果と出席態度により評価する
その他	0	
教科書		
リハビリテーション医学／上月正博・高橋仁美 編／メジカルビュー社		
参考文献		
必要に応じて授業中に文献を紹介する		
履修条件・留意事項等		

- ・準備学習が済んでいることを前提に授業をすすめる
- ・質問や確認事項がある場合は、積極的に発言すること
- ・Google Classroom にアクセスできる通信機器を持参のこと

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		老年医学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	瀧山 晃弘、佐々木 幸子、辻 幸美						
授業の位置づけ							
理学療法・作業療法を行うために必要な、老年医学に関連する基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」及び「【知識・技能】作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。「高齢者理学療法学」「高齢期作業療法治療学」の基礎となる。							
</							

1. 老化と老年期を包括的に理解し、説明できる。
2. 高齢者の個別の疾患、障害への理解を深め、応用できる。
3. 高齢者の全人間的復権、リハビリテーション看護などの重要性について理解し、説明できる。

授業の方法

板書と教科書を活用しながら講義形式ですすめる。パワーポイントと配布印刷物も用いる。Google Classroomを用いた理解度確認テストを時間内に行う(全6回程度)。必要に応じてオンライン授業を実施する。
フィードバックとして理解度確認テストの解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

各教員は医師、看護師、薬剤師、理学療法士等の資格に基づく臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で小テストについて解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	加齢と老化(瀧山晃弘) ・老年学とは ・老化と加齢の定義、老化の機序 ・老化による生理機能の低下 ・老年病と老年症候群	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・神経内科学・整形外科科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	高齢者に特徴的な症候と疾患1(瀧山晃弘) ・循環器疾患 ・呼吸器疾患 ・消化器疾患	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	高齢者に特徴的な症候と疾患2(瀧山晃弘) ・骨・運動器疾患 ・精神・神経疾患 ・耳鼻咽喉疾患 ・眼疾患その他	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学・精神医学・臨床心理学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・神経内科学・整形外科科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第4回	高齢者に特徴的な症候と疾患3 (瀧山晃弘) ・内分泌疾患 ・血液・免疫疾患 ・腎・泌尿器疾患 ・皮膚・口腔疾患	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学などを復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第5回	高齢者のリハビリテーション1 (佐々木幸子) 高齢者に対するリハビリテーションの特徴、目的、注意点について理解する ・サルコペニア・フレイル ・転倒・骨折 ・変形性関節症	医療概論・リハビリテーション概論などの内容をよく復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・整形外科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第6回	高齢者のリハビリテーション2 (佐々木幸子) 高齢者に対するリハビリテーションの特徴、目的、注意点について理解する ・脳血管疾患 ・循環器疾患 ・呼吸器疾患	医療概論・リハビリテーション概論などの内容をよく復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・整形外科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		

第7回	老年看護学における理論と実際（辻幸美） 内容：老年看護学の概要や老年看護学の定義、役割 行動目標：医療チームの一員である看護師が基盤としてい る考え方が理解できる。	教科書 32 高齢者の医療、看護 、介護・福祉、保健 B を熟読し ておくこと。（90分）	看護師と連携することで得られる 患者にとってのメリットを考える。 （90分）
担当教員	辻 幸美		
第8回	まとめと修了テスト（瀧山晃弘） 第1回から第7回までの総括、及び修了テストを実施する。	第1回から第7回までの学習内容 を復習しておくこと。（90分）	修了テストを自己採点し、理解 が不十分な点を確認しておくこ と。（90分）
担当教員	瀧山 晃弘		
成績評価の方法			
区分	割合（%）	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	一部の講義で小テストを行う。最終回に修了テストを実施する。詳細は授業中に伝える。
その他	0	なし
教科書		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学(第5版)／編集:大内尉義／医学書院		
参考文献		
必要に応じて紹介する。		
履修条件・留意事項等		

積極的に学修すること。

備考欄

特記事項なし。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		臨床心理学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 紘史						
授業の位置づけ							
理学療法学科のディプロマ・ポリシー「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」および作業療法学科のディプロマ・ポリシー「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と関係する科目である。							
授業の概要							
臨床心理学は心理学の古くて新しい応用領域である。伝統的な臨床心理学は精神力動論に基礎を置き、過去に遡っていわゆる心因を求め(病因論)、パーソナリティや内的葛藤を重視、自己洞察と人格成長を援助することを目指してきた。一方、健康心理学や行動医学と一緒に発展してきた新しい臨床心理学は、認知・行動理論に基礎を置き、客観的に得られるデータによって(evidence basedmedicine)、身体と精神疾患の治療と予防、リハビリテーションへと幅広い、未来志向の多様な援助を目標とする。科学的な方法論に基づいた健康関連行動、疾病関連行動の理解こそ、臨床場面の医師、看護、コメディカルが問題なく共有でき、相互のコミュニケーションに大いに役立つ、医療専門職としての基礎知識といえる。健康と臨床に関係する題材を中心に、医療への応用について学習する。							
到達目標							

1. 医療の中での臨床心理学の必要性について説明できる。
2. 代表的な臨床心理学的アセスメントの方法について説明できる。
3. 代表的な心理療法について説明できる。
4. 行動理論の代表的な基礎理論を説明できる。
5. 行動理論の代表的なアプローチを説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施する(8回)。

ICT活用

google formsを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

医療機関での臨床心理学の実戦経験を講義におりまぜながら、臨床心理学を用いた患者理解・対応について講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストの解答をフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	臨床心理学とは 臨床心理学で対象となる問題行動や不適応症状を学習するとともに、どのような領域で臨床心理学が利用されているかを理解する。	参考文献を中心に臨床心理学の必要性について考えておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			
第2回	アセスメント 臨床心理学で用いられるアセスメントについて理解する	参考文献を中心に臨床心理学で用いられるアセスメントについて予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。特に、国家試験の過去問については十分復習すること。(120分)
担当教員			
第3回	臨床心理学の諸理論 臨床心理学を代表する、精神力動的理論、人間性心理学について学び、それぞれの理論的立場の異動について理解する。	参考文献を中心に臨床心理学で用いられる心理療法(行動療法以外)について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。特に、国家試験の過去問については十分復習すること。(120分)
担当教員			

第4回	行動理論:学習理論 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で, 問題行動の理解の仕方の基礎となる 学習理論について理解する。	参考文献を中心に学習理論に ついて予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
第5回	行動理論:機能分析 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で, 問題行動の理解の仕方の1つである機 能分析を理解する。	参考文献を中心に機能分析に ついて予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
第6回	行動理論:行動のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で, 行動のコントロールに関するアプ ローチを理解する。	参考文献を中心に行動のコント ロールの方法について予習して おくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			

第7回	行動理論:認知のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、認知のコントロールに関するアプローチを理解する。	参考文献を中心に認知のコントロールの方法について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			
第8回	行動理論:気分・感情のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、気分・感情のコントロールに関するアプローチを理解する。	参考文献を中心に気分・感情のコントロールの方法について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験を実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(60%) 理解度確認テスト(40%)
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
リハベーシック 心理・臨床心理学／内山 靖他編／医歯薬出版株式会社 実践家のための認知行動療法テクニックガイド／鈴木伸一他／北大路書房 認知行動療法事典／日本認知・行動療法学会編／丸善出版		
履修条件・留意事項等		

特になし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		リハビリテーション栄養学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 将太						
授業の位置づけ							
[理学療法学専攻] ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。 また、「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」および「地域医療を支える多種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 [作業療法学専攻] ディプロマ・ポリシーの「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。 また、「作業療法学を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」, および「地域医療を支える多種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 両専攻とも「食生活論」と関連する科目である。							
授業の概要							
食事は健康を維持・増進するために欠かせないものである。栄養素の摂取は健康状態と関連し、年齢に適した食事をとることが大切であり、過不足のない状態を維持することが重要である。リハビリテーションを行う際、低栄養状態では十分な効果を期待できないと言われており、対象者の栄養状態の評価を適切に行う必要がある。 本科目では、人間の健康および疾病と栄養摂取との関連について学習し、栄養スクリーニングやアセスメントの基礎知識を身につける内容とする。							
到達目標							

- ・栄養素とその働きを説明できる。
- ・栄養状態の評価に必要な指標，臨床検査値，身体計測法などについて説明できる。
- ・栄養補給法の概略について説明できる。
- ・病態と栄養学的対策との関連を説明できる。
- ・リハビリテーションにおける栄養知識の重要性を説明できる。

授業の方法

スライドおよび配布資料を用いて講義形式で進める。
授業の理解度を深めるため，授業毎に確認小課題を実施する。

ICT活用

授業に関する事項は，Classroom等のgoogleに関連するアプリを用いる。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは，ルーブリックを通して行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ガイダンス】【栄養知識の重要性】 栄養、および栄養素の概念とリハビリテーションにおける栄養知識の重要性を学ぶ。 【栄養の基礎① 栄養補給ルート】 治療に用いられる栄養補給法の概略について学ぶ。 【栄養学の基礎② 栄養ケアプロセス】 栄養ケアプロセスの概略について学ぶ。	序章: pp.1-18 第1章 1. 栄養補給ルート: pp.20-22 第1章 7. 栄養ケアプロセス: pp.78-84 を読んでおく (90分)	配布資料および授業内容を整理する (90分)
担当教員			
第2回	【栄養の基礎③ 栄養素の役割】 栄養素代謝の概略について学ぶ。 リハビリテーションを行う患者の必要栄養量を学ぶ。	第1章 3. 栄養素の役割: pp.28-56 を読んでおく (90分)	配布資料および授業内容を整理する (90分)
担当教員			
第3回	【栄養の基礎エネルギー代謝】 エネルギー代謝の概略と消費エネルギーの算出方法を学ぶ。	第1章 2. エネルギー代謝: pp.23-27 を読んでおく (90分)	配布資料および授業内容を整理する (90分)
担当教員			

第4回	【主な病態の栄養療法①低栄養】 低栄養の病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 1. 低栄養者の栄養管理: pp.86-91を読んでおく(90分)	配布資料および授業内容を整理する(90分)
担当教員			
第5回	【主な病態の栄養療法②摂食嚥下障害, フレイル・サルコペニア】 嚥下障害者の病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。 フレイル・サルコペニアの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 2. 摂食嚥下障害, 3. フレイル, 4.サルコペニア: pp.92-123 を読んでおく(90分)	配布資料および授業内容を整理する(90分)
担当教員			
第6回	【主な病態の栄養療法③ロコモティブシンドローム】 ロコモティブシンドロームの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 5. ロコモティブ・シンドローム: pp.124-128を読んでおく(90分)	配布資料および授業内容を整理する(90分)
担当教員			

第7回	【主な病態の栄養療法④メタボリックシンドローム】 メタボリックシンドロームの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 6. メタボリック・シンドローム: pp.129-137を読んでおく (90分)	配布資料および授業内容を整理する (90分)
担当教員			
第8回	【運動（身体活動と栄養）】 身体活動が多い者，多くなる場合の栄養について学ぶ。 【まとめ】	身体活動と栄養の関連について調べ，興味を持ったことを整理しておく (90分)	配布資料および授業内容を整理する (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業理解度確認課題
その他	0	なし
教科書		
リハビリテーションに役立つ 栄養学の基礎 [第3版] / 栢下淳・若林秀隆 編著 / 医歯薬出版株式会社		
参考文献		
履修条件・留意事項等		

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		臨床薬理学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	續 佳代						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」また、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。解剖学、生理学を習得していることが前提で、投薬中の患者様の作業療法、理学療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。							

- ・剤形の種類と投与方法、体内における吸収、代謝、排泄までを概説できる。
- ・各疾患治療薬の薬効と副作用を概説できる。
- ・薬と薬、薬と食品やサプリメントの相互作用について概説できる。

授業の方法

パワーポイントを用いて講義形式ですすめる。毎回配布する国家試験対策問題で知識が深まるように解説する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回配布する国家試験対策問題は講義内でフィードバックします。
復習試験を実施し回収後、問題の解説をします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・作業療法士、理学療法士が薬理学を学ぶ意義について理解する。 ・薬に関する基礎知識(薬の名称、薬の剤形、投与経路と吸収、体内動態、薬物作用部位など)を理解する。	自分のお薬手帳に記載されている薬品名、用法・容量など、まず薬に興味を持つこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	薬物依存症 ・薬物の依存、耐性、逆耐性現象、離脱症状について理解する。 ・依存性薬物の種類と心身に及ぼす作用の特徴について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	末梢神経の疾患と薬 ・自律神経系における情報伝達を理解する。 ・副交感神経系作用薬について理解する。 ・交感神経系作用薬について理解する。 ・痙縮治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	中枢神経系の疾患と薬 ・神経伝達物質と受容体の関係を理解する。 ・中枢神経系の疾患(統合失調症、パーキンソン病、アルツハイマー病)の治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	中枢神経系の疾患と治療薬 ・中枢神経系疾患(不眠症、睡眠障害、うつ病、双極性障害、神経症性障害、注意欠如・多動性障害、ナルコレプシー)の治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	循環器系の疾患と薬 ・狭心症、心筋梗塞の治療薬について理解する。 ・抗凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬について理解する。 ・高血圧治療薬、利尿薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	抗炎症薬、鎮痛薬 ・炎症、痛みと抗炎症薬、鎮痛薬について理解する。 ・抗炎症薬(ステロイド剤、NSAIDs)について理解する。 ・鎮痛薬(オピオイド鎮痛薬、非オピオイド鎮痛薬、神経障害性鎮痛薬)について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	第1回目から第7回目までのまとめの復習試験と解説を行う。	第1回目から第7回目までに配布した問題を学習しなおし、復習試験の準備をしておくこと。(90分)	復習試験の問題を復習すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	筆記による復習試験で評価する。
その他	0	
教科書		
薬がみえる vol.1 (第2版)メディックメディア		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

講義は8回ですので3回以上の欠席で単位不認定となります。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		救急医学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	沢本 圭悟、高橋 信行、相坂 和貴子、水野 浩利						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーである「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関連がある。また、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーである「作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」と関係がある。							
授業の概要							
急病や事故などの救急状況は思いもよらぬ時に起き、誰もが遭遇する可能性がある。このような救急状況に遭遇した時に、冷静に状況を判断し応急処置を行うことが重要である。本科目では、救急医療についての概念を学ぶとともに、基本的な応急処置の方法を、実技を通して身につけることを目的とする。							
到達目標							

(1) 医療施設以外の場所で正しい応急処置を行うことができる。
 (2) 外傷に対する応急処置の必要性を説明することができる。
 (3) 生命の危険を生じる危険性の高い疾患について説明することができる。
 (4) 正しい一次救命処置を実施することができる。

授業の方法

スライドを中心に講義を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

救急専門医等が講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

試験結果についてフィードバックを行う予定である。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	外傷(1)皮膚の損傷 応急処置、病院での処置、皮膚の構造、生体の防御反応、皮膚表面の細菌、皮膚の再生	皮膚の損傷について、予習をしておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	沢本 圭悟		
第2回	外傷(2)骨折・脱臼・捻挫 応急処置、病院での処置、骨の構造、骨折の合併症、関節の構造、四肢の骨折・捻挫・脱臼	骨折・脱臼・捻挫について、予習をしておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	高橋 信行		
第3回	外傷(3)重要臓器の外傷 応急処置、病院での処置、頭部外傷、頭蓋内血腫、頸髄損傷、胸部外傷	臓器の仕組みについて、予習をしておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	沢本 圭悟		

第4回	外傷(4)出血 応急処置、病院での処置、大量出血とショック、輸血、血液と感染症、止血機能障害	出血が身体に及ぼす影響を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	相坂 和貴子		
第5回	疾病(1)体温異常・熱傷・感電 応急処置、病院での治療、発熱と解熱、熱傷と凍傷、体温調節、感電	体温調節における生理学的機序について予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	相坂 和貴子		
第6回	疾病(2)中毒 応急処置、病院での治療、ガス中毒、食中毒、アナフィラキシー	中毒にはどのようなものがあるかを予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	水野 浩利		

第7回	(疾病3) 心筋梗塞・脳梗塞 血管病変の救急。	心筋梗塞・脳梗塞について復習 しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。 (90分)
担当教員	水野 浩利		
第8回	定期試験外試験とまとめ	試験範囲について復習をして おくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。 (90分)
担当教員	沢本 圭悟		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめ試験の成績
その他	0	
教科書		
指定しない。		
参考文献		
指定しない。		
履修条件・留意事項等		

学生証を用いた出席認証を行う予定のため、忘れず持参すること。

備考欄

非常勤講師の都合上、授業はシラバス順また、時間割通りとならないことがある。この場合、なるべく早めに予定を通知する。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		言語障害治療学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金浜 悦子						
授業の位置づけ							
臨床現場で接する言語聴覚及び嚥下障害全般にわたる専門的な知識を得ることにより、患者や地域で暮らす利用者とのコミュニケーション能力を高めることができ、より良いリハビリテーションの提供ができる。又、当事者をとりまくあらたな環境整備を考えるための応用力を身につけることを目的とする。ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関連し、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」とも関連する。							
授業の概要							
言語障害治療学の定義、言語障害の分類を理解し、各障害について、その特性、評価、治療、予防、指導、生活上の関わり方について学習する。具体的には構音障害、声の障害、吃音、口蓋裂、脳性麻痺障害、言語発達遅滞、失語症等について学習する。							
到達目標							

- ・言語(失語症を中心に)や聴覚障害者とのコミュニケーション技術、支援方法を習得する。
- ・医療、福祉、教育の現場等においての言語聴覚士の領域の専門的な知識について理解を深めることで、チームとしてより良い連携をし幅広い対応ができるセラピストになる。

授業の方法

教科書、配布資料、パワーポイントを用いての講義形式で行う。失語症者との接し方については実践体験を行う予定。

ICT活用

特に予定なし

実務経験のある教員の教育内容

言語聴覚士として、医療機関、訪問看護ステーション、介護保険施設に勤務し、現在はNPO法人で失語症に特化した支援活動に取り組む。臨床経験を活かし、言語障害全般のとらえ方や支援方法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各講義のポイントを教科書や配布資料に則って復習チェックしておく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】言語聴覚士の成り立ちや仕事内容などを紹介する。又言葉の持つ役割やしぐみ、主な言語障害の種類について学ぶ。	教科書巻頭カラーページP2～16を読む(90分)	配布資料を復習し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	【失語症①定義・症状】失語症とは、発話のみに限らず理解の障害であることを学ぶ。又、主な失語のタイプの症状や特徴を知り、失語症を正しく理解する。	第1章 失語症P24～47を読む(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	【失語症②評価・訓練内容】様々なタイプがある失語症を評価する方法や観察点について、又接し方のコツについてを学ぶ。	第1章 失語症P48～58を読む(90分)	教科書・配布資料を読み、小テストに備える。(90分)
担当教員			

第4回	【失語症③会話実践体験・小テスト】失語症者との会話場面を想定し、接し方や会話のコツについて実践を通して学ぶ。まとめとして失語症について的小テストを行う。	配布資料の接し方のコツを読み、次回実践学習に備える。(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	【摂食嚥下障害①】高齢者の死亡原因の上位とされる摂食嚥下障害について嚥下機能や障害の特徴について学ぶ。	第Ⅰ部第4章摂食嚥下障害p86～94を読む(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。小テストのためのポイントをチェックする(90分)
担当教員			
第6回	【摂食嚥下障害②】嚥下障害の評価時の観察点や簡易検査の方法、訓練内容や対応を理解し、多職種がチームとなり関わる重要性を知る。摂食嚥下障害について小テストを実施する。	第Ⅰ章第4部摂食嚥下障害p90～94を読む(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	【その他のコミュニケーション障害】失語症と間違われやすい運動性構音障害について、また、聴覚障害について知識を深める。	第Ⅰ部第2章運動性構音障害p60～72、第Ⅱ部第2章聴覚障害p138～141まで読む(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	【小児の言語障害】近年、小児の言葉の発達や学習支援のニーズが増加傾向にある。小児の主な言語障害について学ぶ。	第Ⅱ部第6章学習障害p192～202を読む(90分)	全講義の配布資料に目を通し、復習する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	講義の出席姿勢と小テストの成績。
その他	10	各種届(欠席・遅刻)の提出必須。テストの結果によってレポートの提出が必要な時あり。
教科書		
図解やさしくわかる言語聴覚障害 小嶋知幸 編著 ナツメ社		
参考文献		
・脳卒中後のコミュニケーション障害 竹内愛子／河内十郎 編著 協同医書 ・絵でわかる言語障害 毛束真知子 著 学研 ・失語症の理解とケア 遠藤尚志 著 雲母書房 ・神経心理学入門 山鳥 重 著 医学書院 ・口から食べる嚥下障害Q&A 藤島一郎 著 清水一男絵 中央法規 他		
履修条件・留意事項等		

教科書、配布資料の持参。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		医学概論				ナンバリング	2282
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	鈴木 信						
授業の位置づけ							
理学療法士・作業療法士を目指す学生が医学とは何かを考え、医療職としての社会性や常識を学ぶ科目である。本科目と特に関係があるディプロマ・ポリシーは、理学療法学専攻では「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」, 作業療法学専攻では「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」, 両専攻共通で「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」である。さらに関連性があるディプロマ・ポリシーは、理学療法学専攻では「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」, 作業療法学専攻では「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」, 両専攻共通で「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」である。本科目は「リハビリテーション概論」「理学療法概論」「作業療法概論」「リハビリテーション医学」の各科目と関連し、その他すべての専門科目の基礎となる。							
授業の概要							
現代の医療は、医療が複雑化し高度化したことに加えて生命の質が求められている。様々な専門職が協働する医療の現場では、医学・医療に関して共通の基盤に立った認識が必要である。本講義は今日の医学がどのように発展してきたのか、現代医学はどのように成り立っているのか、これからの医学は何を目指しているのかを学び、「医学・医療とは何か」を客観的に把握できる内容である。医療専門職を目指す学生にとって最初に聴講すべき講義である。							
到達目標							

- ・医学・医療の必要性について論じることができる
- ・健康にとって必要なことは何かについて論じることができる
- ・医学・医療の過去、現在、未来について論じることができる
- ・現代日本の医療制度について説明することができる
- ・医学・医療の倫理や生命倫理について説明することができる

授業の方法

- ・教科書および配布資料に沿って授業を行い、講義形式ですすめる
- ・授業内において質問の時間を設ける
- ・各回の授業の終わりにGoogle Formを用いて小テストを行い、授業の振り返りを行う

ICT活用

自主学習支援のため、講義資料を Google Classroom で配布する
Google Form を用いた双方向型授業を取り入れる

実務経験のある教員の教育内容

担当者は医療機関において勤務経験があり、その経験を活かして具体的・実践的な内容を盛り込んで授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google Formによる小テストで出席者の理解度を確認した上で、必要な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション. 医学の歴史について学ぶ. 病気とその治療・予防についての基本的な考え方を学ぶ.	教科書の 1章, 2章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第2回	患者の診察と検査の概略を学ぶ. わが国の社会保障と医療保険について学ぶ.	教科書の 3章, 4章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	国民の医療の現状と国民の意識を理解し, わが国の医療の問題点と対策について考える.	教科書の 5章, 6章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			

第4回	生活習慣病と特定健診, 産業保健と勤労者医療, 学校保健と障害児教育について学ぶ.	教科書の 7章, 8章, 9章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第5回	高齢者医療, 介護保険, リハビリテーションについて学ぶ.	教科書の 10章, 11章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	チーム医療の中での医療職の役割と医療安全について学ぶ.	教科書の 12章, 13章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			

第7回	災害医療について学ぶ. 医の倫理, 患者の権利について考える.	教科書の 14章, 15章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	国際医療協力について学ぶ. 医学研究と臨床への応用についての基本的考え方を学ぶ. 医療と法律についての概略を学ぶ. 本科目全体のまとめ.	教科書の 16章, 17章, 18章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の授業内で行う小テストの結果と出席態度により評価する
その他	0	
教科書		
現代医学概論 第3版 / 柳澤信夫 著 / 医歯薬出版		
参考文献		
必要に応じて授業中に参考図書を紹介する		
履修条件・留意事項等		

- ・準備学習で教科書を読んでいることを前提に授業をすすめる
- ・質問や確認事項がある場合は、積極的に発言すること
- ・Google Classroom にアクセスできる通信機器を持参のこと

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		リハビリテーション概論				ナンバリング	2284
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	白戸 力弥、牧野 均						

授業の位置づけ

理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」と特に関連する。また、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「作業療法を行うために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」と特に関連する。医学概論・日本国憲法・現代医療と福祉・介護と関連し、チーム医療概論、リハビリテーション医学、理学療法概論、作業療法学概論の基礎となる科目である。

授業の概要

リハビリテーションの歴史・理念・目標、病気・障害・健康の概念、リハビリテーション対象者の状態像を理解する。さらに、今日における医学的、教育的・職業的・地域リハビリテーション分野の基礎知識や総合リハビリテーションについて概観する。合わせて、わが国のリハビリテーションを支える社会制度や社会資源について学習し、関連職種間のチームワークやその重要性を概説する。

到達目標

1. リハビリテーションの定義と理念を述べることができる
2. 健康の概念、病気や障害のとらえ方を説明できる
3. 各種リハビリテーション分野の定義や現状を具体的に説明できる
4. 各リハビリテーション分野関連職種の名称を述べるができる
5. リハビリテーションを支える社会制度や社会資源、法律についておおまかに説明できる

授業の方法

パワーポイントを用いて講義形式ですすめる。授業の終わりに、理解度確認テストを実施する。

ICT活用

スマートフォンなどの媒体を用いて、出席および確認テストなどをGoogle Formで行う予定である。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員はともに理学療法士または作業療法士の資格を有し、臨床での勤務経験がある。これらを幅広い経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	リハビリテーションってなに？ リハビリテーションの意味、歴史、定義について学ぶ。	教科書の第1章1～13頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	牧野 均		
第2回	リハビリテーションはなぜ必要か 障害と障害者の歴史、国際障害者分類(ICIDH)、国際生活機能分類(ICF)、障害受容について学ぶ。	教科書の第2章15～29頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	リハビリテーションとチーム医療 チーム医療の必要性、多職種連携、リハビリテーションを支える医療職について学ぶ。	教科書の第3章31～44頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	牧野 均		

第4回	「活動を育む」リハビリテーション医学とは 活動とはなにか、人間が動くしくみ、歩行と移動、活動から 日常生活活動(ADL)へについて学ぶ。	教科書の第4章47～62頁を読ん でおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90 分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	リハビリテーションを支える社会保障制度 リハビリテーション関連法規、医療制度、介護保険制度に ついて学ぶ。	教科書の第5章65～86頁を読ん でおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90 分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	リハビリテーション工学 リハビリテーション工学とは何か、自助具、歩行補助具、車 椅子とシーティング、コミュニケーション支援機器、さらにロ ボティクスとリハビリテーションについて学ぶ。	教科書の第6章89～112頁を読 んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90 分)
担当教員	牧野 均		

第7回	栄養とリハビリテーション 栄養とは何か、食べることと摂食嚥下について、消化・吸収についてを学ぶ。	教科書の第7章113～126頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	牧野 均		
第8回	教育的リハビリテーションと職業的リハビリテーション 教育的リハビリテーションと職業的リハビリテーションの役割と実践について学ぶ。	教育的リハビリテーションと職業的リハビリテーションにはどのようなものがあるか調べる(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テストの合計点とする
その他	0	
教科書		
川手信行／リハビリテーション概論のいろは／南江堂		
参考文献		
田島文博 編著／リハビリテーション概論 改訂第4版／永井書店		
履修条件・留意事項等		

出席および確認テストなどに充電したスマートフォンなどを用いるので毎回、必ず持参すること。授業中に充電することはできない。

備考欄

教科書を必ず準備すること。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		公衆衛生学				ナンバリング	2286
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマポリシー「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」、作業療法学専攻のディプロマポリシー「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」と特に関連する科目である。							

到達目標 ・公衆衛生の定義・概念を理解し、各領域とその活動の特徴についての概略を理解することができる。 ・わが国の医療保険制度の特色とその仕組みの概略について理解することができる。 ・公衆衛生学の基本的手法である、疫学の特徴について理解することができる。 ・生活習慣病対策として取り組んでいる健康づくりの施策について理解することができる。			
授業の方法 教科書を用いるが、適宜、参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。また、講義の終了時に確認テストを実施し、内容の確認を行う。			
ICT活用 Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。			
実務経験のある教員の教育内容 該当なし			
課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、理解度確認のためのテストの解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	公衆衛生と健康の概念 ・公衆衛生の定義、健康の定義を理解する。 ・予防医学の概念を理解する。 ・プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションについて理解する。	教科書第1章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第2回	保健統計 ・健康指標とその例について理解する。 ・各種統計指標の内容について理解する。	教科書第2章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第3回	疫学 ・疫学の概念、方法論について理解する。 ・疾病、死亡の指標を理解する。	教科書第3章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		

第4回	疾病予防と健康管理 ・予防医学の概念について理解する。 ・健康増進の具体的手法とその特徴について理解する。 ・健康日本21について理解する。	教科書第4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第5回	疾病予防と健康管理 ・スクリーニング検査について理解する。	教科書第4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第6回	感染症対策 ・主要感染症の発生状況について理解する。 ・主要感染症の感染経路と特徴について理解する。 ・標準予防策について理解する。	教科書第5章-1を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		

第7回	疾病予防と健康管理 ・循環器系疾患の予防について理解する ・代謝性疾患の予防について理解する	教科書第5章-2, 3を事前に読んでおくこと。(90分) 第8回に行うまとめのテストに備え、講義内容の復習をする。	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第8回	地域保健と保健行政 ・地域保健活動の進め方について理解する。 ・PDCAサイクルについてその概要を理解する。 ・理解度確認のため、まとめのテストを実施する。	教科書第7章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施す確認テスト、まとめのテスト及び授業への参加態度により評価する。
その他	0	なし
教科書		
シンプル衛生公衆衛生学2025、辻一郎/小山洋、南江堂		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

講義は8回ですので3回以上の欠席で単位不認定になります。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		地域包括ケアシステム論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳、小橋 拓真						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる」、「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる」と特に関係がある科目である。また、「臨床場面や研究において、状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている」などとも関係する。

授業の概要

超高齢社会を迎えた日本では、医療・介護保険制度また関連する施策改定により、各地域の実情に合った地域包括ケアシステムの構築を推進しており、看護師・理学療法士・作業療法士等の活躍が期待されている。そのため地域包括ケアシステムの制度およびその実践を学び、地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、地域包括ケアシステムにおいてリーダー的役割を担うことができる能力を養う。

到達目標

・地域連携の基本的な連携について説明できる。 ・地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉と専門職の役割について説明できる。 ・在宅療養者と家族を中心とする地域包括ケアシステムについて説明できる。

授業の方法

・パワーポイントと配布資料、視聴覚教材を用いた講義形式とグループワークで進める。 ・授業の理解度確認のため小テストを実施する。 ・ゲストスピーカーによる地域における実践例について、レポート課題を実施する。

ICT活用

・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。 ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

水本は理学療法士として、これまで臨床・研究、行政職の経験があり、地域リハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を活かして地域包括ケアシステムに関する授業を行う。 小橋は、看護師、保健師としての実務経験、及び、地域包括支援センター、社会福祉協議会における実務経験を講義に活用する。

課題に対するフィードバックの方法

・アクティブラーニングとして小テストを実施し、実施後には、解答・解説を行い知識を深める。 ・小テストの最後に質問事項の記述欄を設け、次回の授業時に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1.地域包括ケアシステム論の概要, 地域連携の方法論および地域連携と多職種連携について【講義】(小橋) 1)地域包括ケアの概念 2)地域連携の理論と方法 3)我が国の社会保障制度の変遷 4)我が国の医療の背景と特徴, ケアサイクルの概念と理論 5)連携の方法と形式について 6)地域包括ケアシステムが求められる背景	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	小橋 拓真		
第2回	2.地域包括ケアシステムにおけるリハ職の役割【講義】(水本) 1)退院支援から地域連携におけるリハ職の役割 2)様々な地域の事例から地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み 3)薬剤師, ソーシャルワーカーなど他の役割について 小テスト1および解説	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	水本 淳		
第3回	3.地域包括ケアシステムにおける看護職の役割【講義】(小橋) 1)退院支援から地域連携において, 看護師にはどのような役割があるのかについて 2)退院支援のプロセス第1段階, 第2段階, 第3段階について 3)地域連携の展望と課題 4)認知症ケアが必要とする地域連携 5)小規模多機能型居宅介護が進める地域連携	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	小橋 拓真		

第4回	4.地域医療連携における退院支援の実践【講義】(小橋・水本) ゲストスピーカー: 盛岡友愛病院 退院支援専従看護師 看護師長 高江柄 敦子 先生 1)退院支援部門の看護師による退院支援院内チームと地域連携の取り組みについて	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	小橋 拓真		
第5回	5.地域連携の方法論【演習】(水本・小橋) ゲストスピーカー: 大津 崇輔 先生 (元経済産業省/北海道子ども総合医療・療育センター 企画総務課) 1)日本における地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み ・国の機関(経済産業省・厚生労働省・内閣府など)や地域公共団体が支える地域包括ケアシステム	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	水本 淳		
第6回	6.地域包括ケアシステムにおける多職種の連携【演習】(水本) グループワーク 視聴覚教材の視聴	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	水本 淳		

第7回	7.地域包括ケアにおける医師の役割と地域連携の実践【講義】(小橋・水本) ゲストスピーカー: 柴田 岳三 先生(緩和ケアクリニック恵庭) 1)恵庭市で緩和ケアクリニックを開業している医師から恵庭市における在宅緩和ケアを中心とした地域包括ケアシステムの取り組みについて	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	小橋 拓真		
第8回	8.地域包括ケアシステムの展望について【講義】(水本) 1)インテグレートケアについて 2)地域包括ケアシステムの展望について 視聴覚教材の視聴 小テスト2および解説	教科書の関連する内容を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	水本 淳		
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	課題レポート(60%:8回)
その他	40	小テスト:2回(40%:20%×2回)
教科書		
地域連携論－医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援－ 高橋紘士・武藤正樹／オーム社		
参考文献		
講義内で紹介する		
履修条件・留意事項等		

地域のサービスについて興味を持って学ぶこと

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		統計と社会調査法				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小田 史郎						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーのうち、理学療法学専攻では「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関連し、作業療法学専攻では「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」などと関連する科目である。「統計の基礎」の応用科目に位置づけられる。							

- ①学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、調査計画を立てることができるようになる。
 ②学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、質問紙を作成することができるようになる。
 ③学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、データを分析し、まとめることができるようになる。

授業の方法

パワーポイント、配付印刷物を活用しながら、講義形式で進める(全15回)。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の小レポートに対しては、内容に関する質問に回答します。
 最終レポートについては第15回の講義時に講評します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンスにおいて講義の流れや評価の方法について確認する。また社会調査とは何か、社会調査の目的やその分類について学ぶ。	シラバスを読み、社会調査の定義について調べておく(30分)	自分が調査したいテーマについて関連する資料を探しておく(150分)。
担当教員			
第2回	社会調査の流れについて、フローチャートに基づいて学ぶ。全体像をつかんだ後、最初に行うべき基礎資料の収集法について学ぶ。	社会調査の流れについて示した文献を探し、読んでおく(60分)。	講義で習った方法を用いて、調査テーマに関連する文献検索と収集を行う(120分)。
担当教員			
第3回	文献の読み方について学ぶ。調査テーマに関連する学術論文を題材に、どこまで明らかにされており、何が課題として残っているか、またどのような方法が用いられているかを読み解く方法について学ぶ。	収集した文献を読み、必要な部分をまとめておく(90分)。	講義で習ったことを参考に、収集した論文で明らかにされていること、課題として残されていることをまとめる(90分)。
担当教員			

第4回	考察やまとめを意識した学術論文の収集方法、整理方法について学ぶ。調査テーマに関する論文だけでなく、関係性を説明できる学術論文の集め方について学ぶ。さらに社会調査における倫理的な配慮についても学ぶ。	収集した文献を読み、研究背景として使える部分をまとめておく(90分)。	先行研究を参考に、研究背景と研究目的をレポートにまとめる(90分)。
担当教員			
第5回	調査バイアスや交絡因子について学ぶ。バイアスが入ったデータは精度が低くなることを理解し、調査の精度を高めるためにこれらをできるだけ少なくするための方法を学ぶ。	調査時に起きるバイアスや交絡の考え方について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成について整理する。また文献検討により、「方法」の部分に記載する事項について調べる(150分)。
担当教員			
第6回	妥当性と信頼性について学び、調査質問紙を作成する際にどのような点に注意するかについて学ぶ。また報告書の「方法」の部分の記載方法について学ぶ。	調査における妥当性や信頼性について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成や内容について精査する。また講義で習った記載方法に基づいて、自分の調査の「方法」の部分を文章化する(150分)。
担当教員			

第7回	質問の文章化、選択肢の作り方のルール、質問紙のレイアウトについても学ぶ。	調査質問紙作成のルールについて事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査内容を具体的に文章化する。また選択肢も作成する(150分)。
担当教員			
第8回	アンケート実施後のデータの編集方法、パソコンへの入力方法、集計方法について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの集計方法について復習する(30分)。	講義内容をもとに、自分の調査結果を入力するデータベースを作成する(150分)
担当教員			
第9回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。分割表の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの検定方法について復習する(60分)。	調査質問紙を精査する。また自分のデータをどのように解析するかについてのレポート作成を開始する(120分)。
担当教員			

第10回	データの種類の合わせた統計解析の方法について学ぶ。 差の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの 検定方法について復習する(60 分)。	架空のデータを入れて集計・解 析する。その結果に基づき、調 査質問紙の修正する(120分)。
担当教員			
第11回	データの種類の合わせた統計解析の方法について学ぶ。 相関係数の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの 検定方法について復習する(60 分)。	調査質問紙、自分のデータをど のように解析するかについての レポートを作成する(120分)。
担当教員			
第12回	データの種類の合わせた統計解析の方法について学ぶ。 重複測定一分散分析法について学ぶ。さらに母集団と標 本について理解し、母集団から標本を抽出する無作為抽 出法について学ぶ。	全数調査と標本調査について 調べておく(30分)。	講義の内容を復習するとともに、 レポートを作成する(150分)。
担当教員			

第13回	標本誤差の考え方と社会調査で必要とされる標本数の求め方について学ぶ。	標本誤差や必要なサンプル数について事前に調べておく(30分)。	講義の内容を復習するとともに、レポートを完成させる(150分)。
担当教員			
第14回	有効回収率とこれを高める必要性について学ぶ。さらに有効回収率を高める工夫について学ぶ。最終レポートの提出を行う。	有効回収率に関して事前に調べておく。また最終レポートを完成し、提出できるように印刷しておく(120分)。	講義の内容をまとめる(60分)。
担当教員			
第15回	最終レポートへの講評により学びを深める。研究デザインとエビデンスレベルについて学び、症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験の特徴について理解する。	症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験について事前に調べておく(30分)。	第15回の講義内容をまとめるとともに、講義全体で習ったことを整理する(150分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の小レポート、あるいは課題(50点)、研究背景、研究目的、質問紙、解析計画に関するレポート(50点)の総合点で評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

「統計の基礎」で使用した「4stepエクセル統計」をデータ解析の説明時に用います。
第8-12回の授業時には持参ください。

履修条件・留意事項等

この講義は、「統計の基礎」の応用科目に位置づけられる。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		チーム医療概論				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美、佐藤 明紀、金谷 匡紘						

授業の位置づけ

看護学科のディプロマポリシー「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる」に関連した科目である。

他の科目とのつながり：
「保健医療福祉行政論」「コミュニケーション論」「リハビリテーション論」「地域包括ケアシステム論」と関連し、「看護マネジメント論」および専門科目の看護学臨地実習分野の基礎となる。

授業の概要

本科目は、チーム医療の視点を持ち、多職種連携を理解することを目標とする。学習方法は異なる職種で構成されるチームメンバーの役割と機能を把握し、効果的なチームビルディングに必要な知識を習得する。これらの知識を基盤として各専門職の立場からチームにおける自らの役割を考察する。

到達目標

- ・チーム医療における各専門職の役割について説明できる
- ・多職種で連携する目的と、その実現に向けたシステムについて説明できる。
- ・多職種と協働するために必要なコミュニケーションスキルについて説明できる

授業の方法

パワーポイントとハンドアウトによる講義、および講義の内容に基づいたグループワークを行う。

ICT活用

Google Classroomを用いて、授業資料の配信や出席確認、レポート課題の提出などを行う場合がある。

実務経験のある教員の教育内容

坂東奈穂美：看護師として急性期病院での勤務経験を活かした授業を行う。
 佐藤明紀：理学療法士として、総合病院での臨床経験15年を有し、活動経験を基に授業を行う。
 金谷匡紘：作業療法士として急性期や回復期、生活期のリハビリテーションに従事しており、その経験を基に授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

コメントシートは授業内、もしくはGoogle Classroom内で解説する。レポート課題については、必要時、コメントによりフィードバックをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 【看護師の役割】 チーム医療が求められるようになった背景と、看護職に求められる役割について説明する。(坂東) コメントシート①	チーム医療における看護師の役割を調べる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第2回	【理学療法士の役割】 理学療法士の役割について説明する(佐藤) コメントシート②	理学療法士の仕事について調べる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	【多職種との連携①】 他職種を理解し連携を考える(佐藤)	指定された他職種の仕事について調べる(90分)	レポート課題①を期限までに提出する(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第4回	【作業療法士の役割】 チーム医療における作業療法士の役割について説明する (金谷)	作業療法士の仕事について調べる(90分)	授業内容をノートにまとめる。 (90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第5回	【多職種との連携②】 病院と地域をつなぐチーム医療(金谷)	医療ソーシャルワーカーの仕事について調べる(90分)	レポート課題②を期限までに提出する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第6回	【連携・協働のためのスキル】(坂東) 多職種で連携・協働するためのコミュニケーション、チームが出来上がるまでのプロセス、連携のための心構え(DVD)、多職種で連携しやすくするための取り組み(IPW/IPE)コメントシート④	友人や知人などと関係性を作るときに気を付けていることをあげてくる(90分)	他職種を理解するために自分はどうしたいのか考えをまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第7回	グループワーク:他職種を理解するために、どのようなことを行おうと良いのかを考える。一チームとして協力し合うために必要なことー(佐藤、金谷、坂東)	自分とは異なる考えや価値観を持った相手に対して、自分はどうのように捉えるのか、自分の傾向を振り返える(90分)	グループで検討した内容をまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、佐藤 明紀、金谷 匡紘		
第8回	グループワークの発表会(佐藤・金谷・坂東) それぞれのグループで話し合った事について発表し、共有する。	発表の準備をする(90分)	レポート課題③に取り組む(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、佐藤 明紀、金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	コメントシート:40%(10%×4回) レポート課題:60%(15%×2回、30%×1回)
その他	0	
教科書		
なし。授業内で資料を配布する		
参考文献		
・実践チーム医療論—実際と教育プログラム 水本清久他 編著 医歯薬出版 2011 ・「チーム医療」とは何か—患者・利用者本位のアプローチに向けて(第2版) 細田満和子 著 日本看護協会出版会 2021 ・新しいチーム医療—看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門(改訂版) 田村由美 編著 看護の科学社 2018		
履修条件・留意事項等		

コメントシートや課題は授業内容やグループで検討した内容や準備学習・事後学習に基づいているので、欠席しないこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 作業療法基礎					
科目名		解剖学Ⅲ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	金子 翔拓						
授業の位置づけ							
作業療法学専攻ディプロマポリシー「知識・技能」の「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」を達成するための科目であり、作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるために評価学を学ぶ。基礎医学的知識と臨床医学的知識を、作業療法士に不可欠な治療技術の根拠に還元できるようになるために、本講義は「解剖学を主体とした臨床学」という性格を強調する。作業療法を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけるための科目である。							

- ・解剖学Ⅱで学んだ内容の理解を深めることができる。
- ・遺体解剖を用いて、筋骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、感覚器系の構造・配置・性質・成り立ち・機能について理解することができる。
- ・リハビリテーションの治療技術への応用をイメージできるようになる。

授業の方法

パワーポイントと毎回配布する資料を用いて講義形式で解説する。
体験学習を通して人体について理解し解説する。

ICT活用

Google formのテスト作成機能を用いて練習問題や確認問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓:10年以上の作業療法士の実践経験があり、解剖学について幅広い知識を有している。

課題に対するフィードバックの方法

毎回配布する国家試験問題は講義内でフィードバックします。
復習試験を実施し回収後、問題の解説をします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	遺体解剖を通して、筋骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、感覚器系の構造・配置・性質・成り立ち・機能について理解する。 ①上肢	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	遺体解剖を通して筋骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、感覚器系の構造・配置・性質・成り立ち・機能について理解する ②下肢	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	遺体解剖を通して、筋骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、感覚器系の構造・配置・性質・成り立ち・機能について理解する ③体幹	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	遺体解剖を通して、筋骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、神経系、感覚器系の構造・配置・性質・成り立ち・機能について理解する ④脳	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	上肢の筋骨格系について学び、触診、起始停止、支配神経、作用について理解する	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	下肢の筋骨格系について学び、触診、起始停止、支配神経、作用について理解する。	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	体幹の筋骨格系について学び、触診、起始停止、支配神経、作用について理解する	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	全身の筋骨格系について理解する。	シラバスを参考にして電子書籍解剖トレーニングノートの該当ページを予習しておくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	復習テストで評価する。復習テストの満点のうち60以上の獲得にて単位取得と判定する
その他	0	なし
教科書		
使用しない。		
参考文献		
解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱで使用した教科書 電子書籍解剖トレーニングノート		
履修条件・留意事項等		

講義は8回ですので3回以上の欠席で単位不認定となります。

備考欄

なし

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 作業療法基礎					
科目名		解剖学実習				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、木村 一志、白戸 力弥、玉 珍、大坂 隆介						

授業の位置づけ

作業療法学専攻のディプロマポリシー「知識・技能」の「作業療法を实践するために必要な基本的知識を身につけている。」を達成するための科目であり、作業療法を实践するために必要な基本的知識を身につけるために解剖学を修める。解剖学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰを基に、具体的な筋の起始停止や神経支配、走行などを学ぶ。

授業の概要

人体の構造と各機関の連関を解剖体の観察を通して理解を深める。さらに学生相互に生体の観察、触知や運動などを通して体表解剖実習を行うことにより生体の正常な形態や動きについて学習する。これまで学習してきた解剖学の知識をもとに、触診技術を身につけながら各種組織について位置や形状および動きについて学び習得する。またこれまで学習してきた疾患等と、解剖学の知識の統合を図り理解を深める。

到達目標

模型あるいは図で示された骨、筋肉の名称を、資料を参照せずに述べるができる。筋の起始、停止、作用、神経支配を、資料を参照せずに説明することができる。中枢神経の構造と神経走行、機能について資料を参照せずに説明できる。顕微鏡で観察した人体組織の名称と機能、それに微細構造について、資料を参照せずに説明できること。

授業の方法

講義・実習形態、パワーポイントを使用しながらプレゼンテーションをします。

ICT活用

Google formにてテスト作成し、確認のための自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として10年以上勤務した経験を活かし、解剖学実習の授業を行う。
木村一志:東京工業大学理学部、奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科、京都大学大学院医学研究科、三重大学大学院医学系研究科にて10数年勤務。これまでの経験を活かし、解剖学実習の授業を行う。
白戸力弥:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として10年以上勤務した経験を活かし、解剖学実習の授業を行う。
大坂隆介:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として10年以上勤務した経験を活かし、解剖学実習の授業を行う。
玉珍:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として10年以上勤務した経験を活かし、解剖学実習の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にてフィードバックしていきます。口頭にてフィードバックしていきます。Google formにてフィードバックしていきます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	①上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・上肢帯の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・上肢帯を走行する神経とその支配筋肉を理解する。	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)
担当教員	金子 翔拓		
第2回	②上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・上肢帯の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・上肢帯を走行する神経とその支配筋肉を理解する。	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	③上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・上肢帯の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・上肢帯を走行する神経とその支配筋肉を理解する。	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)
担当教員	金子 翔拓		

第4回	①下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・下肢帯の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・下肢帯を走行する神経とその支配筋肉を理解する。	下肢の骨と筋肉・下肢の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)	下肢の骨と筋肉・下肢の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)
担当教員	金子 翔拓		
第5回	②下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・下肢帯の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・下肢帯を走行する神経とその支配筋肉を理解する。	下肢の骨と筋肉・下肢の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)	下肢の骨と筋肉・下肢の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)
担当教員	金子 翔拓		
第6回	③下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・下肢帯の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・下肢帯を走行する神経とその支配筋肉を理解する。	下肢の骨と筋肉・下肢の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)	下肢の骨と筋肉・下肢の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)
担当教員	大坂 隆介		

第7回	①体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・体幹の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・体幹を走行する神経とその支配筋肉を理解する。	体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)	体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)
担当教員	大坂 隆介		
第8回	②体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・体幹の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・体幹を走行する神経とその支配筋肉を理解する。	体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)	体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)
担当教員	白戸 力弥		
第9回	③体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を理解する。 ・体幹の骨に関して各部位の名称と付着する筋について理解する。 ・体幹を走行する神経とその支配筋肉を理解する。	体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)	体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)
担当教員	玉 珍		

第10回	中枢神経系1・脳の神経核、神経走行を立体的に理解する。	脳の神経核、神経走行について予習する(60分)	脳の神経核、神経走行について復習する(60分)
担当教員	木村 一志		
第11回	中枢神経系2・脳の神経核、神経走行を立体的に理解する。	脊髄の神経核、神経走行について予習する(60分)	脊髄の神経核、神経走行について復習する(60分)
担当教員	木村 一志		
第12回	組織学・人体各組織の標本を顕微鏡で観察し、その微細構造と名称・機能を理解する。	微細構造と名称・機能について予習する(60分)	微細構造と名称・機能について復習する(60分)
担当教員	木村 一志		

第13回	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、確認テストをする	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)	上肢の骨と筋肉・上肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を復習する(60分)
担当教員	大坂 隆介		
第14回	下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、確認テストをする	下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)	下肢の骨と筋肉・下肢帯の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を復習する(60分)
担当教員	大坂 隆介		
第15回	体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、確認テストをする	体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を予習する(60分)	体幹の骨と筋肉・体幹の筋肉および関連する骨に関して、形と名称を復習する(60分)
担当教員	大坂 隆介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席状況、確認テスト
その他	0	なし
教科書		
プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系 第3版 坂井建雄 医学書院		
参考文献		

随時配布する。

履修条件・留意事項等

休まず出席すること, 1回でも欠席すれば単位認定しない

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門基礎科目 作業療法基礎					
科目名		精神医学Ⅱ（作業療法）				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
理学療法・作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。 理学療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」と関係する科目である。作業療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」及び「【知識・技能】高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。」と関係する科目である。両専攻ともに「精神医学Ⅰ」と関連し、作業療法学専攻においては「精神障害作業療法治療学」の基礎となる。							
授業の概要							
精神医学Ⅰで得た主要精神科疾患の症状などについての知識に加え、それぞれの疾患の病因、心理社会的な困難、治療法についての理解を深める。							
到達目標							

1. 精神科疾患に関する知識を深め、説明できる。
2. これらの知識を、理学療法士・作業療法士としてリハビリテーションを実践していくときに応用できる。
3. 精神科疾患を持つ患者をよく理解し適切に対応できるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
必要に応じてオンライン授業を実施する。
Google Classroomを用いた理解度確認テストを講義時間内に行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

医師としての臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストのフィードバックとして解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【神経症性障害①】 神経症性障害の概念(ICD-10)とその種類、臨床的特徴について学ぶ。DSM-5-TRの不安症群に分類される全般不安症、パニック症、広場恐怖症、社交不安症、分離不安症、限局性恐怖症など、及び強迫症及び関連症群に分類される強迫症、身体醜形症、ためこみ症、抜毛症、皮膚むしり症などについて学ぶ。	教科書のpp.164～169を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第2回	【神経症性障害②】 DSM-5-TRの心的外傷及びストレス因関連症群に分類される心的外傷後ストレス症、急性ストレス反応、適応反応症、解離症群に分類される解離性同一症、解離性健忘、離人感・現実感消失症、並びに身体症状症及び関連症群に分類される身体症状症、病気不安症、機能性神経学的症状(変換症)などについて学ぶ。	教科書のpp.169～175を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第3回	【生理的障害および身体的要因に関連した障害】 身体的要因と関連した精神障害にはどのようなものがあるか理解する。DSM-5-TRの食行動症及び摂食症群に分類される神経性やせ症、回避・制限性食物摂取症、神経性過食症、及び睡眠・覚醒障害群に分類される不眠障害、過眠障害、ナルコレプシー、呼吸関連睡眠障害群、睡眠時随伴症群などについて学ぶ。	教科書のpp.176～180を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第4回	【成人のパーソナリティ・行動・性の障害】 パーソナリティ障害(パーソナリティ症)の概念、代表的なパーソナリティ障害の類型とその特徴について学ぶ。特に臨床場面で問題となるボーダーラインパーソナリティ症を中心に、その病因と病態、治療と援助の基本的な考え方を学ぶ。	教科書のpp.181～187を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第5回	【コンサルテーション・リエゾン精神医学／心身医学】 コンサルテーション・リエゾン精神医学の概念を理解し、精神腫瘍学、臨死状態やターミナルケアにおける精神的問題について学ぶ。また、心身医学の概念と心身症の発現機序、心身症として考えられている多様な疾患、及び心身症の治療の基本について学ぶ。	教科書のpp.207～214を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第6回	【心理的発達の障害／精神遅滞[知的障害]／ライフサイクルにおける精神医学】 心理的発達の障害及び精神遅滞について学ぶ。DSM-5-TRの神経発達症群に分類される知的発達症群、コミュニケーション症群、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症、運動症群について学ぶ。また、ライフサイクルの観点から、小児期・青年期、成人期、初老期、老年期の精神・心理特性について学ぶ。	教科書のpp.188～206、pp.215～230を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第7回	【精神障害の治療とリハビリテーション①】 精神障害に対して用いられている主な治療法の種類と特徴、適応などについて学ぶ。薬物療法に関しては向精神薬の種類と主な薬物の作用、対象とする疾患や副作用、リハビリテーションにおける注意点などについて、精神療法に関しては、技法に基づく種類とその特色、対象疾患、実施にあたっての注意などを学ぶ。	教科書のpp.231～253を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第8回	【精神障害の治療とリハビリテーション②】 精神療法/心理療法各論その1 認知行動療法の第1世代から第3世代に至る3つの主要な流れを概観し、それらの文化的背景、共通する原則と基本技法、行動変容技法、認知変容技法の概要を学ぶ。	教科書のpp.242～247を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第9回	【精神障害の治療とリハビリテーション③】 精神療法/心理療法各論その2 芸術療法、特に音楽療法、箱庭療法を取り上げ、音楽療法の基礎となる音楽心理学、箱庭療法の背景にあるユング心理学をふまえつつそれらの概要を学ぶ。	教科書のpp.242～247を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第10回	【精神障害の治療とリハビリテーション④】 精神療法/心理療法各論その3 フロイトの精神分析とユング心理学の概要を学ぶ。フロイトの局所論モデルと構造論モデル、自我の防衛機制、精神的発達論、ユングの心理学的類型論、集合的無意識、個性化理論などについて学ぶ。	教科書のpp.242～247を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第11回	【精神科保健医療と福祉, 職業リハビリテーション】 精神保健福祉法と関連法規、精神障害者の職業リハビリテーションについて学ぶ。	教科書のpp.254～272を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第12回	【社会・文化とメンタルヘルス①】 学校におけるメンタルヘルス(学校精神保健)について学ぶ。いじめの歴史の変遷、古典的いじめと現代型いじめ、いじめ防止対策推進法などについて学ぶ。	教科書のpp.273～275を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第13回	【社会・文化とメンタルヘルス②】 職場のメンタルヘルス(産業精神保健)について学ぶ。長時間労働と過労死、職場のストレス、組織におけるメンタルヘルス対策などについて学ぶ。	教科書のpp.275～276を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第14回	【社会・文化とメンタルヘルス③】 家庭のメンタルヘルス(家族精神保健)、司法精神医学、社会現象とメンタルヘルスについて学ぶ。	教科書のpp.276～279を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第15回	【まとめと修了テスト】 第1回から第14回までの総括、および修了テストを実施する。	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	修了テストを自己採点し、理解を深めること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト、修了テスト、レポートの提出状況等。詳細は授業中に伝える。
その他	0	なし
教科書		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版／上野武治 編集／医学書院		
参考文献		

標準精神医学第9版／尾崎紀夫・三村將監修、水野雅文・村井俊哉・明智龍男 編集／医学書院

履修条件・留意事項等

精神医学Ⅰの修得を前提とする。

備考欄

特記事項なし。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業療法概論				ナンバリング	3400
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、大川 浩子、玉 珍、金 京室						
授業の位置づけ							
作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につける(知識・技能)」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」。 また、学生の生活時間や作業バランスを自己評価し改善法を考えるなどを含む、初年次教育に位置づく科目である。リハビリテーション概論に関連し、基礎作業学・チーム医療概論の基礎となる科目である。							
授業の概要							
現在の作業療法や作業と生活に関する基礎的知識を身につける。事例から作業療法実践の流れを理解する。作業療法士の留学体験を聴くことで職業イメージを上げ、施設見学から作業療法士と他職種との連携を考え、専門職になるための自己目標を明確にする。							
到達目標							

- 1.作業療法の定義、法律、作業療法士養成カリキュラムと必要な資質と適性について説明できる。
- 2.作業の定義、作業科学の誕生、現代の作業療法の特徴について概要を説明できる。
- 3.作業科学の基礎的用語に触れて、作業の大まかな分析法を説明できる。
- 4.作業療法と他職種とのチームワークはどうあるべきかについて意見を述べることができる。
- 5.身体障害・発達障害・精神障害の作業療法の歴史の概要を説明できる。
- 6.作業療法の事例に触れ、作業療法のプロセスを述べることができる。
- 7.課題についてグループで発表し議論をしたり、レポートやポートフォリオにまとめることができる。
- 8.世界の作業療法に興味を持つことができる。

授業の方法

パワーポイントとビデオ画像、配布印刷物を用いた講義、英語で作業療法の説明を理解する体験、施設見学授業、外国で生まれた人が作業療法教員になるまでの体験談や他国の作業療法事情を聴く体験などから刺激を受け、学生による議論や発表を組み合わせ、積極的能動的に学習する。

教師が提案するルーブリック評価表について学生間で議論して評価項目を決め、グループで作成した課題プレゼンテーションについて学生の相互評価を行う。施設見学授業の事後レポートや、クイズと確認テストにより、学習内容を確認・記憶。授業経過をポートフォリオに綴じる習慣を身に着ける。最後に凝縮ポートフォリオをまとめ、深い理解につなげる。

ICT活用

学生による「日本の作業療法の歴史」グループ発表において、Googleドライブの中にGoogleスライドを共同で作成する。グループの課題プレゼンテーションの学生による相互評価を、インターネットを用いたアンケートを利用して、リアルタイムに共有できるようにする。この科目のClassroomに必要な授業資料をストックする。遠隔授業が中心になる場合は、小グループでの話し合いは、授業中はZoomのブレイクアウトルーム機能を、授業以外の事前事後学習ではLineのグループ電話機能も使う。授業前のスマホやパソコンの設定・準備、WiFi環境については1回目に確認する。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓・大川浩子・金京室・玉珍:すべての教員が病院やクリニックにて臨床実践を5年以上積んでおり、幅広い知識を有している。

課題に対するフィードバックの方法

学生作成の課題プレゼンテーションの相互評価の結果をリアルタイムに公表する。クイズ・確認テストの解答の解説、凝縮ポートフォリオへのコメントを個別またはまとめてクラス全員に掲示する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、作業療法における作業の意味	作業療法における作業の意味について予習しておくこと(90分)	作業療法における作業の意味について復習しておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第2回	作業療法の歴史。道徳療法について	作業療法の歴史。道徳療法について予習しておくこと(90分)	作業療法の歴史。道徳療法について復習しておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	作業療法の歴史②。アーツアンドクラフツ運動について	作業療法の歴史。アーツアンドクラフツ運動について予習しておくこと(90分)	作業療法の歴史。アーツアンドクラフツ運動について予習しておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第4回	作業療法の歴史③。プラグマティズムについて	作業療法の歴史。プラグマティズムについて予習しておく(90分)	作業療法の歴史。プラグマティズムについて復習しておく(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第5回	作業療法の歴史④。日本における作業療法の変遷	作業療法の歴史。日本における作業療法の変遷について予習しておく(90分)	作業療法の歴史。日本における作業療法の変遷について復習しておく(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第6回	理学療法の専門性を知る	理学療法について予習しておく(90分)	理学療法について復習する(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第7回	作業療法の歴史 日本の精神科作業療法の歴史 ・呉秀三による移動療法 ・加藤普佐次郎による作業療法 など	呉秀三による移動療法・加藤普佐次郎による作業療法について 予習しておく(90分)	呉秀三による移動療法・加藤普佐次郎による作業療法について 復習しておく(90分)
担当教員	大川 浩子		
第8回	作業療法を知る 身体障害作業療法(運動器)の事例について	身体障害作業療法(運動器)について予習しておく(90分)	身体障害作業療法(運動器)について復習しておく(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第9回	作業療法を知る 認知症の事例について	認知症の事例に対する作業療法について予習しておく(90分)	認知症の事例に対する作業療法について復習しておく(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第10回	作業療法を知る 多職種連携による事例への介入について	多職種連携による事例への介入について予習しておく(90分)	多職種連携による事例への介入について復習しておく(90分)
担当教員	金子 翔拓、玉 珍、金 京室		
第11回	* 中枢神経障害の作業療法事例 * 作業療法のプロセスの理解	中枢神経障害の作業療法事例について、作業療法のプロセスの理解を予習しておく(90分)	中枢神経障害の作業療法事例について、作業療法のプロセスの理解を復習しておく(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	* 発達障害の作業療法事例 * 作業療法のプロセスの理解	発達障害の作業療法事例について、作業療法のプロセスの理解を予習しておく(90分)	発達障害の作業療法事例について、作業療法のプロセスの理解を復習しておく(90分)
担当教員	大川 浩子		

第13回	＊精神障害の作業療法事例 ・精神科領域の作業療法の対象と治療手段 ・作業療法プロセスの理解と治療の基礎となる関係性について	精神科領域の作業療法の対象と治療手段・作業療法プロセスの理解と治療の基礎となる関係性について予習しておく(90分)	精神科領域の作業療法の対象と治療手段・作業療法プロセスの理解と治療の基礎となる関係性について復習しておく(90分)
担当教員	大川 浩子		
第14回	- 作業療法部門における管理について - 作業療法を運営するにあたり必要な管理について学ぶ。 ・専門職としての職業倫理 ・記録と報告 ・診療報酬	作業療法部門における管理について予習しておく(90分)	作業療法部門における管理について復習しておく(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	確認テスト	ポートフォリオを仕上げ、確認テストの準備をする(90分)。	凝縮ポートフォリオを完成して提出する(90分)。
担当教員	金子 翔拓		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト、出席状況により総合判定する
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

作業療法学概論／長崎重信監修／メジカルビュー社
 「作業」って何だろうー作業科学入門ー / 吉川ひろみ / 医歯薬出版
 英語で学ぶ作業療法 / 山内 ひさえ, 吉川ひろみ, Peter kenneth Howell 著 / シービーアール
 作業療法を観る / 菊池恵美子編 / シービーアール
 作業で語る事例報告 作業療法のレジュメの書き方・考え方 齋藤佑樹 編、医学書院

履修条件・留意事項等

グループ学習は能動的に。教科書、ノートなどを綴じたポートフォリオを毎回必ず持参する。学外見学授業は原則的に必ず出席。遠隔授業が中心になる場合は特に、パソコンやWiFi環境の準備をしっかりとっておくこと。原則的に必ず出席すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		基礎作業学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	白戸 力弥、金 京室、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」、「総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」と関連がある。また、リハビリテーション概論、作業療法概論の科目と関連し、作業療法評価学、作業分析学実習Ⅰ・Ⅱで実践的な技能を体得するための基礎となる。							
授業の概要							
心身障害や作業的不公正による作業機能障害を克服し、対象者の望む作業の遂行を可能にし、対象者の豊かな生活を実現する作業療法を展開するために、必要な知識や方法・考え方を学習する。1) 作業分析法(包括的・限定的作業分析、作業の形態・機能・意味の分析)を学習する。2) 作業機能障害の克服に役立つ作業科学の諸概念を学習する。3) 作業療法の事例報告を読み、作業療法士のクリニカルリーズニングの実際を把握する。そのための基礎知識として、キールホフナーの挙げた概念的実践モデルや関連知識の種類とその大まかな内容を学習する。							
到達目標							

1. 作業療法で用いる作業種目の種類と目的、適応疾患を説明できる
2. 作業療法の流れにおける作業分析の位置づけ、目的、種類を説明できる
3. 作業療法の理論についてその種類と概要を説明できる
4. 事例を通して、各領域における「作業」の治療への応用を説明できる

授業の方法

教科書に沿って授業を進める。
授業の最後に確認テストを実施する回がある。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

白戸、金と大坂ともに作業療法士としての豊富な臨床経験を有し、その経験を踏まえて本科目の授業を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

確認テストをフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	コースガイド, 作業学総論 ・作業療法における作業 ・作業学とは ・作業を用いた療法に関連する基本的事項	教科書p.6-21を讀んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	作業の治療への適用① ・作業はどう使えば効果的か ・身体機能を向上させるための方法 ・作業分析	教科書p.24-45を讀んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	作業の治療への適用② ・分析結果と治療目標 ・治療実施における目標設定の順序性 ・指導法 ・対象者への指導～CCSの場面で～ 授業終了後に確認テストを行う	教科書p.46-67を讀んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	白戸 力弥		

第4回	作業種目の実際① ・陶芸 ・木工 ・草細工 ・ぬり絵	教科書p.70-115を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	大坂 隆介		
第5回	作業種目の実際② ・籐細工 ・ネット手芸 ・貼り絵 ・音楽 授業終了後に確認テストを行う	教科書p.116-162を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	大坂 隆介		
第6回	作業種目の実際③ ・電子機器 ・ビーズ手芸 ・調理 ・感覚運動遊び ・ウォーキング, ジョギング	教科書p.163-215読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	金 京室		

第7回	諸理論と作業① ・生体力学モデル ・Evidence-Based Occupational Therapy (EBOT) の重要性 授業終了後に確認テストを行う	生体力学モデルとEBOTについて調べておくこと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	諸理論と作業② ・運動コントロールモデル ・運動学習理論	運動コントロールモデルと運動学習理論について調べておくこと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	大坂 隆介		
第9回	諸理論と作業③ ・感覚統合療法 ・グループの発達レベルなど	教科書p.274-287を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	金 京室		

第10回	諸理論と作業④ ・作業科学 ・人間作業モデル 授業終了後に確認テストを行う	教科書p.218-244を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	金 京室		
第11回	諸理論と作業⑤ ・精神分析 ・認知行動療法	教科書p.245-273を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	金 京室		
第12回	諸理論と作業⑥ ・カナダ作業遂行測定 ・生活行為向上マネジメント 授業終了後に確認テストを行う	教科書p.288-304を読んでおくこと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	大坂 隆介		

第13回	治療への応用～事例を通して① 身体障害領域	教科書p.306-317を読んでおく こと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	治療への応用～事例を通して② 発達障害領域 授業終了後に確認テストを行う	教科書p.328-339を読んでおく こと(30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	金 京室		
第15回	治療への応用～事例を通して③ 高齢障害領域	教科書p.340-367を読んでおく こと (30分)	授業内容を復習すること(15分)
担当教員	大坂 隆介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テストの合計
その他	0	
教科書		
作業学第3版 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト/長崎重信監修 浅沼辰志編集/メジカルビュー社		
参考文献		

- 1) ひとと作業・作業活動/山根寛著/三輪書店
- 2) 作業療法の話をしよう: 作業の力に気づくための歴史・理論・実践/吉川 ひろみ編/医学書院

履修条件・留意事項等

教科書を必ず準備すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		コミュニケーション技法				ナンバリング	3420
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金 京室、小澤 裕子						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として学生のメタ認知力を高め、対人スキルを向上させ、自主的な学習態度に結び付ける。また、以下のディプロマポリシーに基づく学修を支える基礎的な科目である【知識・技能】高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につける。医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につける。【関心・意欲・態度】地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。【思考・判断・表現】科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につける。臨床場面や研究において、状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につける。特に作業療法においては、対象者や家族・スタッフとの関わりを適切に行うことが必要であるため、全ての学外実習科目と連携する科目である。							
授業の概要							
作業療法対象者との信頼関係を育むことを最重要課題とし、聴きとりや会話に必要な態度とスキルを実践的に鍛える。さらに、多職種とのチーム医療や快適職場形成のためにも必要なコミュニケーション能力の向上を図る。							
到達目標							

1. コミュニケーションの基礎について基本的な知識を説明できる
2. 聴く・話すためのコミュニケーションスキルの種類と、自己のスキルの弱点を知り、弱点克服に向けてやる気を持てる。
3. 信頼関係を構築するために誠意ある態度で対面できる
4. 実際の対人関係で起きている交流分析の基本概念を指摘できる

授業の方法

プリントや教科書、パワーポイントで各回の説明を行った後、グループディスカッションなどの演習を行なう。
知識の確認テストを時間内に行う。

ICT活用

事後学習としてGoogle Formで、その日の授業で学習した内容をまとめる課題、授業の体験から気づいたことを振り返る課題、クイズや小レポートなどの課題を提示する。

実務経験のある教員の教育内容

金は成人・小児分野の作業療法の経験を持ち、作業療法を実施するのに必要なコミュニケーション能力(クライアント、家族、多職種間)の重要性を熟知している。小澤は作業療法士でありかつ心理職専門家(臨床心理士・公認心理師)であり、精神科の作業療法経験や個別カウンセリングの臨床経験が長い。この経験を生かし臨床と結びつけながら交流分析の概念(ストローク・ゲーム・人生脚本)を伝え、具体例を示すため、非常にわかり易い授業が可能である。

課題に対するフィードバックの方法

授業後の課題へのフィードバックは、Classroomの限定公開コメントもしくは、次回の授業前におこなう。最後の確認テストを回収後、解答・解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクション & 自己認識 ・自己紹介を行い、コミュニケーションにおける自己のクセやスタイルを認識する	自己紹介を準備する (15分)	Classroomの本日の課題に取り組む (30分)
担当教員	金 京室		
第2回	傾聴力を鍛える ・相手の話を深く聞く力を身につける ・アクティブリスニング (積極的傾聴) を体験する	教科書p50-60を読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む: 本日の振り返り。特に自分について気づいたことを中心に書く。(30分)
担当教員	金 京室		
第3回	エゴグラムで自己評価 ・自我構造について、交流分析について ・交流分析における交流パターン	教科書: エゴグラムの節を読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む: 本日の振り返り。特に自分について気づいたことを中心に書く。(30分)
担当教員	小澤 裕子		

第4回	交流分析におけるストローク ・理解と演習	Classroomに置いたファイルを読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む:本日の振り返り。特に自分について気づいたことを中心に書く。(30分)
担当教員	小澤 裕子		
第5回	伝え方の技術① - わかりやすく話す ・シンプルで伝わる話し方を身につける ・構造化された伝え方を練習する	教科書:p60-68を読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む:本日の振り返り。特に自分について気づいたことを中心に書く。(30分)
担当教員	金 京室		
第6回	伝え方の技術② - 説得力を持たせる ・説得力のある話し方を身につける ・非言語コミュニケーションの重要性を理解する	教科書:p60-68を読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む:本日の振り返り。特に自分について気づいたことを中心に書く。(30分)
担当教員	金 京室		

第7回	交流分析におけるストローク2 ・理解と演習	Classroomに置いたファイルを読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む:本日の振り返り。特に自分について気づいたことを中心に書く。(30分)
担当教員	小澤 裕子		
第8回	交流分析におけるゲーム ・理論的理解と演習	Classroomに置いたファイルを読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む:本日の振り返り。特に自分について気づいたことを中心に書く。(30分)
担当教員	小澤 裕子		
第9回	社会人のマナーとコミュニケーション① ・実習生としてのコミュニケーションマナーについて理解し、演習する。	教科書:p104-115を読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む:本日の振り返り。特に自分について気づいたことを中心に書く。(30分)
担当教員	金 京室		

第10回	社会人のマナーとコミュニケーション② ・実習生としてのコミュニケーションマナーについて理解し、演習する。	教科書:p116-133を読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む:本日の振り返り。特に自分について気づいたことを中心に書く。(30分)
担当教員	金 京室		
第11回	交流分析における人生脚本① ・理解と演習	Classroomに置いたファイルを読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む。(30分)
担当教員	小澤 裕子		
第12回	交流分析における人生脚本② ・理解と演習 ・確認テスト	Classroomに置いたファイルを読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む。(30分)
担当教員	小澤 裕子		

第13回	臨床で役立つコミュニケーション① ・医療面接での対話のしかたや相手との関係を築く方法について理解・演習する	教科書:p134-150を読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む。(30分)
担当教員	金 京室		
第14回	臨床で役立つコミュニケーション② ・対話力を磨くためのスキルを学び、演習する。	教科書:p151-165を読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む:本日の振り返り。特に自分について気づいたことを中心に書く。(30分)
担当教員	金 京室		
第15回	コミュニケーション技法に関する振り返り ・自分のコミュニケーションの変化(成長した点や今後の課題)についてアウトプットする。	Classroomに置いたファイルを読む。(15分)	Classroomの本日の課題に取り組む:本日の振り返り。特に自分について気づいたことを中心に書く。(30分)
担当教員	金 京室		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題と授業参加態度(40)・確認テスト(60)
その他	0	なし
教科書		
PTOTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド第2版／山口美和／医学書院,		
参考文献		

必要に応じて講義内に紹介する

履修条件・留意事項等

各回の準備学習記載の教科書と配布プリントを必ず持参すること。
コミュニケーションの実践的練習のため、基本的に出席する必要がある。
課題の提出遅れは減点する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業分析学実習 I				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	金 京室、田村 健、唐津 修羅						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」「作業療法を实践するために必要な基本的な知識を身につけている」と特に関連する科目である。「作業療法概論」で学んだ基礎知識を生かして、「作業分析学実習Ⅱ」へつなげる科目である。

授業の概要

基礎作業療法学の講義を受け、作業療法で用いられる様々な作業活動を実際に体験する。作業後にチェックシートを用いた質的な一般的作業分析を行い、作業療法で作業を活用するために必要な作業分析力を養う。また、事例から、臨床上で作業を用いるときに必要な思考過程について議論し考察する。

到達目標

1. 代表的な作業種目の分析を通し作業の治療的意味について理解する。 (1) 籐工芸や木工等、構成的作業の特徴、特性を理解する。 (2) 陶芸等、投影的作業の特徴、農耕・園芸特性を理解する。 2. 作業種目の特性に応じて疾患に応じた対象者への作業の導入や段階づけなどを学習する。 3. 対象者に必要な作業を創出する探究心、意欲を身につける。

授業の方法

・実習形式(配布印刷物を用いて説明し、実習を行う)

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

金京室は、リハビリテーション病院において、作業療法士としての勤務経験があり、作業分析およびそれらの治療的意味について幅広い知識を有している。田村健は、障がい者就労支援事業所において作業療法士として勤務しており、就労支援のプログラムの一つとして陶芸などの作業を用いている。唐津修羅、農業高校出身として農作業や園芸療法に関する幅広い知識を有している。これらの経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション ・作業分析の理論と作業分析シートの書き方について学ぶ。 ・塗り絵・ちぎり絵・折り紙を行い、作業分析シートを完成する。	基礎作業学で学んだ包括的作業分析について復習しておく(90分)	作業分析シート雛形を作成する、塗り絵・ちぎり絵・折り紙の特徴を比較しながら復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	陶芸①(ゲスト講師) ・地域精神療法について学ぶ ・陶芸の概要について学ぶ ・陶芸制作:たまづくり・ひもづくり	陶芸作品の特性について予習する(90分)	陶芸作品の特性について復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	陶芸②(ゲスト講師) ・陶芸の治療効果について学ぶ。 ・グループに分かれ、陶芸項目①②について、それぞれ「教える側」「教わる側」の役割を体験する。 ・役割体験を通して、作業の特性および対象者への作業導入方法について学習する。	陶芸の作品仕上げについて予習する(90分)	陶芸の作業分析シートを作成開始する(90分)
担当教員	金 京室		

第4回	陶芸③ ・グループに分かれ、手動ろくろ・電動ろくろのそれぞれを用いて陶芸作品制作をする。	陶芸の作品制作過程について 予習する(90分)	陶芸の作業分析シートを作成する(90分)
担当教員	田村 健		
第5回	陶芸④ ・素焼きされた作品に釉薬をかけ、窯に詰める。	陶芸の作品制作過程について 予習する(90分)	陶芸の作業分析シートを作成する(90分)
担当教員	田村 健		
第6回	陶芸⑤ ・陶芸作品を完成し、作業療法として陶芸の特性について理解する。	陶芸の作品制作過程について 予習する(90分)	陶芸の作業分析シートを完成する(90分)
担当教員	田村 健		

第7回	籐工芸 ・材料の特性を理解し、「編む」という作業を体験しながら作業の仕上げを行う。	籐工芸の作品仕上げについて予習する(90分)	籐工芸の作業分析シートを完成する(90分)
担当教員	金 京室		
第8回	木工 ・材料の特性を理解し、「採寸する」「切る」「組み立てる」などの作業を体験しながら作業分析を行う。	木工に使う道具名について予習する(90分)	木工に使った道具名と使い方についてリストを完成する(90分)
担当教員	金 京室		
第9回	ネット手芸 ・材料の特性を理解し、「採寸する」「切る」などの作業を体験しながら作業分析を行う。	ネット手芸の作品仕上げについて予習する(90分)	ネット手芸の作業分析シート作成を開始する(90分)
担当教員	金 京室		

第10回	作業療法における農耕・園芸の活用① ・室内での園芸体験 スプラウトの水耕栽培をしてみよう！！ 育て方の確認、Classroomへの投稿課題の説明 ・3年次作業分析学実習Ⅱにおける農耕・園芸実習のための基礎知識や留意点について	インターネットなどでブロッコリーなどのスプラウトの水耕栽培について調べておくこと。	水耕栽培のスプラウトが育ったら写真をとって提出用のClassroomに提出。どのようにして食べたかや、気づいたことなども投稿する。(90分)
担当教員	唐津 修羅		
第11回	作業療法における農耕・園芸の活用② ・農耕・園芸療法に関する文献や農耕・園芸を用いた作業療法の事例報告など、グループごとに異なる文献を読む ・文献で学んだことや先輩へのインタビュー結果についてグループディスカッションし、作業療法における農耕・園芸の利用可能性やその他のテーマについてスライドを作成しグループ発表する。	園芸経験者の先輩へのインタビューにより次年度の農耕・園芸実習について知りたいことを質問しておく。(90分)	農耕・園芸についてのクイズや質問に答える。(90分)
担当教員	唐津 修羅		
第12回	まとめ ・各作業分析についてグループでまとめ、それぞれの治療的応用についてグループディスカッションを行い、レポート作成・発表する。	各作業分析シートを読んで、治療的応用について考察する(90分)	発表内容と質疑応答をまとめる(90分)
担当教員	金 京室		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポートおよびプレゼンテーション内容(70%)、授業態度(30%)
その他	0	なし
教科書		
作業ーその治療的応用, 日本作業療法士協会, 協同医書出版社 作業学 第3版 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

特別な理由がない限り欠席は認めない。種目ごとに作業分析レポートを作成する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業分析学実習Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	大坂 隆介、白戸 力弥、金 京室、金谷 匡紘、佐々木 修一、唐津 修羅						

授業の位置づけ

作業療法学専攻のディプロマポリシーである「作業療法を実践するために必要な基本的知識および知識を身につけている(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」と関係がしている科目である。

授業の概要

作業療法の治療場面で用いられている作業活動を実際に体験し、手順や種目の特性、心身機能との関係について理解する。障害を持った方への作業導入時の段階付けや道具の工夫、配慮すべき点やリスクマネジメントについて学ぶ。

到達目標

- ・各作業種目について、実施手順や道具の使用方法、注意点などを説明できる。
- ・各作業種目の分析を通して、作業活動と心身機能との関係や治療的意味・効果について説明できる。
- ・作業種目の特性や疾患に応じた対象者への作業の工夫、段階付け、リスクマネジメントを理解し、企画・立案・実行ができる。

授業の方法

実習での体験をもとに作業分析を行う。種目によっては、グループワークを実施し、プレゼンテーションを行う。プレゼンテーション内容について、教員から適宜、フィードバックを行う。

ICT活用

農耕・園芸でClassroomに見回り時の写真や観察結果・感想を投稿することにより、畑の様子をクラスや教員で共有し、作物を共に育てる雰囲気を楽しめるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

革細工以外の種目においては、作業療法の臨床において、多様な作業を活用した経験がある教員が、作業の重要性を体験的に教授する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・革細工① ・作業分析を理解し、簡単な作業の分析シートを記載する。 ・革の特性を理解し、刻印を打つなど体験しながら作業分析を行う。	革細工で使用する道具について、予習をしておくこと(90分)	革細工で使用する道具についてまとめておくこと(90分)
担当教員	佐々木 修一		
第2回	革細工② ・革の特性を理解し、刻印を打つなど体験しながら作業分析を行う。	必要な材料、道具、問題になると予測される工程の抽出、注意点、予測されるリスクについて検討すること(90分)	作業分析レポートを作成すること(90分)
担当教員	佐々木 修一		
第3回	革細工③ ・革の特性を理解し、刻印を打つなど体験しながら作業分析を行う。	必要な材料、道具、問題になると予測される工程の抽出、注意点、予測されるリスクについて検討すること(90分)	作業分析レポートを作成し、提出すること。(90分)
担当教員	佐々木 修一		

第4回	農耕・園芸① ①オリエンテーション(ゲスト:渡辺氏、宮下氏) ②肥料入れと耕し、畝づくり、木酢液を播く、黒マルチ貼り(ジョブコーチ市丸氏と就労支援B型事業所やまびこメンバー紹介)	農耕・園芸に必要な器具、道具、場所の準備作業と確認。必要に応じて、Classroomに置いた資料を読むこと。(90分)	見回り当番表を見て、今後の作業の見通しをもつ。役割分担を行う。(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第5回	身体と精神の関連を利用した心身アプローチ ・ボディワーク(全身リラクゼーションストレッチ、リラクゼーション法)の体験 ・ボディワークの前後で心拍数測定、気分検査、FAB検査(の1部)などを実施しどのような心身変化があるかを調べる。 ・全身ストレッチについては、リーダーとしての体験もする。 ・その他 盆踊りなど	あらかじめClassroomに置いた文献を読んでおく。(90分)	身体と精神の関連を利用した心身アプローチに関するレポート課題を提出する。 5月3週から当番開始。当番者は、黒マルチの片側を外して畝を空気に晒し、もう一度被せること。畑見守り用Classroomに農園や作業の様子の写真と観察・感想を投稿して次のグループに伝達。(90分)
担当教員	金 京室		
第6回	農耕・園芸② ・苗の植え付け・種播き・豆播き:やり方を理解した後、作業する(ジョブコーチ市丸氏と就労支援B型事業所やまびこメンバーとの共同作業)	作物の育て方を調べておく。(90分)	5月4週の見回り当番者は農園で作物管理作業を実施。畑見守りClassroomに農園や作業の様子写真と観察・感想を投稿すること。(90分)
担当教員	唐津 修羅		

第7回	作業分析 ・これまで行った作業活動を筋電計を用いて計測し、作業と身体活動の関係を分析し考察する。	筋電計について、おおまかに予習しておくこと(90分)	授業内容についてまとめておくこと(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	ADL活動の分析 ・調理や掃除などADL場面で行う活動を計画し、実践・分析する。 ・片麻痺など機能障害を想定し、各活動における援助・指導を行うことができる	ADL活動が持つ作業の特性について予習しておくこと(90分)	活動の分析や機能障害に対する援助・指導方法を復習すること(90分)
担当教員	金 京室		
第9回	身体や精神に障害のある仮想症例を提示し、疾患特性や病態像、生活歴、本人の生活目標に応じてグループで適切な作業を選択してその理由をまとめる。	作業が持つ特性について予習しておくこと(90分)	他のグループと比較し、改善点を検討すること(90分)
担当教員	金谷 匡紘		

第10回	農耕・園芸③ ・作物管理作業（ジョブコーチ市丸氏と就労支援B型やまびこメンバーとの共同作業）	農耕・園芸：Classroomの作物の育て方について次にどんな作業を行う必要があるのかを考えること。	6月4週の見回り当番者は農園で作物管理作業を実施。畑見守りClassroomに作物や作業の様子の写真と観察・感想を投稿して次のグループに伝達。ミニトマトと花は収穫し利用して良い。(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第11回	農耕・園芸④ ・収穫と保存（ジョブコーチ市丸氏と就労支援B型やまびこメンバーとの共同作業）ミニトマトと花は収穫して利用する。 ・作物管理作業および押し花作成	収穫・保存の仕方を調べておく。(90分)	7月5週の見回り当番者は農園で作物管理作業を実施。畑見守りClassroomに作物や作業の様子の写真と観察・感想を投稿して次の担当者に伝達。(90分)
担当教員	唐津 修羅		
第12回	農耕・園芸⑤ ・収穫（12:30～）（ゲスト：渡辺氏） ・調理と試食と交流、後片付け（ジョブコーチ市丸氏と就労支援B型やまびこメンバーは試食のみ）	調理グループに分かれ、あらかじめレシピを決め、調理の役割決めをしておく。収穫した作物を調理場に運ぶ。調理用具の準備をする。(90分)	農耕・園芸の作業分析、作業療法での利用の実情、今後の活用のアイデアなどをテーマにレポートを作成（90分）8月2週の見回り当番グループは農園で作物管理作業を実施。畑見守りClassroomに作物や作業の様子の写真と観察・感想を投稿。収穫した作物は学生・教員・やまびこグループで分けあう。(90分)
担当教員	大坂 隆介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート・プレゼンテーション内容(40%) 授業参加態度(30%) 事前事後学習の遂行状況およびClassroomへの投稿(30%)
その他	0	特になし
教科書		
1. 作業-その治療的応用 日本作業療法士協会編 協同医書出版社 2. ひとと作業・作業活動 作業の地をとき技を育む 山根寛著 三輪書店		
参考文献		

Classroomに配布する資料

履修条件・留意事項等

特別な理由がない限り欠席は認めない。
 農耕・園芸の事前事後学習では、畑の見回り(作物管理作業)を当番表グループで実施する。汚れても良い動きやすい服装で参加すること。靴は長靴がのぞましい。
 農耕・園芸授業日は小雨でも決行するので、レインコートを持参すること。夏は帽子・日焼け止めクリーム、水筒、タオルなどを用意すること。疲労しやすい学生は敷物持参のこと

備考欄

農耕・園芸作業を通して就労支援B型事業所やまびこ利用者とそのジョブコーチ市丸氏と交流する機会があるので、貴重な時間を楽しみつつ信頼関係を育むこと。地域在住高齢者と地域包括支援センタースタッフの作物管理作業などへのボランティア参加があるかも知れないが、打診中なので、はっきりした時点で参加日などを連絡します。畑締めは、9月予定。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業療法研究法				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大川 浩子、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」「臨床場面や研究において、状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と特に関係する科目である。「作業療法研究法演習Ⅰ」「作業療法研究法研究法演習Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
作業療法における研究の必要性を理解し、研究を行う際に必要な知識(研究の種類と方法, 研究論文の構成, 計画書の作成法など)を身に付ける。 さらに、研究疑問の発展, 文献検索と読み込み, 研究計画書の作成と口頭発表に向けた研究導入プロセスを理解し、作業療法に関する研究を実践するための基礎能力を養成する。							
到達目標							

- 1.作業療法における研究の必要性を理解し、卒業研究を行う際に必要な研究の種類と方法、計画書の書き方、発表方法を獲得する。
- 2.論文の研究疑問・仮説の有無・研究デザインやタイプ・論文の構成・方法や分析法などを正しく把握して説明することができる。
- 3.論文の内容を理解し、自分の考え方と対応させて感想や考察を述べることができる。
- 4.自分の研究疑問を発展させ、研究計画書を作成できる。

授業の方法

教科書や配布資料を使用しての講義および、グループワークや演習を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして授業内課題及び小テストは後日コメントをします。また、確認テストは実施後、その場でフィードバックします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション(本科目の概要と作業療法研究(卒業研究)について)及び研究の基礎知識①:研究の流れについて 今後、実際に進める研究の基本的な流れについて学ぶ	本科目及び「作業療法研究法演習Ⅰ」「作業療法研究法演習Ⅱ」のシラバスについて目を通すこと(15分)	卒業研究のために必要な工程について再度確認すること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第2回	研究の基礎知識②:研究デザイン(研究設計)にはどのようなものがあるかを知る 研究の目的による類型、手法による類型を学ぶ	作業療法研究法 P62～「研究の類型」について目を通すこと(30分)	学んだ研究デザインについてまとめること(15分)
担当教員	大川 浩子		
第3回	各種の研究手法①:文献レビュー・文献研究と調査研究 文献レビュー及び文献研究、調査研究の目的及び手法について学ぶ	作業療法研究法 P69～「文献レビュー」「文献研究」「調査研究」について目を通すこと(15分)	学んだ各手法についてまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		

第4回	各種の研究手法②:実験研究 ・実験研究の特徴を学ぶ ・実験の統制方法を学ぶ ・実験研究の種類(デザイン)を学ぶ。	教科書の作業療法研究法 P98～「実験研究」について目を通すこと(15分)	実験研究の手法についてまとめること(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第5回	各種の研究手法③:事例研究と質的研究 質的研究の種類と手法、事例研究においては、研究倫理で重要な個人情報保護についても学ぶ	教科書の作業療法研究法 P109～「事例研究」P201「質的研究」について目を通すこと(15分)	学んだ各手法についてまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第6回	演習①:文献検索法:J-DreamⅢ 医学中央雑誌など 図書館のパソコンを使い文献検索方法を学ぶ。 ※日程を図書館と調整し、決定後、以下の日程が変更されることがあります	作業療法研究法 P69～「文献検索」について目を通しておくこと(15分)	自分の関心がある作業療法に関連するキーワードを用いて、実際にデータベースを利用して文献を検索すること(30分)
担当教員	金谷 匡紘		

第7回	演習②:文献検索法:J-DreamⅢ 医学中央雑誌など 図書館のパソコンを使い実際に文献検索及び文献収集を体験し習得する ※日程を図書館と調整し、決定後、以下の日程が変更されることがあります	作業療法研究法 P69～「文献検索」について目を通しておくこと(15分)	自分の関心がある作業療法に関連するキーワードを用いて、実際にデータベースを利用して文献を検索すること(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第8回	研究の基礎知識③:統計を用いて研究データを分析するなぜ統計を用いるのかを理解し、統計の基礎知識と手順を理解する。また、臨床場面でのデータを基に、統計手法による分析について学ぶ。	統計の基本的な検定について確認すること(15分)	Excelで実施可能な検定について、実際の取り組むこと(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第9回	演習③:研究疑問と文献リストの作成 研究疑問を書き出し、卒業研究として取り組みたい研究疑問を決定し、文献リストを作る	自分の研究疑問について複数あげておくこと(15分)	完成させた文献リストにある文献について目を通すこと(30分)
担当教員	金谷 匡紘		

第10回	演習④:論文の分析－調査研究 研究の必要生, 研究法, 研究デザインを把握する。論文の構成などについて理解する	自分の関心がある調査研究の文献を1つ以上読むこと(15分)	本日学んだ論文の構成について、確認すること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第11回	演習⑤:論文の分析－実験研究 統計解析法を理解する。論文の長所・短所などについて考え、感想を話し合う	自分の関心がある実験研究の文献を1つ以上読み、統計がどのように用いられているか確認すること(30分)	本日学んだ論文の構成について、確認すること(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第12回	演習⑥:論文の分析－事例研究 研究目的, 事例紹介, 評価, 実施計画, 介入経過など論文の構成について理解する	自分の関心がある事例研究の文献を1つ以上読むこと(30分)	本日学んだ論文の構成について、確認すること(15分)
担当教員	大川 浩子		

第13回	研究の基礎知識④:論文の構成と表し方と効果的な図表 論文の構成について学習する。結果データの図表による効果的な見せ方の方法や種類について理解する	自分が今まで集めた文献に、どんな図表のが使われているか、また用い方について確認すること(15分)	Excelで作成可能な図表について確認すること(30分)
担当教員	金谷 匡紘		
第14回	演習⑦:研究テーマの決定と作成 文献リストに挙げた文献を読み、文献内容についてメモを作成し、研究テーマを決定する。更に、卒業研究で取り組む研究計画書を作成する。	9回目の事後学習で集めた文献に目を通し、内容を理解すること(15分)	A4用紙1枚程度に研究計画書をまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第15回	研究法のまとめ 1～14回目までに学習した研究法や検定等について小テスト等を用いて確認する。	本講義1～14回目について確認する(30分)	15回目の講義を踏まえ、研究法及び検定について確認する(15分)
担当教員	大川 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト(50%)、授業内課題(40%)、授業態度(小テストを含む)(10%)
その他	0	
教科書		
作業療法研究法第2版/山田孝編/医学書院 今日から使えるリハビリテーションのための統計学第2版/高橋仁美/医歯薬出版		
参考文献		

作業療法士のための研究法入門/鎌倉矩子/三輪書店

履修条件・留意事項等

他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。授業内容により、変則講義となることがあるので注意すること。
新型コロナウイルスの蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 基礎作業療法学					
科目名		作業療法研究法演習Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、大川 浩子、白戸 力弥、玉 珍、瀧山 晃弘、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」こととも関係する。「作業療法研究法」を基礎とし、「作業療法研究法演習Ⅱ」につながる科目である。							

- 1) 指導教員の指導に基づき、研究テーマを決定することができる。
- 2) 研究テーマに沿った適切なキーワードを用い、文献検索を行うことができる。
- 3) 入手した文献の内容を説明できる。
- 4) 指導教員の指導に基づき、研究計画を立案できる。
- 5) 研究計画をパワーポイントを用いて発表できる。
- 6) 作業療法研究計画発表会では真摯な態度で積極的に質疑応答に参加できる。

授業の方法

基本は指導担当教員によるゼミ形式であるが、研究計画書の発表等は学年全体に学生がプレゼンテーションを行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

ゼミ単位で教員を含めて研究計画の討論を行う。また、研究計画発表会の際にクラスの学生や他の教員の質問に答え、討論を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	指導教員の決定 各担当教員がそれぞれの主要な研究内容についてアナウンスし、希望を取った後、指導教員を決定する	各教員の研究内容、指導方法を確認し、自分の興味のあるテーマについて検討する(20分)	教員の助言にもとづいて、研究疑問についてまとめる(25分)
担当教員			
第2回	研究テーマの決定① 学生の興味と各担当教員の研究内容に応じて、各学生ごとに研究疑問を整理する	自分自身の研究疑問を書き出し、先行研究等を調べ、検討する(20分)	教員の助言にもとづいて、研究テーマ決定に向けた先行研究の調査を行う(25分)
担当教員			
第3回	研究テーマの決定② 卒業研究として各自の研究テーマを決定する	教員の指導にもとづいて、自分の研究疑問を解決する方法について、文献等で検討する(25分)	教員の助言にもとづいて、決定した研究テーマに関する先行研究について探索する(20分)
担当教員			

第4回	研究計画書の作成① 研究の背景などについての文献レビューを行う	データベース等を利用し、研究テーマに関する文献レビューをまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、追加の文献を検討し、文献レビューをまとめる(25分)
担当教員			
第5回	研究計画書の作成② 研究の背景などについての文献レビューを行う	データベース等を利用し、研究テーマに関する文献レビューをまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、追加の文献を検討し、文献レビューをまとめる(25分)
担当教員			
第6回	研究計画書の作成③ 研究の背景などについての文献レビューを行う	データベース等を利用し、研究テーマに関する文献レビューをまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、追加の文献を検討し、文献レビューをまとめる(25分)
担当教員			

第7回	研究計画書の作成④ 研究方法(結果の解析方法を含む)について、検討し、決定する	担当教員の指導にもとづいて、研究方法・解析方法をまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、研究計画の方法について、先行研究を確認し、修正する(25分)
担当教員			
第8回	研究計画書の作成⑤ 研究方法(結果の解析方法を含む)について、検討し、決定する	担当教員の指導にもとづいて、研究方法・解析方法をまとめる(20分)	教員の助言にもとづいて、研究計画の方法について、先行研究を確認し、修正する(25分)
担当教員			
第9回	研究計画書の作成⑥ 指定されたフォームに従った計画書発表用抄録を担当教員の指導の下で作成する。	担当教員指導にもとづいて、所定のフォームに従った抄録を作成する(20分)	教員の助言にもとづいて、先行研究を確認し、抄録を修正する(25分)
担当教員			

第10回	研究計画書の作成⑦ 指定されたフォームに従った計画書発表用抄録を担当教員の指導の下で作成する。	担当教員指導にもとづいて、所定のフォームに従った抄録を作成する(20分)	教員の助言にもとづいて、先行研究を確認し、抄録を修正する(25分)
担当教員			
第11回	研究計画書の作成⑧ 研究計画の発表にむけてプレゼンテーション用のパワーポイントを担当教員の指導の下で作成する。	担当教員に指導を受けるために、パワーポイントを作成する(20分)	教員の助言にもとづいて、パワーポイントを修正し、プレゼンテーションの練習をする(25分)
担当教員			
第12回	研究計画の発表① 研究計画のパワーポイントを用いた発表を行い、質疑応答をする。	研究計画抄録およびパワーポイント資料を作成する(20分)	発表時に受けた質問や助言をもとに、研究計画書をより実的なものにする作業に取り組む(25分)
担当教員			

第13回	研究計画の発表② 研究計画のパワーポイントを用いた発表を行い、質疑応答をする。	研究計画抄録およびパワーポイント資料を作成する(20分)	発表時に受けた質問や助言をもとに、研究計画書をより実際的なものにする作業に取り組む(25分)
担当教員			
第14回	研究計画の発表③ 研究計画のパワーポイントを用いた発表を行い、質疑応答をする。	研究計画抄録およびパワーポイント資料を作成する(20分)	発表時に受けた質問や助言をもとに、研究計画書をより実際的なものにする作業に取り組む(25分)
担当教員			
第15回	研究計画の発表④ 研究計画のパワーポイントを用いた発表を行い、質疑応答をする。	研究計画抄録およびパワーポイント資料を作成する(20分)	発表時に受けた質問や助言をもとに、研究計画書をより実際的なものにする作業に取り組む(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究計画発表会及びゼミにおける遂行状況
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等 研究計画発表会を欠席した場合は出席回数を満たしても不合格となる場合がある。
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法管理学					
科目名		作業療法管理運営・法規				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	大川 浩子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」 「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」 および「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」 「臨床場面や研究において、状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」 と特に関係する科目である。作業療法概論を基礎として、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにつながる科目である。							
授業の概要							
作業療法士の身分法や医療法、介護保険法、障害者総合支援法などの関連法規について学ぶ。また、作業療法士の職業倫理指針に基づいて、自己研鑽や業務遂行上の最善努力、安全性への配慮、職能間の協調といった焦点に対する実務的な業務のあり方について学ぶ。すなわち、土地建物から什器・調度に至るハードウェアに関する必要知識を身につけ、さらに人員や物品の管理・組織運営、リスク管理の方法、生涯学習の方法といったソフトウェアについて学び、チームアプローチの土台となる組織運営のあり方について考察する。さらに、診療報酬制度・介護報酬制度を学ぶ際には、医療経済学についても視野に納める。							
到達目標							

1. 作業療法士に求められるマネジメントや職業倫理の大切さについて自分の考えを述べることができる。
2. 作業療法部門に必要なスペース, 職種, 人員, 設備, 備品, 消耗品について説明できる。
3. 作業療法部門における感染症対策, リスク管理について説明できる。
4. 部門内, または他部門との連絡調整に必要な記録や報告, 連携について説明できる。
5. 作業療法部門の管理・運営について人的, 物理的, 経済的に考察できる。
6. 作業療法士を取り巻く組織や職能団体の必要性について説明することができる。
7. 診療報酬・介護報酬を含めた社会保障制度の現状について説明ができる。

授業の方法

パワーポイント、教科書、配布資料による講義形式で実施し、グループワーク等で理解を深める。作業療法室の設計および収支計画については、グループワーク形式で実施し、プレゼン資料を作成する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

発表についてその場でフィードバックする。課題レポートについては適宜コメント、またはフィードバックをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	本科目のオリエンテーション、作業療法における管理運営・法規の外観 本科目の構成と履修方法を確認し、到達目標を理解する。また、今後求められる作業療法士のマネジメントについて理解を深める。	教科書第1章を読むこと。評価実習の経験を踏まえ、本科目の内容と関連することを確認する。(90分)	マネジメントに関する資料を検索し、本日の内容と比較する。(90分)
担当教員			
第2回	職業倫理① 作業療法士の職業倫理 作業療法士の職業倫理・研究倫理を理解する。また、対象者等も含めた倫理的な基礎知識を理解し、倫理的問題について学ぶ。	作業療法概論で学んだ職業倫理を確認し、教科書第10章を読むこと。(90分)	作業療法士に起こりうる倫理的問題についてWebで検索する。(90分)
担当教員			
第3回	職業倫理② 倫理に関する問題を考える グループごとに作業療法士に起こりうる倫理的な問題についてディスカッションし、様々な立場や見方を理解し、職業倫理を体感する。	医療・福祉における倫理的な問題について、Web等で検索する。(90分)	講義内容を踏まえて、レポートを作成する。(90分)
担当教員			

第4回	情報のマネジメント 作業療法概論で学んだ記録の重要性を再確認する。さらに、多職種連携のために必要となるコミュニケーションや情報の取り扱いについて学ぶ。	作業療法概論で学んだ記録について確認し、教科書第3章を読む。(90分)	情報管理と取り扱いについてまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	作業療法と医療サービス サービスとは何か、医療におけるサービスについて学び、作業療法におけるサービスのマネジメントを理解する。	医療サービスと他のサービスの違いを考え、教科書第4章を読む。(90分)	作業療法を提供する上で必要となるマネジメントについてまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	医療安全のマネジメント 医療におけるアクシデントやインシデントについて学び、医療事故を減らすため仕組みを理解する。また、標準予防策を含めた感染対策を理解する。	評価実習の施設で行われていた、医療事故・感染対策を列挙し、教科書第5章を読む。(90分)	臨床実習で起こりうるインシデントの例と予防策を考えまとめる。(90分)
担当教員			

第7回	作業療法業務のマネジメント①:人・物・経済性のマネジメント 新人教育を含めた人材育成や環境整備について理解する。 また、作業療法業務の経済性を理解する。	評価実習施設で行われていた環境整備の例を列挙し、教科書第6章を読む。(90分)	講義内容を踏まえて、レポートを作成する。(90分)
担当教員			
第8回	作業療法業務のマネジメント②:情報・時間・ストレスのマネジメント 作業療法業務における情報や時間、ストレスに対するマネジメントを学ぶ。	教科書第7章を読み、評価実習で自分が使用していたストレスマネジメントをあげる。(90分)	臨床実習における時間管理とストレスマネジメントについてまとめ、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱで用いることができるよう準備する。(90分)
担当教員			
第9回	作業療法業務のマネジメント③:実践からの学びと確認テスト 作業療法実践のための業務管理、人材育成や連携について学ぶ。また、地域や行政機関、災害時の役割を理解する。 また、確認テストを実施し、1～8回の講義内容の理解を確認する。	地域で活動する作業療法士の例をWebで確認した上で、教科書第8章を読む。(90分)	確認テストで誤った点を、教科書等を利用して確認する。(90分)
担当教員			

第10回	作業療法を取り巻く諸制度:わが国の社会保障制度の現状について学ぶ。特に、近年の変化の大きい法改正について確認する。	作業療法概論等で学習してきた法制度について確認する。(90分)	教科書11章に記載されている諸制度についてWebで調べ、改正点を追記してまとめる。(90分)
担当教員			
第11回	作業療法室の設計① 所属施設, 地域性, 部門の位置づけ, 施設認可区分, 土地建物, デザイン, 設備・備品・消耗品について学ぶ。	評価実習で経験した作業療法の枠組みについてまとめること。(90分)	グループ発表に向けたパワーポイントを作成すること。(90分)
担当教員			
第12回	作業療法室の設計② パワーポイントを使用し、グループで発表を行う。	グループ発表に関する準備を行う。(90分)	リハビリテーション室(作業療法室)に必要な物品をピックアップし、管理についてまとめる(90分)。
担当教員			

第13回	作業療法士の役割と職域 作業療法士の役割や職域、法律について理解する。また、作業療法士が所属する職能団体について知り、作業療法士の生涯学習の必要性について学ぶ。	作業療法概論で学んだ理学療法士及び作業療法士方を確認した上で、教科書第9章を読む。(90分)	日本作業療法士協会、北海道作業療法士会のHPにアクセスし、職能団体の活動について理解する(90分)
担当教員			
第14回	作業療法士のキャリア開発① 作業療法士の期待される領域 作業療法士が期待される領域について学ぶ。特に、近年増加している作業療法士の起業や地域での連携について考える。	起業している作業療法士の活動例についてWeb等で検索する。(90分)	次の確認テストに向けて9～14回で学んだ内容をまとめる。(90分)
担当教員			
第15回	作業療法士のキャリア開発② 作業療法士のキャリアを開発するために確認テスト 作業療法士の資格認定制度や学会研修会を知る。また、ワークライフバランスをふまえたキャリア開発を考える。最後に確認テストを実施し、9～15回の講義内容の理解を確認する。	免許取得後の自分のキャリアについて考える。(90分)	講義内容を踏まえて、レポートを作成する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題20%、確認テスト50%、課題レポート30%
その他	0	
教科書		
作業療法管理学入門第2版/大庭潤平/医歯薬出版		
参考文献		

講義中に随時紹介する

履修条件・留意事項等

感染症の蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法評価学					
科目名		作業療法評価学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	金子 翔拓、大川 浩子、金谷 匡紘、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
作業療法学専攻のディプロマポリシー「知識・技能」の「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。」を達成するための科目であり、作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるために評価学を学ぶ。 解剖学、生理学を基に、作業療法対象者に対する評価法やその意義を理解する。							

作業療法における評価学の内容および作業療法課程について説明できる。作業療法の各種評価法について、具体的なイメージを持つことができ、それらについて説明できる。

1. バイタルサインの測定 2. 形態計測 3. 上肢機能検査 4. 反射検査 5. ICFの理解 6. 脳画像診断の手がかりとなる脳溝を同定できる。 7. 高次脳機能障害のリハビリテーションにおける評価法の列挙 8. 精神障害及び発達障害領域の評価法の列挙。 9. 集団の評価の重要性の説明。 10. 職業リハビリテーションにおける評価法の列挙。 11. ICFについて理解し、事例を通してその意義の説明。 12. MTDLP開発の社会的背景とその構造を理解し、説明できる。

授業の方法

講義形態、時にグループワークおよび実技練習。

ICT活用

Google formを活用し、確認テストの実施。フィードバックを行う

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓: 病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、授業を行う。
大川浩子: 病院やクリニックなどの精神障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、授業を行う。
金谷匡紘: 病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、授業を行う。
大坂隆介: 病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にフィードバックしていきます。またレポートを用いて個別に対応します

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	評価学の概要および基礎を学ぶ	作業療法評価の基礎について 予習する(90分)	作業療法評価の基礎について 復習する(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第2回	評価学の基礎を学ぶ(特にICF分類について学ぶ)	ICF分類について予習する(90分)	ICF分類について復習する(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	具体的な評価方法(意識の評価, バイタルサインの測定)を学ぶ 形態計測について学ぶ	バイタルサイン 形態計測について予習する(90分)	バイタルサイン 形態計測について復習する(90分)
担当教員	大坂 隆介		

第4回	ICF分類についてグループワーク(事例検討)および発表	ICF分類について予習する(90分)	ICF分類について復習する(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第5回	具体的な評価方法(上肢機能検査, STEF)を学ぶ	上肢機能検査について予習する(90分)	上肢機能検査について復習する(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第6回	具体的な評価方法(摂食・嚥下)を学ぶ	摂食・嚥下について予習する(90分)	摂食・嚥下について復習する(90分)
担当教員	大坂 隆介		

第7回	具体的な評価方法(反射検査)を学ぶ	深部腱反射および病的反射について予習する(90分)	深部腱反射および病的反射について復習する(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第8回	国際生活機能分類(ICF)に基づく作業療法評価について	ICF分類について確認して, 事例に適応できるように予習する(90分)	ICF分類について確認して, 事例に適応できるように復習する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第9回	生活行為向上マネジメントについて	前回の講義のICFとその概要について復習する。(90分)	生活行為向上マネジメントの概要と構造について復習する。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		

第10回	脳画像診断における脳溝の同定について	脳解剖について復習すること。(90分)	脳溝の同定方法について復習すること。(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第11回	高次脳機能障害の評価について	高次脳機能障害について調べる。(90分)	高次脳機能障害の評価法について学んだことをまとめる。(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第12回	精神障害及び発達障害領域における作業療法評価:外観と特色(大川)精神障害及び発達障害領域で用いられる評価の概要について学ぶ。また、精神障害・発達障害領域における障害の捉え方をICFにあてはめて考え、まとめる。	教科書P456～499及びP569～632について目を通す。(90分)	精神障害及び発達障害領域の評価法で興味を持った評価法についてまとめる。(90分)
担当教員	大川 浩子		

第13回	面接法・観察法:全般的な枠組み・留意点、プロセスレコード 面接法・観察法の概要と留意点を学ぶ。また、プロセスレコードを実際を書く	プロセスレコードが書けるように、Webや書籍等で目的・記入方法を調べまとめること(60分)	13回目の講義で発表するためのレジメを作成する。(120分)
担当教員	大川 浩子		
第14回	精神・発達領域の評価①:代表的な検査について 代表的な検査についてまとめたものをグループで発表する。	レジメを確認し発表準備をする。(60分)	発表で取り上げられた検査について、表を作成し、まとめる。(120分)
担当教員	大川 浩子		
第15回	精神・発達領域の評価②: 集団の評価と職業リハビリテーションの評価 精神・発達領域で用いられる集団に関する評価を学ぶ。また、職業リハビリテーションで用いられている代表的な評価方法を学ぶ。	教科書P498～504、P633～646について目を通す(60分)。	課題レポートを作成する(120分)
担当教員	大川 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題への取り組み(レポート提出)および授業内課題にて100%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

作業療法評価学第3版 能登真一ほか 医学書院
必要に応じて紹介します

履修条件・留意事項等

休まず出席すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法評価学					
科目名		作業療法評価学演習				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、大川 浩子						
授業の位置づけ							
作業療法学専攻のディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」を達成するための科目であり、作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。解剖学、解剖学実習、運動学、運動学実習、生理学、生理学実習、精神医学、作業療法評価学を基に実施していく。作業療法評価学実習Ⅰ・Ⅱにつながる科目である。							
授業の概要							
作業療法士には、疾病の症状や機能障害の評価を基盤に、活動や参加についても評価を行い、対象者の全体像を把握することが期待される。そのために必要な評価計画の立案、評価の実施、利点と問題点の抽出、ニーズ・目標の明確化といった評価の実際的な過程を学ぶ							
到達目標							

評価学で学習した内容に加え、作業療法の各種評価法について、体験を通して具体的なイメージを持つことができ、それらを説明することができる。また具体的な疾患から評価する項目をリストアップすることができる

授業の方法

講義および演習形態。Active learning (グループワークにて主体的に課題に取り組み問題解決する)。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓:病院(身体障害領域)において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、評価学演習の身体障害領域の授業を行う。
大川浩子:病院や施設などの精神科領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、評価学演習の精神障害領域の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

試験後個別対応にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	作業療法評価に必要な身体機能に関する具体的な評価法(特に触診)を学ぶ	骨格筋や骨のランドマークについて予習する(30分)	骨格筋や骨のランドマークについて復習する(15分)
担当教員	金子 翔拓		
第2回	作業療法評価に必要な身体機能に関する具体的な評価法(特に触診)	骨格筋や骨のランドマークについて予習する(30分)	骨格筋や骨のランドマークについて復習する(15分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	作業療法評価に必要な身体機能に関する具体的な評価法と筋緊張について学ぶ	筋緊張について予習する(30分)	筋緊張について復習する(30分)
担当教員	金子 翔拓		

第4回	作業療法評価に必要な身体機能に関する具体的な評価法と筋緊張について学ぶ	筋緊張について予習する(30分)	筋緊張について復習する(30分)
担当教員	金子 翔拓		
第5回	遠隔リハビリテーションについて学ぶ① 沖田先生	遠隔リハビリテーションについて予習する(30分)	遠隔リハビリテーションについて復習する(30分)
担当教員	金子 翔拓		
第6回	遠隔リハビリテーションについて学ぶ② 沖田先生	遠隔リハビリテーションについて予習する(30分)	遠隔リハビリテーションについて復習する(30分)
担当教員	金子 翔拓		

第7回	遠隔リハビリテーションについて学ぶ③ 沖田先生	遠隔リハビリテーションについて 予習する(30分)	遠隔リハビリテーションについて 復習する(30分)
担当教員	金子 翔拓		
第8回	遠隔リハビリテーションについて学ぶ④ 沖田先生	遠隔リハビリテーションについて 予習する(30分)	遠隔リハビリテーションについて 復習する(30分)
担当教員	金子 翔拓		
第9回	精神障害領域の評価法を学ぶ①:面接・観察を中心に	作業療法評価学第3版P36～ 52、P478～485を読んでおくこと (30分)	面接・観察の種類や構造、原則 及び留意点をまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		

第10回	精神障害領域の評価法を学ぶ②:精神機能の検査を中心に	作業療法評価学第3版P491～497を読んでおくこと(30分)	講義で紹介された検査の概要(種類、対象、内容)についてまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第11回	精神障害領域の評価法を学ぶ③:生活機能の検査を中心にと確認テスト	作業療法評価学第3版P486～490を読み、評価の概要を把握すること(30分)	REHAB、LASMI、JAOT版ケアアセスメントの概要についてまとめること。確認テストの結果を踏まえ、知識の補完を行うこと(30分)
担当教員	大川 浩子		
第12回	精神障害による生活障害の評価(1)～院内・デイケアにおける作業療法士の役割と評価について	精神科作業療法及びデイケアにおける作業療法士に関する文献を1つ以上読むこと(30分)	精神科作業療法及びデイケアにおける作業療法士の役割と用いている評価についてまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		

第13回	精神障害による生活障害の評価(2)～REHAB、LASMI等の評価スケールの実際について	REHAB、LASMIの概要、評価方法について確認すること(30分)	REHAB、LASMIについて実際に実施できるようにまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第14回	職業リハビリテーションに関する評価法(1)～相談機関における作業療法士の役割と評価について	地域の相談機関についてWeb、文献等で調べること(30分)	相談機関の作業療法士の役割と評価についてまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		
第15回	職業リハビリテーションに関する評価法(2)～一般職業適性検査(GATB)について	指定されたグループごとでGATBの器具検査を実施すること(30分)	GATBの特徴、検査方法についてまとめること(30分)
担当教員	大川 浩子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テストの成績,レポート, 授業中の態度・参加についても判定材料とする
その他	0	なし
教科書		
標準作業療法学専門分野 作業療法評価学 第3版/能登真一・他編/医学書院		
参考文献		

適宜講義内で紹介する

履修条件・留意事項等

休まず出席すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法評価学					
科目名		作業療法評価学実習Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	金子 翔拓、白戸 力弥、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
作業療法学専攻のディプロマポリシー「知識・技能」の「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。」を達成するための科目であり、作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるために評価学を学ぶ。「作業療法評価学実習Ⅱ」や「評価実習・総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
作業療法評価学および作業療法評価学演習を踏まえ、実際に臨床場面で行われている各種の検査・測定に関する評価技法について、若年健康者を被験者とした実習を行う。身体機能評価である神経学的検査、生体力学的検査などの測定意義、老年期の心身の諸問題を解釈する方法を理解し、手技を学ぶ。							
到達目標							

- ・触診、形態測定の測定意義を理解し説明できる。また検査測定技術を身に付け実施できる。
- ・関節可動域検査の測定意義を理解し説明できる。また検査測定技術を身に付け実施できる。
- ・片麻痺機能検査の測定意義を理解し説明できる。また検査測定技術を身に付け実施できる。
- ・感覚検査の測定意義を理解し説明できる。また検査測定技術を身に付け実施できる。
- ・模擬患者に対し、安全性に配慮しながら正確な検査測定ができる。

授業の方法

配布資料・教科書・動画等を用いた講義および検査実技の実演を行った後、実際に学生同士で実習を行う。

ICT活用

Google formを活用して確認テストを実施し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、作業療法学実習Ⅰの授業を行う。
 白戸力弥:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、作業療法学実習Ⅰの授業を行う。
 金谷匡紘:作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、作業療法学実習Ⅰの授業を行う。
 金京室:作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、作業療法学実習Ⅰの授業を行う。
 大坂隆介:作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、作業療法学実習Ⅰの授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各実技試験終了後に課題に関するフィードバックを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 体表解剖および触診 キーポイントと触診・形態測定	筋の起始停止, 支配神経, 作用について予習しておくこと。(90分)	触診技術の獲得に向け, 再度学生同士で触診の実技を復習すること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第2回	関節可動域検査 ① 関節可動域検査の目的・意義・結果の捉え方について学ぶ。頭部・頸部・体幹の関節可動域の計測方法を学ぶ。正確に計測する技術を習得する。	関節可動域検査の目的・意義について教科書の該当ページを確認しておくこと。(90分)	計測技術の獲得に向け, 再度学生同士で実技練習を行うこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第3回	関節可動域検査 ② 肩関節・肘関節・手関節の関節可動域の測定方法を学ぶ。正確に計測する技術を習得する。	肩甲帯・肩関節・肘関節・手関節の関節可動域検査について、教科書の該当ページを事前に確認しておくこと。(90分)	計測技術の獲得に向け, 再度学生同士で実技練習を行うこと。(90分)
担当教員	大坂 隆介		

第4回	関節可動域検査 ③ 手指の関節可動域の測定方法を学ぶ。正確に計測する技術を習得する。	手指の関節可動域検査について、教科書の該当するページを確認しておくこと。(90分)	計測技術の獲得に向け、再度学生同士で実技練習を行うこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	関節可動域検査 ④ 下肢・足部の関節可動域の測定方法を学ぶ。正確に計測する技術を習得する。	下肢・足部の関節可動域検査について教科書の該当ページを確認しておくこと。(90分)	計測技術の獲得に向け、再度学生同士で実技練習を行うこと。(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第6回	片麻痺の評価①Brunnstrom stage・12段階片麻痺回復グ レード法を学ぶ 脳血管障害の種類、上位運動ニューロン障害の機序、特徴を学ぶ。	教科書p208を事前に認しておくこと。また、上位運動ニューロン障害についても調べておくこと(90分)	上位ニューロン障害における様々な症状と、脳血管障害の種類や特徴について復習すること。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		

第7回	片麻痺の評価②Brunnstrom stage・12段階片麻痺回復グレード法を学ぶ 片麻痺の回復過程を学び、連合反応・共同運動・分離運動の特徴を理解する。	片麻痺の回復段階について予習すること。(90分)	「連合反応」、「共同運動」、「分離運動」についてまとめておくこと。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第8回	片麻痺の評価③Brunnstrom stage・12段階片麻痺回復グレード法を学ぶ Brunnstrom stageによる片麻痺の回復段階を理解する。(金)	教科書P288～295のBrunnstrom stageについて内容を確認しておくこと。(90分)	Brunnstromの評価手技について復習すること(90分)
担当教員	金 京室		
第9回	片麻痺の評価④Brunnstrom stage・12段階片麻痺回復グレード法を学ぶ 上田式12段階片麻痺回復グレード法の意味を理解し、評価方法を学習する。(金)	教科書P342～347の12段階片麻痺機能検査の手技を事前に読み予習すること。(90分)	12段階片麻痺機能検査の手技を復習し、必ず練習をしておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		

第10回	感覚検査を学ぶ。S-Wテストによる感覚検査、2点識別覚、重量弁別覚・位置覚の検査方法を学ぶ。検査機器の使い方を習得する。	教科書のP114～129を事前に読んでおくこと(90分)	各種感覚検査機器を用いて、実技を復習すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第11回	ROM評価場面設定でのOSCE、まとめと実技指導 模擬患者を対象に、接遇や安全面に配慮しながら正確に関節可動域を測定できるか実技試験を実施し習得度を確認し、修正が必要なところを指導する。	模擬患者に配慮しながら、ROM評価を正確に実施できるよう、繰り返し練習を行うこと。(90分)	指摘・指導されたところを改善できるよう再度練習を行うこと。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	片麻痺評価場面設定でのOSCE、まとめ実技指導 模擬患者を対象に、接遇や安全面に配慮しながら正確に上田式片麻痺検査を実施できるか実技試験にて習得度を確認し、修正が必要なところを指導する。	患者に配慮しながら、上田式の片麻痺評価を正確に実施し判定できるよう、繰り返し練習を行うこと。(90分)	指摘・指導されたところを改善できるよう再度練習を行うこと。(90分)
担当教員	大坂 隆介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	2回のOSCE形式の実技試験により判定する。
その他	0	なし
教科書		
ROM測定法 / 齋藤 慶一郎 / メジカルビュー社		
参考文献		

随時配布する

履修条件・留意事項等

特別な理由がない限り欠席は認めない。
 ケーシーまたはジャージなど、動きやすい服装のこと。実技に相応しくない服装の場合、受講を認めないことがある。
 OSCE形式の実技試験に合格しない場合、単位認定しない。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法評価学					
科目名		作業療法評価学実習Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	金 京室、金子 翔拓、白戸 力弥、玉 珍、金谷 匡紘、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に対応できる能力を身につけている」と特に関連する科目である。「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」とも関連する科目である。 評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの基礎となる。							

- ・作業療法における身体機能面の評価方法が実施できるようになる
- ・評価の方法、目的を理解し疾患や障害と結び付けることができるようになる
- ・評価実習で用いる検査・測定方法を理解し、実施できるようになる
- ・Basic OSCEにより模擬患者に対して適切に評価手技を実施できるようになる

授業の方法

スライドを用いた講義、デモンストレーション後に実技を行う。

ICT活用

Google formを活用し、確認テストを実施し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

全ての教員が本科目に関わる実務経験を有している(臨床実践5年以上)。

課題に対するフィードバックの方法

Basic OSCE後にフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	コースガイド 徒手筋力検査① 頸部・体幹筋の筋力検査を実習する。	教科書(新徒手筋力検査法)の 関連する範囲を予習すること。(60分)。	検査方法を復習すること。(60分)
担当教員	金子 翔拓		
第2回	徒手筋力検査② 上肢(肩周囲筋・肘関節屈筋群および伸筋群)の筋力検査を実習する。	教科書(新徒手筋力検査法)の 関連する範囲を予習すること。(60分)。	検査方法を復習すること。(60分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	徒手筋力検査③ 上肢(前腕回内外・手関節屈筋群および伸筋群)の筋力検査を実習する。	教科書(新徒手筋力検査法)の 関連する範囲を予習すること。(60分)。	検査方法を復習すること。(60分)
担当教員	白戸 力弥		

第4回	徒手筋力検査④ 手指の運動に関わる筋群の検査法について実習する。	教科書(新徒手筋力検査法)の 関連する範囲を予習すること。(60分)。	検査方法を復習すること。(60分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	徒手筋力検査⑤ 下肢筋群の筋力検査を実習する。	教科書(新徒手筋力検査法)の 関連する範囲を予習すること。(60分)。	検査方法を復習すること。(60分)
担当教員	金子 翔拓		
第6回	神経学的検査法① 脳神経領域の検査を実習する。	参考資料の「作業療法評価学 第4版」の関連する範囲を予習 すること。(60分)。	検査方法を復習すること。(60分)
担当教員	金 京室		

第7回	神経学的検査法② 脳神経領域の検査を実習する。	参考資料の「作業療法評価学第4版」の関連する範囲を予習すること。(60分)。	検査方法を復習すること。(60分)
担当教員	金 京室		
第8回	基本動作① 発達学的側面から姿勢反射と中枢機能について学び検査法を実習する。	参考資料の「作業療法評価学第4版」の関連する範囲を予習すること。(60分)。	検査方法を復習すること。(60分)
担当教員	金 京室		
第9回	基本動作② 神経発達学的側面から、原始反射と出現時の病的意義を論じる。	参考資料の「作業療法評価学第4版」の関連する範囲を予習すること。(60分)。	検査方法を復習すること。(60分)
担当教員	金 京室		

第10回	Basic-OSCEを実施する。 詳細な日程は別途連絡する。	徒手筋力検査を全般的に復習すること(60分)。	検査方法を復習すること。(60分)
担当教員	金子 翔拓、白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介		
第11回	Basic-OSCEを実施する。 詳細な日程は別途連絡する。	徒手筋力検査を全般的に復習すること(60分)。	検査方法を復習すること。(60分)
担当教員	金子 翔拓、白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介		
第12回	Basic-OSCEを実施する。 詳細な日程は別途連絡する。	徒手筋力検査を全般的に復習すること(60分)。	検査方法を復習すること。(60分)
担当教員	金子 翔拓、白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘、大坂 隆介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度, レポート, 実技試験(Basic OSCE)を総合的に判断する。
その他	0	なし
教科書		
新・徒手筋力検査法 原著第10版／協同医書出版社		
参考文献		

作業療法評価学 第4版 (標準作業療法学専門分野)/医学書院

履修条件・留意事項等

原則、欠席を認めない。ケーシーを着用すること。また、B-OSCEに合格しなければ単位認定しない。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		機能活動代償学 I				ナンバリング	3500
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金 京室						
授業の位置づけ							
作業療法学専攻のディプロマポリシーである「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」に特に関連する科目である。「機能活動代償学Ⅱ」、「リハビリテーション工学」、「中枢神経障害作業療法学」、「運動器障害作業療法学」、「身体障害作業療法治療学実習」、「日常生活適応学演習」の基礎となる。							
授業の概要							
身体機能の障害により生じたADL及びQOLの低下に対し、機能を代償する目的で使用される多くの自助具、福祉用具などの分類、構造、機能を具体的に理解し、各疾患・障害への適応方法を学ぶ。							
到達目標							

- ①リハビリテーションにおける代償の概念を説明することができる。
 ②医療・介護で用いられる福祉用具について、分類、適応および給付制度を述べる事ができる。
 ③自助具の機能と分類、適応について述べる事ができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
 小テストを行い、理解度を確認する。

ICT活用

Google FormやGoogle ドキュメント等を使用した双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

身体機能障害領域の病院等で行った臨床経験を活かし、入院時のみならず退院後も継続する患者様の生活を考慮した機能活動の代償について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施し、適宜解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション リハビリテーションにおける代償の活用	リハビリテーション概論を復習しておく。(90分)	配布プリントを復習しておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	福祉用具の概要 歴史・分類・適応について	福祉用具について予習しておくこと。(90分)	配布プリントを復習しておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	視覚障害者や聴覚障害者に対する機能代償	視覚障害者や聴覚障害者が日常生活で使用している福祉用具について予習しておくこと。(90分)	配布プリントを復習しておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		

第4回	上肢機能の代償 日常生活動作のための福祉用具について	日常生活動作において使用される福祉用具について調べて予習しておくこと。(90分)	配布プリントを復習しておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第5回	下肢機能の代償 移動・移乗のための福祉用具について	杖, 歩行器, 車いすについて予習しておくこと。(90分)	次回の授業前に小テストを実施するので、復習をしておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第6回	コミュニケーションの機能代償 コミュニケーション障害を呈する代表的な疾患・障害とコミュニケーションツールについて 小テスト①	コミュニケーションに関する福祉用具について予習しておくこと。(90分)	配布プリントを復習しておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		

第7回	環境整備を介した機能代償 生活環境整備・住宅改修について	退院後の住宅改修や在宅で使用される福祉用具について予習しておくこと。(90分)	次回の授業前に小テストを実施するので、復習をしておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
第8回	知覚・認知が代償に与える影響多感覚を介した機能代償について 小テスト②	これまでの授業資料を再度復習しておくこと。(90分)	配布プリントを復習しておくこと。(90分)
担当教員	金 京室		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト(60%)、授業参加度(40%)
その他	0	
教科書		
義肢装具学 (15レクチャーシリーズ作業療法テキスト)／石川 朗／中山書店		
参考文献		
指定しない。		
履修条件・留意事項等		

なし。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		機能活動代償学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	白戸 力弥						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と関係する科目である。機能活動代償学Ⅰ および身体障害作業療法治療学実習から繋がる科目である。							

- ・義手および義足の構造、分類、適用を説明できる。
- ・義手および義足のチェックアウトのポイントを挙げることができる。
- ・上肢・体幹・下肢装具の構造、分類、各疾患に対する適用法を理解できる

授業の方法

教科書、パワーポイントや配布印刷物(ハンドアウト)を用いた授業を行う。理解度確認のため、小テストを実施する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

身体障害領域の勤務経験があり、義肢・装具について幅広い知識を有している。この経験を活かして本科目の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施し、これらの解答に説明を加えて、フィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	義肢学総論、義手の分類と構造・機能 ・四肢切断、欠損の原因と切断・欠損レベル・切断術術後管理について学習する ・義手の構造上の分類と機能的分類、切断部位(レベル)に対応する義手の構造・機能、義手の構成要素について学ぶ	教科書1頁から22頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員			
第2回	上肢切断の作業療法評価と義手のチェックアウト ・上肢切断に対する作業療法評価、義手のチェックアウトについて学習する	教科書25頁から35頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員			
第3回	上肢切断の作業療法アプローチ ・作業療法アプローチの流れを学習する ・義手装着前訓練、義手操作訓練について学ぶ	教科書37頁から46頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員			

第4回	義足の分類と構造・機能、下肢切断の評価とアプローチ ・股義足・大腿義足・膝義足・下腿義足・足部義足の構造とリハビリテーションについて学ぶ	教科書49頁から68頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員			
第5回	装具学総論、上肢装具 ・装具の目的や分類、3点固定の原理、製作の流れ、装具に必要な運動学を学ぶ ・各種上肢装具の構造、役割、適応について学ぶ	教科書71頁から92頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員			
第6回	下肢装具 ・下肢装具の基本的な部品の名称・構造・機能を学ぶ ・疾患別に下肢装具の種類や目的、基本的な構造や機能を学習する	教科書133頁から144頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員			

第7回	体幹装具 各体幹装具の目的や対象疾患、種類、基本的な構造や機能を学習する	教科書147頁から155頁を読む(90分)	配布資料および教科書を復習すること。次の授業前に小テストを実施する(90分)
担当教員			
第8回	まとめと試験 1～7回の試験のまとめを行う	授業配布資料および教科書を復習する(90分)	配布資料および教科書を復習すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト(50%) + まとめ試験(50%)
その他	0	
教科書		
義肢装具学／石川朗・種村留美・白戸力弥編／中山書店		
参考文献		
義肢装具のチェックポイント第9版／日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会監修／医学書院		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		中枢神経障害作業療法学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
作業療法専門領域の科目であり、作業療法を実践するために必要な基本的知識および技能を身につけるための科目である。ディプロマポリシーの「【知識・技能】作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」「【知識・技能】高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。」と関連する。リハビリテーション障害学、身体障害作業療法治療学特論Ⅱ（中枢系）、身体障害作業療法治療学実習と関連する。							
授業の概要							
中枢神経(脳・脊髄)疾患により生じる様々な障害に対する作業療法について、具体的な症候学をふまえて臨床的な視点から学ぶ。特に脳血管障害、神経筋疾患など、リハビリテーションに深く関与する疾患・障害についても学ぶ。							
到達目標							

- 1.中枢神経障害の発症機序・症状について述べることができる。
- 2.脳血管障害において、脳画像から出現し得る症状を予測できる。
- 3.各症状に対する評価手順について理解し、評価を実施できる。

授業の方法

教科書と配布印刷物を用いた用いた座学に加え、神経学的検査・評価方法については、習熟できるように実践演習を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

金谷匡紘はリハビリテーション病院にて中枢神経障害患者を対象としたリハビリテーションを実践した経験を持ち、実際の臨床現場での経験も踏まえた講義を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

各回毎に理解度についての確認を行い、理解が不足している内容に対して講義内にフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	中枢神経系の構造 中枢神経系の構造と機能について学習する。	これまでに学習した解剖学, 生理学について事前に復習しておくこと. (90分)	講義内容を復習する. (90分)
担当教員			
第2回	脳血管障害の理解① 脳動脈の構造について復習したうえで, 脳血管障害(脳梗塞)の発症機序や全般的症状について学ぶ. また, 症状と関連した脳画像の見方について学ぶ。	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと. 前回の講義内容について確認しておくこと. (90分)	講義内容を復習する. (90分)
担当教員			
第3回	脳血管障害の理解② 脳動脈の構造について復習したうえで, 脳血管障害(脳出血およびその他の脳血管障害)の発症機序や全般的症状について学ぶ. また, 症状と関連した脳画像の見方について学ぶ。	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと. 前回の講義内容について確認しておくこと. (90分)	講義内容を復習する. (90分)
担当教員			

第4回	運動・感覚・自律神経① 運動神経・感覚神経の伝導経路や障害による症状について学び、各症状に対する評価方法について学ぶ。	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。前回の講義内容について確認しておくこと。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員			
第5回	運動・感覚・自律神経② まとめ 自律神経の伝導経路や障害による症状について学び、各症状に対する評価方法について学ぶ。	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。前回の講義内容について確認しておくこと。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	神経・筋疾患の理解① 神経・筋疾患の代表的疾患である多発性硬化症(MS)、パーキンソン病(PD)、筋萎縮性側索硬化症(ALS)における発症機序や全般的症状について学ぶ。	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。前回の講義内容について確認しておくこと。(90分)	講義内容を復習する。(90分)
担当教員			

第7回	神経・筋疾患の理解② 認知症 (Alzheimer型認知症, 脳血管性認知症, Lewy小体型認知症, 前頭側頭型認知症) やてんかん, 頭部外傷について発症機序や経過と症状, 画像所見について学ぶ.	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと. 前回の講義内容について確認しておくこと. (90分)	講義内容を復習する. (90分)
担当教員			
第8回	中枢神経障害に対する作業療法の実際とまとめとテスト 中枢神経障害に対する作業療法実践についての説明と紹介を通して, 臨床場面での中枢神経障害作業療法について学ぶ. 全8回の内容についての確認テストを行い, 理解度についての確認と復習を行う.	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと. 前回の講義内容について確認しておくこと. (90分)	講義内容を復習する. (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		

定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外試験(70%)、授業への参加度(30%)
その他	0	
教科書		
岡庭豊/病気がみえるVol.7 脳・神経/メディックメディア		
参考文献		
岩崎テル子ほか/作業療法評価学/医学書院 落合慈之/リハビリテーションビジュアルブック/学研メディカル秀潤社		
履修条件・留意事項等		

8回の講義中に3回欠席すると単位の認定は不可
講義開始より10分以上遅れた際は遅刻として扱う. 30分以上の遅れは欠席扱いとする.
講義終了時刻よりも10分以上早く退席する場合を早退とし, 30分以上前に退席する場合は欠席とする.

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		運動器障害作業療法学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	白戸 力弥						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。2年次前期の「整形外科学」と関連し、3年次の科目である「身体障害作業療法治療学実習」、「身体障害作業療法治療学特論」の基礎となる科目である。							
授業の概要							
上肢の外傷(骨折、腱損傷、末梢神経損傷)、熱傷などの上肢の運動器疾患に対する病態、手術療法を含めた治療法、評価法、作業療法アプローチについて学ぶ。また、関節リウマチに対する局所的小よび全身的な作業療法アプローチについて学ぶ。							
到達目標							

- ①作業療法で扱う代表的な運動器疾患の病態を理解し、それらに対する作業療法の目標、治療計画、治療法について述べる事ができる。
 ②運動器疾患における早期運動療法の意義、その実際について説明ができる。
 ③運動器疾患により生じる生活障害とそれらに対する代償的手段について述べる事ができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。授業の理解度確認のための小テストを実施し、フィードバックすることで、知識の定着を促す。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は本科目に関する作業療法士実務経験があり、運動器障害作業療法について幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認のための小テストを3回実施し、採点後にフィードバックとして解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	コースガイド 骨折の作業療法① 総論:骨折に対する治療法の変遷 各論:手関節、手根骨、手指・母指の骨折に対する作業療法について学ぶ	教科書の232～313頁を事前に読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	骨折の作業療法② 肩関節、肘関節、前腕の骨折に対する作業療法について学ぶ	教科書の68～102、143～191頁を事前に読んでおくこと。(90分)	小テストを実施するので、よく復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	手指屈筋腱・伸筋腱損傷の作業療法 腱修復の治癒過程、腱縫合法、腱断裂修復術後のZone別の訓練法を中心に学ぶ	手指屈筋腱損傷および伸筋腱損傷の発赤機序、治療法について予習をしておくこと。(90分)	小テストを実施するので、よく復習をしておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	末梢神経障害の作業療法 ・手根管症候群、肘部管症候群を中心とした絞扼性神経障害に対する評価、各種訓練法について学ぶ ・腕神経叢損傷に対する治療法および機能再建術後の作業療法について学ぶ	各種末梢神経障害の麻痺の発生機序と生じる変形を予習しておくこと、また腕神経叢損傷の病態について予習しておくこと。(90分)	小テストを実施するので、よく復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	慢性疼痛の作業療法 複合性局所疼痛症候群(CRPS)に対する作業療法について学ぶ	CRPSの病態、治療法について予習をしておくこと。(90分)	配布資料を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	関節リウマチの作業療法 関節リウマチ(RA)の変形に対するスプリント療法、関節保護法を中心に学ぶ	関節リウマチの病態について予習しておくこと。教科書の224-231頁を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	熱傷の作業療法 熱傷の重症度、外科的治療、拘縮予防のためのスプリント療法、肥厚性瘢痕に対する管理法を中心に学ぶ	熱傷の病態、重症度分類、治療法について予習しておくこと。(90分)	配布資料を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	試験とまとめ	試験の準備をすること(180分)	
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外試験(70%)および3回の小テスト(30%)を実施する。
その他	0	
教科書		
上肢運動器疾患の画像リハビリテーション／白戸力弥／ヒューマン・プレス		
参考文献		
臨床ハンドセラピー／坪田貞子／文光堂 手外科診療ハンドブック改訂第2版／斎藤英彦／南江堂		
履修条件・留意事項等		

解剖学、生理学、運動学、整形外科を履修・予習しておくこと。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		内部障害作業療法学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金谷 匡紘、佐藤 明紀、金 京室、森野 陽						
授業の位置づけ							
作業療法専門領域の科目であり、既習の基礎的な知識を臨床活動に向けて統合する思考過程をグループディスカッションなどを活用して「研鑽する場」とする。問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、論理的な解決法を見いだす能力を養うための科目である。ディプロマポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。」と関連する。							
授業の概要							
内部障害に定義されている7つの障害に加えて、糖尿病などの代謝性疾患、がんについてその病態を理解する。それぞれの疾患患者のリハビリテーション現場における作業療法評価・介入方法について具体的に学ぶ。心臓リハビリテーション、呼吸器疾患の病態に合わせてADL指導のポイント、糖尿病患者の作業療法プログラムについても学習する。							
到達目標							

- ・呼吸器、循環器障害への治療的介入方法を理解するうえで必要不可欠な臨床生理学的知識について理解することができる。
- ・作業療法士が臨床の場で深く関わる糖尿病について、その病態や治療法について理解することができる。
- ・地域医療に不可欠な緩和ケアの概要を理解することができる。
- ・各疾患の作業療法評価と作業療法プログラムについて理解することができる。

授業の方法

- ・教科書を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

課題を実施した際には、講義内でフィードバックします。
 復習試験を実施した際には回収後、問題の解説をします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	内部障害とは ・内部障害の概要について理解する。 ・バイタルサインとは何かを知り、バイタルサインを測定する目的、測定方法を理解する。 ・吸引の基礎知識と吸引の方法を理解する。	教科書p14-37、p72-84を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	森野 陽		
第2回	呼吸器疾患 ・呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、誤嚥性肺炎)についてその症状から身体所見を理解する。	教科書p-26-29、p48-54、p86-104を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	森野 陽		
第3回	循環器疾患 ・心不全の病態生理を理解する。 ・虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)の病態生理を理解する。	教科書p110-119を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	森野 陽		

第4回	心電図 ・刺激伝導系と心電図波形の関係について理解する。 ・標準12誘導の基本的波形を理解し、異常心電図による危険な不整脈を理解する。 ・心臓リハビリテーションについて理解する。	教科書p54-59を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。配布した心電図ドリルを見て不整脈の種類がわかるようになること。(90分)
担当教員	森野 陽		
第5回	糖尿病 ・糖尿病の病態について理解する。 ・糖尿病の症状、合併症について理解する。	教科書p176～183を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	森野 陽		
第6回	下部尿路機能障害 ・泌尿器系の解剖と生理を知り、蓄尿、排尿のしくみを理解する。 ・下部尿路症状の種類を知り、その原因となる疾患を理解する。	教科書p196～205を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員	森野 陽		

第7回	免疫機能障害 ・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害について、低免疫状態における病態について理解する。 復習テストと解説	事前に配布する資料に目を通しておくこと。(90分)	講義で配布した復習テストの問題を復習すること。(90分)
担当教員	森野 陽		
第8回	がん・緩和ケア概論 がんに対する特徴・症状などを理解し、緩和ケアの概念を含めたリハビリテーションについて臨牀的視点から説明できるようにする。	教科書p131-157を読んでおくこと。(90分)	がん・緩和ケアに対する理解と関わりなどについて復習すること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第9回	呼吸器疾患と心疾患の作業療法評価と作業療法プログラムについて理解する。	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金 京室		

第10回	心臓リハビリテーションと作業療法評価、作業療法プログラムについて理解する。	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金 京室		
第11回	がんの作業療法評価と作業療法プログラムについて理解する。 糖尿病の作業療法評価と作業療法プログラムについて理解する。	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金 京室		
第12回	サルコペニアとリハビリテーション栄養について理解する。 ・サルコペニアの定義と分類を理解する。 ・サルコペニアの作業療法評価と作業療法プログラムについて理解する。 ・リハビリテーション栄養について理解する。	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金 京室		

第13回	呼吸器系の基礎知識、気管カニューレ、肺痰法、人工呼吸器の取り扱いについて理解する。(ゲスト)	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第14回	実技を通して気管吸引の方法について理解する①。(ゲスト)	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第15回	実技を通して気管吸引の方法について理解する②。(ゲスト)	教科書の該当するページを読んでおくこと。(90分)	講義で配布した資料および教科書の該当ページを基に、講義内で学習した内容を復習すること。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義内の筆記テストならびに講義内の課題、授業への参加度を基に評価する。
その他	0	なし
教科書		
身体障害作業療法学2 内部疾患編／小林隆司／羊土社		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		身体障害作業療法治療学特論Ⅰ（運動器）				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金子 翔拓						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。」(知識・技能)を達成するための科目である。解剖学、解剖学実習、運動学、作業療法評価学・治療学を基に実施していく。							

- ①関節可動域訓練の理論と方法について説明出来る
- ②関節モビライゼーションテクニックについての理論と方法について説明出来る
- ③ストレッチングについて説明できる

授業の方法

講義及び演習形態で実施していく。

関節可動域制限について例題を出し、それをグループにて考え導き出す、Active learningを用いる

ICT活用

Google formを活用して、復習動画や確認テストを実施し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として5年以上勤務した経験を活かし、身体障害作業療法治療学特論(運動器)の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にフィードバックしていきます

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	関節可動域訓練の理論と実際①	関節可動域訓練について予習する.(90分)	関節可動域訓練について復習する.(90分)
担当教員			
第2回	関節可動域訓練の理論と実際②	関節可動域訓練について予習する.(90分)	関節可動域訓練について復習する.(90分)
担当教員			
第3回	関節モビライゼーション・テクニック① その理論と方法	関節モビライゼーション・テクニックについて予習する(90分)	関節モビライゼーション・テクニックについて復習する(90分)
担当教員			

第4回	関節モビライゼーション・テクニック② その理論と方法	関節モビライゼーション・テクニックについて予習する(90分)	関節モビライゼーション・テクニックについて復習する(90分)
担当教員			
第5回	ストレッチング① その理論と実際	ストレッチングについて予習する(90分)	ストレッチングについて復習する(90分)
担当教員			
第6回	ストレッチング② その理論と実際	ストレッチングについて予習する(90分)	ストレッチングについて復習する(90分)
担当教員			

第7回	体幹に対する運動療法・作業療法①	体幹機能の評価・治療について 予習する(90分)	体幹機能の評価・治療について 復習する(90分)
担当教員			
第8回	体幹に対する運動療法・作業療法②	体幹機能の評価・治療について 予習する(90分)	体幹機能の評価・治療について 復習する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート、授業態度、出席状況から総合的に判定する
その他	0	なし
教科書		
指定しない		
参考文献		
徒手の理学療法, 藤縄理, 三輪書店		
履修条件・留意事項等		

KC着用にて授業を受けること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		身体障害作業療法治療学特論Ⅱ（中枢系）				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金 京室						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」に特に関連する科目である。「リハビリテーション障害学」「運動器障害作業療法学」「内部障害作業療法学」を基に実施していく。							

- 1.中枢神経障害の介入に必要な作業療法の評価について基本的技法を実施することができる。
- 2.中枢神経障害に対する評価結果に基づいた解釈を行い、適切な目標設定が立案できる。
- 3.目標立案までの一連の流れをまとめ、プレゼンテーションすることができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物(ハンドアウト)を用いた方法を説明したのち、グループによる実技練習を行う。授業終了時にコメントシートに質問や感想を記入してもらい、次の授業始めにフィードバックする。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

金は、リハビリテーション病院において作業療法士としての勤務経験があり、中枢神経系疾患について幅広い知識を有している。この経験を活かして指導を行う。加えて、臨床経験が豊富な作業療法士1名をゲスト講師として迎え、より実践的な学び場を提供する。

課題に対するフィードバックの方法

前回授業のコメント・質問を踏まえ、授業始めに口頭・実演などを用いたフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	中枢神経系障害の障害像および脳卒中の情報収集・面接	脳卒中における情報収集・面接方法について予習する(90分)	脳卒中における情報収集・面接方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第2回	脳卒中の評価:Top-downやBottom-upアプローチに基づく評価	脳卒中におけるTop-downやBottom-upアプローチに基づく評価方法について予習する(90分)	脳卒中におけるTop-downやBottom-upアプローチに基づく評価方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第3回	ICFに基いた問題点抽出・目標設定	ICFに基いた問題点抽出・目標設定方法について予習する(90分)	ICFに基いた問題点抽出・目標設定方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第4回	治療プログラムの紹介と実践①	治療プログラムに方法について 予習する(90分)	治療プログラムに方法について 復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第5回	治療プログラムの紹介と実践②	治療プログラムに方法について 予習する(90分)	治療プログラムに方法について 復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第6回	治療プログラムの紹介と実践③	治療プログラムに方法について 予習する(90分)	治療プログラムに方法について 復習する(90分)
担当教員	金 京室		

第7回	脳卒中患者の自動車運転評価・支援の理論と実践①(ゲスト講師:山田)	脳卒中患者の自動車運転の評価方法について予習する(90分)	脳卒中患者の自動車運転の評価・支援方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		
第8回	脳卒中患者の自動車運転評価・支援の理論と実践②(ゲスト講師:山田)	脳卒中患者の自動車運転の評価方法について予習する(90分)	脳卒中患者の自動車運転の評価・支援方法について復習する(90分)
担当教員	金 京室		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度(80%)・出席態度(20%)
その他	0	なし
教科書		
特に指定しない		
参考文献		
特に指定しない		
履修条件・留意事項等		

特になし

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		身体障害作業療法治療学実習				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	白戸 力弥、金子 翔拓、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と関係がある科目である。また、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」とも関係する。これまで履修した身体障害領域の作業療法に関する専門科目の総まとめとなり、評価実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱに繋がる科目である。							
授業の概要							
身体障害作業療法領域で実践される各種治療的技術を疾患別に実習形式で学ぶ。頸髄損傷の評価法、ADL動作の分析方法およびアプローチ法を学ぶ。また、スプリント作製、特殊スイッチの作製方法を学ぶ。さらに仮想患者を設定し、得られた評価結果を統合・解釈し、治療プログラムを立案するグループワークを通して、より実践的な臨床推論(クリニカルリーズニング)を深める。							
到達目標							

①主に運動器障害の疾患の概要、治療、アプローチ法および実践について説明ができる。②医療画像の基本的な診方ができ、病態と結びつけることができる。③頸髄損傷の病態および作業療法の介入について説明ができる。④スプリント療法の原理に基づき、基本的なスプリントが作製できる。⑤これまで学習した作業療法治療学をもとに事例検討を行い、評価、ゴール設定、治療計画およびその意義について説明し、レポートを完成させ、プレゼンテーションができる。

授業の方法

パワーポイントの講義、実習、グループディスカッションおよび学生によるプレゼンテーション形式の授業を行う。

ICT活用

教科書に付属するeラーニングシステムを用いて自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

科目筆頭教員は15年以上の作業療法士の実務経験があり、身体障害作業療法について幅広い知識・経験を有している。またその他の教員も実務経験を有しており、これらの経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

グループディスカッションおよび学生によるプレゼンテーションに対して、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	頸髄損傷の作業療法の基本的考え方とその実際 頸髄損傷の病態、評価法、介入法を学ぶ。	頸髄損傷の病態・医学的治療について予習しておくこと。(90分)	配布資料を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第2回	頸髄損傷のADLとその介入法とその実際 各高位残存レベルに応じた具体的介入法を学ぶ。	前回の授業の復習を行うこと。(90分)	配布資料を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	頸髄損傷のADLについて 髄節別残存機能レベルのADL動作の違いについて、実習体験を通して学ぶ。	1回目、2回目の授業から髄節別残存機能レベルを予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第4回	運動器疾患に必要な画像のみかたレントゲン、CT、MRI、超音波画像を中心に講義する。	教科書1の2-36頁、38-54頁を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	末梢神経障害の作業療法、治療の基本と実際 末梢神経障害の病態、作業療法アプローチの講義とグループワークを行う。	教科書1の2-36頁、38-54頁を読んでおくこと。(90分)	配布資料、グループワークでディスカッションした内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	関節可動域訓練について 自動介助・自動・他動関節可動域訓練方法について実習を通して学ぶ。	肩関節、肘関節、手関節、母指、手指の関節可動域訓練法とこれらの制限因子について予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第7回	悪性腫瘍に対する治療と作業療法のアプローチの実際を学ぶ。 スプリントの作製方法の基本を学ぶ。	悪性腫瘍の病態について予習しておくこと。教科書1の2-9を読んでおくこと。また、教科書2の1-22頁を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習しておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第8回	型紙法によるスプリント作製実習 型紙を作図し、ショートサムスパイカスプリントを作製する。	教科書2の84-91頁を読み、動画を閲覧しておくこと。(90分)	再度教科書の動画を視聴し、実習内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第9回	直接法によるスプリント作製実習 直接法により、掌側型カックアップスプリントを作製する。	教科書2の24-36頁を読み、動画を閲覧しておくこと。(90分)	再度教科書の動画を視聴し、実習内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第10回	スプリント作製実習 マレットフィンガー用スプリント、スワンネック変形用スプリント、セフティピンスプリントを作製する。	教科書2の54－58頁、59－63頁、75－83を読み、関連の動画を閲覧しておくこと。(90分)	再度教科書の動画を視聴し、実習内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第11回	ポータブルスプリングバランサーの適応と使用方法 三角巾の適用と装着方法	ポータブルスプリングバランサー適応の目的、適応疾患を調べておくこと。三角巾の装着方法について調べておくこと。(90分)	実習内容についてまとめておくこと。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	グループワークによる事例検討 グループワークにより事例の評価のまとめ方、問題点の抽出方法、目標設定の方法を学ぶ。	なし	グループワークにより十分なディスカッションを行い考えを共有すること。(90分)
担当教員	金子 翔拓、白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘		

第13回	事例検討後のプレゼン①(各グループ) 実習サマリーシートを用いて、各グループでプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーション資料(サマリー)の作成、準備を行うこと。(90分)	他のグループ、教員の意見を参考に、サマリーを修正し、提出すること。(90分)
担当教員	金子 翔拓、白戸 力弥、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘		
第14回	事例検討後のプレゼン②(各グループ) 実習サマリーシートを用いて、各グループでプレゼンテーションを行う。	プレゼンテーション資料(サマリー)の作成、準備を行うこと。(90分)	他のグループ、教員の意見を参考に、サマリーを修正し、提出すること。(90分)
担当教員	金子 翔拓、玉 珍、金 京室、金谷 匡紘		
第15回	定期試験外試験とまとめ	定期試験外試験に備え学習すること	試験内容について復習すること。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外試験(60%)、レポート、スプリント作製、グループ作成のプレゼンテーションを評価する。
その他	0	なし
教科書		
教科書1: 上肢運動器疾患の画像リハビリテーション／白戸力弥／ヒューマンプレス(2年次から使用) 教科書2: 熱可塑性スプリント作製マニュアル／坪田貞子／三輪書店		
参考文献		

臨床ハンドセラピー／坪田貞子／文光堂
身体作業療法クイックリファレンス／坪田貞子／文光堂

履修条件・留意事項等

基礎医学、解剖学、生理学を履修し、復習しておくこと。実習科目のため、原則、遅刻・欠席を認めない。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		高次脳機能障害作業療法治療学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	大坂 隆介						
授業の位置づけ							
作業療法学専攻のディプロマポリシー「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」を達成するための科目であり、高次脳機能障害作業療法治療学演習の基礎となる。							

- ①高次脳機能障害の定義および神経心理学的検査の進め方を説明できる。
 ②代表的な高次脳機能障害の症状等に応じて、適切な評価を説明できる。
 ③代表的な高次脳機能障害の症状等に応じて、適切な治療を説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いて講義を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

大坂隆介はリハビリテーション病院にて高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーションを実践した経験を持ち、実際の臨床現場での経験も踏まえて、高次脳機能障害学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認のテストを行い、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	高次脳機能障害とは 高次脳機能障害の概要とそれを理解するための脳解剖等の基礎知識について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第2回	失語・失書・失読 失語や失書、失読についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第3回	失行・行為・行動の障害 失行や行為の障害についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員	大坂 隆介		

第4回	失認 失認についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第5回	視空間認知障害 半側空間無視、構成障害についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第6回	注意障害 注意障害についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員	大坂 隆介		

第7回	記憶障害・認知症 記憶障害と認知症についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員	大坂 隆介		
第8回	全般的知能・理解度確認テストとまとめ 全般的知能についての概略とその評価法について学習する これまでに学習した内容についてまとめのテストを行い、理解度について確認を行う。	今までの講義資料ならびに教科書を参考に予習すること(90分)	今までの講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員	大坂 隆介		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外テスト(70%)、授業出席態度(30%)
その他	0	特になし
教科書		
石合純夫／高次脳機能障害学 第3版／医歯薬出版		
参考文献		
梗間剛／リハビリPT・OT・ST・Dr. のための脳画像の新しい勉強本／三輪書店 岡庭豊／病気がみえるVol.7 脳・神経／メディックメディア		
履修条件・留意事項等		

講義開始より10分以上遅れた際は遅刻として扱う. 30分以上の遅れは欠席扱いとする。
講義終了時刻よりも10分以上早く退席する場合を早退とし, 30分以上前に退席する場合は欠席とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		高次脳機能障害作業療法治療学演習				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大坂 隆介						

授業の位置づけ

作業療法学専攻のディプロマポリシー「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」を達成するための科目であり、高次脳機能障害作業療法治療学の応用となる。

授業の概要

高次脳機能障害作業療法治療学で学んだ知識を踏まえ評価、介入に必要な発展的な学習を行う。
各種高次脳機能障害に関する評価方法を体験し、実学習を行う。

到達目標

各種高次脳機能障害の評価方法を理解し、マニュアルを参考に自身にて実施することができる。
脳画像を確認し、損傷部位と推定される症状について述べることができる。

授業の方法

教科書と配布印刷物を用いた座学に加え、神経学的検査・評価方法については、習熟できるようにグループワークを通じての実践演習を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

大坂隆介はリハビリテーション病院にて高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーションを実践した経験を持ち、実際の臨床現場での経験も踏まえた講義を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

各回毎に理解度についての確認を行い、理解が不足している内容に対して講義内にフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	高次脳機能障害の基礎知識の復習 高次脳機能障害に関連する解剖学等について画像所見を交えながら復習を行う。	高次脳機能障害作業療法治療学ならびに解剖学について講義資料や教科書を参考に復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第2回	視空間認知障害の評価 BITやコース立方体組み合わせテスト等に代表される視空間認知障害の評価バッテリーについての実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第3回	注意機能の評価 CATやTMT等の評価バッテリーについての実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		

第4回	遂行機能の評価 WCSTやBADs等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第5回	失語・失書・失読の評価 標準失語症検査等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第6回	失行・行為・行動の評価 標準高次動作性検査等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		

第7回	失認の評価 標準高次視知覚検査等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第8回	記憶・認知症の評価 WMS-R、RBMT、三宅式記銘力検査、ベントン視覚記銘検査等の評価バッテリーや観察評価について実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第9回	全般的知能の評価① HDS-RやMMSE、WAIS等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		

第10回	全般的知能の評価② HDS-RやMMSE、WAIS等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第11回	全般的知能の評価③ HDS-RやMMSE、WAIS等の評価バッテリーについて実施方法とその解釈について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第12回	脳画像のみかた① 脳画像のみかたを学び、画像所見と高次脳機能障害の関連について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		

第13回	脳画像のみかた② 脳画像のみかたを学び、画像所見と高次脳機能障害の関連について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第14回	脳画像のみかた③ 脳画像のみかたを学び、画像所見と高次脳機能障害の関連について学習する。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
第15回	学習のまとめと確認テスト これまでに学習した内容についてまとめを行い、理解度確認のテストを行う。テストについては解説を行う。	高次脳機能障害作業療法治療学の講義の該当する箇所の資料を復習する(15分)	講義内容について配布資料を参考に復習を行う(30分)
担当教員	大坂 隆介		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト(50%)、提出物の質および授業への参加度(50%)
その他	0	特になし
教科書		
石合純夫／高次脳機能障害学 第3版／医歯薬出版		
参考文献		

梗間剛／リハビリPT・OT・ST・Dr. のための脳画像の新しい勉強本／三輪書店
 岡庭豊／病気がみえるVol.7 脳・神経／メディックメディア

履修条件・留意事項等

演習には積極的に取り組むこと。
 講義開始より10分以上遅れた際は遅刻として扱う。30分以上の遅れは欠席扱いとする。
 講義終了時刻よりも10分以上早く退席する場合を早退とし、30分以上前に退席する場合は欠席とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		発達障害作業療法治療学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小玉 武志						

授業の位置づけ

発達障害の「作業療法を实践するために必要な基本的知識を身につけている。」「高度に専門化かつ多様化された医療に柔軟に適応できる能力を身につけている。」ための科目である。作業療法評価学と小児科学・発達心理学及び人間発達学を基礎とし、発達障害領域における作業療法の概要と評価方法を学ぶ。発達障害作業療法治療学の基礎となる。

授業の概要

発達領域の基盤となる正常発達を多面的な領域から学ぶことで、成長期における障害・疾病が人の成長にどのような影響を与えるかについて理解する。さらに、発達障害は従来の対象である肢体不自由児から、広汎性発達障害やADHDなど多様な広がりを見せていることをふまえ、発達障害作業療法治療学演習で各論を学ぶための基礎知識となる、疾病や障害、評価・理論、制度等を広角的に学ぶ。

到達目標

- 1) 定型発達の過程を理解し、人間発達学の視点から障害児を理解する重要性を理解する
- 2) 障害児に対して定型発達の知識をもとに、その発達過程における課題を理解することができる。

授業の方法

パワーポイントを中心に講義を行う。
学生が主体となって調べた内容をまとめ、発表を行う

ICT活用

オンラインでミニテストを実施し、理解度の把握と知識の定着を図る
インタラクティブな方法を用いて、主体的な授業参加を促す

実務経験のある教員の教育内容

北海道済生会みどりの里にて、重症心身障害を持つ対象者の方々、及び外来部門において発達障害の児童に対する作業療法を実践してきた経験から臨床現場で必要となる知識や技術の伝達を行うことができる。また、現在通所支援事業所の教育にも携わっている経験から、将来的な発達障害の作業療法の分野の動向を交えながら授業を行う

課題に対するフィードバックの方法

ミニテストにより振り返りを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	発達障害作業療法の歴史的変遷, 理念と役割を理解する。 時代背景と共に変化してきた発達障害作業療法の対象と範囲について理解を深める	作業療法概論について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第2回	発達障害作業療法の評価の手順や関わり, 重要な視点と注意点について理解を深める	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第3回	基本的な姿勢・運動発達について学び、評価を行う上での応用的視点について身につける	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			

第4回	認知機能の発達の理解を深め、作業療法での介入の視点と考え方について学ぶ	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第5回	言語・コミュニケーション機能の発達の理解を深め、作業療法介入の視点となる考え方を学ぶ	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第6回	社会性・ADLの発達について理解を深め、作業療法介入の視点と考え方について学ぶ	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			

第7回	動画教材を用いて, 児童の発達段階についてディスカッションを行い, 介入の視点となるclinical reasoningについての基礎を学ぶ(1)	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第8回	動画教材を用いて, 児童の発達段階についてディスカッションを行い, 介入の視点となるclinical reasoningについての基礎を学ぶ(2)	人間発達学について復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第9回	各種評価法について, 学生が主体となり発表を行い, 知識を深める	グループ学習において各課題についてまとめ, 資料の作成を行うこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			

第10回	各種評価法について、学生が主体となり発表を行い、知識を深める	グループ学習において各課題についてまとめ、資料の作成を行うこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第11回	発達障害作業療法の分野で用いられる評価法や評価指標について学び、それぞれの特徴と関連する機能について理解を深める	事前に配布した資料を確認しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第12回	学習支援の方法について学び、評価の視点、介入について学ぶ	事前に配布した資料を確認しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			

第13回	日常生活動作についての支援の方法について学び、評価の視点、介入について学ぶ	事前に配布した資料を確認しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第14回	発達障害作業療法の分野で用いられる評価を体験し、検査項目に関連する認知機能の要素について理解をする	事前に配布した資料を確認しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
第15回	学習した評価表の結果の解釈についてディスカッションを行う 授業の理解度を確保するための総演習を行う	11~14回の授業内容を復習しておくこと(90分)	授業資料の振り返り(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	単元ごとのミニテストの結果 総演習の結果 提出課題の内容
その他	20	授業への参加 発言の回数 主体的な参加の程度
教科書		
参考文献		

小児リハ評価ガイド／楠本泰士・友利幸之介／メディカルビュー
 発達障害の作業療法 基礎編 第3版／岩崎清隆・鴨下賢一(著)／三輪書店
 発達障害の作業療法 実践編 第3版／岩崎清隆・鴨下賢一・岸本光夫(著)／三輪書店

履修条件・留意事項等

積極的な姿勢での授業参加
 主体的な行動
 医療人としての最低限の倫理的行動を求めます

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		発達障害作業療法治療学演習				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	小玉 武志						
授業の位置づけ							
発達障害分野における「作業療法を実践するために必要な基本的知識(知識・技能)を身につけている」ことに関する科目である。発達障害の特徴と評価・治療を習得する							
</							

各疾患の障害像を理解し、説明することができる
発達障害作業療法の治療的関わりについて知識を深め、一部実践ができる

授業の方法

パワーポイントや動画等を活用した講義・演習を行う
グループワークを行い、事例に対して様々な視点から理解を深める

ICT活用

オンラインでミニテストを実施し、理解度の把握と知識の定着を図る
インタラクティブな方法を用いて主体的な参加を促す

実務経験のある教員の教育内容

北海道済生会みどりの里にて、重症心身障害を持つ対象者の方々、及び外来部門において発達障害の児童に対する作業療法を実践してきた経験から臨床現場で必要となる知識や技術の伝達を行うことができる。また、現在通所支援事業所の教育にも携わっている経験から、将来的な発達障害の作業療法の分野の動向を交えながら授業を行う

課題に対するフィードバックの方法

ミニテストにより振り返りを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業課題に対するオリエンテーション 発達障害に関わる社会制度と、発達障害作業療法に用いられる治療理論について理解を深める	発達障害作業療法治療学を復習する(30分)	授業資料の振り返り(15分)
担当教員			
第2回	中枢性疾患の障害特性について学び、基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や作業療法実践について理解を深める グループワークを行う	人間発達学及び発達障害作業療法治療学を復習する(30分)	授業資料の振り返り(15分)
担当教員			
第3回	重症心身障害の障害特性について学び、基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や作業療法実践について理解を深める グループワークを行う	人間発達学及び発達障害作業療法治療学を復習する(30分)	授業資料の振り返り(15分)
担当教員			

第4回	神経筋疾患の基礎的理解を深める～筋ジストロフィーの障害特性と作業療法実践について学ぶ～ グループワークを行う	人間発達学及び発達障害作業療法治療学を復習する(30分)	授業資料の振り返り(15分)
担当教員			
第5回	神経筋疾患の基礎的理解を深める～二分脊椎, 分娩麻痺, その他神経疾患について学ぶ～ グループワークを行う	人間発達学及び発達障害作業療法治療学を復習する(30分)	授業資料の振り返り(15分)
担当教員			
第6回	自閉スペクトラム症の障害特性について学び, 基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や, 作業療法実践について理解を深める グループワークを行う	人間発達学及び発達障害作業療法治療学を復習する(15分)	授業資料の振り返り(30分)
担当教員			

第7回	知的障害の障害特性について学び, 基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や, 作業療法実践について理解を深める グループワークを行う	人間発達学及び発達障害作業療法治療学を復習する(15分)	授業資料の振り返り(30分)
担当教員			
第8回	注意欠如多動症, 学習症, 発達性協調運動症の障害特性について学び, 基本的治療方針の立案に係る情報収集のあり方や, 作業療法実践について理解を深める グループワークを行う	人間発達学及び発達障害作業療法治療学を復習する(15分)	授業資料の振り返り(30分)
担当教員			
第9回	各疾患における作業療法の介入について調べ, まとめたものを発表する	自ら調べた内容をまとめ, 発表資料を作成する(35分)	授業資料の振り返り(10分)
担当教員			

第10回	各疾患における作業療法の介入について調べ、まとめたものを発表する	自ら調べた内容をまとめ、発表資料を作成する(35分)	授業資料の振り返り(10分)
担当教員			
第11回	症例検討～動画を用いた症例に対して、グループで意見をもち寄り理解を深める～	各疾患に対して見直しを行う(30分)	授業資料の振り返り(15分)
担当教員			
第12回	発表～各グループごとで考えた内容について発表を行う～	自ら調べた内容をまとめ、発表資料を作成する(30分)	授業資料の振り返り(15分)
担当教員			

第13回	症例検討～動画を用いた症例に対して、グループで意見を持ち寄り理解を深める～	各疾患に対して見直しを行う(30分)	授業資料の振り返り(15分)
担当教員			
第14回	発表～各グループごとで考えた内容について発表を行う～	自ら調べた内容をまとめ、発表資料を作成する(30分)	授業資料の振り返り(15分)
担当教員			
第15回	発達障害に対する作業療法実践について内容を深め、理解度についての確認と復習を行う	これまでの講義内容を復習する(40分)	授業資料の振り返り(5分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	総演習の結果 単元ごとのミニテストの結果 各授業回への振り返り
その他	20	グループワークへの参加 授業の発言 積極的態度
教科書		
参考文献		

作業療法学 ゴールドマスターテキスト「発達障害作業療法学」／長崎重信 監修／メディカルビュー社
 発達障害の作業療法 基礎編 第3版／岩崎清隆・鴨下賢一(著)／三輪書店
 発達障害の作業療法 実践編 第3版／岩崎清隆・鴨下賢一・岸本光夫(著)／三輪書店

履修条件・留意事項等

積極的な姿勢での授業参加(ディスカッションでの発言)
 主体的な行動(質問できる力)
 医療人としての最低限の倫理的行動を求めます(話を聞く態度／授業に対する参加意欲)

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		高齢期作業療法治療学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	玉 珍						

授業の位置づけ

作業療法を実践するために必要な基本的知識を習得するための科目であり(知識・技能)、「高齢期作業療法治療学演習」「高齢期作業療法治療学特論」の基礎となる科目である。

授業の概要

加齢に伴う身体・心理精神機能の特性と主な疾患・症候を学習し、高齢者の障害特性を理解する。高齢者模擬的体験によって生活作業の弊害を理解し、作業遂行観察とその評価法を学習する。急性期・回復期・維持期過程における高齢者やその家族のニーズを尊重した作業療法介入過程を学習する。また住宅環境、地域社会の高齢者の生活基盤を支援する作業療法の展開を取り上げる。認知症の臨床症状や生活場面での障害、認知機能の評価について学ぶ。

到達目標

- ・加齢に伴う身体的機能・心理精神機能を理解し生活障害を理解できる
- ・介護老人保健施設での作業療法について理解できる。
- ・認知症患者の疾患による症状の違いや中核症状・周辺症状について説明できる。

授業の方法

パワーポイントの資料配布・教科書を使用した講義およびグループワークや演習を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

科目担当の玉はリハビリテーション病院にて作業療法士として勤務し、様々な疾患の高齢者に作業療法を提供していた経験を生かして、講義内では実際に症例紹介などを用いて、加齢による様々な機能低下、リスク管理などをわかりやすく伝達する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の理解を確認する小テストを行い、テスト実施後にフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業概要の説明 我が国の高齢者の現状、高齢期作業療法の目的を学ぶ	教科書P9～16、P33～38を確認しておくこと（90分）	授業内容・配布資料を復習すること（90分）
担当教員	玉 珍		
第2回	老化による身体機能面の変化と、高齢者の各ADL・IADLへの影響について理解する	教科書P39～50、P81～87を確認しておくこと（90分）	老化による変化とADL・IADLへの影響を説明できるように復習すること（90分）
担当教員	玉 珍		
第3回	老化による精神機能面・知的面の変化、ライフサイクルの変化からみた生活課題について学ぶ	教科書P17～28を確認しておくこと（90分）	老化による精神機能の変化及び高齢者特有の生活課題を復習すること（90分）
担当教員	玉 珍		

第4回	高齢者が要介護状態になる原因とリスク管理について学ぶ (廃用症候群、整形疾患、転倒など)	教科書P51～63を確認しておく こと (90分)	廃用症候群・高齢者のリスク管理について復習すること (90分)
担当教員	玉 珍		
第5回	高齢期作業療法の病期・実施場所の違いについて医療現場・介護老人保健施設・グループホーム等	教科書P95～116を確認しておく こと (90分)	高齢期作業療法が病期や場所の違いについて確認・復習しておくこと (90分)
担当教員	玉 珍		
第6回	認知症① : 認知症の概要、原因疾患、中核症状とBPSDについて	教科書P64～73を確認しておく こと (90分)	認知症の中核症状、周辺症状を復習しておくこと (90分)
担当教員	玉 珍		

第7回	認知症② : 評価スケール HDS-R、MMSE、CDR等について、評価の説明と同意・評価手順を学習する	教科書P64～73を事前に確認しておくこと (90分)	評価スケールの種類・目的・検査方法を復習すること (90分)
担当教員	玉 珍		
第8回	認知症③ : 認知症サポートについて支援活動を知り、理解を深める。認知症の方との関わり方を学ぶ。 認知症サポーター講座: 恵庭市地域包括	認知症の原因疾患や各症状の特徴を再度確認しておくこと (90分)	認知症の方との関わり方、認知症サポーターについて復習しておくこと (90分)
担当教員	玉 珍		
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト・レポート・授業参加・態度にて総合的に評価する
その他	0	
教科書		
高齢期作業療法学(第4版) 松房利憲・新井健五／医学書院		
参考文献		
認知症をもつ人への作業療法アプローチ ―視点・プロセス・理論― 第2版 宮口英樹／メジカルビュー社		
履修条件・留意事項等		

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		高齢期作業療法治療学演習				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	玉 珍						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「作業療法を实践するために必要な基本的知識を身につけている。」医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につける」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。」能力を達成するための科目である。2年後期の高齢期治療学で学んだ知識をもとに、実際に高齢期の疾患の事例検討や施設に入所している高齢者との体験授業を通して、より評価実習、総合臨床実習に向けての具体的なイメージができる

授業の概要

高齢期の作業療法介入について、必要な知識と技術を学習する。
実際に老健施設やグループホームなどを利用している高齢者と面接・観察による評価やダイバージョナルセラピーによるレクリエーションを企画・実施する。

到達目標

症例検討・グループワークを通して、
 1.高齢期作業療法における初期評価、統合と解釈ができる。
 2.作業療法の目標を立てて、プログラムの立案までの一連の流れを理解する。
 3.学外施設にて個別に高齢者との面談や日常生活の観察などを行い、コミュニケーション方法を獲得することや生活状況をまとめることができる

授業の方法

パワーポイントを用いて講義形式で進める。
 グループで事例検討を行い、検討内容を発表する。
 学外の施設にて体験型授業にする。発表内容に関してその場でフィードバックを行い、理解度を深める。

ICT活用

- Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。
- 授業のパワーポイントをGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする

実務経験のある教員の教育内容

科目担当の玉珍は、リハビリテーション病院において、作業療法士としての勤務経験があり、高齢者が特有とする疾患への作業療法評価、介入について幅広く知識を有している。これらの経験を活かして学生の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レポート及び体験学習のプレゼンへのフィードバックを行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目で学ぶ高齢者特有疾患について全体の説明、および授業形式についてオリエンテーションを行う。 高齢期脳血管障害への作業療法評価について学ぶ	片麻痺患者への作業療法について予習しておく(20分)	高齢期片麻痺の作業療法評価について復習すること(25分)
担当教員	玉 珍		
第2回	高齢期脳血管障害への作業療法介入方法について学ぶ	片麻痺患者への作業療法評価と介入についてを予習しておく(20分)	高齢者の脳血管障害症例をまとめる(25分)
担当教員	玉 珍		
第3回	寝たきり高齢者の作業療法評価・介入方法について学ぶ	寝たきりとは何か、廃用症候群について予習すること(20分)	寝たきりの評価・介入内容の復習をすること(25分)
担当教員	玉 珍		

第4回	高齢者における環境(物的・人的)へのアプローチによる作業療法実践について学ぶ	住宅環境や家族へのアプローチについて予習しておく(20分)	事例の環境へのアプローチを考え、まとめる(25分)
担当教員	玉 珍		
第5回	高齢期神経内科疾患の作業療法評価・日常生活動作獲得に向けた作業療法実践を学ぶ	日常生活動作とは何か、それぞれについて評価方法を予習しておくこと(20分)	事例を通して日常生活動作評価・治療プログラムを立てる(25分)
担当教員	玉 珍		
第6回	高齢期神経内科疾患への作業療法介入について日常生活動作獲得へ向けた作業療法実践を学ぶ	日常生活動作とは何か、それぞれについて評価方法を予習しておくこと(20分)	事例を通して日常生活動作評価・治療プログラムを立てる(25分)
担当教員	玉 珍		

第7回	ダイバーショナルセラピーについて学び体験する(アセスメント、インプリケーション、プランニング、エヴァリュエーション) ゲスト講師 芹澤	ダイバーショナルセラピーについて予習しておくこと。(20分)	ダイバーショナルセラピーについて復習をすること。(25分)
担当教員	玉 珍		
第8回	ダイバーショナルセラピーについて学び体験する(アセスメント、インプリケーション、プランニング、エヴァリュエーション) ゲスト講師 芹澤	ダイバーショナルセラピーについて予習しておくこと。(20分)	ダイバーショナルセラピーについて復習すること。(25分)
担当教員	玉 珍		
第9回	学外授業説明 認知症高齢者のコミュニケーション, 接し方について	認知症について予習しておく(20分)	認知症高齢者とのコミュニケーション方法, 接し方について復習する (25分)
担当教員	玉 珍		

第10回	学外授業 高齢者事例検討 ① 入所・通所施設、グループホームを利用する高齢者の生活状況を理解する。面接と日常生活活動の観察を評価体験することで、高齢者の生活の状況を学ぶ	認知症高齢者とのコミュニケーション、接し方の復習しておく (20分)	面接・観察内容をまとめる (25分)
担当教員	玉 珍		
第11回	学外授業 高齢者事例検討 ① 入所・通所施設、グループホームを利用する高齢者の生活状況を理解する。面接と日常生活活動の観察を評価体験することで、高齢者の生活の状況を学ぶ	認知症高齢者とのコミュニケーション、接し方の復習しておく (20分)	面接・観察内容をまとめる (25分)
担当教員	玉 珍		
第12回	学外授業 高齢者事例検討 ② 入所・通所施設 グループホームを利用する高齢者の生活状況のまとめ	前回のケースをまとめ、必要な情報収集をするための工夫を考えておく (20分)	情報収集のまとめ (25分)
担当教員	玉 珍		

第13回	学外授業 高齢者事例検討 ② 入所・通所施設 グループホームを利用する高齢者の生活状況のまとめ	前回のケースをまとめ、必要な情報収集をするための工夫を考えておく	情報収集のまとめ (25分)
担当教員	玉 珍		
第14回	学外授業内容発表・フィードバック	学外見学・体験内容のまとめ (20分)	レポート作成 (25分)
担当教員	玉 珍		
第15回	学外授業内容発表・フィードバック	学外見学・体験内容のまとめ (20分)	レポート作成 (25分)
担当教員	玉 珍		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題・レポート60%、グループ学習・プレゼンテーション40%
その他	0	なし
教科書		
高齢期作業療法学 第4版 / 松房利憲 / 医学書院		
参考文献		

認知症を持つ人への作業療法アプローチ ―視点・プロセス・理論― 宮口英樹／メジカルビュー社

ダイバーショナルセラピー 芹澤隆子／三輪書店

履修条件・留意事項等

学外授業の際には施設の都合により日程変更や時間延長の場合もあります。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		高齢期作業療法治療学特論				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	玉 珍						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる」能力を達成するための科目である。「高齢期作業療法治療学」「高齢期作業療法治療学演習」で学んだ知識や経験を踏まえ、さらに高齢期の作業療法を深めていく授業である。

授業の概要

健常・要支援・要介護高齢者の「意味のある作業」に焦点を当てた作業療法について、症例や実際の高齢者との関わりを通じ、介護予防の視点から学習する。事例について必要な評価・治療プログラムの組み立て方を学ぶ。車椅子の選択やシーティングを通して、作業療法士の役割のひとつである環境調整についての重要性を学ぶ。

到達目標

- ・虚弱、健康な高齢者に対する予防的作業療法の重要性について理解できる
- ・環境調整の一つである車椅子シーティングの重要性と手段、車椅子の種類を理解する
- ・事例を通して、高齢期作業療法の評価、組み立て方を理解する

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いた講義、学外及び学内での体験学習、学生同士のワークを実施する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

科目担当者は高齢期のリハビリテーション病院で、様々な疾患の高齢者の作業療法に従事していた経験を生かして、介護予防や車いすのシーティングなどの授業を展開する

課題に対するフィードバックの方法

授業中のグループ発表へフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業オリエンテーション 座位姿勢の重要性と車いすシーティング ① 車いすの種類、車いすシーティングの重要性、不良な座位姿勢が及ぼす身体的負荷やADLへの影響を学ぶ。	高齢者の老化による姿勢変化と、不良座位姿勢による生活への影響について調べておくこと。(90分)	座位の不良姿勢が引き起こす身体面への影響や、リスクについてまとめること。(90分)
担当教員	玉 珍		
第2回	座位姿勢の重要性と車いすにシーティング ② (玉) 実際に車いすを使つての座り比べやシート調整、クッションの違いによる座り心地の違いや座圧の変化を体験する。	高齢者の老化による姿勢変化と、不良座位姿勢による生活への影響について調べておくこと。(90分)	車椅子の種類や車椅子のシーティング方法について復習しておくこと。(90分)
担当教員	玉 珍		
第3回	介護予防の作業療法:要介護者増加の現状と、介護予防を目的とした作業療法介入について学ぶ	介護予防の概要および推進される背景について調べ、予習しておくこと。(90分)	介護予防的な作業療法の重要性と介入について復習すること。(90分)
担当教員	玉 珍		

第4回	介護予防の視点で高齢者の軽スポーツ体験①(パークゴルフ場での学外授業) パークゴルフを行っている高齢者からルールを教わり一緒にプレーする。高齢者とのコミュニケーションを通じて介護予防の視点からパークゴルフの作業特性や活用方法について考察する。	高齢者の介護予防として行われている作業について事前に調べておくこと。(90分)	授業時に示すレポート課題を作成すること(90分)
担当教員	玉 珍		
第5回	介護予防の視点で高齢者の軽スポーツ体験②(パークゴルフ場での学外授業) パークゴルフを行っている高齢者からルールを教わり一緒にプレーする。高齢者とのコミュニケーションを通じて介護予防の視点からパークゴルフの作業特性や活用方法について考察する。	高齢者の介護予防として行われている作業について事前に調べておくこと。(90分)	授業時に示すレポート課題を作成すること(90分)
担当教員	玉 珍		
第6回	高齢者や片麻痺を想定した基本動作の実施、評価を演習する(玉)	2年後期で学んだ加齢による心身機能への影響と3年前期で学んだ基本動作の評価について予習しておく。(90分)	高齢の片麻痺患者の基本動作の特徴を復習すること(90分)
担当教員	玉 珍		

第7回	高齢者や片麻痺を想定したADLの実施、評価を演習する	2年後期で学んだ加齢による心身機能への影響と3年前期で学んだ基本動作の評価について予習しておく。(90分)	高齢の片麻痺患者のADLの特徴を復習すること(90分)
担当教員	玉 珍		
第8回	事例検討: 高齢期作業療法評価・介入の視点を学ぶ(玉)	作業療法の評価や介入のプロセスを予習してくること(90分)	事例の作業療法評価、介入をまとめる(90分)
担当教員	玉 珍		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題・授業参加・出席態度にて評価する
その他	0	
教科書		
高齢期作業療法学(第4版) 松房利憲・新井健五／医学書院		
参考文献		
シーティング技術のすべて 木之瀬 隆・森田 智之／医歯薬出版株式会社		
履修条件・留意事項等		

学外授業は天候により講義日程が変更になる場合あり

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		精神障害作業療法治療学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	大川 浩子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」および「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」と特に関係する科目である。「精神医学Ⅰ・Ⅱ」「作業療法評価学」を基礎とし、「精神障害作業療法治療学演習」「精神障害作業療法治療学特論」及び「評価実習」「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」につながる科目である。							
授業の概要							
作業療法の起源の一つである精神障害に対する作業療法の歴史、及び、発展の背景について学び、諸制度を含めた精神科作業療法実践の枠組みを理解する。また、対象理解の観点から、認知機能障害に対する知識を身につけ、各種評価方法を学び、更には、それらをもとに介入の理論背景を理解する。							
到達目標							

1. 精神科領域の作業療法の流れについて説明できる。
2. 精神科領域の作業療法で使用されている理論・モデル・介入法について述べることができる。
3. 精神科領域の作業療法の歴史的な重要人物と概念を述べることができる。
4. 評価・介入の基盤となる対人関係のスキルを用いることができる。
5. 評価計画の作成や記録のための基礎技術を使うことができる。

授業の方法

教科書及び配布資料を用いた講義とグループワーク形式の演習を実施する

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

精神障害領域における作業療法(精神科デイケア、就労支援施設・機関を含む)における勤務経験を活かして、精神障害領域における作業療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レポート及び課題については、適宜、コメント・フィードバックを行います。確認テストは後日フィードバックします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	精神障害領域の作業療法を実践する上で基盤となる、精神疾患を体験する意味、全人的に人をとらえることの意義、正常と異常のとらえ方について学ぶ。	精神障害と作業療法の「ひとと病い」(P2～23)について目を通す(60分)	配布資料を読み、精神疾患の影響について考え、レポートを作成する(120分)
担当教員			
第2回	精神障害を経験しながら生活すること:精神障害のある方のDVDを視聴し、障害がありながら生活していくことについて理解を深める。	「当事者研究」「アドヒアランス」「コンコーダンス」についてWebや書籍等で調べる(120分)	精神科領域における服薬についてWeb等で調べ、精神疾患を有する人にとっての服薬管理への理解を深める(60分)
担当教員			
第3回	精神医療と精神科作業療法:精神障害者に関する法律の変遷と作業療法(介入法の変遷を含む) 日本の精神科医療の歴史的な背景や流れ(法制度等)を踏まえ、精神科作業療法の展開の歴史を理解する	精神障害と作業療法P28～43、精神機能作業療法学P12～67について目を通す(60分)	法制度及び精神科作業療法の先達と介入方法についてまとめる(120分)
担当教員			

第4回	精神科作業療法の流れ:対象者との出会いから終結までの流れを理解し、基盤である自己の治療的利用と集団療法を学ぶ	精神障害と作業療法P97～178について目を通す(60分)	精神障害に関する記事を集めレポートを作成する(120分)
担当教員			
第5回	作業療法実践の場①:病院とデイケア 精神科作業療法における、実践領域と対象について学ぶ。更に、多くの作業療法士が勤務している、病院・デイケアでの実践について概要を学ぶ	精神科病院についてかかっている書籍を1冊以上読む(90分)	病院及びデイケアにおける作業療法の概要についてまとめる(特に、診療報酬や算定の枠組みを中心に)(90分)
担当教員			
第6回	作業療法実践の場②:訪問と地域で利用できる施設 地域での作業療法実践の形である、訪問での支援(ACTを含む)、福祉施設での実践の概要を学ぶ	生活を支援する精神障害作業療法P206～213、精神機能作業療法学P58～62について目を通す。(90分)	訪問支援、ACT、各就労支援施設、IPSの概要についてまとめる(90分)
担当教員			

第7回	作業療法介入と枠組み①:認知機能障害と認知機能リハビリテーション 認知機能障害及び認知機能障害に対する介入方法の概要を学ぶ	生活を支援する精神障害作業療法P39～41について目を通し、興味のある部分について書籍やWebを利用して学ぶ(90分)	神経認知と社会的認知、NEAR、SCIT、メタ認知トレーニングについてまとめる(90分)
担当教員			
第8回	作業療法介入と枠組み②:認知行動療法、SSTとその周辺 認知行動療法とSSTについて概要を学ぶ	生活を支援する精神障害作業療法P36～39、精神障害と作業療法P348～352について目を通し、認知行動療法やSSTに関する書籍やWebを利用して学ぶ(90分)	認知行動療法及びSSTについて、概要、実施方法をまとめる(90分)
担当教員			
第9回	作業療法介入と枠組み③:リカバリー、エンパワメント、WRAP(元気回復行動プラン) 近年のアプローチで重視されているリカバリー、エンパワメントについて学び、WRAPについて体験する	生活を支援する精神障害作業療法P20～29、51～57、248～253、精神機能作業療法学P35～41について目を通す(90分)	リカバリー、エンパワメント、WRAPの概要について、配布資料を確認してまとめる(90分)
担当教員			

第10回	作業療法介入と枠組み④:就労支援の現状とストレングスモデル・IPS(個別職業紹介とサポート) 就労支援の現状とストレングスモデル及び就労支援で用いられているIPSについて学ぶ(ゲストスピーカー:船本修平氏)	生活を支援する精神障害作業療法P180～184、215～235について目を通すこと(60分)	ストレングスモデルについて、概要とアセスメントについてまとめる。また、IPSの概要についてまとめる(120分)
担当教員			
第11回	当事者の視点①:当事者活動とピアサポート、リカバリーカレッジ 当事者活動、ピアサポートについて学ぶ。更に、共同創造が重要とされるリカバリーカレッジについて学ぶ	生活を支援する精神障害作業療法P248～253、第2回講義資料について目を通す(60分)	当事者活動、ピアサポート、リカバリーカレッジの概要をまとめ、レポートを作成する(120分)
担当教員			
第12回	当事者の視点②:当事者研究と自分の当事者性、インテンショナル・ピアサポート 当事者研究、インテンショナル・ピアサポートについて学ぶ。また、自分の当事者性について振り返る	生活を支援する精神障害作業療法P248～253、第2回講義資料について目を通す(60分)	当事者研究、インテンショナル・ピアサポートの概要をまとめ、レポートを作成する(120分)
担当教員			

第13回	精神障害領域の評価①:情報収集、観察、面接、検査 精神科作業療法の評価の基本となる情報収集、観察、面接、検査について学ぶ	精神障害と作業療法P128～176、精神機能作業療法学P79～104について目を通す(90分)	精神科領域の情報収集、観察、面接、検査について、臨床実習でも活用できるようにまとめる(90分)
担当教員			
第14回	精神障害領域の評価②:統合と解釈、介入の計画 精神科作業療法における統合と解釈・介入計画の立案について、事例を通して学ぶ	事前に提示された課題を取り組み、完成させる(90分)	事例における統合と解釈、介入計画の概要と留意点についてまとめる(90分)
担当教員			
第15回	精神障害領域の評価③:観察・面接・記録の実習(プロセスレコードを含む)と確認テスト 観察、面接、プロセスレコードについて、学生間で実際に体験し、臨床実習で活用できるようにする。また、確認テストを行う。	作業療法評価学演習で学んだ、観察、面接、プロセスレコードについて、確認する(60分)	臨床実習で実際に実施できるように、観察、面接、記録、プロセスレコードについてまとめる。また、確認テストの結果を踏まえ、知識の補完を行う。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題(40%)、確認テスト(50%)、授業態度(授業内での課題・実習を含む)(10%)
その他	0	
教科書		
精神機能作業療法学第3版/新宮尚人編/医学書院、精神障害と作業療法新版/山根寛/三輪書店、生活を支援する精神障害作業療法第2版/香山明美・他/医歯薬出版		
参考文献		

必要に応じて講義で紹介します

履修条件・留意事項等

他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。ゲストスピーカーの日程は別途連絡しますので気をつけてください。
新型コロナウイルスの蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		精神障害作業療法治療学演習				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大川 浩子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」および「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」と特に関係する科目である。また、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」 「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」 「臨床場面や研究において、状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」とも関係する科目である。「精神医学Ⅰ・Ⅱ」「作業療法評価学」「精神障害作業療法治療学」を基礎とし、「精神障害作業療法特論」「評価実習」「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」につながる科目である。							
授業の概要							
精神障害作業療法治療学の講義を踏まえ、精神科作業療法の主な対象である脳の気質性障害、統合失調症、躁鬱病、適応障害などの疾患を取り上げ、各疾患に対する作業療法アプローチについて演習形式で学ぶ。							
到達目標							

1. 精神科作業療法における代表的な疾患への介入と留意点を説明できる。
2. 治療共同体及び生活療法について説明できる。
3. SSTの説明と実施ができる。
4. グループワーク形式の実習を通じて対人関係スキルを用いることができる。

授業の方法

教科書、配布資料による講義の後、グループワーク形式の演習を実施する。また、各疾患に関する介入と留意点に関する確認テストを実施する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

精神障害領域における作業療法(精神科デイケア、就労支援施設・機関を含む)における勤務経験を活かして、精神障害領域における作業療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

レポートは適宜コメント及びフィードバックをします。確認テストは提出後、解説をします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	日本における精神障害領域の作業療法の歴史の変遷と介入方法 治療共同体及び生活療法等の治療の枠組みに関する歴史と概念を学ぶ。また、これらの歴史を踏まえて作業療法士が担う役割を考える	精神障害と作業療法P36～55を読む(30分)	治療共同体及び生活療法についてまとめる(15分)
担当教員			
第2回	精神症状を経験した方の地域生活 生活精神症状を経験した当事者の経験談から、精神症状を経験して生活していくことへの理解を深める。(ゲストスピーカー:北海道ピアサポート協会2名)	精神障害当事者及び家族が書いた本を1冊以上読む(15分)	講義を踏まえ、指定された形式でレポートを作成する(30分)
担当教員			
第3回	統合失調症の作業療法①:回復過程にあわせた作業療法(急性期と亜急性期) 統合失調症の回復過程を確認し、亜急性期における作業療法について学ぶ。	精神医学で学んだ統合失調症の症状、特徴について確認する。生活を支援する精神障害作業療法P36～53を読む(30分)	亜急性期の作業療法の役割と介入(プログラム)についてまとめる(15分)
担当教員			

第4回	統合失調症の作業療法②:回復過程にあわせた作業療法(回復期と維持期) 統合失調症の回復期と維持期の作業療法について学ぶ。	精神機能作業療法学P94～114、生活を支援する精神障害作業療法P134～138を読む(30分)	回復期と維持期の作業療法の役割と介入(プログラム)についてまとめる(15分)
担当教員			
第5回	統合失調症の作業療法③:統合失調症の認知機能障害について(ゲストスピーカー:森元隆文氏) 統合失調の認知機能障害について学び、介入に関する基礎知識を身に着ける。	生活を支援する精神障害作業療法P36～50を読む(30分)	統合失調症における認知機能障害についてまとめる(15分)
担当教員			
第6回	統合失調症の作業療法④:統合失調症の機能障害に対する介入(認知リハを中心に)(ゲストスピーカー:森元隆文氏) 統合失調の認知機能障害に対する介入方法について学び、実施の際の基礎知識を身に着ける。	精神機能作業療法学P186～202を読む(30分)	統合失調症の認知機能障害に対する介入についてまとめる(15分)
担当教員			

第7回	感情障害の作業療法 感情障害(うつ病、躁うつ病等)に対する作業療法について学ぶ。介入方法の一つであるマインドフルネスについて体験し、理解を深める。	精神障害と作業療法P278～285、生活を支援する精神障害作業療法P260～269、精神機能作業療法学P115～130、249～264を読む(30分)	感情障害に対する作業療法の役割と介入(プログラム)、マインドフルネスについてまとめる(15分)
担当教員			
第8回	人格障害と神経症圏の作業療法 人格障害及び神経症に対する作業療法について学ぶ。特に、関りにおける留意点及び森田療法について確認する。	精神障害と作業療法P286～290、300～304、精神障害作業療法P276～280、290～294、精神機能作業療法学P131～141、154～168を読む(30分)	人格障害及び神経症圏の作業療法と留意点、森田療法についてまとめる(15分)
担当教員			
第9回	アディクションに対する作業療法 摂食障害、アルコール依存症等のアディクションに対する作業療法について学ぶ。特に、回復を促す自助グループ及び動機付け面接(MI)について理解を深める。	精神障害と作業療法P290～300、生活を支援する精神障害作業療法P295～305、精神機能作業療法学P70～83、P142～153を読む(30分)	アルコール依存症、摂食障害に対する作業療法、及び、自助グループ及びMIについてまとめる(15分)
担当教員			

第10回	認知症の作業療法①:認知症の特徴と治療法 精神障害領域での認知症に対する介入の基礎となる、認知症の疾患特徴と治療法について学ぶ。	精神医学で学んだ認知症の症状、特徴について確認する。(30分)	認知症の症状と特徴、治療法についてまとめる(15分)
担当教員			
第11回	認知症の作業療法②:認知症のリハビリテーションと家族支援 認知症に対する精神科リハビリテーション(作業療法を含めた)と家族支援について学ぶ。	精神障害と作業療法P315～319、359～363生活を支援する精神障害作業療法P270～275、精神機能作業療法学P70～83を読む(30分)	認知症に対する精神科リハビリテーションと家族支援についてまとめる(15分)
担当教員			
第12回	発達障害の作業療法 発達障害(特に青年期から成人期の発達障害)に対する精神科領域の作業療法について学ぶ。	精神障害と作業療法P304～315、生活を支援する精神障害作業療法P281～289、精神機能作業療法学P169～181を読む(30分)	発達障害に対する精神科作業療法についてまとめる(15分)
担当教員			

第13回	治療計画(プログラム)の立案 精神障害領域の疾患に合わせた治療計画の立案について学ぶ。また、集団におけるプログラム立案の例としてレクリエーションをテーマに理解を深める。	精神障害作業療法治療学で学んだ精神科作業療法の流れと評価について確認する(15分)	レクリエーションの計画をレポートにまとめる(30分)
担当教員			
第14回	SST(ソーシャルスキルトレーニング)① SSTの理論背景と構造について学ぶ。	精神障害と作業療法P348～352を読む(30分)	SSTの理論背景、構造についてまとめる(15分)
担当教員			
第15回	SST(ソーシャルスキルトレーニング)②と確認テスト 小グループに分かれ実際にSSTを体験する。その後、確認テストを行う。	精神障害と作業療法P348～352を読む(15分)	講義を踏まえSSTを実施できるようにまとめる。また、確認テストの結果を踏まえ、不足している知識を補完する。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題(40%)、確認テスト(50%)、授業態度(授業内での課題・実習を含む)(10%)
その他	0	
教科書		
精神機能作業療法学第3版/新宮尚人編/医学書院、精神障害と作業療法新版/山根寛/三輪書店、生活を支援する精神障害作業療法第2版/香山明美・他/医歯薬出版		
参考文献		

必要に応じて講義で紹介します

履修条件・留意事項等

他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。ゲストスピーカーの日程は別途連絡します。
感染症の蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		精神障害作業療法治療学特論				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	大川 浩子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と関係する科目である。「精神医学Ⅰ・Ⅱ」「作業療法評価学」「精神障害作業療法治療学」「精神障害作業療法治療学演習」を基礎とし、「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」につながる科目である。							
授業の概要							
精神障害領域の作業療法の変化(対象、介入方法等)について学ぶ。特に、近年求められている地域における精神障害領域の作業療法実践について、知識を身につける。							
到達目標							

1. 近年増加している発達障害等の基本知識を確認し、評価から介入について計画できる。
2. 作業療法士が行っている地域移行及び就労支援(IPS、リワーク)について説明できる。
3. 運動や栄養が与えるメンタルヘルスへの影響が説明ができる。
4. 臨床実習及び国家試験に向けた学習方法が理解できる。

授業の方法

教科書及び配布資料を用いた講義とグループワーク形式の演習を実施する

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

確認テストは提出後、解説をします。レポートについては適宜、コメントをします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	注目されている疾患①:発達障害領域の疾患①～てんかんと知的障害に対する作業療法について 精神科領域における、てんかん、知的障害に対する作業療法を学ぶ	精神医学Ⅰ・Ⅱで学んだ疾患について確認する(60分)	「てんかん」「知的障害」の評価・介入についてまとめること(120分)
担当教員			
第2回	注目されている疾患②:発達障害領域の疾患②～自閉症スペクトラム、ADHD(注意欠陥・多動性障害)に対する作業療法 精神障害作業療法治療学演習を踏まえ、精神科領域での発達障害に対する作業療法を学ぶ	精神障害と作業療法P304～315、生活を支援する精神障害作業療法P281～289、精神機能作業療法学P169～181を読む(60分)	「自閉症スペクトラム」「ADHD」の評価・介入方法についてまとめること(120分)
担当教員			
第3回	精神障害領域における作業療法トピックス1:退院促進地域移行と作業療法 退院促進の手法とケア会議について学ぶ。更には、日本作業療法協会が目指す、精神障害も含めた地域包括ケアについても理解を深める。	精神障害当事者の手記を1冊以上読むこと。(90分)	精神科病院退院後に利用できる社会資源についてまとめる。更に、地域生活で利用可能な資源についても確認する。(90分)
担当教員			

第4回	精神障害領域における作業療法トピックス2:就労支援と作業療法 うつ病の復職支援(リワーク)、精神障害者の就労支援(IPS、諸制度)について学ぶ。近年の制度の変化も確認し、知識の最新化を図る。	就労支援に関する取り組みについてWebなどを利用し、最新の情報を確認する。(60分)	就労支援で用いられる手法やモデルについてまとめる。また、各種制度についても確認し、まとめる。(120分)
担当教員			
第5回	MTDLPと精神科作業療法 精神科領域の作業療法におけるMTDLPの活用について学ぶ。	作業療法評価学で学んだICFについて確認する。また、MTDLPについて配布資料で確認する(60分)	講義を参考に課題レポートを作成する(120分)
担当教員			
第6回	食生活とメンタルヘルス 食生活が腸内環境や生活リズムを介して脳機能や精神状態に及ぼす影響について学ぶ。	偏食や食欲不振症(拒食・過食)などがもたらす心身への影響についてまとめること。(60分)	講義を参考に課題レポートを作成する(120分)
担当教員			

第7回	運動とメンタルヘルス 適切な強度の運動やスポーツ活動への参加によるメンタルヘルス改善効果について学ぶ。	運動強度の違いによる感情や気分への影響についてまとめておくこと。(60分)	講義を参考に課題レポートを作成する(120分)
担当教員			
第8回	精神障害における作業療法のまとめ 確認テストによる精神障害領域の疾患ごとの作業療法(特徴と介入が中心)の確認を行う。	精神障害作業療法治療学(演習、特論を含む)で学んだ疾患ごとの特徴と介入方法について確認する。(60分)	レポート「評価計画と介入」を作成する(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題(40%)、確認テスト(50%), 授業態度(講義内課題・小テストを含む)(10%)
その他	0	
教科書		
精神機能作業療法学第3版/新宮尚人編/医学書院、精神障害と作業療法新版/山根寛/三輪書店、生活を支援する精神障害作業療法第2版/香山明美・他/医歯薬出版		
参考文献		
必要に応じて講義で紹介します		
履修条件・留意事項等		

他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。
感染症の蔓延等によりグループワーク等を別の方法に振り替える場合は、別途、詳細を説明します。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		生活行為向上作業療法学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」「高度に専門化かつ多様化された胃腸技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」「作業療法理論に基づき、生活行為の向上について、対象者の自律性と個別性を尊重できる。(関心・意欲・態度)」と関連する科目である。

授業の概要

私たちの生活は、日常生活における身の周りの動作が滞りなくできるだけでなく、人にとって「意味のある、したい作業」を日々の生活の中で続け、その行為から満足感や充実感を得ることで、健康で充実した生活を送ることができている。しかし、加齢や病気による心身機能の低下により、これまでできていた生活行為が困難になる等、生活をする上で様々な作業の作り直しが求められる。本講義では、生活意欲を高めるものとなる「意味のある、したい生活行為」を再び行えるようにする生活行為向上のための支援のあり方、評価ツールの使用方法、支援の提案の仕方を学習する。

到達目標

- ①生活行為向上マネジメント開発の背景と概要について理解する。
 ②生活行為向上マネジメントツールについて理解し、実践できるようになる。

授業の方法

配布プリントによる講義形式の知識伝達と事例演習を各回組み合わせて実施する。

ICT活用

googleclassroomを用いた講義資料の開示と、講義時間以外の双方向性の質疑応答を行う。

実務経験のある教員の教育内容

臨床経験の長い作業療法士により、学生に資料を提示し、解説をしたりすることで、学生が事例を多角的総合的視点で捉え直すことができるように導く。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題(事例報告)について個別に内容確認とよりよい事例となるよう前例を用いた解説を行う。また、googleclassroomを用いた双方向での質疑も行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	生活行為向上マネジメントの背景と概要 オリエンテーション 生活行為向上マネジメント開発の背景と概要について説明する。	基礎作業学の学習内容を復習しておく。(90分)	配布した資料に目を通し、学習した内容について整理する(90分)
担当教員			
第2回	生活行為向上マネジメントの面接技法 生活行為目標を引き出す面接技法について学習する。	前回の学習内容を復習しておく。(90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	生活行為向上マネジメントにおけるアセスメント 生活行為アセスメントシートの作成を講義と演習を通して学ぶ。	前回の学習内容を復習しておく。(90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	生活行為向上マネジメントの目標設定 合意目標の設定方法について学ぶ。	前回の学習内容を復習しておく。 (90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	生活行為向上マネジメントの工程分析 生活行為工程分析について具体的方法を学ぶ。	前回の学習内容を復習しておく。 (90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	生活行為向上マネジメントのプログラム立案 工程分析を踏まえた、多職種を交えた包括的なプログラムの立案方法について事例演習を通して学ぶ。	前回の学習内容を復習しておく。 (90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	生活行為向上マネジメントの立案プログラムの発表 作成したプログラムを他者に分かりやすく説明し、多様な視点があることを学習する。	前回の学習内容を復習しておく。 (90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。 (90分)
担当教員			
第8回	生活行為向上マネジメントの有用性と活用例 生活行為向上マネジメントの有用性と活用例について学習する。	前回の学習内容を復習しておく。 (90分)	講義内容を復習し、資料を整理する。 (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加度(50%) 演習中のグループワークの参加態度 レポート(50%) 講義内に提示する事例報告の作成状況
その他	0	
教科書		
資料配布します		
参考文献		
日本作業療法士協会編・著/事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第2版/医歯薬出版		
履修条件・留意事項等		

8回の講義中に3回以上欠席があると単位の認定は不可
講義開始より10分以上遅れた際は遅刻として扱う。30分以上の遅れは欠席扱いとする。
講義終了時刻よりも10分以上早く退席する場合を早退とし、30分以上前に退席する場合は欠席とする。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 作業療法治療学					
科目名		日常生活適応学演習				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	玉 珍、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
作業療法学科のディプロマポリシー「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につける」「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適できる能力を身につけている」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」ことを達成するための科目であり、「評価実習」「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」に繋がる科目である。							
授業の概要							
日常生活活動（ADL）の概念・各動作の分析・評価ポイントについて実技を交えて学習する。作業療法の対象とする主な疾患のADLについて、障害特性に応じた評価・介入について理解する。身体面だけでなく、環境因子とADLの関連について学び、福祉用具等の活用について知識・技術を学ぶ。代表的なADL評価スケールによる評価を学ぶ。							
到達目標							

- ・日常生活行為の概念・意義・範囲について理解できる。
- ・基本動作および日常生活活動の分析・評価ポイントを理解し評価できる。
- ・福祉用具・自助具の知識や活用方法について理解できる。
- ・評価スケールによる評価について理解し実践できる。
- ・日常生活活動の観察と記録を適切に実施することができる

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いた講義・動画等で学習した後、実技の実演指導、学生同士での演習を実施する。

ICT活用

- ・Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。
- ・授業のパワーポイントに説明音声吹き込んだ動画をGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする

実務経験のある教員の教育内容

科目担当の玉珍、金谷匡紘は、リハビリテーション病院において、作業療法士としての勤務経験があり、患者様の日常生活への作業療法評価、介入について幅広く知識を有している。これらの経験を活かして学生の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

B-OSCE後にフィードバックを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業オリエンテーション 日常生活活動とは生活行為の分類、構成要素について学ぶ。	教科書P10～の図1から図9を予習する(20分)	生活行為の構成要素・範囲・ADLの概念 について復習する(60分)
担当教員	玉 珍		
第2回	基本動作の分析・評価: 寝返り、起き上がり、座位動作の構成要素・観察評価の観点を学ぶ。 片麻痺を想定し、全介助～一部介助・誘導の仕方を学習する。	寝返り～起き上がりの手順について教科書P66～69を確認しておくこと(20分)	寝返り～起き上がりの動作手順・評価ポイント・介助や誘導方法について復習する(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第3回	基本動作の分析・評価: 立ち上がり、立位、歩行動作の動作の構成要素・観察評価の観点を学ぶ。片麻痺を想定し、全介助～一部介助・誘導の仕方を学習する。	立ち上がり・立位・歩行動作の構成要素について教科書P71～P73を確認しておくこと。(20分)	立ち上がり・立位・歩行動作の手順・評価ポイント・誘導や介助方法について復習する(60分)
担当教員	金谷 匡紘		

第4回	日常生活活動:食事の分析・評価・福祉用具の選択・使用方法:食事動作 食事動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解する。	食事動作について教科書P83～を確認しておくこと(20分)	食事動作手順・評価ポイント・自具について復習する(60分)
担当教員	玉 珍		
第5回	日常生活活動の分析・評価・福祉用具の選択・使用方法:整容動作 整容動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解する。	整容動作について教科書P83～を確認しておくこと(20分)	整容動作手順・評価ポイント・自具について復習する(60分)
担当教員	玉 珍		
第6回	日常生活活動の分析・評価・福祉用具の選択・使用方法:更衣動作 更衣動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解する	更衣動作(上衣)について教科書P121～を確認しておくこと(20分)	片麻痺者の更衣動作手順・評価ポイントを復習する(60分)
担当教員	玉 珍		

第7回	日常生活活動の分析・評価、福祉用具の選択・使用方法: 更衣動作 更衣動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解する	更衣動作(下衣)について教科書P121～を確認しておくこと(20分)	片麻痺者の更衣動作手順・評価ポイントを復習する(60分)
担当教員	玉 珍		
第8回	日常生活活動の分析・評価、福祉用具の選択・使用方法: 入浴 (玉) 入浴動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類や使い方について理解する。	入浴動作について教科書P158～を確認しておくこと(20分)	片麻痺者の入浴動作手順・評価ポイント・リスク管理について復習をする(60分)
担当教員	玉 珍		
第9回	日常生活活動の分析・評価、福祉用具の選択・使用方法: トイレ動作 一連のトイレ動作時の評価ポイントの確認と、機能障害により起こる動作への影響を学ぶ。福祉用具の種類 や使い方について理解する	トイレ動作の構成要素について教科書 P139～を確認しておくこと(20分)	トイレ動作手順・評価ポイントを復習する(60分)
担当教員	玉 珍		

第10回	Bathel Index Functional Independence Measure(FIM)の診 かた・採点を学ぶ	BI、FIMについて予習をする(20 分)	BI・FIMを用いた評価方法を事 例を通して復習する(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第11回	Bathel Index Functional Independence Measure(FIM)の診 かた・採点を学ぶ	BI、FIMについて予習をする(20 分)	BI・FIMを用いた評価方法を事 例を通して復習する(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第12回	車椅子に乗車しての片麻痺者のトイレ動作を体験し、評価 ポイントを確認する	片麻痺のトイレ動作確認してお く(20分)	授業内で体験したトイレ動作に ついて、課題レポートをまとめる こと(60分)
担当教員	玉 珍		

第13回	車椅子に乗車しての片麻痺者のトイレ動作を体験し、評価ポイントを確認する	教科書P121～片麻痺のトイレ動作の 復習しておく(20分)	授業内で体験したトイレ動作について、課題レポートをまとめること (60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第14回	基本動作の分析・評価: ベッド～車椅子間の移乗動作の構成要素・観察評価の観点を学ぶ。片麻痺を想定し、全介助～一部介助・誘導の仕方を学習する	移乗動作について教科書P70～78を確認しておく	片麻痺者の移乗動作の手順、評価ポイントを復習する(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
第15回	基本動作の分析・評価: 歩行・移動動作の構成要素・観察評価の観点を学ぶ。片麻痺を想定し、全介助～一部介助・誘導の仕方を学習する	移乗動作について教科書P70～78を確認しておく	片麻痺者の歩行・車椅子移動動作の手順、評価ポイントを復習する(60分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	B-OSCEによる実技試験成績で判定する
その他	0	
教科書		
標準作業療法学 日常生活活動・社会生活行為学 / 濱口豊太 / 医学書院		
参考文献		

履修条件・留意事項等

授業はケーシーもしくはジャージ等動きやすい服装で参加すること

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 地域作業療法学					
科目名		地域作業療法学Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	玉 珍、大川 浩子、金谷 匡紘、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「疾病や障害の理解とその作業療法」と特に関係がある科目である。また、地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である(知識・技能)。リハビリテーション概論、作業療法概論の内容を踏まえ、地域作業療法学Ⅱ、地域作業療法学実習、作業療法管理運営・法規の基礎となる。							

1. 「地域」という言葉がどのように使われているかを述べることができる。
2. 地域リハビリテーションの流れについて説明できる。
3. 地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携についてあげることができる。
4. 地域作業療法の枠組みや地域づくりについて説明ができる。
5. 地域作業療法における支援プログラムとマネジメントについて述べることができる。
6. 地域で活動する作業療法士の視点を説明できる。

授業の方法

教科書・配布資料とパワーポイント等を用いて講義形式で知識を教授する。
各講義に関連するテーマついて、グループディスカッションやグループワークの時間を随時、設ける。
講義のまとめとして、確認テストを実施する。

ICT活用

特になし

実務経験のある教員の教育内容

全ての教員は、地域で暮らす人々への作業療法介入の実務経験があり、それらの活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題に関しては授業時間にコメントします。レポートは返却時にコメントします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	地域作業療法とは 本科目の全体的な構成と「地域」のとらえ方、地域リハビリテーションの流れについて学ぶ。	教科書p15～35を読む。(30分)	「地域」「地域リハビリテーションの流れ」についてまとめる。(15分)
担当教員	玉 珍		
第2回	ダイバーショナルセラピー 基礎編(ゲスト講師:芹澤隆子氏) ダイバーショナルセラピー概論と実践①	ダイバーショナルセラピーについて調べておくこと(15分)	講義の内容をまとめ、復習すること(30分)
担当教員	玉 珍		
第3回	ダイバーショナルセラピー 基礎編(ゲスト講師:芹澤隆子氏) ダイバーショナルセラピー概論と実践②	ダイバーショナルセラピー協会HPを調べて事前学習をしておくこと(15分)	講義内容のまとめ、感想を書いて提出すること(30分)
担当教員	玉 珍		

第4回	地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携①:制度・施策(ゲスト講師:小岩伸之氏) 地域作業療法と関連する制度・施策とのつながりを知る。 社会保障制度の枠組み及び施策の変遷を知り、介護保険、障害者総合支援法などについて理解を深める。	教科書p39～65を読む。(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第5回	地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携②:制度・施策(ゲスト講師:小岩伸之氏) 地域作業療法と関連する制度・施策とのつながりを知る。 社会保障制度の枠組み及び施策の変遷を知り、介護保険、障害者総合支援法などについて理解を深める。	教科書p3～65を読む。(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第6回	地域作業療法を支える制度・社会生活支援・連携③:地域における多職種連携(ゲスト講師:小岩伸之氏) 地域における多職種連携とソーシャルサポートについて、具体例を交えて学ぶ。	教科書p66～90を読む。(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員	金谷 匡紘		

第7回	地域作業療法の枠組み: 支援プログラムとマネジメント(ゲスト講師: 小岩伸之氏) 地域作業療法における個別支援プログラム、集団支援プログラムや地域づくりに関してアセスメントも含めた一連の流れについて学ぶ。	教科書p123～154を読む。(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第8回	地域作業療法実践の場: 就労支援 障害者総合支援法における就労支援サービスに加え、その他の就労支援に関する制度や作業療法士の役割について理解を深める。	教科書p264～269を読む。(30分)	講義で学んだ就労支援サービスについてまとめる。(15分)
担当教員	大川 浩子		
第9回	地域作業療法実践の場: 精神機能領域 精神機能領域における地域作業療法について学ぶ。特に、退院促進事業や司法精神領域、地域資源への関与について理解を深める。	教科書p182～188、255～263を読む。(30分)	地域の資源について興味を持ったものについてWebで調べる。(15分)
担当教員	大川 浩子		

第10回	地域作業療法実践の場:身体機能領域(ゲスト講師:小岩伸之) 身体機能領域の病院における地域作業療法について学ぶ。具体例に加え、住環境の評価についても理解を深める。	教科書95～114、176～181を読む(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第11回	地域作業療法実践の場:地域包括ケアシステム①(ゲスト講師:小岩伸之) 地域包括ケアシステムの概要について学ぶ。地域包括ケアシステムの実現を目指し枠組みが変更された、地域支援事業について背景や事業について理解を深める。	参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き第2版」のIVを読む。(30分)	講義で学んだことをまとめ、復習をすること。(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第12回	地域作業療法実践の場:発達支援 地域における発達支援に関して作業療法士の役割や地域への関わり方について学ぶ。	教科書p239～246を読む。(30分)	クラスルームで指定された課題を作成する。(15分)
担当教員	大坂 隆介		

第13回	地域作業療法実践の場:地域包括ケアシステム②(ゲスト講師:小岩伸之) 地域包括ケアシステムにおける作業療法士の視点や役割について学ぶ。特に作業療法士の役割が期待されているや各事業におけるポイントについて説明する。	参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き第2版」のⅢ・Ⅳ・Ⅴを読む。(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第14回	地域作業療法実践の場:地域包括ケアシステム③(ゲスト講師:小岩伸之) 北海道の地域包括ケアシステムにおける作業療法士の実践について学ぶ。地域ごとの実践の違いについて理解を深める。	参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き第2版」Ⅳを読む。(30分)	講義内容をまとめ、復習をすること(15分)
担当教員	金谷 匡紘		
第15回	地域作業療法実践の場:特別支援教育 特別支援教育も含めた教育領域における作業療法士の役割について学ぶ。	教科書p247～254を読む。(30分)	クラスルームで指定された課題を作成する。(15分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題の取り組み20%、レポート課題50%、確認テスト30%
その他	0	
教科書		
地域作業療法学 第4版/大熊 明・根本 悟子/医学書院		
参考文献		

作業療法を観る/菊池恵美子・齋藤佑樹/シービーアール 作業療法マニュアル63作業療法士ができる地域支援事業への関わり方/宮永敬市・他/日本作業療法士協会 地域包括ケアシステム参画の手引き～作業療法士に求められる生活行為向上の視点を用いて～第2版/日本作業療法士協会地域包括ケアシステム推進委員会(Web)

履修条件・留意事項等

他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。ゲスト講師の日程は別途連絡しますので気をつけてください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 地域作業療法学					
科目名		地域作業療法学実習				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	玉 珍、大川 浩子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「疾病や障害の理解とその作業療法」と特に関係がある科目である。医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけてる。 地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。地域作業療法学Ⅰを基礎とし、地域作業療法学Ⅱ、地域包括ケアシステム論へと応用的な学習に発展する。							
授業の概要							
地域リハビリテーションに関わる施設を見学し、さまざまな地域生活支援サービスの実際について学ぶ。利用者と接することによって、生活障害について現実的に理解し、ニーズを把握する。さらに、そこで働くスタッフをモデルとして、支援者となるために必要な態度や姿勢を学ぶ。障がいの有無や年齢に関わらず全ての人々が地域で共に生活する場面を体験できる施設では、インクルーシブな地域社会の実現に向けて必要な考え方や方法を学ぶ。							
到達目標							

1. 見学施設の役割と機能を理解する。
2. 地域生活支援に関わるサービス内容とその利用の流れについて实际的に理解する。
3. 障がい児・者や高齢者が地域で暮らすとは実際にはどのようなことか？ 具体的なイメージをつかむ。
4. 配置施設の状況に合わせて利用者のレクリエーション支援やQOLの向上に役立つ評価または実践を試みることができる。

授業の方法

学生が数名単位で、様々な学外の福祉施設、事業所に出向き、1週間の見学および模倣を中心とした実習を行う。実習前後にはグループワークを実施し、コミュニケーションスキルを含めた準備性の向上をはかり、施設概要と各々の体験を全体でシェアする。

ICT活用

特になし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

事後セミナーにおいて、教員からのコメントの時間を設け口頭でフィードバックを行う。個別指導が必要な学生の場合は、担当を決めて面談し自己省察が深まるように関わる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	実習前オリエンテーション・事前指導 自己紹介用紙の作成、地域における学生の振る舞いについて指導する。	実習指導要領を確認すること	事前指導で指導された自己の課題について、振り返り、対応を考えること
担当教員	大川 浩子、玉 珍		
第2回	実習施設にて、指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、体験を行う。	実習中の疑問点は教科書等で調べ、また積極的に指導者に確認すること。	実習で学んだ事、得た知識等をデイリーに記録すること。次の日に確認できるように疑問点などを整理すること。
担当教員	大川 浩子、玉 珍		
第3回	事後セミナーで体験をまとめ報告する。グループワークを通じ、実習で得た経験を共有する。今後の学外実習にむけた学習課題の確認を行う。	グループでの発表準備を行う。	事後指導を通じて得られた、自分の今後の課題についてまとめる。
担当教員	大川 浩子、玉 珍		

第4回	なし		
担当教員			
第5回	なし		
担当教員			
第6回	なし		
担当教員			

第7回	なし		
担当教員			
第8回	なし		
担当教員			
第9回	なし		
担当教員			

第10回	なし		
担当教員			
第11回	なし		
担当教員			
第12回	なし		
担当教員			

第13回	なし		
担当教員			
第14回	なし		
担当教員			
第15回	なし		
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	学外実習の学習態度および事前事後指導における態度と提出物、実習報告書を総合して判断する。
その他	0	
教科書		
北海道文教大学 臨床実習指導要領 地域作業療法学第3版/大熊 明・加藤 朋子編/医学書院		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

一週間の学外実習と、実習前週の事前指導、実習終了翌週の事後指導を合わせ45時間で1単位となる科目のため、事前事後指導への参加は必須である。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 地域作業療法学					
科目名		地域作業療法学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 和彦						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーの「地域医療を支える他職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる」に特に関係する科目である。リハビリテーション概論、作業療法概論の内容を踏まえ、地域作業療法学演習、地域作業療法学実習のまとめとなり、作業療法管理運営・法規の基礎となる。

授業の概要

地域リハビリテーションの概念について理解を深め、生活障害に対するアプローチの具体的方法を学ぶ。また、介護予防や障がい福祉などの制度の枠組みとその問題点を理解し、地域づくりにおけるリハビリテーションの視点の重要性について考察する。

到達目標

1. 地域のとらえ方について説明ができる。
2. 地域作業療法を支える制度・施策について説明ができる。
3. 地域作業療法の枠組みや地域づくりについて説明ができる。
4. 地域作業療法における地域の活動について説明ができる。
5. 地域で活動する作業療法士の視点を説明ができる。

授業の方法

教科書・配布資料とパワーポイント等を用いて講義形式で知識を教授する。
各講義に関連するテーマついて、グループディスカッションやグループワークの時間を随時、設ける。
講義のまとめとして、確認テストを実施する。

ICT活用

特になし。

実務経験のある教員の教育内容

市町村衛生行政において作業療法士として勤務した経験を活かして、保健福祉に関する地域作業療法についての授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題に関しては授業時間にコメントします。レポートは返却時にコメントします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・オリエンテーション・地域作業療法とは ・地域包括ケアシステムについて 本科目の全体的な構成と「地域」のとらえ方、地域作業療法の対象・目的・内容等について学ぶ。 介護保険制度の概要を学ぶ。地域包括ケアシステムの背景を理解して、地域包括ケアシステムの概要を学ぶ。	教科書p2～19、p114～142を読む。(45分) 参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」(Web)のIを読む。(45分)	確認テストを行ない、講義で学んだことをまとめる。(90分)
担当教員			
第2回	・介護予防について 総合事業、介護予防事業の基本的な枠組みを学ぶ。 運動器・口腔機能・認知症・うつ閉じこもり等の介護予防事業について学ぶ。	教科書p26～33、p158～182を読む。(45分) 参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」(Web)のIVを読む。(45分)	健康づくりの活動(体操)について調べ、発表に関する準備を行う。(90分)
担当教員			
第3回	・介護予防評価について ・健康づくりの活動について 介護予防事業に使用する評価を学ぶ。 健康づくりのための体操について、自身で調べ発表する。	教科書p144～155、p184～201を読む。(45分) 参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」(Web)のVを読む。(45分)	講義で学んだことをまとめる。(90分)
担当教員			

第4回	・住民主体の介護予防について ・住民主体で行う適切な運動を学ぶ。 ・地域づくりによる介護予防を学び、地域での実際の取り組みを学ぶ。	教科書p87～111を読む。(45分) 参考文献「地域包括ケアシステム参画の手引き」(Web)のⅢを読む。(45分)	確認テストを行ない、講義で学んだことをまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	・障害福祉サービスについて ・農福連携について 障害者総合支援法による障害福祉サービスの概要を学ぶ。 農福連携の取り組みを学ぶ。	参考文献 恵庭市農福連携成功事例集(Web)を読む。(90分)	確認テストを行ない、講義で学んだことをまとめる。(90分)
担当教員			
第6回	・虐待防止について ・差別解消について ・地域健康教育について 障害者虐待防止法による虐待の防止について学ぶ。 障害者差別解消法による差別解消について学ぶ。 地域健康教育について学ぶ。	参考文献 市町村・都道府県における障害者虐待の防止と対応の手引き(Web)を読む。(90分)	地域健康教育について調べ、発表に関する準備を行う。(90分)
担当教員			

第7回	・認知症施策について 新オレンジプランに基づく認知症施策の内容を学び、具体的な事例を学ぶ。	参考文献 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)(Web)を読む。(90分)	グループ発表に関する準備を行う。(90分)
担当教員			
第8回	・地域健康教育について グループで地域健康教育を実施して、討議する。	各グループの健康教育資料を読む。(90分)	グループ発表で学んだことをレポートにまとめる(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題の取り組み20%、レポート課題40%、確認テスト40%
その他	0	
教科書		
地域包括ケアにおけるPT・OTの役割 個別地域ケア会議・介護予防事業から学ぶ/田中 康之・清水 順市編/文光堂		
参考文献		
・作業療法学全書改訂第3版第13巻地域作業療法学/太田睦美/協同医書出版社 ・地域包括ケアシステム参画の手引き～作業療法士に求められる生活行為向上の視点を用いて～/日本作業療法士協会地域包括ケアシステム推進委員会(Web) ・恵庭市農福連携成功事例集/恵庭市農福連携による障がい者等就労促進ネットワーク・恵庭市(Web) ・市町村・都道府県における障害者虐待の防止と対応の手引き/厚生労働省(Web) ・認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)/厚生労働省(Web)		
履修条件・留意事項等		

他の学生に迷惑をかける授業態度(私語、携帯電話等)は厳禁。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 地域作業療法学					
科目名		産業作業療法学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	白戸 力弥						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」 「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。公衆衛生学、地域作業療法学Ⅰ、地域作業療法学実習での学習や体験の総まとめとなり、さらに産業労働者の健康生活支援に焦点を当てる。							
授業の概要							
産業労働者の健康問題を明らかにし、健康維持・向上を目標とした予防的作業療法の可能性について理解する。また生活・労働環境の調整、作業バランス、ストレスマネジメント法などについて講義する。また、障がい者の地域生活の現状と問題点にも触れ、地域生活者の「心身の健康」という広い視点で作業療法士の果たすべき役割を考察する。							
到達目標							

1. 産業労働者の心身の健康問題の現状と発生要因、その評価法を説明できる
2. 労働現場の健康問題、快適職場実現のための法律・管理システム・対処法を説明できる
3. 精神障害や疾病をもつ人の地域生活や就労の現状についてイメージを持ち説明できる
4. 労働者のメンタルヘルス問題とその対処法を説明できる
5. ワークエンゲージメントについて説明できる

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物、動画等を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

授業のパワーポイント資料を事前にGoogle Classroomにアップし、予習・復習に活用できるようにする

実務経験のある教員の教育内容

担当者は作業療法士資格の他に、第1種衛生管理者の資格を有し、これらの知識と経験に基づいて授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施し、これらの返却時にフィードバックをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	産業保健 その1 産業衛生、労働衛生と産業衛生、労働に関わる法律を学習する	公衆衛生学で学んだ労働衛生や産業衛生を復習すること(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員			
第2回	産業保健 その2 労働者の健康問題:職業性疾病、作業関連性疾病などの筋骨格系の問題と対策を学ぶ	職業性疾病、作業関連性疾病にはどのようなものがあるかを予習すること(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員			
第3回	産業作業療法の可能性 職場の健康問題や労働災害の予防のために、作業療法士が貢献できることを学ぶ	職場の健康問題や労働災害にはどのようなものがあるかを調べておくこと(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員			

第4回	産業作業療法の理解のために、人間工学的評価と思考、行動変容理論について学ぶ。	人間工学的評価と思考、行動変容理論について予習する(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員			
第5回	労働者のストレスとメンタルヘルス ハラスメントや長時間労働によるうつ状態、ストレスチェック法、ソーシャル・サポートとコーピングについて学ぶ。	労働者のストレスにはどのようなものがあるかを調べておくこと(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員			
第6回	女性特有の労働対策と予防について、就労・復職支援対策について学ぶ。	女性特有の労働問題、就労・復職支援対策について調べる(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員			

第7回	ワークエンゲージメントと作業療法について(ゲスト講師: 済生会小樽病院 齋藤駿太OTR)	ワークエンゲージメントについて調べておく(90分)	授業内容を整理すること(90分)
担当教員			
第8回	まとめと定期外試験	これまでの授業内容、小テスト内容を復習すること(90分)	試験内容を整理すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト(50%)、定期外試験(50%)
その他	0	
教科書		
指定しない。		
参考文献		
予防学／萩野浩・山田実・久米裕／医歯薬出版株式会社 予防と産業の理学療法／樋口由美／南江堂		
履修条件・留意事項等		

授業中には積極的に参加すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		見学実習				ナンバリング	3701
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	金谷 匡紘、金 京室						
授業の位置づけ							
臨床の作業療法を見学・体験し、作業療法の実践を学ぶ科目である。ディプロマ・ポリシーの「【関心・意欲・態度】地域医療を支える他職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。」と特に関係する科目である。「評価実習」「総合臨床実習Ⅰ」「総合臨床実習Ⅱ」及び、作業療法評価学や作業療法治療学の基礎となる。							
授業の概要							
作業療法が実施されている臨床場면을施設見学によって把握する。作業療法の実務的な視点で初めて病院・施設あるいは患者に接する機会であり、早期体験として動機づけを高める意義を持っている。クリニカルクラークシップによる臨床教育者の指導により、作業療法士の業務や活動分野についての初歩的な理解を得ることに主眼においている。							
到達目標							

- ・作業療法の仕事を説明できる。
- ・各分野における作業療法の特徴を説明できる。
- ・医療における作業療法の役割が説明できる。
- ・医療職としての基本的態度特にコミュニケーション能力について説明できる。
- ・医療におけるチームワークについて説明できる。

授業の方法

学内での事前指導として、臨床場面を模したコミュニケーションOSCEを実施する。
臨床実習は病院・施設にて行う。臨床実習の終了後は、学内セミナーにて学生による発表を実施する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

作業療法士や他医療職としての経験のある教員がコミュニケーションOSCEや事前指導、事後指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事後セミナーの中で、振り返りの時間を設け、ディスカッションの形でフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	実習前オリエンテーション・事前指導 事前指導では、「マナーとコミュニケーション」の講義と模擬患者を用いたコミュニケーションOSCEを実施する。	実習指導要領を確認すること	OSCEで指摘された課題を修正できるよう整理し理解しておくこと
担当教員			
第2回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	実習施設の概要や分野、多い疾患について調べておくこと。	実習で学んだ事、得た知識等を記録すること。次の日に確認できるように疑問点などを整理すること。
担当教員			
第3回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	実習中の疑問点は教科書等で調べ、また積極的にCEに確認すること。	実習で学んだ事、得た知識等を記録すること。次の日に確認できるように疑問点などを整理すること。
担当教員			

第4回	事後セミナーでサマリーをまとめ報告する。グループワークを通じ、実習で得た経験を共有する。今後の学外実習にむけた学習課題の確認を行う。	サマリーを 作成・完成させる。更に、グループでの発表練習をする。	事後指導を通じて得られた、自分の今後の課題についてまとめる。
担当教員			
第5回	なし		
担当教員			
第6回	なし		
担当教員			

第7回	なし		
担当教員			
第8回	なし		
担当教員			
第9回	なし		
担当教員			

第10回	なし		
担当教員			
第11回	なし		
担当教員			
第12回	なし		
担当教員			

第13回	なし		
担当教員			
第14回	なし		
担当教員			
第15回	なし		
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習状況および事前・後指導やOSCEの評価等得点を合算し総合的に評価する
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

医療人・社会人としての基本的なマナーを身につけていること。
事前指導および事後指導は必ず出席すること。
医療現場に参加する事の重みを自覚すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		訪問・通所実習				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	2
担当教員	玉 珍、大坂 隆介						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。見学実習で体験した経験に加え、通所や訪問の作業療法を見学・体験し、作業療法の実践を学ぶ科目である。「評価実習」「総合臨床実習Ⅰ」「総合臨床実習Ⅱ」及び、作業療法評価学や作業療法治療学の基礎となる。							
授業の概要							
1年、2年に学習した作業療法の知識をもとに、臨床教育者による臨床クラークシップの指導手法を通じて、対象患者の障害像と治療目標を把握し、プログラムの立案・治療・再評価のプロセスやその思考過程についての経験知を高める。在宅障害者を対象とした、訪問リハビリテーションや通所リハビリテーション領域施設等から実習地が決定される。							
到達目標							

- ・通所・訪問リハビリにおける作業療法の役割を説明できる
- ・社会的ニーズの多様化に対応した作業療法実践への理解を深める
- ・チームの一員としての連携の方法を習得し、責任と自覚を培う

授業の方法

通所・訪問実習は病院の外来、デイケア、老人保健施設、訪問リハビリテーションセンター等にて行う。実習の事前指導として高齢者への理解、高齢者との接し方、地域包括システムなどの基本知識を学習し、事後指導ではそれぞれの実習内容をまとめ、学内セミナーにて発表する。

ICT活用

特になし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

事後セミナーの中で、振り返りの時間を設け、ディスカッションの形でフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	実習前オリエンテーション・事前指導 高齢者の心身機能の特徴、高齢者とのコミュニケーション方法や地域包括ケアシステムなど基礎知識を学習する。	実習指導要領を確認すること	実習配置施設について調べ、確認すること
担当教員	玉 珍、大坂 隆介		
第2回	実習施設にて、臨床教育者(CE)の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	実習中の疑問点は教科書等で調べ、また積極的にCEに確認すること。	実習で学んだ事、得た知識等をデイリーに記録すること。次の日に確認できるように疑問点などを整理すること。
担当教員	玉 珍、大坂 隆介		
第3回	実習施設にて、臨床教育者(CE)の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	実習中の疑問点は教科書等で調べ、また積極的にCEに確認すること。	実習で学んだ事、得た知識等をデイリーに記録すること。次の日に確認できるように疑問点などを整理すること。
担当教員	玉 珍、大坂 隆介		

第4回	事後指導:グループでディスカッションやプレイバックシアター(PB)等を行い、実習で得た経験を共有する。評価実習・総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにむけた学習課題の確認を行い、必要に応じ面談や実技試験を実施する	グループでの発表練習をする。(180分)	グループディスカッションやPBの経験を各自でまとめる。その上で、自分今後の課題についてまとめる。
担当教員	玉 珍、大坂 隆介		
第5回	なし		
担当教員			
第6回	なし		
担当教員			

第7回	なし		
担当教員			
第8回	なし		
担当教員			
第9回	なし		
担当教員			

第10回	なし		
担当教員			
第11回	なし		
担当教員			
第12回	なし		
担当教員			

第13回	なし		
担当教員			
第14回	なし		
担当教員			
第15回	なし		
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	学外実習の学習態度および事前事後指導における態度と提出物、実習報告書を総合して判断する。
その他	0	
教科書		
北海道文教大学 臨床実習指導要領		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

医療人・社会人としての基本的なマナーを身につけていること。
事前指導および事後指導は必ず出席すること。
医療現場に参加する事の重みを自覚すること。
学内振替の場合は、別途説明する。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		評価実習				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2025年度後期	区分	実習	単位	4
担当教員	大川 浩子、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
作業療法を実践するために必要な知識、技術を用いて必要な情報を収集し、分析、整理したうえで論理的な解決方法を見出す能力を養うための科目である。対象者の自立性と主体性に関心を持ち尊重できる能力を身につけるための科目でもある。ディプロマ・ポリシーの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。また、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」等のディプロマ・ポリシーとも関係している。3年生前期までに配置される専門基礎科目、専門科目を統合する科目であり、「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ」につながる科目 である。							
授業の概要							
1年、2年及び3年前期までに学習した作業療法の知識をもとに、臨床教育者によるクリニカルクラークシップの指導手法を通じて、対象患者の障害像と治療目標を把握し、プログラムの立案・治療・再評価のプロセスやその思考過程についての経験知を高める。身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害領域等から実習地が決定される。							
到達目標							

1. 作業療法実習生として責任と良識のある行動をする
2. 臨床実習施設における作業療法部門の機能と役割, 管理運営について理解する
3. 臨床教育者の指導, 管理の下, 対象者に適切な評価を見学, 模倣, 実施する
4. 臨床教育者の指導, 管理の下, 対象者に適切な治療および援助を見学, 模倣, 実施する
5. 対象者に行う評価, 治療, 援助に関する意味やリスクを理解する
6. 専門用語を用いた客観的でわかりやすい記録, 報告を行う

授業の方法

事前事後学習として、学内での講義、実技練習、グループワーク形式での演習を実施。実習施設ではクリニカルクラークシップ方式で臨床教育者(CE)による指導の元、見学、模倣、実施の順に進める。

ICT活用

Google formを活用して評価方法の指導や知識を共有し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

事前事後・実習期間中、科目担当・各学生担当教員はCEと連絡を密にして学生状況を把握。集団・個別指導を討論・電話・メール・面談等によって臨機応変に実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	評価実習オリエンテーションと事前指導:評価実習の到達目標を理解し、各専門領域における面接、観察、検査・測定と作業療法プログラム立案の方法を確認する。対象者の全体像をまとめ、作業療法の立案・計画を行う作業療法実践の流れを理解する。	臨床実習指導要領を読み、臨床実習の取り組みを確認する。また、各領域の事前指導に向けた自己学習に取り組む。(90分)	実習施設への事前電話をする。また、事前指導を踏まえ、把握された自己の課題について取り組む。(90分)
担当教員			
第2回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。(90分)	必要な情報を集め、整理・考察し、実習サブノートを作成する。(90分)
担当教員			
第3回	実習施設にて、臨床クラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。(90分)	必要な情報を集め、整理・考察し、実習サブノートを作成する。(90分)
担当教員			

第4回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。(90分)	必要な情報を集め、整理・考察し、実習サブノートを作成する。(90分)
担当教員			
第5回	実習施設にて、クリニカルクラークシップによる実習 臨床教育指導者の指導、管理の下、様々な場面で見学、模倣、実施を行う。	臨床場面における、見学、模倣、実施に必要な知識の確認、実技練習等の自己学習を行う。(90分)	必要な情報を集め、整理・考察し、実習サブノートを作成する。(90分)
担当教員			
第6回	評価実習セミナー、事後指導:対象者への作業療法過程について、サマリーを作成し、発表する。グループでディスカッション等を行い、実習で得た経験を共有する。総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにむけた学習課題の確認を行い、必要に応じ面談や実技試験を実施する。	学内教員の指導を受けて、サマリーを作成・完成させる。更に、グループでの発表練習をする。(180分)	グループディスカッションの経験を各自でまとめる。その上で、自分今後の課題について集団・個別指導を受けて解決への計画を立てる。(90分)
担当教員			

第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			

第10回	なし	なし	なし
担当教員			
第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			

第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	事前指導、実習の取り組み状況、事後指導によって総合的に判断
その他	0	特になし
教科書		
北海道文教大学 臨床実習指導要領		
参考文献		

各専門基礎科目・専門科目の教科書、参考書

履修条件・留意事項等

3年次前期までの必修科目が全て取得見込みで、B-OSCEに合格していることが履修条件となる。
また、理由なく事前事後指導に欠席・遅刻した場合は単位取得が認められないことがあるので注意すること。
感染症の蔓延等により学内実習に振替を行う場合は、後日、改めて詳細を説明する。

備考欄